

病 院 年 報

第47号
(2023年度)

国家公務員共済組合連合会
横浜南共済病院

病院マーク



第 89 回共済医学会が開催されることを記念し作成しました。

令和5年度年報の刊行によせて



国家公務員共済組合連合会
横浜南共済病院
院長 高橋 健一

病院の状況を報告する本年報も第47号を迎えます。第1号は、昭和54年 当院の創立40周年目、第5代高橋金次郎病院長の時代に遡ります。当時の巻頭言には、年報発刊への思いが綴られています。『他院から年報が届けられてもお返しできないことが寂しい』と。

初めての取組みで相応の産みの苦しみはあったと想像しますが、第1号は、B5版で100頁ほどでした。病床数は、当時の522床から現在は565床と微増ですが、年報の構成は印刷物からデジタル化され、報告内容もA4版200頁ほどに膨らみ、更に充実した年報として取り纏めることが出来るようになりました。

社会や医療を取り巻く環境が大きく変化してきているなか、医療体制の充実に導かれ本年報の広告内容も、より充実していくものと願いたいものです。

一方で、社会の変化は、これまでと質や方向性が全く異なることも予見されます。当院もその変化に柔軟に対応し、地域や患者さん、職員や当院での勤務を志そうとする方々から信頼され、選ばれることが求められます。現在進めている新外来棟建築計画では、今後予想される中長期の医療の形と当院が担うべき医療機能を盛り込んだ建物になるよう、全職員で検討しているところです。

地域に根差した病院として、住民の皆さまや医療機関、介護施設などから今まで以上に信頼され、強い繋がりを意識して頂ける病院を目指して参ります。

引き続きご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

令和5年度年報の刊行によせて

I 病院の理念	1	頁
II 位置と案内	1	
III 病院の沿革	4	
IV 病院の現況	8	
1. 施設の概要	8	
2. 診療科目	8	
3. 病床数	9	
4. 主要施設	9	
5. 建物配置図	10	
6. 病院の組織図	11	
7. 職員数及び異動状況	12	
V 診療部(各科)紹介	13	
1. 循環器内科	13	
2. 消化器内科	13	
3. 腎臓高血圧内科	14	
4. 内分泌代謝内科	14	
5. 呼吸器内科	15	
6. 血液内科	15	
7. 膠原病リウマチ内科	16	
8. 脳神経内科	16	
9. 精神科	17	
10. 小児科	17	
11. 外科・消化器外科	18	
12. 乳腺外科	18	
13. 呼吸器外科	19	
14. 整形外科	19	
15. 形成美容外科	19	
16. 脳神経外科	20	
17. 心臓血管外科	20	
18. 皮膚科	21	
19. 泌尿器科	21	
20. 産婦人科	22	
21. 眼科	22	
22. 耳鼻咽喉科	22	
23. 歯科口腔外科	23	
24. 麻酔科	24	
25. リハビリテーション科	24	
26. 救急科	25	
27. 放射線科	25	
28. 緩和支援療法科	26	
29. ICU / CCU室	27	
30. H C U	27	
31. 臨床検査科	27	
32. 病理診断科	28	
33. M E 科	28	
34. 栄養科	28	
35. 薬剤科	30	
VI 地域支援センター紹介	31	
1. 医療社会福祉相談室	31	
2. 在宅医療室	31	
3. 入退院調整室	31	
4. 地域連携室	32	
VII その他部門紹介	33	
1. 健康管理センター	33	

	2. 感 染 制 御 室	33
	3. 安 全 管 理 対 策 室	35
	4. 臨 床 研 究 セ ン タ ー	36
VII	各 科 診 療 実 績	41
	1. 循 環 器 内 科	41
	2. 消 化 器 内 科	41
	3. 腎 臓 高 血 圧 内 科	42
	4. 内 分 泌 代 謝 内 科	42
	5. 呼 吸 器 内 科	43
	6. 血 液 内 科	43
	7. 膠 原 病 リ ウ マ チ 内 科	44
	8. 脳 神 経 内 科	44
	9. 精 神 科	45
	10. 小 児 科	46
	11. 外 科 ・ 消 化 器 外 科	47
	12. 乳 腺 外 科	48
	13. 呼 吸 器 外 科	48
	14. 整 形 外 科	48
	15. 形 成 美 容 外 科	49
	16. 脳 神 経 外 科	50
	17. 心 臓 血 管 外 科	51
	18. 皮 膚 科	51
	19. 泌 尿 器 科	52
	20. 産 婦 人 科	53
	21. 眼 科	54
	22. 耳 鼻 咽 喉 科	55
	23. 歯 科 口 腔 外 科	56
	24. 救 急 科	56
	25. 緩 和 支 持 療 法 科	57
	26. 病 理 診 断 科	57
IX	救 急 患 者 統 計	58
	救急患者集計表	58
	救急患者集計表（時間内）	59
	救急患者集計表（夜間・休日）	60
X	看 護 部 紹 介	61
	1. 看 護 部 の 概 況	61
	2. 看 護 職 員 状 況 及 び 病 床 管 理 状 況	62
	3. 看 護 部 活 動 報 告	68
XI	事 務 部 紹 介	76
	1. 事 務 部 に つ い て	76
	2. 会 計 課	77
	3. 医 事 課	77
	4. 診 療 情 報 管 理 科	78
	5. 用 度 課	78
	6. 施 設 課	79
	7. 総 務 課	79
	8. 電 算 課	80
	9. 経 営 企 画 課	80
	10. 医 療 秘 書 課	80
XII	定 例 院 内 会 議 及 び 委 員 会	82
XIII	研 究 会 ・ 研 修 会	83
XIV	院 外 活 動 ・ 学 会 役 員 一 覧	84
XV	研 究 業 績 目 録	93
	循 環 器 内 科	93
	消 化 器 内 科	97
	腎 臓 高 血 圧 内 科	97
	内 分 泌 代 謝 内 科	97

	呼吸器内科	98
	血液内科	98
	膠原病リウマチ内科	99
	脳神経内科	100
	小児科	101
	外科・消化器外科	101
	呼吸器外科	104
	整形外科	104
	心臓血管外科	106
	皮膚科	110
	泌尿器科	110
	産婦人科	111
	眼科	111
	耳鼻咽喉科	112
	歯科口腔外科	112
	麻酔科	113
	リハビリテーション科	113
	放射線科	114
	緩和支援療法科	115
	I C U / C C U 室	116
	臨床検査科	116
	病理診断科	116
	M E 科	117
	栄養科	117
	薬剤科	117
	臨床研究センター	118
	看護部	118
XVI	業務概要	120
A	診療業務	120
	1. 患者状況	120
	2. 年度別診療収入額	122
	3. 科別稼働額状況	123
	4. 診療行為別収入報酬額	124
	5. 地域医療支援病院紹介率	125
	6. 地域別患者数	125
	7. 中央手術室統計	126
	8. 薬剤科業務状況	127
	9. 放射線科業務状況	131
	10. 臨床検査科業務状況	146
	11. リハビリテーション科業務状況	151
	12. 栄養科業務状況	153
	13. 医療ソーシャルワーク年報	156
	14. 透析センター	159
	15. M E 科業務状況	160
	16. 感染制御室業務状況	162
	17. 化学療法室患者集計	173
B	その他の業務	174
	1. 業務委託	174
	2. 光熱水使用量	174
	3. 主要購入機器一覧表	175
	4. 図書状況	176
	5. 職員の福利厚生	184
XVII	財務状況	185
	1. 貸借対照表	185
	2. 損益計算書	186
XVIII	管理者名簿	187

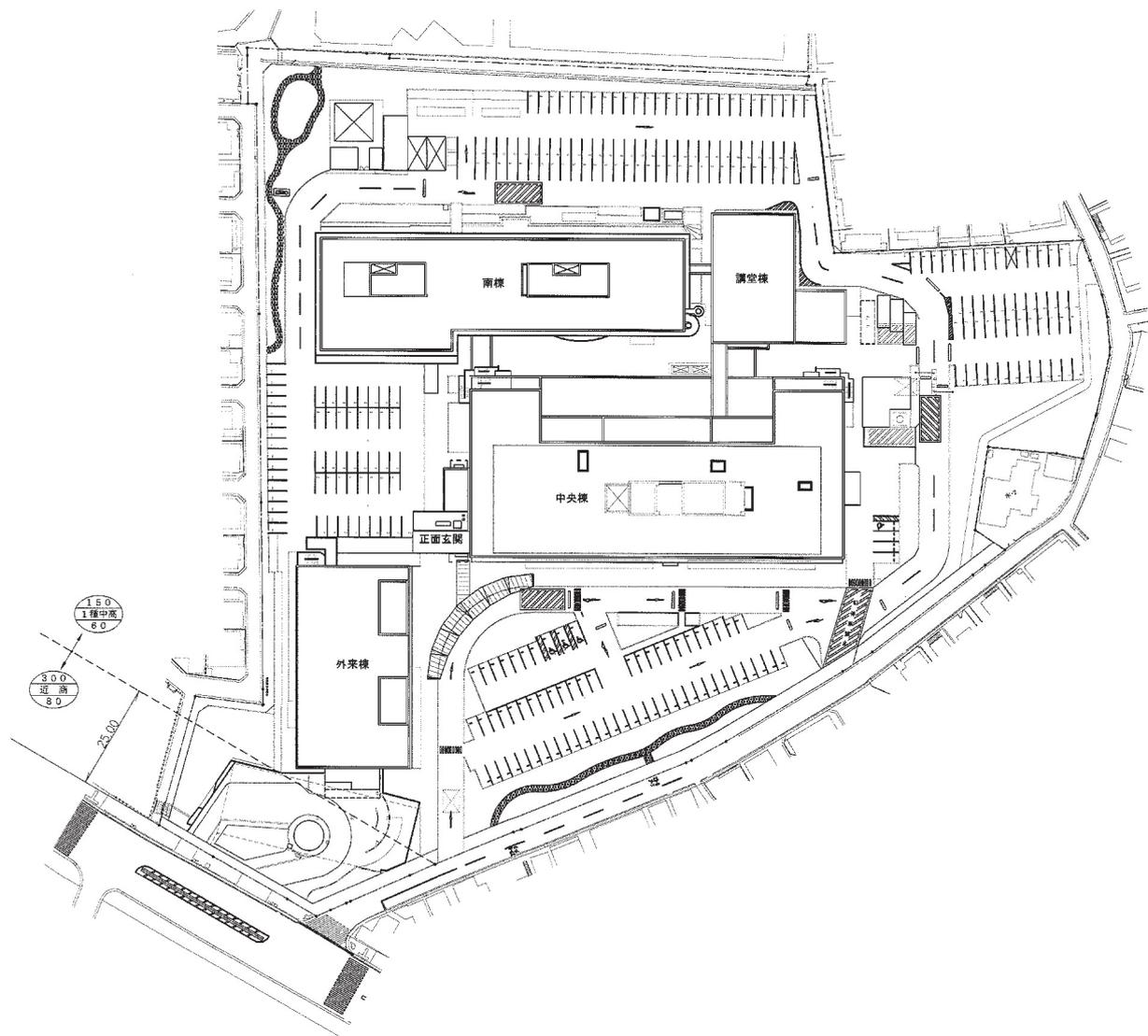
新病棟



全景



建物配置図



Ⅲ 病院の沿革

明治45年勅令第18号に基づき、旧海軍の諸施設に勤務する雇傭人の相互救済を目的として組織された旧海軍共済組合が、その組合員と家族のための病院を全国の海軍の諸施設の在る主要地に逐次設置したもので、本院はその一施設であった。その後終戦を経て今日に至っているが、その経過は次のとおりである。

年 月	記 事
昭和14年 6月	横須賀海軍共済病院追浜分院として現在地に創設された職域病院で、初代院長に海軍軍医中將、石黒芳雄が就任した
昭和16年 4月	独立して追浜海軍共済病院と改称、以来海軍省の管理下に海軍技術廠等の職員並びにその家族を主な対象として診療を行った
昭和19年11月	第2代院長に海軍軍医少將、木津盈之助就任
昭和20年10月	第3代院長に海軍軍医大佐、清水繁良就任
昭和20年10月	戦争終結と同時に海軍省が廃止されたことにより、その権利義務を承継した財団法人共済協会の病院として発足、「追浜共済病院」と改称し、地域医療に寄与することとなった
昭和22年 9月	第4代院長に奈良太仁郎就任
昭和23年12月	第5代院長に高橋金次郎就任
昭和25年12月	法律第256号「旧令による共済組合等からの年金受給者のための特別措置法附則第3項」の規定により、特殊法人・非現業共済組合連合会に移管され、その傘下で管理病院として発足
昭和30年 1月	神奈川県立長浜看護学院の臨床実習指定病院に認定
昭和33年 8月	非現業共済組合連合会の名称が、国家公務員共済組合連合会と改称された
昭和35年 1月	神奈川県立長浜看護学院の臨床実習指定病院に認定 (昭和45年 4月神奈川県立看護専門学校と改称)
昭和40年 3月	鉄筋 4階建外来診療棟竣工
昭和40年 4月	追浜共済病院を横浜南共済病院と改称
昭和41年 9月	鉄筋 7階建病棟竣工
昭和42年 6月	手術室及び中央滅菌材料室完成
昭和43年 5月	鉄筋 5階建看護婦宿舎竣工
昭和44年 2月	鉄筋 5階建職員宿舎竣工
昭和50年12月	神奈川県衛生看護専門学校助産婦学科の実習指定病院に認定
昭和52年 6月	鉄筋 4階建病棟並びにリハビリテーション治療棟竣工
昭和52年 6月	鉄筋平屋建給食棟竣工
昭和52年12月	鉄筋 2階建・X線・臨床検査棟竣工
昭和53年 2月	鉄骨平屋建職員食堂、鉄骨平屋建解剖室、霊安室竣工 CTスキャン（頭部）導入
昭和53年 3月	外来者用駐車場完成
昭和53年 7月	空調機械完成
昭和53年 9月	職員駐車場完成
昭和55年 6月	医療用排水処理設備完成
昭和55年12月	第6代院長に山田勝久就任

年 月	記 事
昭和56年12月	生化学自動システム導入
昭和57年 1 月	重症者の看護と収容の承認
昭和57年 2 月	1 戸建職員宿舍竣工(5 戸)
昭和57年 4 月	C T スキャン(全身用)導入 [昭和53年 2 月購入の同スキャン(頭部用)は廃棄]
昭和57年10月	職員駐車場の拡大及び患者用駐車場完成 [昭和53年 3 月完成の患者用駐車場は解体]
昭和58年11月	鉄筋 4 階建外来診療棟竣工(含手術室及び中央材料室) 鉄筋平屋建機械棟竣工
昭和59年 3 月	事務系大型コンピューター導入
昭和59年 4 月	A 病棟 1 階を病室に改築し、許可病床数563床となる 国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院が国家公務員等共済組合連合会横浜南共済病院と名称変更となる
昭和59年 7 月	最新鋭シネアンギオ装置を導入(53年導入の同装置は廃棄)
昭和60年 8 月	鉄筋 5 階建看護婦宿舍第 2 号棟竣工
昭和60年 9 月	救急医療功労賞を神奈川県知事より受賞
昭和63年 1 月	人工透析科新設(5 床)
平成元年 4 月	厚生省の臨床研修病院に指定された
平成元年10月	鉄筋 4 階建(地下 1 階) C 病棟竣工
平成元年11月	MR I、R I、E SWL の装置の導入
平成 2 年 3 月	リニアック、ラルストロンの治療開始
平成 2 年 9 月	A 棟(7 階建)改修工事完成 管理棟(4 階建)竣工(旧管理棟は11月に取り壊した)
平成 2 年 9 月	救急部門、透析部門(19床)が、センターとして再発足
平成 3 年 4 月	許可病床655床となり、12病棟単位となった
平成 4 年 7 月	一般病棟特 3 類看護承認、精神病棟特 1 類看護承認
平成 4 年11月	特別給食管理加算実施の承認
平成 5 年 8 月	滅菌製剤室新設
平成 6 年10月	夜間看護等看護加算の承認 薬剤管理指導の施設基準の承認
平成 6 年12月	新看護体系の承認
平成 8 年 4 月	健康管理センター(人間ドック)オープン
平成 8 年10月	書庫棟新築
平成 9 年 4 月	国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院に改称
平成10年 2 月	患者再来受付機の導入
平成10年 3 月	災害医療拠点病院に指定
平成10年 6 月	臓器提供施設に指定
平成11年 7 月	I C U 棟竣工
平成14年 4 月	診療部内科を編成替え(臓器別に標榜)
平成15年11月	オーダーリングシステム導入
平成16年 6 月	急性期入院加算の承認
平成17年 5 月	総合リハビリテーション施設の承認
平成17年 7 月	一般病棟入院基本料 I 群 I 承認・外来化学療法加算承認
平成18年 2 月	無菌製剤処理加算
平成18年 4 月	第 7 代院長に蜂谷將史就任

年 月	記 事
	安全管理対策室開設
平成18年 5月	日本医療機能評価認定 (Ver5.0)
平成18年 6月	D P C 導入
平成19年 6月	7 対 1 入院基本料取得
平成21年 3月	看護支援システム導入
平成22年 3月	入院注射オーダ稼働
平成22年 4月	病院敷地内全面禁煙 横浜市救急拠点病院 [A]
平成22年 7月	訪問看護ステーション開設
平成22年12月	感染制御室開設
平成23年 3月	患者相談窓口開設 3月11日 14 : 46 東北関東大震災発生 医療救護班4名を宮城県に派遣
平成23年 6月	病院医療機能評価 (Ver6.0) 認定 (5/29) P A C S システム稼働
平成23年 7月	緩和ケア外来 開設
平成23年 8月	がん相談支援室 開設
平成23年 9月	新外来駐車場運用開始 (145台)
平成24年 2月	神奈川DMA T 指定
平成24年 3月	神奈川県地域がん診療連携指定病院
平成24年 4月	精神科病棟休床 (64床)
平成24年10月	地域医療支援病院
平成25年 2月	中央棟東病棟 (8階建)、低層棟 (電気室・講堂・栄養課) 竣工 2月21日 山田勝久名誉院長逝去
平成26年 5月	生理検査システム稼働
平成26年 8月	勤怠管理システム稼働 (9月本稼働)
平成27年 3月	新病棟新築工事竣工 内覧会・披露宴挙行
平成27年 4月	中央棟検査部門、手術室稼働
平成27年 5月	中央棟西病棟稼働 精神病床64床を返還 許可病床数591床 (一般) 稼働
平成28年 2月	西病棟竣工
平成28年 3月	A病棟、管理棟、旧職員宿舎解体
平成28年 4月	救命救急センター指定 許可病床数 一般病床565床 (うち緩和ケア病床20床) 稼働
平成28年11月	病院医療機能評価 (一般病院2 : 3rdG. Ver1.1) 受審 (11/29、30)
平成28年12月	玄関棟竣工
平成29年 1月	創立75周年記念式典 (75年史発行)
平成29年 3月	病院医療機能評価 (一般病院2 : 3rdG. Ver1.1) 認定 (3/3)
平成29年11月	訪問看護ステーション廃止
平成30年 4月	第 8 代院長に長岡章平就任
平成30年10月	H C U 病棟稼働
平成31年 4月	神経内科を脳神経内科へ名称変更
令和 1 年 7月	臨床研究センター設置

年 月	記 事
令和3年3月	高気圧酸素治療室設置
令和4年5月	病院医療機能評価（一般病院2：3rdG. Ver2.0）受審
令和4年8月	病院医療機能評価（一般病院2：3rdG. Ver2.0）認定（認定期間：2021/5/29～2026/5/28）
令和5年4月	第9代院長に高橋健一就任

IV 病院の現況

1. 施設の概要

(1) 敷地面積		29,467.26 m ²
(2) 建物延面積		45,466.78 m ²
イ. 建物別面積		
外来棟	(鉄筋コンクリート造 4階建)	5,167.17 m ²
南棟	(" 4階建地下1階)	10,753.21 m ²
中央棟	(" 8階建)	25,332.01 m ²
講堂棟	(" 3階建)	2,207.80 m ²
人工台地		882.64 m ²
付属棟他		1,123.95 m ²
ロ. 使用別面積		
外来棟		
1階	(社会福祉相談室等、警察官立寄所、職員食堂、売店、レストラン、理容店)	1,277.43 m ²
2階～4階	(診察室)	3,889.74 m ²
南棟		
地下1階	(放射線治療室、MRI室、霊安室、高気圧酸素治療室等)	2,181.43 m ²
1階	(薬局、用度課、健康管理センター、RI、リハビリ)	2,124.36 m ²
2階	(管理部門、呼吸、皮膚科、口外)	2,096.14 m ²
3階	(管理部門、消内、腎内、内代)	1,999.32 m ²
4階	(管理部門、緩和ケア)	1,999.76 m ²
PH階		352.20 m ²
中央棟		
1階	(救命救急センター、救命救急病棟、内視鏡、生理検査、放射線科、中央採血室)	3,776.84 m ²
2階	(ICU, CCU, HCU、手術室、心臓血管造影室、)	3,775.94 m ²
3階	(病理診断科、透析室、ME室、サーバー室、化学療法室、検査科、中材)	3,262.69 m ²
4階	東病棟(産婦人科、小児科、泌尿器科)西病棟(小児科、泌尿器科、形成)	3,020.17 m ²
5階	東病棟(循内、心外、整形)西病棟(循内、心外、耳鼻科)	2,867.02 m ²
6階	東病棟(脳外、眼科)西病棟(血内、神内)	2,867.02 m ²
7階	東病棟(外科、腎内)西病棟(消内)	2,867.02 m ²
8階	東病棟(整形、リウマチ)西病棟(整形)	2,767.98 m ²
PH階		127.33 m ²
講堂棟		
1階	(栄養科、防災センター)	858.88 m ²
2階	(講堂)	657.07 m ²
3階	(電気室)	691.85 m ²
人工台地	(職員更衣室)	882.64 m ²
付属棟他		1,123.95 m ²

2. 診療科目

内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、代謝内科、内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科・消化器外科・乳腺外科・呼吸器外科、整形外科・スポーツ整形外科・脊椎脊髄外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科、救急科

3. 病床数

中央棟病室	470 床
南棟 〃	95 床
計	565 床

4. 主要施設

救急外来（二次救急・24時間対応）/救急病棟	20 床
ICU/CCU	10 床
HCU	10 床
透析センター	20 床
バイオクリーンルーム	2 床
健康管理センター（人間ドック）	1 日 10 人位

6. 病院の組織図

令和6年3月31日



7. 職員数及び異動状況

職 種		令和5年4月1日	採 用	退 職	令和6年3月31日
医師・一表	医 師	195	10	12	193
	歯 科 医 師	3	0	0	3
	小 計	198	10	12	196
医療技術員・二表	薬 剤 師	31	0	0	31
	診 療 放 射 線 技 師	28	1	0	29
	医 学 物 理 士	1	0	1	0
	臨 床 検 査 技 師	50	0	0	50
	管 理 栄 養 士	11	1	0	12
	栄 養 士	0	0	0	0
	理 学 療 法 士	15	1	0	16
	作 業 療 法 士	5	0	0	5
	言 語 聴 覚 士	3	0	0	3
	視 能 訓 練 士	4	0	0	4
	臨 床 工 学 技 士	13	0	1	12
	公 認 心 理 士	2	0	0	2
	あん摩マッサージ指圧師	0	0	0	0
	歯 科 衛 生 士	3	0	0	3
	小 計	166	3	2	167
看護師・三表	助 産 師	33	0	2	31
	保 健 師	91	2	5	88
	看 護 師	569	4	33	540
	准 看 護 師	1	0	0	1
	小 計	694	6	40	660
事務・四表	事 務 員	130	6	2	134
	保 育 士	2	0	0	2
	ケースワーカー	5	1	1	5
	小 計	137	7	3	141
労務技術員・五表	ボ イ ラ ー 技 師	1	0	0	1
	電 気 技 士	2	0	0	2
	看 護 助 手	3	0	0	3
	調 理 師	9	0	1	8
	営 繕 手	1	0	0	1
	小 計	16	0	1	15
労務員・六表	C R C	0	0	0	0
	薬 剤 助 手	2	0	0	2
	放 射 線 助 手	0	0	0	0
	検 査 助 手	5	0	0	5
	看 護 助 手	50	0	6	44
	事 務 助 手	5	1	1	5
	配 膳 手	7	0	0	7
	医 療 技 術 助 手	2	0	0	2
	施 設 助 手	9	0	0	9
	小 計	80	1	7	74
合 計	1,291	27	65	1,253	

V 診療部（各科）紹介

1. 循環器内科

循環器内科は13名のスタッフ（循環器専門医10名、不整脈専門医5名、日本心血管インターベンション治療学会専門医3名、日本心臓リハビリテーション学会認定指導士3名、総合内科専門医9名、指導医7名を含む）で日常診療に当たっています。循環器疾患は、心筋梗塞・狭心症などの虚血性心疾患、致死性心室性不整脈や心房細動などの不整脈などがあり、急性期医療を中心に日々研鑽を積んでいます。狭心症に対する経皮的冠動脈形成術、不整脈に対するカテーテルアブレーションやデバイス植込み、重症心不全に対する心臓再同期療法などの治療件数も年々増加傾向です。新しい治療法も積極的に導入しており、2021年より心房細動患者様で抗凝固薬継続が難しい方に対する左心耳閉鎖術を横浜市で最初に開始しています。

2018年度から開始した心臓リハビリテーションは入院、外来患者を問わず積極的に導入しています。一方で、我が国の外来リハビリ継続率が7%であるのに対し、当科では27%と多くの患者様に対応しています。その理由は、心臓リハビリテーションが運動機能回復のみならず、心臓病の再燃予防、予後改善効果が示されているからであり、さらに多くの患者様が参加できるように取り組んでいます。また、2022年より指定難病であるトランスサイレチン型心アミロイドーシス（ATTR-CM）に対する施設認定を受けて治療が可能となりました。当院のホームページに心臓リハビリテーションとチームの活動内容およびATTR-CMに関する記事を掲載していますので、ぜひご覧になってください。

高齢化社会を反映し急性心不全で入院される患者は後を絶ちません。中でも、再入院を繰り返す高齢患者に対する管理は、地域における病診および病病連携重要であると感じています。そのため「地域で心臓病を克服するための研修会」を開催して、開業医や近隣の病院の先生方への情報提供活動を積極的に行っており、このような活動を通して、地域の方々が健康的に生活できるよう医療連携活動をすすめてゆきたいと考えております。

循環器内科では、これからも新しい医療・技術を取り入れ、心のこもった診療を地域の皆様に提供できるよう、横浜市南部地域の中核病院としてその役割をはたしていきたいと思っております。何卒、宜しくお願い申し上げます。

（鈴木 誠 記）

2023年度

〔スタッフ〕

部長	鈴木	誠
部長	藤井	洋之
部長	清水	雅人
部長	鈴木	秀俊
医長	一色	亜美
医長	島田	博史
医長	加藤	信孝
医長	山口	正男
医長	立石	遼
医長	三須	彬生
医員	酒井	瑛子
医員	清水	厚哉
医員	角田	貴大

2. 消化器内科

令和5年度は3月31日付で石田彩花医師、榎原俊哉医師、日下恵理子医師、永島愛一医師が退職し、4月1日付で小串勝昭医師、比嘉愛里医師、林智恩医師、安部真蔵医師、平松直樹が着任しました。西郡修平医師、加藤由子医師はローテーション外となりましたが、内視鏡検査など手伝ってくれています。

日常診療において、消化管チームと肝胆膵チームに分かれて専門性を向上させる方針は変わらず、また、市大センター病院より内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）および超音波内視鏡（EUS）の定期的な指導の協力は継続され、最先端の検査・治療を患者さんに提供すべく医員のレベルアップを図っております。新型コロナも5類感染症となり、上部内視鏡前に施行していた新型コロナ検査はなしとなりました。ただ、今後も感染の発生がないよう、かつ医員の体調にも配慮しながら、地域の基幹病院としての役割を果たすべく頑張りたいと思います。

また、日常臨床のみでなく、臨床研究や学会発表も頑張っていきたいと思っております。臨床研究は積極的に大学の多施設共同研究に参加しておりますし、最近の学会発表はハイブリッドで行われることも多くなってきましたので、当院で施行させていただく研究会も同様にしていきたいと考えております。

近隣の先生方からは、昨年までと同様、多くの紹介患者、救急患者紹介をしていただいております、今後も近隣の先生方から必要とされる科として頑張っていきたいと思っています。

(部長 近藤 正晃 記)

部長	近藤	正晃
部長	岡	裕之
部長	濱中	潤
医長	小柏	剛
医長	中野間	紘
医員	小串	勝昭
医員	比嘉	愛里
医員	塚本	恵
医員	林	智恩
医員	石原	鴻
医員	久米	菜緒
医員	安部	真蔵
医員	平松	直樹
医員	飯谷	楨 (火勤務)

3. 腎臓高血圧内科

腎臓高血圧内科は平成 25 年度以降 5 名の常勤スタッフで診療にあたっています。腎疾患患者は年々増加傾向にあり、2019 年末で 34 万人以上が透析療法を受け、今後高齢化が進む中で生活習慣病に由来する腎疾患患者数の増加が続くと予想されます。近年慢性腎臓病の認知度は向上しつつありますが、生活習慣病予防対策などに比べ、慢性腎臓病の重症化予防については十分とは言えず、また腎臓専門医の数も慢性腎臓病患者 1,300 万人に対し、圧倒的に少ないという問題もあります。腎臓内科医だけですべての慢性腎臓病患者の診療にあたることは不可能であり、近隣の先生方との連携を強化しながら慢性腎臓病を早期に発見・診断し、慢性腎臓病の重症化予防につなげたいと考えております。

慢性腎臓病の重症化予防のために看護師・栄養士・薬剤師などの多職種との連携が重要であり、特に糖尿病患者では慢性腎臓病の進行が早く、透析導入率も高いため、令和 2 年度年度から内分泌代謝内科と協力し糖尿病透析予防外来を立ち上げました。また令和 3 年度より、月 1 回の腎臓病教室を立ち上げ、生活指導、栄養指導をより充実させ、慢性腎臓病の重症化予防に貢献できるものと考えております。今後は腎臓病教育入院プログラムの充実を図り、近隣の先生方にも活用していただけるよう周知していきたいと考えております。残念ながら腎不全が進行し腎代替療法(透析・移植)が必要となってしまった場合でも透析・移植に対する十分な情報を提供し、患者さんのライフステージやライフスタイルに応じて治療法が選択できるようサポートしていきます。

[スタッフ]

医長	岩野	剛久	平成 22 年卒
医長	川田	貴章	平成 23 年卒
医長	春原須美玲		平成 26 年卒
医員	星野	薫	平成 28 年卒
医員	北地	大祐	平成 30 年卒

(文責：岩野 剛久)

4. 内分泌代謝内科

令和 5 年度は 5 人の常勤スタッフで診療に従事致しました。

当科で担当する糖尿病などの代謝疾患は慢性疾患であり、長期的な外来加療を必要とすることが多いため、患者さんとの信頼関係を築くことが重要になってまいります。各々が診療ガイドラインに沿った治療を実践しつつ、1 人 1 人の患者さんに併せた個別化治療を視野に入れていくことを意識しております。

糖尿病の診療に関しては、院内には注射デバイスが豊富にあり、患者さんに合わせた注射剤治療ができることが最大の特徴です。外来でのインスリン導入も、外来看護師・事務スタッフの協力のもと比較的スムーズに実施できるようになっております。働き盛りの世代や子育て世代、妊娠糖尿病の患者さんなど、急な入院治療が難しい方へも柔軟に対応できる環境が用意できております。また院内でも新規糖尿病薬を積極的に採用しており、インクレチン製剤(DPP4 阻害薬、GLP-1 受容体作動薬)、SGLT2 阻害薬、新規配合注製剤などの使用経験にも長けていることから、患者さんに合わせた多様な糖尿病治療が可能です。また、インスリンが

ンプなどのデバイス導入を行うなど、先進的医療の導入も積極的に行っております。

特に教育入院については、より充実した治療計画が実践できるよう入院パスを導入しております。看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士とともに毎週教育入院カンファレンスを行い、多角的な視点で治療にあたっております。

糖尿病の合併症については、必要に応じ院内他科の医師と連携をとりながら、検査や治療を進めております。

また糖尿病の他、内分泌疾患の負荷試験入院なども随時行っており、各種シンチグラフィでの精査が可能です。必要に応じ他科との連携、また大学病院や専門施設と緊密に連携をとりながら診療に当たっております。

当科での加療が必要な患者さんについては、積極的に加療を受けさせていただき、安定している患者さんについては、地域の先生方に治療をお願いする、という病診連携を進めていきたいと考えております。今後も地域医療を担ってくださっている周囲の諸先生方との連携を密に取りながら、患者さんに最適な治療を施せるよう診療体制の充実を目指してまいります。

〔担当医〕

山田 択

橘 幸治

大出由紀子

金子 彩乃

三上佳奈子

(文責 山田 択)

5. 呼吸器内科

令和5年度は、少しずつではありますが呼吸器内科の日常診療が戻ってきた気が致します。加志崎部長との2人部長体制が定着し、化学療法室の陳室長の支援も得て、診療のみならず学術活動にも成果を上げることができるようになりました。取組む疾患には大きな変化はありませんが、高齢者の急患応需が多くなる中で、一般内科としての診療も増えました。呼吸器疾患でも75歳以上の高齢者の、肺がん、間質性肺炎、気管支喘息、感染性肺疾患、などが増加し、合併症を複数抱える方を治療することが珍しくなくなり、他科との連携は益々になってきています。がん化学療法における免疫療法、膠原病・リウマチ性疾患における生物学的製剤の使用などでは、総合病院の呼吸器内科としての責務を実感しています。なお、COVID-19の肺炎は主病名としてまだまだ多いですが、中等症Iで酸素療法が必要でなくとも、基礎疾患あるいは誤嚥性肺炎合併のために入院が余儀なくされる方が多い印象でした。科内の体制としては、カンファレンスを診療時間内に開始する、当直明けは午前中にできるだけ業務を終了させる、などは働き方改革の一環として定着しつつあります。科として今後、地域社会への貢献を主軸に、日常診療業務と自己研鑽のバランスを取りながら、更なる精進をしていきたいと存じます。

高橋 健一 (昭和57年横浜市大卒)

小泉 晴美 (平成元年山口大卒)

加志崎史大 (平成14年杏林大卒)

湯本健太郎 (平成23年旭川医大卒)

金子 舞 (平成29年埼玉医大卒)

加濃 大貴 (平成29年度帝京大卒)

宮坂 篤史 (平成30年秋田大卒)

山田 千尋 (令和2年東邦大卒)

岡崎 俊祐 (令和2年横浜市大卒)

土屋 七海 (令和3年宮崎大卒)

(文責 部長 小泉 晴美)

6. 血液内科

血液内科は令和5年4月から令和6年3月まで医師3名体制で運営を行いました(下記スタッフ欄参照)。部長は日本内科学会認定専門医・指導医、日本血液学会認定専門医・指導医、日本造血細胞移植学会認定医、また岸田医師、土蔵医師は日本医科大学血液内科からの派遣医師であり、ともに日本血液学会認定専門医です。渡邊医師は同じく日本医科大学血液内科からの派遣で血液内科の専攻医です。当科は少人数体制ながら、横浜南部地域における血液疾患診療の中核拠点として、全ての患者様から“当院を受診してよかった”と思っていただける医療を提供することを目標にして頑張っております。

対象疾患は白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血など良性・悪性を含め多岐にわたります。近年数多くの分子標的薬・抗体薬等の新規薬剤の登場により治療成績が向上しており、当院でもこれら薬剤の導入を積極的に進めております。

次に、当科における診療の取り組みで特に力を入れている点につきご説明します。

(1) 造血幹細胞移植；

令和5年度、急性白血病に対する同種造血幹細胞移植を1例に、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対する自家造血幹細胞移植を7例に実施し、移植総数は83例となりました。当院は、マンパワーの問題などから、学会からの施設認定を受けられていないため、非血縁者をドナーとする公的バンクからの移植を行うことができませんが、HLA完全一致同胞、HLA一部一致同胞をドナーとした同種移植に積極的に取り組んでおります。特に、比較的高齢の患者さんが多いという当院の特色を生かし、全身状態のよい高齢患者さんに対しても根治を目指した移植治療を積極的に取り入れております。

(2) チーム医療；

がん治療には多職種によるチーム医療が求められます。当院の取り組みとしては、抗がん剤治療のスケジュールや副作用の説明などを病棟薬剤師が行い、患者さんの理解向上に努めています。抗がん剤治療中は感染予防、ADL低下の予防、栄養状態を維持するため、口腔外科チームによる口腔ケア、リハビリ担当チームによる毎日の集団リハビリ体操実施、緩和医療専門チームによる精神的サポートなどを行っています。また、栄養士と連携し患者さんの栄養状態の維持に努めております。

【スタッフ】

2023年4月～9月

部長 中山一隆、医長 岸田侑也、医長 土蔵太郎

2023年10月～2024年3月

部長 中山一隆、医長 岸田侑也、専攻医 渡邊みれあ

(中山 一隆 記)

7. 膠原病リウマチ内科

膠原病リウマチ内科のスタッフは、長岡章平前院長を筆頭に総勢6名で診療に従事し、主に関節リウマチ・リウマチ性多発筋痛症・全身性エリテマトーデス・筋炎・血管炎などの膠原病・自己免疫性疾患を専門に診療しております。

膠原病リウマチ性疾患は全身に病変を来す多臓器疾患であるため、各臓器を専門とする院内および院外の他診療科の先生方との連携も非常に重要と考えており、日頃より密な連携をとって、診療に当たることができるよう努めています。

神奈川県南部地域の中核病院として横浜市の他、横須賀市、逗子市、三浦市、鎌倉市などの様々な地域から御紹介をいただき、多数の患者様の診療に従事しています。近年は高齢化が顕著となっており、御紹介いただいた患者様や当科へ通院中の患者様の地域への逆紹介や病診連携を重視し、地域の先生方と協力できる体制の構築に努めています。

また、学術的活動にも力を入れており、日本リウマチ学会総会やその他複数の国内学会、国際学会への報告、学会活動にも精力的に取り組んでいます。

スタッフ紹介

長岡 章平	昭和53年	横浜市立大学卒
國下 洋輔	平成23年	旭川医科大学卒
小宮 孝章	平成27年	帝京大学卒
鵜澤 侑司	平成28年	信州大学卒
渡辺 武俊	令和2年	横浜市立大学卒
三木 智代	令和2年	東海大学卒

8. 脳神経内科

脳神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉に至るまで神経系に関わる病気全般が対象で神経救急疾患に対して十分な対応が可能であり、診断困難な神経疾患に対する最新の検査、治療を可能にする医療をめざしています。

特に当院では脳卒中の急性期の主要病院である一次脳卒中センターとしての超急性期治療はもちろんのこと、脳外科、リハビリテーション科などを含めた総合的な医療が可能であり、地域脳卒中連携システムで近隣の回復期リハ病院との連携を深めることでスムーズな脳卒中医療体系の実現を可能にしています。さらに他の様々な神経・筋疾患についても画像、生理機能、高次機能検査、生検検査などから疾患の診断・治療へ繋がっていくことを確信しています。

●主な疾患

脳卒中（脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血）、神経変性疾患（パーキンソン病、アルツハイマー病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症）、発作性疾患（てんかん、頭痛、めまい）、末梢神経障害（ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎）、神経感染症（脳炎、髄膜炎、脳膿瘍、脊髄炎）、脱髄性疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎）、筋疾患（重症筋無力症、筋ジストロフィー、ミトコンドリア脳筋症）

●脳神経内科スタッフ

統括部長 児矢野 繁

部長 城村 祐司

医員 栗田 悠輔

医員 佐々木芽衣

医員 鈴木 宏輔

9. 精神科

2012年3月に当院では精神科病棟が閉鎖されましたが、2015年4月より無床総合病院精神科として常勤医2名体制で運営を行っています。総合病院における精神科の在り方を検討した結果、院内で必要とされる精神科の役割を明確にすることが重要と考え、精神科リエゾン・緩和ケア・認知症の3つの分野を重点的に取り組んでいます。

1つ目の精神科リエゾンとは、いわゆる院内の身体科から精神科への併診依頼のことで、依頼内容としては、せん妄への対応や精神疾患を合併している入院中の患者様へ精神科的治療介入が中心となります。毎年200件近い依頼があり、この分野は院内の需要が最も高い分野といえます。

2つ目の緩和ケアでは、特に緩和ケアチームの活動において精神症状を緩和する医師の配置が人員要件となっており、そこには精神科医の協力が必須となっています。同じく精神科に所属している公認心理師も同チームの活動に参加しており、精神科として引き続き緩和ケアチームに貢献していきたいと考えています。また、院内の患者様のみですが、緩和ケアのなかでも精神症状の緩和に特化した「精神緩和外来」という専門外来を開設しておりますので、必要時は精神科外来へご連絡ください。

3つ目の認知症は、プライマリケアの観点からも重要視されており、いまや生活習慣病と同様に common disease として扱われています。精神科では2016年4月から「認知症専門外来」を開設し、院内・院外から主に鑑別診断を目的として年間100件前後の新患をお受けしています。また、2017年4月からは多職種と連携して認知症ケアチームを立ち上げ、院内の認知症対応力を向上させる取り組みを行っています。認知症ケアチーム活動の成果指標としては院内身体拘束率の低下が挙げられます。病棟スタッフの認知症対応力の向上に加え、看護部が2023年より身体拘束ゼロ5ヶ年計画を立ち上げたことで、以前は10%前後だった院内身体拘束率が2023年度には5.4%まで低下しました。

近年では緩和ケアチーム、認知症ケアチームに加えて、2021年10月に新設された臨床倫理コンサルテーションチームにも当科の医師と公認心理師が参加しており、診療科のみならずチーム医療に貢献しています。以上の主要な業務について、精神科リエゾンを2名で対応しながら、緩和ケアについては政岡先生、認知症については記載者が各々の専門性を活かしながら診療に取り組んでいます。

身体科との連携を重視した診療を心がけていますので、なにかあればお気軽にご相談ください。

(部長 内村 放 記)

10. 小児科

令和5年度は、ついにSARS-CoV2が5類感染症へと移行し、社会全体が新たな日常へと向かう年となった。小児科においても、感染対策の負担が軽減され、従来の診療体制を取り戻すべく歩みを進めている。

一方で、人事異動による変化も大きな一年となった。大原(リウマチ)はガイドライン作成委員に加わる実力から専門医療を極めるために大学へ、出崎(腎臓)はワークライフバランスの関係から済生会横浜市東部病院へ、藤井(アレルギー)は診療スキル向上のためにみなと赤十字病院へ異動となり、林(血液・腫瘍)は小児科でありながら脳腫瘍研究のため脳神経外科大学院へと進学となった。長年小児科を支えてきた彼らの貢献に深く感謝するとともに、それぞれの新たな環境での活躍を心から願っている。

新たなメンバーとして、杉山(アレルギー専門医)、西村(遺伝専門医)、平井(腎臓専門予定)が加わり、さらに10月から出来(腎臓専門医)が加わることで、西澤(循環器)松本(児童精神)糸永(内分泌代謝)と併せて小児科は7人体制維持となった。専門性の高い医師が揃い、より幅広い領域で質の高い診療を提供できる体制が整いつつある。

図らずもSARS-CoV2隔離期間中は流行がなかった様々な小児感染症の流行爆発があり、当院のみならず周囲の病院も小児病床運用が厳しい状況に陥った。救急対応においてもマンパワー不足に悩む状況であったが、10月以降出来が戦力として加わり、安定した診療体制を築く事が出来た。

また、診断技術の進歩も目覚ましい。呼吸器パネルや髄液パネルの導入により、感染症の診断精度が格段に向上した。特に髄液パネルでは、これまで確定診断に時間を要したパレコウイルス感染の迅速な同定が可能となり、診療の質の向上に寄与している。

新たな時代を迎えた小児科は、変化に適応しながらも、地域の小児医療の充実を目指し、引き続き努力を重ねていく所存である。今年度も皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

[スタッフ]

<常勤>

部長	西澤 崇	1994年卒	循環器
医長	出来 沙織	2009年卒	腎臓
医長	杉山 弘樹	2012年卒	アレルギー
医長	松本 峻	2013年卒	児童精神
医長	西村 直人	2013年卒	遺伝
医員	糸永 育	2017年卒	内分泌代謝
医員	平井 祐士	2018年卒	腎臓

<非常勤>

樋口るみ子	1999年卒	神経	
田野尻咲帆	2000年卒	新生児	
志賀健太郎	1995年卒	内分泌代謝	横浜市大センター病院小児科講師
藤原 祐	2008年卒	神経	ふじわら小児科

(部長 西澤 崇 記)

11. 外科・消化器外科

消化器外科は部長の佐伯、ローテーター8名、非常勤2名で診療にあたっています。

2019年から2022年はCovidの影響で手術件数が減少していましたが2023年は894件で、Covid-19以前(約800件)より増加しました。Covidによる減少の反動もありますが2023年4月から外科の手術枠が月曜から金曜まで1列に加え第2、第4、第5火曜に1列追加となったことが影響しています。

Covidの影響で導入が遅れていた胃癌に対するロボット手術を2023年5月によりやく導入する事ができました。胃癌の手術症例が減少傾向の上にCovidの影響もあった中でなんとか胃癌の手術件数年間50例、うち腹腔鏡手術20例の施設基準をクリアすることができました。2023年12月までに6例のロボット支援下幽門側胃切除を行いましたが大きな合併症はなく安全に導入する事ができました。

人事異動では6月2日から玉川先生がローテーターに加わってくれました。直腸ロボット手術のプロクターも取得し若手の指導をしてくれています。私(佐伯)は4月1日付で院長補佐を拝命いたしました。樋口先生、玉川先生のツートップに外科の現場を任せることができているので私は管理の仕事に力を入れていきたいと考えております。

[スタッフ]

病院長特別顧問	松川 博史
院長補佐兼部長	佐伯 博行
部長	樋口 晃生 (H30.4.1~)
部長	玉川 洋 (R5.6.2~)
医長	川邊 泰一 (R2.4.1~)
医長	中園 真聡 (R3.4.1~R5.6.1)
医員	朱 美和 (R5.4.1~)
医員	松下 直彦 (R5.4.1~R6.3.31)
医員	金井 達哉 (R5.4.1~)
医員	股部 紘也 (R5.4.1~R6.3.31)
医員	藤井 悠 (R5.4.1~R6.3.31)
非常勤	及川 功、豊泉 大地

12. 乳腺外科

乳がんを中心に、根治性、低侵襲性、整容性、そして患者さんの希望と生活の質を重視した診療を目指しています。診療にあたり医療者と患者さんの shared decision making が重視され、また患者さん個々の状態や治療反応性に応じての escalation、de-escalation が一般的となり、ますます個別化治療への対応が求められてきています。

乳腺外科は乳房という単一の器官を対象としながらも、乳がんが進行すると骨・肺・肝・脳をはじめとする全身臓器への転移を来すこともあり、治療の adverse event を含め各臓器の management が必要となる上、他科の皆さまのご協力を仰ぐことも多くなっております。また、病態の的確な把握につながる各種検査はもとより、精神面でのサポート、リハビリテーション、栄養管理、緩和ケア、遺伝情報等幅広い面からのアプローチの重要性も増してきており、各部門の皆さまとのチーム体勢での back up がより必

要となってきました。

各科の先生方、看護、薬剤、検査、事務部門や病院を支えている皆さまに助けられて日々の診療が成り立っており、深く感謝しております。いろいろご迷惑をおかけ致しますが、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

〔スタッフ〕

部長 加藤 直人

化学療法部長 西山 幸子

13. 呼吸器外科

当科は、専門性をより明確にして患者や地域医療機関にもわかりやすい診療体制にするという以前からの計画に基づいて、2017年度に外科から独立する形で立ち上げられました。2019年度から、呼吸器外科専門医の常勤2名と非常勤医師（呼吸器外科専門医）1名の体制になりました。肺癌治療については、呼吸器外科、呼吸器内科、緩和支援療法科の医師をはじめ、薬剤師、病棟看護師などが参加するがん診療チームを週1回実施して、肺癌患者一人一人について、様々な角度から意見交換を行っています。

手術件数については、123例と昨年よりは減少しましたが、一昨年とほぼ同等の件数になっています。悪性腫瘍に対する手術については、肺癌に対する手術は胸腔鏡下手術を標準としていますが、今年度は61例中7例が開胸手術でした。また、これまで経験がなかった症例として、肺動脈肉腫に対する手術が2例あり、心臓血管外科と協力して肺動脈形成を伴う肺全摘術を行いました。

良性疾患の分野では、気胸と膿胸が主な手術対象疾患になります。

〔スタッフ〕

部長 大沢 宏至

医長 菊池 章友

14. 整形外科

令和5年度（2023）4月より整形外科には新たに渡辺大樹医師（平成24年 山梨大卒）、藤原圭医師（平成26年 アイルランド大卒）、糸川慧医師（平成31年 弘前大卒）、小倉和成医師（平成31年 山梨大卒）、諫山周平医師（令和2年 横市大卒）の5名が新たに加わります。10月からは松本淳一朗（平成31年 日医大卒）先生が諫山先生と交代になります。

渡辺医師はスポーツ整形外科に配属になります。膝関節のスポーツ障害の経験が豊富でとうとう当院のスポーツ整形外科での本領発揮となります。

藤原医師もスポーツ整形外科に配属になります。海外英語圏で医学部を卒業したのち本邦医師免許を取得するといった特殊経歴の持ち主です。国際的視野をもった優秀な関西人です。

糸川医師もスポーツ整形外科です。一度接見したら忘れられない印象を残します。新米パパとして奮闘しています。

小倉医師は人工関節センター配属になります。様々なことに興味があり、また実践していく行動力のある新人です。

諫山医師は脊椎センター配属です。大柄な体格で何事にも動じない、山のような人です。まだまだ新人ですので温かく見守ってください。4月から6カ月の勤務になります。

松本医師は諫山先生の後に来られる予定です。

<旧メンバー紹介>

三原久範（整形外科、脊椎センター長）、山崎哲也（スポーツ整形外科センター長）、柘原俊久（人工関節センター長）、

佐藤昌明（人工関節副センター長）、多々羅靖則（脊椎副センター長）、篠原健太郎、新村高典、坂口彰

15. 形成美容外科

令和3年度より、常勤医師3名の診療体制を維持しております。

コロナ禍により、待機手術の延期を余儀なくされる事もありましたが、収束傾向となり以前の診療形態に戻つつあります。

麻酔科管理を要する外傷の症例数は減少傾向でしたが、待機手術が通常通りに行えるようになった為、全体的な手術症例数としては大きな変化はありませんでした。

人員の都合で、10月から常勤医師2名体制での診療を余儀なくされましたが、非常勤医師による診療支援の継続や、コメディカルの方々のご理解・ご協力も引き続き頂いて従来の診療形態の維持を行っており、皆様には感謝しかありません。

また、血管腫の治療を得意とするV-beamレーザーでの治療症例数も徐々に増えてきております。

血管腫（赤あざ）だけでなく、赤ら顔の治療も行っておりますので、お悩みの方がおいでしたら、当科への受診をお勧め下さい。

今後も多くの患者さんのニーズに応えられる形成美容外科として頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

(形成美容外科部長 高山 敦子)

(スタッフ)

常勤医師

高山 敦子	平成 25 年 9 月就任
松尾 裕美	令和 4 年 10 月就任
西山 恵美	令和 5 年 4 月就任、令和 5 年 9 月退職 (異動)

看護師

加藤 貴子
浦田 紀子

16. 脳神経外科

令和 5 年度も、例年通り、地域の医療事情から脳血管障害と頭部外傷の急患対応を軸に診療を行いました。

脳卒中に対しては、脳神経内科との協体制で 24 時間 365 時間の診療体制を敷き、とくに脳梗塞においては t-PA 投与・カテーテルによる血栓回収療法に対応しました。くも膜下出血 (破裂脳動脈瘤) については、カテーテル手術を率先して行いました。その他の脳血管障害についても脳血管内治療・直達手術のおおのの利点・欠点を検討し、適切な治療方針を採りました。

頭部外傷は、地域の年齢構成を反映してか、転倒による軽症～中等症の外傷の疾患を中心に、地域のニーズに即した診療を行いました。

長年行ってきました特発性正常圧水頭症の診療については、専門性が不在となったため引き続き取り扱い件数は少ない状況です。また、脳腫瘍、とくに悪性脳腫瘍や頭蓋底腫瘍、下垂体腫瘍は、原則、大学へ紹介しました。

当初の目標「当たり前のことを当たり前に行う脳神経外科」を継続し、地域の診療機関の先生方、急性期後を支えてくださる病院や施設とともに地域医療に貢献するように努力しました。今後ともご指導のほどどうかよろしくお願いいたします。

(間中 浩)

令和 5 年度スタッフ

統括部長	間中 浩
医長	川崎 貴史
医師	志澤 薫
医師	塩田 雅朗 / 作山 りさ

17. 心臓血管外科

令和 5 年度は当科にとって特別な 1 年となりました。20 年以上にわたり当科部長を務めてくださった 孟 真 先生が 2024 年 3 月をもって定年退職となるため、最終年となったからです。私は 2007 年に当院に赴任し、18 年もの間一緒に仕事をさせていただきました。特にご専門とされる静脈疾患、動脈疾患、肺動脈疾患に対して、診療、研究、教育にわたり多大なる貢献をしてくださり、厚く御礼申し上げます。私が心臓、大動脈疾患を主に担当していたこともあり、当科はあらゆる分野に対応できる診療科として、大学関連病院中でも特殊な病院であると考えております。今後も同様の診療体制を維持すべく努力する所存です。

令和 5 年度も診療実績や手術件数など、おおむね従来通りの数、質を維持することができました。

心臓大血管疾患は、虚血性心疾患、弁膜症に対する手術を例年通り施行しました。心疾患は従来から私が中心となり診療を行い、大動脈疾患では大動脈血管内治療の指導医である軽部義久部長と私で急性大動脈解離、真性大動脈瘤に対する緊急手術を含めた対応ができる体制となっております。幸い安定した成績を維持することができました。麻酔科、手術室、ICU には負担をおかけしておりますが、数少ない大動脈緊急症に対応できる病院として地域医療に貢献していると思います。

末梢動脈疾患は、間欠性跛行や重症下肢虚血に対する血管内治療や外科手術が行われており、下肢救済、生命予後改善に寄与しております。看護部 (WOC、糖尿病認定看護師)、リハビリテーション科、内分泌代謝内科、形成外科、皮膚科などと協力しながらフットケア外来をはじめとし、集学的な治療を行っております。

静脈性疾患では、静脈瘤の治療は低侵襲な高周波血管内焼灼術や血管内接着剤を使用した手術が大半を占めており、ほとんどが日帰り手術となりました。

また当科は、動脈・静脈に対する血栓吸引デバイスの先行施行施設となり、指針作成、評価療養制度での先行研究施行を行い、今後 PMS、その解析などこの分野で更なる貢献を行うこととなります。

血液透析症例に対するバスキュラーアクセス関連手術についても、関連透析クリニック、病院、院内腎臓内科と連携しながら、難治例にも対応しています。特にアクセス作成困難症例、アクセス関連合併症に対する治療を積極的に施行しており、その数は年々

増加しております。

当科は幸いにも優秀な人材の派遣を受け続けており、熟練と新しい力の融合で診療を継続しております。人材は宝であるため、診療レベルを維持するためには必須な要件と考えております。もとより心臓血管外科の世界は男性中心でしたが、女性医師のローテーションも多くなり、新たな気づきや配慮も必要となってきました。今年度は、おそらく大学も含め心臓血管外科関連病院では初の女性医師の産休取得も行われました。母児ともに無事であることを祈念しつつ、周りのスタッフに対しても配慮をすべく、私にとっても貴重な経験をした一年でした。母児ともに健康で職場復帰していただいたときには、すごく安堵いたしました。やはり人は宝と再認識した次第です。

当科だけで対応できることには限りがあり、病院全体での柔軟な対応やサポートがあるからこそ診療が継続できる次第です。この場をお借りして病院関係各位には大変感謝申し上げます。

引き続き、スタッフの健康を守りながら質の高い診療を継続、提供してまいりたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

(橋山直樹 記)

心臓血管外科部長	孟 真
心疾患外科部長	橋山 直樹
血管疾患外科部長	軽部 義久
医長	伏見 謙一
医長	阿賀健一郎
医師	原田 祐輔
医師	金井 春果 (2023/4-9)
	福田 桃子 (2023/10-2024/3)
認定看護師	菊池 絵里
外来看護師	野中 愛
	山田 美佳
	大野 明那
外来事務	斎藤 久美
	田代 真希

施設認定 心臓血管外科専門医認定基幹施設
大動脈ステントグラフト実施施設 (胸部・腹部)
下肢静脈瘤血管内治療実施施設

18. 皮膚科

当科は皮膚科疾患全般をまんべんなく診療しており、午前は外来診療、午後は検査や皮膚の小手術を行い、同時に病棟診療を行っています。

基本的に保険診療ですが、自費診療も行っており、以前より導入しているニキビや小じわに対するケミカルピーリング、2017年に導入した陥入爪のワイヤー治療、2018年度に購入した美容機器の「フォトフェイシャル M22」、2021年に帯状疱疹ワクチンも開始しています。

今後も地域の先生方、他科やコメディカルの方々と連携を持ち、そして変化、進歩していく皮膚科の知識や治療法を取り入れて診療を行っていきたいと思っています。

令和5年度 令和5年4月～令和6年3月 (2023年度) 医師

廣門未知子

菱沼 千尋

荒川 遥

19. 泌尿器科

令和5年度は、新任医師2名を迎え、癌診療、泌尿器科救急、排尿障害治療など、精力的に診療にあたりました。手術支援ロボット・ダヴィンチは前立腺癌、膀胱癌、腎癌などにおいて、手術療法の中心的な役割を担っています。また、筋層非浸潤性膀胱癌に対する光線力学診断併用 TURBTを導入し、より良い癌治療を提供できる体制となっております。

前立腺肥大症に対する低侵襲手術である水蒸気治療の選択肢が増え、主力であるレーザー蒸散術とあわせると、手術件数は130例超となり、全国でも有数の症例数となっています。

業務量の増加、働き方改革への対応など問題は多々ありますが、一層の業務効率化を図り、連携のとれたチーム医療を展開することで対応していきます。今後も地域に信頼される泌尿器科としての役割が果たせるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

〔スタッフ〕

副院長 池田伊知郎（1987年卒、2000年4月就任）
部長 佐野 太（2000年卒、2020年4月就任）
医長 春日 純（2005年卒、2022年4月就任）
医長 三留 拓（2011年卒、2022年4月就任）
医長 能登 紀彰（2013年卒、2022年4月就任）
医員 池田 舞子（2018年卒、2023年4月就任）
医員 染野 秀介（2021年卒、2023年4月就任）

（部長 佐野 太 記）

20. 産婦人科

2023年4月より沼崎令子先生に代わり私、永田智子が部長に就任し、古野敦子、松崎結花里、橋本彩紗、宮本麻美、佐藤理穂、清瀬愛、荒川聡美、越後貫優の9人体制となりました。

産科に関しては、新型コロナウイルスによる制限が徐々に緩和され、面会、立ち合い分娩も再開され、分娩件数は双胎含め478件と少し回復がみられました。麻酔科医、小児科医が常時在勤なので、緊急・超緊急帝王切開も可能であり、我々産婦人科医、妊婦さんにも安心な体制で分娩を取り扱うことができています。

婦人科手術に関しては、手術総数約400件、そのうち半数が腹腔鏡手術、ロボット手術の内視鏡手術です。現在、婦人科内視鏡技術認定医は4名在籍しており、内視鏡手術適応症例の拡大、増加を目指しております。悪性腫瘍に対しても内視鏡手術の導入を進めており、より低侵襲な手術が提供できるよう心がけております。また、変化の大きい悪性腫瘍の薬物治療に関しては最新の治療薬も導入し、患者様の病態に合った、適切な治療を受けていただけるよう日々取り組んでおります。

専門外来として、更年期障害や骨粗鬆症などの治療中心とした女性ヘルスケア外来、胎児精査超音波外来、出生前相談外来を設け、個々に応じたより詳しい治療・診療ができるようにしています。地域の産婦人科医療を発展させ、患者様が安心して産婦人科の診療が受けられますようスタッフ一同努めてまいります。

（産婦人科部長 永田 智子 記）

21. 眼 科

令和5年度は、水木、武田、西の3名体制となりました。地域の基幹病院として水木医長が網膜硝子体手術・緑内障手術を多く行いました。水木医長、武田医師が多くの白内障手術を行いました。また、非常勤医師の土屋綾子医師が斜視手術を行いました。今後も各分野の専門家がそれぞれの専門性を発揮し、手術件数の増加、技術の研鑽、国内外での学会報告・交流などを行っていく方針です。

（文責：水木 悠喜）

22. 耳鼻咽喉科

2023年度は人事異動により新たなスタッフ体制で診療にあたっております。山田、岡部が退職し、代わって古川と朝比奈が加わりました。コロナウィルスの影響が少しずつ減り、協力的なコメディカルに助けられて1年間乗り切ることができました。手術件数は330件程度で昨年同様の低水準となりました。全身麻酔を担当していただく麻酔科の先生方、術前検査で多くの症例の読影をお願いしている放射線科・呼吸器内科・循環器内科の先生方に、厚く御礼申し上げます。

耳鼻咽喉科は手術室での手術にくわえ、急性扁桃炎、喉頭浮腫などの急性炎症性疾患や突発性難聴、顔面神経麻痺などの疾患に対する内科的治療を行っております。特に突発性難聴に対しては、鼓室内ステロイド療法（ITS）と高気圧酸素療法（HBOT）を施行しております。ITSに関しては後ろ向きですが有効性が認められ、データを発表することができました。HBOTに関しては平塚共済病院との共同研究を行っております。頭頸部癌に対する治療として、より短期間で低侵襲な経口的切除を積極的に行っています。睡眠時無呼吸症候群1対する1泊入院検査も行っています。急患などの際には主病棟以外の病棟にもベッドをお借りして対応いただいていることも多く、看護師ならびにコメディカルの方々には大変有り難く思っております。

これからも初心を忘れることなく、事故のないように配慮しながら引き続き診療に当たりたいと思っております。

(人事)

常勤医師	生駒 亮 (1997年横浜市立大学卒、2009年4月就任)
	松本 悠 (2014年横浜市立大学卒、2021年4月就任)
	古川 俊 (2014年帝京大学卒、2023年4月就任)
	松下祐希子 (2018年北海道大学卒、2021年10月就任)
	朝比奈光暉 (2020年聖マリアンナ医科大学卒、2023年4月就任)
非常勤医師	市川 輝人 (2018年金沢大学卒) 水曜日
	大氣 大和 (2015年筑波大学卒) 木曜日隔週
	福井 健太 (2016年弘前大学卒) 木曜日隔週
看護師	田中 康子
	原田 周子
助手	安井 知恵
検査技師	東野麻衣子
	原 優子
	西島 渚
	宮澤 佑衣
	市川かおり
	横内 花香
	事務
	加藤ゆかり
	渡邊明香里

(診察)

一般外来	: 月～金曜日の午前 (水、木は手術日のため、基本的に紹介患者、救急患者のみ)
手術	: 水曜日・木曜日 午前午後
月曜日午後	: 処置・検査
火曜日午後	: 処置・検査
金曜日午後	: 処置・検査

(診療部長 生駒 亮 記)

23. 歯科口腔外科

令和5年度は昨年度と同様に常勤3名体制で診療を行いました。

本年はスタッフの移動が無く、昨年に引き続き加藤、大村、武田の3名体制でした。

同じ体制で診療できたことは非常に大きなアドバンテージになり、地域の先生方にも体制が浸透したため、よりご紹介をいただけるようになり、初診患者数の増加、それに伴い手術件数も増加させることが出来ました。

また嚥下チームの体制を強化するために、週1回だった非常勤医を週2回派遣いただき、嚥下評価が必要な患者様にもより介入することが出来ました。引き続き、今後も病診連携の充実を図り、地域医療に貢献していきたいと思っております。

[スタッフ]

常勤医師

部長	加藤 智弘 (日本歯科大学卒)
医長	大村 雄介 (東京歯科大学卒)
	武田 祥治 (日本歯科大学卒)

非常勤医師

野村 武史 (東京歯科大学 口腔腫瘍外科学講座 教授)
吉田 早織 (東京医科歯科大学 摂食嚥下リハビリテーション科 医員)
吉崎 怜子 (東京医科歯科大学 摂食嚥下リハビリテーション科 医員)
小泉 雄 (がん研究会有明病院 頭頸科医員)

歯科衛生士

布施まどか (産休)
最上貴生子

24. 麻酔科

2023年5月、新型コロナの感染症法上の位置付けが5類に移行しました。2020年以来、麻酔科として、HCU専従での対応、感染対策、手術室制限など、流行の程度に応じて、常に第一線にたつての対応をしてきました。今後も再流行あるいは新規感染症の出現など、予断を許さない状況ではありますが、一つの区切りを迎えました。麻酔科管理症例数も前年度4,749症例から、4,923症例に増加しており、次年度はついに5,000件越えが予想されます、しかし、これまで手術件数の増加、効率化を最優先に進めてきましたが、手術室数を始めたインフラ、麻酔科医・手術室看護師などのソフト面では既に“臨界状態”に達しており、働き方改革を見据えた運用方法の転換期に来たと感じています。

ICU・CCUでは、長年勤務された關野先生の後任として刈谷医師が着任しました。引き継ぎ期間として2022年度から麻酔科勤務となっていました、本年度からはICU専従医師として勤務しています。長年大学施設と市中病院で集中治療に従事してきたキャリアと人脈を活かして、これまで以上に手術室、他診療科との連携がスムーズになりました。これは周術期の治療成績の向上、効率的な運用による収益増にも直結しています。

横浜市大麻酔科は、本年度も麻酔科専攻医プログラム中、日本最多の登録者数を達成し、毎年20名を超える専攻医を獲得しています。当院は研修中核病院に指定されており、複数の専攻医が研修を行っています。当院麻酔科は、神経ブロックやポイントオブケア超音波(POCUS)、血管穿刺などエコーを用いた麻酔診療を特徴としており、“この業界”では有名な施設となっています。これらエコー診療を武器に、麻酔科は今後も手術・周術期管理の安定した土台を提供します。病院からの支援、外科系診療医、看護師、コメディカルの方々の手術室運営へのご協力をお願い致します。

〔スタッフ〕

常勤医師

部長	渡邊 至 (平成4年横浜市大卒)
部長	柳 大介
医師	小林 憲弥
医師	横山 千咲
医師	佐藤 茜
医師	山内 朋子
医師	閻 碩
医師	望月 友樹 (専攻医2年目)
医師	佐藤 滯令 (専攻医2年目)
医師	萩原 祐里 (専攻医1年目)
医師	中島 聖太 (専攻医1年目)
医師	釵持 清花 (専攻医1年目)
医師	大山 真弥 (専攻医1年目)
ICU部長	刈谷 隆之

非常勤医師	大塚 将秀 (市大センター病院副院長)
	増井 健一 (附属病院准教授)
	宮下 徹也 (国際医療福祉大学三田病院)
	馬場 靖子 (国際医療福祉大学三田病院)
	千葉 桃子 (聖隷横浜病院)

(部長 渡邊 至 記)

25. リハビリテーション科

令和5年4月1日よりリハビリテーション科の部長として元ICU部長の關野長昭先生が配属となりました。月、火、木、金の週4日間、ICU、HCUでの早期リハビリテーションにご尽力いただいています。理学療法士は飯塚達哉、言語聴覚療法士：倉島沙織が入職となりました。6月より受付事務として山本美穂さんが入職されました。リハビリテーション専門医の診療は、昨年に引き続き非常勤勤務で毎週火曜日午後には横浜市立大学リハビリテーション科医局より根本明宜先生、第3木曜午後には東京女子医科大学教授：若林秀隆先生、第3金曜午後には神奈川県立がんセンター骨・軟部腫瘍外科部長：比留間徹先生に診療やカンファレンスをしていただいています。

毎年増加する入院オーダに対しスタッフ数は変わらず、より急性期の専門性の高いリハビリテーションに重点を置いて対応することになりました。令和6年1月からオーダの中止、終了について基準を設け運用を開始しております。言語聴覚療法部門は、脳血管疾患、頸部、口腔周囲術後に限定し、その他の嚥下評価や管理はSSTチームへ引き受けていただくこととなりました。全依頼に対してリハビリテーションを十分提供できない状況で大変ご迷惑をおかけしておりますが、質の高い急性期リハビリテーションの提供を心掛けて参ります。

今後ともリハビリテーション科をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

常勤医師	關野長昭（部長）
非常勤医師	根本明宜 若林秀隆 比留間徹
理学療法士	石渡規子（技師長） 栗田健（物理療法主任） 日野原晃 小野元揮 吉田典史 吉岡毅 鈴木真理子 木元貴之 内倉大貴 秋元留美 長澤あかり 中前拓人 道上大輝 後藤理乃 飯塚達哉
作業療法士	中西理佐子（作業療法主任） 牧田優佳 菅原寿姫 吉田知也 戸崎江理
言語聴覚士	河野美有紀 森麻美子 倉島沙織
助手	木高敦子（技術） 織本昌江（技術） 住谷洋子（事務6月まで） 山本美穂（事務6月～）

26. 救急科

当科は、ER型救命救急センターとして、ER診療を主な役割としています。令和5年4月1日より赴任した森浩介が、前任の松本順に代わり救急科部長（科長）を拝命しました。また前年度の6名体制から7名体制に1名増員となりました。祐森、襄和、宮川、十河は退職、新たに森、菊池、野崎、岸本、山本が新規採用となりました。

年々増加する救急需要に対応し、持続的に救急医療を通じて地域医療に貢献していく体制を、救急科として、病院として整えることを目標に令和5年度の活動を開始しました。救急対策マニュアルの改訂、救急外来経由の入院時における病棟運用方針の改訂、ベッド満床の定義の新規策定など、組織として救急医療に積極的に対応していけるよう改善を重ねました。救急科としては、平日日勤帯の救急車対応に加え、新規に救急科当直として働き方改革の中で許す限り診療時間外の日当直にも参加し、救急車応需に努めました。

これらのおかげもあり、令和5年度の救急実績は、年間救急受診患者総数14,761人、救急車搬送件数8,661件、応需率85.2%となり、救急車搬送件数は初めて8,000件/年を超えました。診療時間内の救急科の応需率は90.8%であり、2024年1月にはCOVID-19の大流行もありましたが、年間を通して救急車を高い水準で応需することができました。救急車約1,000件の増加に対して、救急車経由の入院が約800件の増加となり、救命救急センターとしてより重症患者の診療を通じて地域に、病院に貢献できたと考えます。

ER型救急では、診療に次いで教育が重要と考えています。救急科専攻医、初期臨床研修医、看護師、地域の医療機関の皆様、救急救命士など様々な職種を対象に、オンザジョブ、オフザジョブの教育活動に励んでおります。

その他、災害医療にも力をいれています。2024年1月に発生した能登半島地震には、当院よりDMAT隊を被害の大きかった能登半島先端に位置する珠洲市に派遣しました。道路の被害も大きく、隊員達は生きて帰れるのかという不安もあったようですが、無事任務を果たすことができました。

救急医が24時間365日常駐できる体制を目指しつつも、引き続き病院全体で救急医療に取り組む文化醸成とシステム構築/改善に努めていきます。救急医療を通じて地域医療、教育に貢献していく所存です。またER型救急では困難も多いのですが、今後は臨床研究を通じて医療の発展にも貢献していきたいと思っています。今後ともよろしく願い致します。

〔人事〕

部長	森 浩介
部長	松本 順
医長	大矢あいみ
医長	岸本 勇将
医師	菊池 優志
医師	野崎祐香里
医師	山本 翔太

27. 放射線科

【医師】

診断部門の医師は、松井医師が小田原市民病院へ異動となりました。新たに、込田医師、竹内医師が着任し、診断専門医3名、

専門医1名、専攻医2名の合計6名になりました。安田医師が年度中に診断専門医を取得しましたが、当院では初めてのことでした。読影数は年間45,528件と、前年度の44,774件から微増にとどまりました。

治療部門の医師は、4名の非常勤医師の応援が継続され、診療の内容に大きな変化はありませんでした。放射線治療の件数は235件と、前年度とほぼ同数で堅調に推移しました。

常勤医師

部長	萩原 浩明（1995年 筑波大卒 2014年4月着任）
診断部長	金野 義紀（1987年 横浜市大卒 1997年6月着任）
核医学部長	久保田昭彦（1990年 宮崎大卒 2020年4月着任）
医長	安田 尚史（2014年 北海道大卒 2021年4月着任）
医師	込田みどり（2018年 聖マリアンナ医大卒 2023年4月着任）
医師	竹内 結花（2019年 横浜市大卒 2023年4月着任）

非常勤医師

池上 匡	神奈川県歯科大学附属病院 画像診断科
杉山 正人	横浜医療センター 放射線治療科
糟谷 健夫	ひまわりクリニック
天野 恵美	
谷内 理紗	横浜市立大学附属病院 放射線治療科
繁永 大輔	横浜市立大学附属センター病院 放射線治療科

（部長 萩原浩明 記）

【放射線技師】

令和5年度、人事異動としては4月に既卒者の塚原菜々美・新卒者の相原悠己が入職し、1月に医学物理士の佐川誠が退職しました。女性技師の新規採用もすすんでおり、質の高いマンモグラフィ提供を目的に、乳腺チームとして日々努力をしている姿が見受けられます。

新型コロナは5月に5類感染症となり、この3年間は防戦一方でしたが、業務実績を元の状態に戻したいと考えております。高額医療機器についてEOSLを迎えている装置が多く存在している事や医療被ばくの厳格化などに対応すべく業務に支障が出ない様、引き続き管理者に要望したいと思います。

医師の働き方改革に対応する告示研修は順次受講しており現在16名の放射線技師が対応済みとなりました。

学術関係は昨年引き続き、南 広哲がMRI関連・医療被ばく関連で年間15演題以上を院外に発信しており、同年代や後輩スタッフも刺激を受け学術発表が盛んな傾向となっています。引き続き院内では人材育成、院外では地域と連携し申核病院としての役割を果たしたいと思います。

（技師長 中島義人 記）

28. 緩和と支持療法科

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続きました。緩和ケア病棟では一時期より制限が緩和されたものの、引き続き面会制限を余儀なくされており、患者やご家族にとって厳しい状況が続きました。その一方で、訪問診療を選択される患者が増加し、自宅で看取られるがん患者がさらに増加したことは、地域医療の進展として大きな前進と考えています。しかし、面会制限がなければ緩和ケア病棟を希望された患者やご家族にとってはつらい時期でもありました。

令和5年度には人事の変動がありました。藤澤順前統括部長の退官に伴い、長尾茂樹医師が医長として着任し、常勤スタッフ3名体制を維持することができました。長尾医師は当施設で緩和ケア医としてキャリアをスタートし、1年で優秀な緩和ケア医に成長しつつあります。また、馬渡が統括部長に就任し、令和5年度より日本緩和医療学会の緩和医療指導医として診療・教育・研修を推進しています。さらに、「かながわ緩和ケア医キャリアパス説明会」を横浜市と共催し、日本緩和医療学会の各種ガイドラインや教科書の編集にも貢献しました。榎山は令和4年度から認定医として緩和ケアチームの診療を担当しており、非がん領域にも緩和ケアを提供する取り組みを進めています。近年、緩和ケアチームへの紹介は増加しており、緩和ケアの広がりを実感しています。

私たちは今後も診療、教育、地域医療の各面から、病院および地域の皆様のお役に立てるよう尽力してまいります。

（令和5年度 スタッフ）

部長	馬渡 弘典（平成28年2月就任）
部長	榎山 正人（平成30年10月就任）

医長 長尾 茂輝（令和5年4月就任）
非常勤医師 鈴木 理央（非常勤医師）
非常勤医師 小山 哲（非常勤医師）

29. ICU/CCU 室

平成11年当院ICUの開設以来、ICU部長を務めてこられた關野長昭先生が2023年3月に定年を迎えられ、4月からは刈谷が後任を務めることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

2023年度のICU・CCUの延入院患者数は、2,567名（前年度2,365名）と若干の増加となりました。内訳は内科系637名、外科系1,930名であり、術後の患者が多いのは例年通りの傾向でした。

2020年以来猛威を振るってきたコロナウイルス感染症が本年5月8日から5類感染症となり、病棟運用も流行前に近い状況となりました。2023年度のICU・CCUの延入院患者数は、2,567名（前年度2,365名）と若干の増加となりました。内訳は内科系637名、外科系1,930名であり、術後の患者が多いのは例年通りの傾向でした。

集中治療室に入室される患者は循環・呼吸が不安定であることが多く、検査や処置のための移動が困難となります。また、状態も刻々と変化するため、繰り返し全身状態を評価することが必要です。このような特性から、近年集中治療領域ではエコーを用いたpoint-of-care（POCUS：Point-of-Care Ultrasound）が注目されており、本年度ICU・CCU室にPOCUSに特化した超音波機器を導入しました。

引き続き重症患者の治療の質と安全性向上に貢献できるよう精進して参ります。

[2023年度 スタッフ]
刈谷 隆之

（刈谷 隆之 記）

30. HCU

本年度5月からCOVIDが5類に移行し、ようやく本来の集中治療業務に移行できるようになりました。今年度まで患者対応や病床管理に手間がかかり、スタッフの方々には多大な負荷がかかったかと思えます。また5類移行後もブランクを取り戻すのにストレスがかかっていたかと思えます。みなさん実直に頑張っていたいており頭の下がる思いです。

また関連各科の先生方には従来運用移行時にフレキシブルに対応していただき、大変感謝いたします。今後COVID以前と同じく手術後や細かい管理の必要な方を中心にご利用いただくと助かります。HCUは集中治療部の一環であり多部門にわたる広い知識が必要ですが、COVID対応期間を挟んだこともありニーズに十分応じられていない部分もあったかもしれません。医療安全や診療の質、スタッフのレベルアップやモチベーション等のためにも、教育やご指導などご協力をお願い致します。

HCUの入室状況は70%弱を推移しており、若干少なめではありますがCOVID5類移行に伴い上昇傾向にあります。75%が目標となりますので引き続きご協力をお願いできると助かります。ようやく本来の集中管理業務中心に戻りましたので、来年度もいろいろな科のお役にたてるよう尽力していきたいと思えます。よろしく願い致します。

（藤井 洋之 記）

31. 臨床検査科

2023年度は5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、新型コロナウイルス遺伝子検査は激減しました。当院の新型コロナウイルス遺伝子検査は、インフルエンザ遺伝子が同時に検出できるCobas Liat 2台、等温核酸増幅を原理とするTRCReady-80 3台、PCR法によるFilmArray、GeneXpert各1台の合計4機種7台で測定し、夜間・休日にも迅速に対応できる検査体制を整えていますが、機器に余裕が生まれた為、11月より一時的に外注化していた結核菌群とMACの遺伝子検査（TRC法）を院内測定に戻しました。2022年度から導入した、FilmArray（呼吸器と髄膜炎・脳炎パネル）は、特に呼吸器検体の依頼件数が増加し検査を行っております。

抗菌薬VCMのTDMについて6月ガイドラインの変更があり、VCMの血中濃度の測定を24時間対応に変更して行っています。臨床側から強い依頼があった、末梢血の好中球・好酸球の実数値の報告を9月より行っております。

機器については、前年度に、血算、生化学・免疫検査機器を新機種に入れ替えましたが、生化学・免疫測定機連結用の搬送ラインは半導体・部材不足で設置できず、苦勞しておりました。7月に遅れていた生化学・免疫測定機連結用の搬送ラインを設置でき、無事自動化が完了しました。しかし、残念なことに、前年度入れた、全自動生化学分析装置FX83台のうち2台の調子が悪く、修理を繰り返すも直らず、次年度に入れ替えを検討しています。

ISO15189認定については、11月に定期サーベイランスを受審し、日本適合性認定協会よりISO15189の認定継続が承認されました。2022年12月にISO15189：2012（第3版）からISO15189：2022（第4版）へ認定規格が改訂され、その準備対応にてコンサル契約を結び、アドバイスを受けて次回受審の準備を始めました。

また、「みなみフェスタ」で「検査体験ブース」を設置して参加いたしました。

【人事・機器】

新人：鈴木 陸也

退職：なし

機器購入：呼吸機能検査装置、筋電・誘発電位装置、電動式超音波検査台、生化学・免疫検査機器接続搬送ライン、
βD グルカン測定機 ES アナライザ

新規項目：HE4

再院内測定化：TRC 法による結核菌群、および MAC 核酸検査

外部委託化：LH、FSH、プロゲステロン、エストラジオール

(臨床検査科部長 住友みどり 記)

32. 病理診断科

病理診断科新体制の2年目。非常勤病理医2名、非常勤病理医数名、検査技師7名の部署である。

組織検査、細胞診検査、迅速検査や病理解剖などのルーチン業務加えて、研究や学会発表、臨床医の要望に可能な限り対応している。

近年、組織検査や細胞診検査、迅速検査の件数に若干の増減は見られるが、遺伝子検査が急増している。治療方針（治療薬）を決定するためにコンパニオン診断の導入、特に悪性腫瘍検体では遺伝子項目ごとの標本作製や多くの切片の鏡検が要求され、検査技師や診断医の負担が大きくなっている。

対照的に病理解剖数は減少傾向が著しく、2003年は17件、2013年は8件に、さらに新型コロナウイルス感染症の影響が追い打ちをかけ2023年では5件となった。病理解剖は診療の相互検証、向上のために必要不可欠であり、以前より一定数の実施が望まれてきた。特に先進医療の普及がめざましい現在、高度な医療の最終評価として、病変の広がりや治療効果の判定など「病理解剖は診療の延長上」である。しかし研修医教育の面からも危惧すべき状態であり件数の回復が望まれる。

(文責：小山剛司)

【スタッフ】

常勤病理医：河野尚美（部長）、小嶋結（医長）

非常勤病理医：大橋健一、北村創、中村宣生、中谷行雄、奥寺康司、松村舞依、片岡俊朗、石山貴博、岩下広道

検査技師：今井宏樹（技師長）、小山剛司（主任）、中野睦子、牧野純、野崎真仁、毛利かれん、石田瑠菜

33. ME科

当科は、各種血液浄化、心臓カテーテル検査および治療、ペースメーカー・ICD等の不整脈デバイス管理、人工心肺装置の操作、高気圧酸素治療、人工呼吸器管理、末梢血幹細胞採取や人工臓器等の臨床業務に加え、生体情報モニタ・除細動器等の特定保守管理機器に対する定期点検、全ての中央管理機器の保守・修理等の医療機器管理業務を、臨床工学技士13名で行っております。

業務範囲が広く経験が必要な業務が多いことから、全員が全ての業務を同じ水準で行うことは難しく、関係部署の方々にはご迷惑をおかけすることもありますが、医療の質と安全性の向上に努め、日々精進しています。

(臨床工学技士 和田 亜美)

34. 栄養科

(1) 特記事項

- ・ICU病棟にて早期栄養介入管理加算算定開始（9月より）
- ・周術期栄養管理実施加算算定対象疾患の拡充（外科及び耳鼻科）
- ・嚥下食の改正（嚥下移行食の見直しと嚥下調整食4の新設等を10月より）

(2) 人事関係 動向（令和5年4月～令和6年3月）

昇進

- ・徳島 真弓（管理栄養士）・・・ 外来管理主任

退職

- ・管理栄養士・・・ 井上 温 令和6年3月（定年）
- ・調理師・・・ 伊藤 正 令和6年3月（定年）
- ・調理師・・・ 秋谷 実 令和5年10月
- ・調理師（派遣職員）・・・ 古橋 雅人 令和5年6月
- ・配膳係（派遣職員）・・・ 山口 麗子 令和5年6月

- ・配膳係（派遣職員）・・・ 依田ゆめ子 令和5年8月
- ・配膳係（派遣職員）・・・ 黒川 敬子 令和5年9月
- ・配膳係（派遣職員）・・・ 加藤 若菜 令和5年10月
- ・配膳係（派遣職員）・・・ 田中 園美 令和6年1月
- ・調理師（派遣職員）・・・ 古木雄太郎 令和6年3月

採用

- ・管理栄養士 ・・・ 濱田健太郎 令和5年4月
- ・管理栄養士 ・・・ 米田 早希 令和6年2月
- ・調理師（派遣職員）・・・ 丸山久美子 令和5年10月
- ・調理師（派遣職員）・・・ 今西康太郎 令和6年1月
- ・配膳係（派遣職員）・・・ 依田ゆめ子 令和5年7月
- ・配膳係（派遣職員）・・・ 久貝 幸美 令和5年12月
- ・配膳係（派遣職員）・・・ 望月 央 令和6年2月

(3) 給食数（令和5年度）

1日平均	患者	1,112食	
	その他	12食	
	おやつ	32食	合計 1,156食

(4) 令和5年度栄養指導件数

- a. 個人指導 外来 2,261名 入院 1,725名 合計 3,986名
- b. 集団指導 外来 100名 入院 125名 合計 225名

(5) 実習生

- 令和5年8月21日より2週間 実践女子大学（管理栄養士） 2名（2名×2週間）
- 令和6年2月12日より3週間 神奈川県立保健福祉大学（管理栄養士） 2名（2名×3週間）
- 令和6年3月4日より2週間 関東学院大学（管理栄養士） 2名（2名×2週間）

(6) 栄養展テーマ（毎月3日間、外来棟1階、床屋横ホールにてポスターと食品展示を行い、栄養かわら版を発行する。）

- 4月 ・貧血について
- 6月 ・家庭での食中毒予防について
- 7月 ・嗜好品について
- 8月 ・サルコペニア対策と食生活について
- 9月 ・食物繊維について
- 10月 ・メタボリックシンドロームと食生活
- 11月 ・免疫力と食生活について
- 12月 ・お正月の食生活について
- 1月 ・感染症の予防と体調を整える為の食生活
- 2月 ・高血圧と減塩について
- 3月 ・コレステロールについて

(7) 栄養コラム

- 7月：アルコールとの上手なつきあい方
- 12月：風邪の予防とひいてしまった時の食生活
- 3月：食生活を見直して貧血予防

(8) Web版糖尿病ミニ勉強会

- 8月：食物繊維について
- 3月：地中海料理

(9) その他

- ・北園晶子が、NST 専門療法士取得の為の40時間実施修練を終了
- ・第72回共済医学会において第70回発表論文「当院における化学療法センターでの取組み」（北園晶子）が業績表彰を授ける
- ・第15回呼吸器疾患医療連携セミナー・・・「外来化学療法室における栄養介入の取組み」管理栄養士 大里満子
- ・みなみ健康セミナー「認知症と生活習慣病」管理栄養士 北岡瑞希が出席
- ・伊藤豊高が、心不全療養指導士に認定試験に合格

（栄養科長 井上 温 記）

35. 薬剤科

令和5年度は高師、野村、渡邊、吉田の4人の薬剤師が入局しました。高師薬剤師は昭和大学横浜市北部病院でレジデントを終了しており、当院での業務を習得しながら、経験を活かして他の新人の教育も行っています。他の3人の薬剤師は大学を卒業してすぐに入局し、日々たくさんの方のことを吸収しながら成長しています。

業務としては前年度後半に始まった手術関連業務が拡大しました。麻酔科医師、手術室看護師をはじめとする手術室スタッフと連携を取りながら、術前中止薬の最終確認、術後疼痛管理を主な業務としています。さらに病棟薬剤師との連携を強め、術後再開薬の確認にも力を入れています。手術関連業務は、「当院では」というよりも「日本の薬剤師として」はじめて取り組むような内容も多くなってきており、苦労や困難も多くなっていますが、さらに充実させていきたいと考えています。

(文責 中島 研)

VI 地域支援センター紹介

1. 医療社会福祉相談室

本年度は、玉村・桑原・長瀬・山田の4名体制でスタートし、2月より、諸橋が入職しました。

2023年の社会福祉の動向としては、子ども家庭の福祉や健康の向上を支援し、子どもたちの権利を守るために政策を推進する政府機関として「こども家庭庁」の設置がされました。また、「ヤングケアラー支援の強化に係る法律」が成立し、R6年に施行されることになりました。子どもを取り巻く環境に対する動きが大きく変わってきたと感じています。

そのような中、急性疾患の治療にあたっては、医療体制の機能分화가促進し、急性期病院の役割がはっきりしてきたと感じています。

早期の対応が求められていますが、身寄りがいない、キーパーソンが脆弱、無保険・無年金など、問題が多様化し、支援にも時間を要するケースも増えています。市内・県内の医療機関との情報交換をしながら、連携強化に努めています。

院内においては、退院支援・緩和ケア委員・認知症ケアチーム、ACP委員、児童虐待対策委員として活動しています。虐待については院内のフローチャートの見直しをし、啓発にも積極的に取り組んでいます。業務が多岐にわたるため、それぞれのソーシャルワーカーのスキルアップを怠ることがないよう自己研鑽も必要だと感じます。

また、地域連携への貢献も大切だと感じており、地域の保健福祉計画に基づき開催される生活保護、子育て、児童・高齢者虐待防止、障害者関連への会議にも委員となり、参加しています。

患者家族支援、情報提供、意思決定のサポートに専念する福祉専門職であるソーシャルワーカーの役割を考えながら、日々業務をしていきたいと思っています。

(ソーシャルワーカー 玉村 江里 記)

2. 在宅医療室

2020年から続くコロナ禍の影響で、ケアマネジャーや訪問看護師等、地域の方が来院し患者支援のための連携、合同カンファレンスの実施件数が減少しておりました。そのため2023年度は介護支援等連携指導、退院時共同指導の件数増加、地域との連携推進を目的に、対面の面談だけでなくWeb会議システムを利用したことで、以下の結果となりました。

	2022年度	2023年度
介護支援等連携指導料	98件	195件
退院時共同指導料	388件	574件

また在宅医療室では、入院中の患者だけでなく外来通院中の患者に対して、外来看護師や医師が医療面や生活面で困り事があると判断した場合に、連絡をいただき相談対応ができるように『在宅療養支援導入フローシート』を作成しました。一部の診療科から導入していますが、依頼はまだ増加していない状況です。次年度は外来全科で使用できるよう取り組んでいきたいと考えています。

入院前から患者と関わることで、住み慣れた場所で暮らし続けることができるように地域と連携しながら、スムーズな療養支援が行えるようスタッフ一同取り組んでおります。今後も病棟・外来看護師と一緒に、患者や家族に安心して自宅で生活してもらえるように支援していきます。

(文責：在宅医療室 室長 志村育子)

3. 入退院調整室

入退院調整室は2014年に地域支援センター内に発足しました。外来で行っていた入院予約時の入力や説明業務を担当し、業務負担を軽減することが主な目的でした。当初から医師の指示書に基づくクリニカルパスを適用する入院患者に対し看護師・医療秘書・薬剤師の協働によるPFM (Patient Flow Management) の実践を目的に活動し、在宅医療室と共に地域包括ケアの一翼を担ってきました。現在は管理栄養士もレギュラーに加わりました。地域医療ケアシステムの醸成により入院前の生活情報が多岐にわたり、多様な背景を持つ方がパス適用の入院となり、クリニカルパスの役割は標準的な医療提供だけでなく、バリエーションが生じた背景の理解に注力した柔軟な個別ケアの対応に活用する指標になります。入院生活の準備を通して安全に入院生活を送り地域生活へ戻るためには地域や外来との連携は欠かせません。また、患者相談窓口を併設しており、問題解決のお手伝いをし、事案に応じて当該部署の方に対応をお願いしています。

当初1科4パスより開始したパス種類は現在、16科58種類に拡大しました。また、師長を含み4名で始まった看護チームはパス認定士を含む9名になりました。

今後も標準を活用しながら個別対応のアセスメント力をつけるべく皆で精進しています。

(文責：入退院調整室 室長 家高聡子)

4. 地域連携室

令和5年度地域医療支援病院紹介割合・逆紹介割合 等

紹介割合（地域支援）	111.9%	紹介患者数	16,041人
逆紹介割合（地域支援）	92.9%	逆紹介患者数	22,624人

連携登録医療機関数

【医科】522件 【歯科】129件

かもめネットみなみ登録医療機関

【医科】59件 【歯科】3件

（令和5年度末現在）

(1) 主な業務内容

地域連携室は、連携医療をシームレスに行えるための窓口として、紹介患者に対しての事前予約、地域医療機関の医療従事者を対象とした研修会の運営など、地域医療支援病院の承認要件に基づいた業務を中心に行っております。

また、地域医療連携ネットワーク「かもめネットみなみ」を稼働させ、紹介患者の電子カルテ情報を連携登録医に対して開放し共有しています。緊急時の紹介をスムーズに受け入れるための専用回線「紹介患者専用ホットライン」を設置し、地域の先生方からの緊急受診依頼を該当科担当医師に迅速に繋ぐ対応を行っております。

広報活動として、定期的に発刊される連携医療機関向け広報誌や、地域医療機関との交流活動として地域医療連携懇親会を開催しております。

病院ボランティア「あおぞら」の皆さまには、患者さんがより安心して通院できる支えとして日々活動していただいております。

(2) 特筆事項について

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止としていた地域医療連携懇親会を4年ぶりに開催し、院外から200名以上の参加があり、医師のみならず他職種での連携強化に繋がりました。

「地域医療支援病院」の要件である地域の医療従事者対象研修会については、今年度も参加者のニーズに合わせてハイブリッドによる開催を継続し、28回の開催で延べ744名にご参加いただきました。

地域住民との交流については、昨年に引き続き近隣小学校の児童と共同で植物を育てる取り組みや、地域の町内会の方々や近隣の大学生と共同で、地域緑のまちづくり事業（横浜みどりアップ計画）の取り組みも進めています。今年度2回目となる「みなみフェスタ」は、昨年同様幅広い年齢層の参加があり、地域住民との交流を深める取り組みとなっています。

市民公開講座については、横浜市金沢公会堂や当院講堂において4回開催し、延べ512名の参加がありました。地域包括支援センター等で開催する出張医療講演会については、13回開催し、延べ269名の参加があり、地域の住民との交流やケアマネジャーとの連携強化に繋がりました。

(3) 人事異動

【採用】

令和5年6月1日 地域連携室課員 北方 菜々子

【退職】

令和5年8月31日 地域連携室課員 藤原 沙絵

（地域連携室 岩崎 亮二 記）

Ⅶ その他部門紹介

1. 健康管理センター

令和5年度のセンター利用者数は、1,700名、人間ドック受診者は881名で統計処理の変更により昨年度より減少しているようにみえますが、人間ドック受診者は増加しました。

脳ドック、脳の健康ドックは、前年とほぼ同様の高い受診者数を維持しています。

以前のような季節的な受診者数の変動はみられなくなってきましたが、本年度も新型コロナ感染者数によって、受診者数の変動がみられます。検査内容につきましても新型コロナ対策を継続しています。

(健康管理センター長 岡田 雅仁)

スタッフ（令和6年3月末現在）

医師：岡田雅仁、五十嵐俊久

看護師：岡上いずみ、畑めぐみ、田中京子

放射線技師：平林公二、高橋尚己、磯野裕太（ローテーション）

検査技師：松井浩之、中村美奈子、龍絨一郎（ローテーション）

(敬称略、順不同)

内訳	令和5年度(名)
人間ドック受診者数	881*
脳ドック、脳の健康ドック受診者	232
特定検診・保健指導者数	200
健康診断受診者数	238
結果面談者数	404
健康管理センター利用者数	1,700

*前年と比較して統計処理の変更あり

2. 感染制御室

1. ICT（感染制御チーム）活動について

2023年度のICTの活動は、1. 手指衛生が正しいタイミングで実施できる、2. 医師（研修医含む）の針刺し切創が減少する、を目標としました。具体的に、病棟は1日・1患者あたりの擦式アルコール手指消毒薬使用回数が8回以上となる、外来・コメディカル部門は、手指衛生遵守率が5%上昇する（2022年度64.7%）としました。

1. 手指衛生が正しいタイミングで実施できる

1年間の病棟の1日1患者あたりの手指衛生回数は6.7回と目標値を達成することはできませんでした。しかし、前期（4月～9月）の1日1患者あたりの手指衛生回数6.1回と比較し、後期（10月～3月）は回数が7.3回に増加しました。（図1）外来は手指衛生遵守率*で評価しました。2023年度は60%で、昨年の64.7%を下回りました。（図2）

* 手指衛生遵守率＝手指衛生実施回数／手指衛生が必要な場面数×100

ICTでは2023年度より、WHOの手指衛生多角的戦略を実践しています。これは、物品設備、研修教育、測定評価、現場掲示、組織文化の5つの要素から成り、多角的に取り組んでいくことで手指衛生が向上し、感染症が予防できるという戦略です。まず、自己評価フレームワーク（HHSAF）で自施設を評価します。その結果、347.5/500点で手指衛生レベルは中等度で、職場での注意喚起と手指衛生のための施設の安全文化、研修や教育が低い値でした。今後は、ICTだけが働きかけるのではなく、病院の組織文化として手指衛生が当たり前を実施されるようになることが望まれます。来年度は横浜市の感染対策向上加算1を算定する病院の手指衛生の回数に届くことを目標に、WHO手指衛生多角的戦略を継続していきたいと思えます。

1) システム（組織文化）に関すること

病院長が手指衛生の向上に取り組むことを全職員に向けて発言する機会（手洗い強化の放送）を設けたことは、多角的戦略成功の第1歩だと思います。職員へ「アルコール携帯を促す」「患者に触れる前の手指衛生を促す」病院長の言葉は、具体的な場面を盛り込んだことが好評でした。ハンドケア用品や擦式アルコール製剤を数種類揃え、皮膚の状態に合わせ、個人で選択できるようにしていますが、職員の手指衛生に関する意識調査の結果から、それを知らない職員が多くいることが分かり、ICTニュースを用いて周知しました。1月には、職員の手指衛生行動を見直すきっかけとなるように、患者アンケートを実施しました。その結果、Point of care（ケアの場面）での手指衛生の実施が依然として低いことが分かり、課題が残りました。

2) 教育研修に関すること

年2回、全職員（委託業者を含む）を対象に行われる感染講演会では、手指衛生をテーマとした内容としました。その他に、

月 1 回の手指衛生の直接観察を継続し、手指衛生が必要な瞬間を観察対象者に即時フィードバックし、現場教育を行いました。

一方で ICT メンバーのスキルアップも必要です。ICN 1 名が、TTT (Train the Trainer) in hand hygiene-Japan が開催する WHO 手指衛生多角的戦略に基づく手指衛生指導者育成セミナーを受講しました。また、日本環境感染学会に ICT メンバーの 3 名が参加しました。研修や学会で学んだことは ICT 会議で伝達講習を実施し、直接観察の具体的方法や手指衛生の必要な 5 つの瞬間の視点 (病室のカーテンは患者ゾーンなど) を共通理解しました。

3) 職場での注意喚起 (リマインダー) に関すること

ICT メンバーとリンクナースが協力し、手指衛生の手技や擦式アルコール手指消毒剤のポンプをしっかりと下まで押すことを示したポスターを掲示し、古いポスターは撤去しました。今後は掲示したままにならないように、ポスターの管理をしていく必要があります、ICT ラウンドの項目に盛り込んでいく予定です。

(文責 土田)

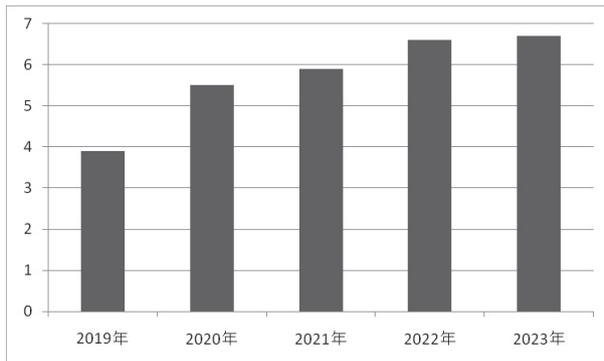


図 1 2019 年～2023 年

1 患者 1 日あたりの手指衛生回数の推移

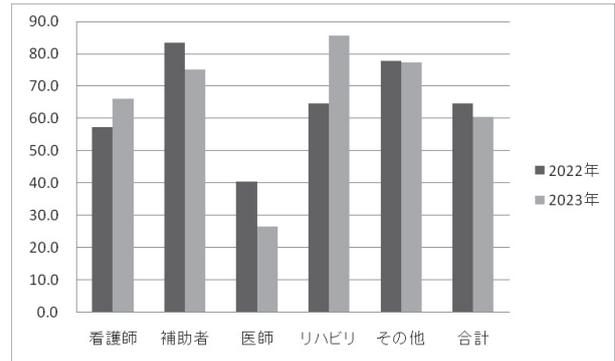


図 2 2023 年 職種別手指衛生遵守率

(外来・コメディカル部門)

2. 医師 (研修医含む) の針刺し切創が減少する

2023 年の針刺し、切創は 46 件で、医師・研修医は全体で 33% を占めていました (図 3、図 4)。内訳は、医師の針刺しは 11 件 /176 名で、医師の 5.9% が針刺しを起こしていました。昨年度は 12 件 /174 名、6.5% でした。研修医の針刺しは 4 件 /20 名、20% で、医師、研修医ともに、昨年度と同じく低い水準であり、目標達成しました。

報告のあった針刺し事象を、毎月医師全員にサイボウズで送信していることが注意喚起となり、針刺しの予防に効果があったと考えられます。一部の診療科では、使用者が自分で廃棄するように携帯用針捨て容器を活用しているなど改善活動がなされてきました。

また、医師だけでなく同じ針刺し事象が繰り返されている「ペン型インスリンの針を廃棄し忘れ、次に使用する人が針刺しする」事象に対し、11 月に安全器材を導入し、これによる針刺しが減少しました。

2023 年の針刺しの特徴は以下の 3 点でした。

【リキャップ】医師、看護師の報告

針刺し防止にリキャップをしないことが重要ですが、2023 年は 4 件の報告があり (インスリン専用注射器のリキャップ 2 件、局所麻酔のリキャップ 1 件) 昨年より 1 件増加しました。スクラブ法でリキャップし、両手でキャップを締め直した時に曲がった針が蓋を突き抜けたケースが 2 件報告されています。局所麻酔等やむを得ない場面もあると思われますが、スクラブ時の針刺しの危険性や正しい方法について情報提供していく必要があります。

【ペン型インスリン針の捨て忘れ】看護師の報告

ペン型インスリンの針をセットする時に、インスリンのキャップを開けると前回使用した針がそのままついており、気がつかず針刺した事例が 3 件ありました。過去にも同様の針刺しが起き、5 年間で 11 件と多発しています。改善策として、ペン型インスリンの安全器材を導入しました。今後、これに関する針刺しは減少していくと思われます。

【患者による咬傷】看護師の報告

全て患者による咬傷で 5 件報告されています。意識レベルの低下した患者への口腔ケアや吸引、飲水の介助時に咬傷が発生しており、エビネット全国報告でも同じような状況での咬傷が報告されています。予防策としては、患者の意識レベルや認知機能をアセスメントし、情報を共有すること、口腔ケアや吸引時にバイトブロックを使用すること、複数名で処置やケアを実施すること等、事象の共有を行いました。

(文責 土田)

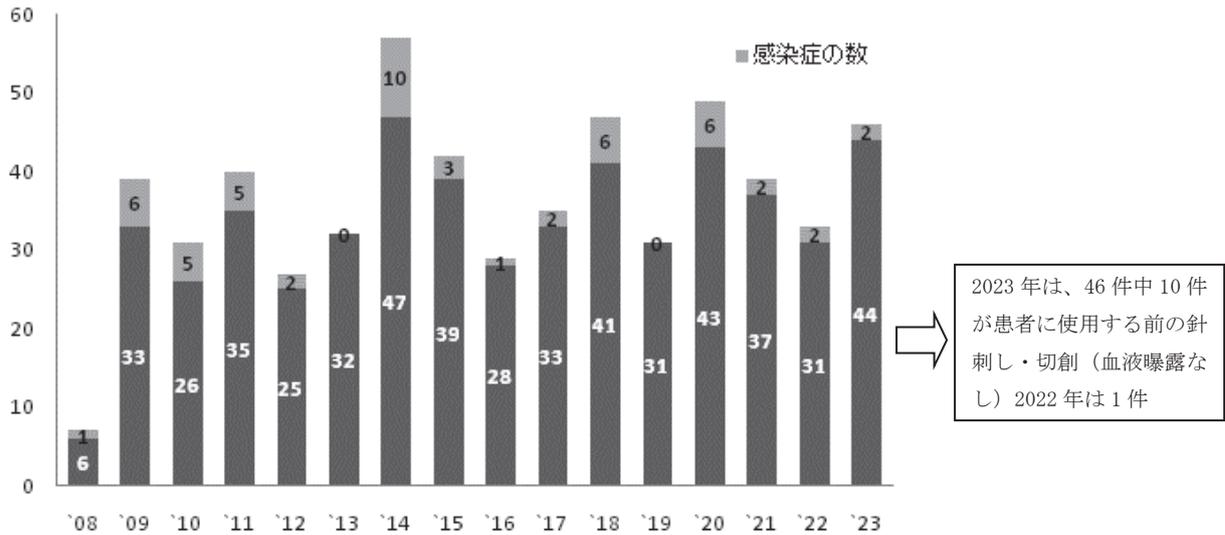


図3 2008年～2023年の針刺し・切創報告の推移（年別）

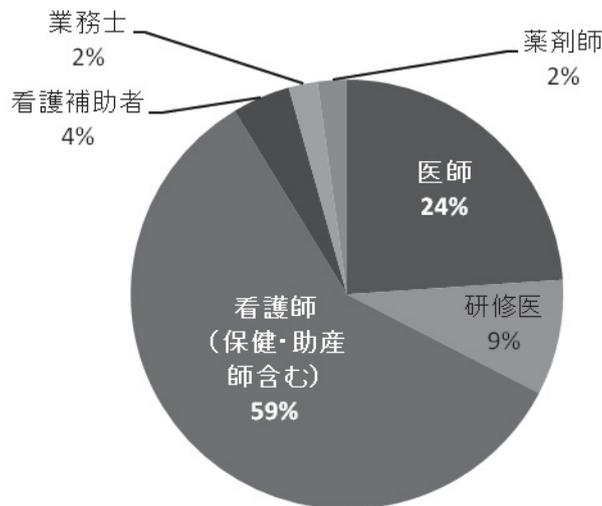


図4 職種別発生件数

II. 感染制御室スタッフ

室長	診療部長	高橋 健一
室員	専従看護師	土田 陽子
	専任看護師	伊藤 恵美
	専任薬剤師	岩崎 正宏
	検査技師	山口真裕子
	事務	寒河江美貴

3. 安全管理対策室

安全管理対策室では、患者さんが安心して医療を受けることが出来るように環境を整え、病院全体で事故防止対策に取り組めるよう働きかけております。

院内報告体制を基盤とした医療安全のための活動として、安全推進委員会、セーフティマネージャー会議、院内医療安全ラウンド、部署間の調整、対策の提案、指針やマニュアルの作成・改訂等にも研鑽しております。

また、関連部署と速やかに連携を取り重大事故発生時や患者相談窓口への相談事項の対応に関しましても早期解決に至りますよう心がけております。

医療安全への関心や安全に対する意識向上は非常に重要であり、教育や研修の機会を多数設け、共に取り組んでいきたいと考えております。

令和5年度 オカーレンス報告総件数は前年度より 661 件増加となった。

令和3年度	2,505 件
令和4年度	3,275 件
令和5年度	3,936 件

(直近3年のオカーレンス報告数の推移)

構成スタッフ

三原久範	統括安全管理者
児矢野繁	安全管理対策室室長
滝口由紀子	安全管理対策室室長補佐
佐藤恵	医療安全管理者(安全管理対策室看護師長)
阿部俊明	薬剤科製剤主任(医薬品安全管理担当・薬剤師)
藤田勇人	ME 科技士長(医療機器安全管理担当・臨床工学技士)
阿部祐子	安全管理対策室事務係長

(安全管理対策室 事務主任 浅生 圭 記)

4. 臨床研究センター

臨床研究センターは、2022 年度までセンター長を務められた高橋健一先生が病院長に就任され、後任として近藤正晃 病院長補佐を迎えて新体制となりました。審査委員会は、新たに委員長として鈴木誠診療部長、副委員長として近藤正晃病院長補佐、委員として川村周三事務部長が就任しました。

業務としては臨床研究審査委員会の事務局として、原則、毎月第3水曜日に開催される委員会の準備・運営、委員の支援、審議資料の保管までを一貫しておこなっています。加えて、病院長の管理・監督を補佐するため、研究実施に係る規程や手順書、必要な書式の整備や、研究者への教育研修の確保や研究実施の許可決定通知書等の交付などの事務的業務もおこなっており、研究者が国の法令やガイドラインを遵守した研究の申請手続きが出来るよう、研究者等を支援しています。

臨床研究は、人を対象とする生命科学・医学系指針や臨床研究法に準拠し実施されます。臨床研究センターでは、倫理性・科学性を確保した臨床研究の適正な実施のため、研究に関連する規範の改正に伴い委員会規程を見直し、手順書や付随する細則等の改編を随時おこなっています。

委員会開催に先立ち、研究者より申請書類を受領しセンター4名で充足性を確認しています。ミーティングにおいては、迅速審査結果の報告、連絡(検討)事項の抽出、資料の準備のほか、指針に基づいた委員の構成も確認します。臨床研究審査委員会における審査の質の向上および研究の透明性を図るために、委員向けに研修を確保したうえで「倫理審査委員会報告システム(厚生労働省のサイト)」に名簿と議事録を公表しています。

2023 年度スタッフ (4 名)

■センター長	近藤 正晃 病院長補佐
■副センター長	中島 研 薬局長
■事務員	松本 里美
	石井 唯

臨床研究センター業務実績

臨床研究審査委員会規程の第1条を組織の実情に合わせ「倫理委員会規程(平成23年1月1日施行)第3条第2項に基づき」文言を削除し改訂しました。(令和5年5月1日施行)

1. 臨床研究審査委員会規程の公表(2024年1月)

『倫理審査委員会報告システム』において公表。委員名簿および委員会議事録は2023年4月に公表済み

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html>

2. 書式の改編(2023年4月1日 ver.1.0)

【書式1】生命科学・医学系研究に関する 実施許可申請/報告

【書式2】研究者リスト

【書式3】他の機関への試料・情報の提供に関する申請/報告

【書式4】実施研究機関の要件確認書

- 【書式 6】利益相反に関する申告書
- 【書式 7】新規審査依頼書
- 【書式 8】臨床研究審査委員会 結果通知書
- 【書式 9】修正報告書
- 【書式 11】変更審査依頼書
- 【書式 12】生命科学・医学系研究の適正性等に関する審査依頼書
- 【書式 13】重篤な有害事象に関する報告書
- 【書式 14】実施状況報告書
- 【書式 15】終了・中止報告書
- 【様式 3-1】情報公開用文書（多機関共同研究）
- 【様式 3-2】情報公開用文書（単施設）

3. 教育研修に関する事項

研究の適正な実施のために、全研究者を対象に研究倫理や研究方法に関する必要な知識を習得するための教育研修講座（施設専用講座）の受講を義務付けています。研究者全員に周知が行き渡るようお知らせの発行を通じて受講を促し、研究の申請前までに指定された講座を受講し修了していることを確認したうえで申請手続きを進めています。

また、臨床研究審査委員に対しては、研究実施の適否について倫理的観点・科学的観点で中立的に、また、研究機関や研究者等の利益相反に関する情報についても、公正に審査を行うため、教育研修受講を義務付けています。

4. 臨床研究の適正な実施を支援

研究を実施するうえで必要な申請手続きや報告が適切にできるよう、院内全体にお知らせを発行し、最終的には所属長を通じて研究責任者へ速やかな提出を促しました。

1) お知らせ（通知）発行

- ・2023年 4月 『臨床研究センターからのお知らせ』
- ・2023年 4月 『臨床研究教育研修講座 2023 受講について』
- ・2023年 11月 『実施状況・終了報告提出に関する通知』リマインド7回
- ・2023年 12月 『異動に伴う責任医師変更に関するお知らせ』リマインド4回

2) 広報活動 臨床研究センターニュース発行

- ・2023年 5月 第1号『申請から実施許可まで』
- ・2023年 5月 第2号『対面審査と迅速審査』
- ・2023年 6月 第3号『共同研究機関と研究協力機関の違い』
- ・2023年 9月 第4号『至急審査はありません』
- ・2024年 2月 第5号『同意取得が原則です』

3) 研究責任者の支援

①研究の公表

病院ホームページ（臨床研究一覧）にオプトアウト資料を掲示しています。各研究の実施状況については随時内容を更新しています。（特定臨床研究を含む）

- ・新規：48件
- ・変更（終了含む）：86件
- ・オプトアウト文書：49件

②臨床研究の実施許可起案を代行

『実施許可申請書』を起案し、実施許可書の発行をしています。

③特定臨床研究の実施許可および利益相反報告の起案を代行

『実施許可申請書』を起案し、『実施許可書』『利益相反確認報告書（様式 D）』を発行しています。

④臨床研究の各種相談

※指針の適合性判断に関する相談

※申請から許可までの手続き

※審査に必要な資料の説明とご案内

研究計画書や各種書類の記載必要事項など様々な問い合わせ相談に対応しています。

⑤管理情報の提供

進捗状況報告のための参考資料として、前年に提出された書類と研究に関する一部*1情報を研究責任者に提供しています。

*1 研究課題番号・課題名、侵襲・介入、開始日・終了予定日

⑥データセンター業務を支援 【支援の内容には制限や条件*2があります】

症例登録関連業務、症例報告書のデータ集積ならびに報告業務を支援

*2 当院が多機関共同研究の代表（または事務局）であること、研究分担者の登録がされ、あらかじめ業務内容や役割が明確にされていることなどを考慮し、センター長が支援の適否を判断します。

【令和5年度 診療科別臨床研究実施件数】

診療科	実施件数*1	新規	終了*2
循環器内科	38	11	1
外科消化器外科	20	1	2
膠原病リウマチ内科	16	0	8
消化器内科	14	0	1
呼吸器内科	12	3	0
整形外科	10	2	1
泌尿器科	8	3	1
検査科	7	3	1
薬剤科	7	4	0
脳神経内科	5	4	0
放射線科	5	1	0
事務部	5	1	0
脳神経外科	4	1	1
血液内科	3	0	0
心臓血管外科	3	0	2
眼科	3	0	1
腎臓高血圧内科	2	0	0
耳鼻咽喉科	2	0	0
呼吸器外科	1	0	0
産婦人科	1	0	0
リハビリテーション科	1	0	0
緩和支援療法科	1	0	0
化学療法室	1	1	0
合計	169	35	19

*1 終了予定の研究（報告未完了）が含まれる

*2 終了の定義は終了報告書決裁完了とする

【委員会開催状況】

審査は、侵襲や介入の有無などによって、対面審査と迅速審査に分けられます。

対面審査：月1回の委員会開催時に、対面で審査委員と質疑応答を行い、その場で研究実施の適否等を判断します。

迅速審査：申請毎に書面のみで適宜実施され、委員長が指名する院内委員2名で審査を行います。

1) 審査回数

開催月 審査区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	対面	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	2	1	7
迅速	3	6	2	2	7	2	4	5	5	8	0	6	50	
	* 報告は含めない（書式12、13、14、15）												合計	57

2) 審査・内容確認件数

開催月 審査区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対面	新規	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	2	1	6
	変更	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
迅速	新規	2	4	2	2	4	1	2	5	6	5	4	6	43
	変更	0	6	0	0	5	2	0	1	1	4	0	2	21
内容確認	報告	21	21	22	7	8	2	13	3	2	66	29	56	250
	一括	1	2	1	3	2	0	2	5	1	2	2	2	23
	特定	0	3	1	4	5	1	4	2	1	1	2	1	25
継続審査と判定された研究の再審査を含む													合計	321

* 報告=SAE 報告、実施状況報告、終了・中止報告

* 一括=一括審査にて他の倫理審査委員会にて承認済の研究

* 特定=特定臨床研究

3) 開催内容

第1回 令和5年4月19日

- ・対面審査：循環器内科 鈴木誠
「植込み型心電計（ICM）植込み患者を対象とした多施設レジストリ研究」
- ・委員長挨拶および新委員紹介
- ・生命医学系指針一部改正について
- ・委員会規程の改訂について

第2回 令和5年5月17日

- ・実施状況報告 未提出者へのリマインドについて
- ・臨床研究ニュース第1、2号の発行報告
- ・共同研究機関と研究協力機関について

第3回 令和5年6月21日

- ・対面審査：化学療法室 陳昊
「ePRO の外来化学療法患者における有用性の検討」
- ・臨床研究ニュース第3号の発行報告

第4回 令和5年7月19日

- ・対面審査：呼吸器内科 湯本健太郎
「気管支喘息患者に対する新しい喘息治療コントロール指標を用いた介入の妥当性の検証」
- ・当院での臨床研究実施に関する方針について

第5回 令和5年9月20日

- ・一括審査にて承認された研究の取り扱いについて
- ・ICRweb 教育研修追加受講について
- ・至急審査依頼への対応について

第6回 令和5年10月18日

- ・病院長からの起案返戻について
- ・臨床研究ニュース第4号の発行報告

第7回 令和5年11月15日

- ・対面審査：放射線科 南広哲
「非造影 MRA による Adamkiewicz 動脈の描出」
- ・委員会の開催運営について
- ・Y-next 研修セミナー（倫理審査委員向け）のご案内

第8回 令和6年1月17日

- ・次年度の委員継続について
- ・当院でのインフォームド・コンセントの手続きに関して

第9回 令和6年2月21日

- ・ 対面審査 課題1：整形外科 多々羅靖則
「腰椎後方椎体間固定術に用いるケージの形状と固定椎間角との関係を調査する第IV相ランダム化比較試験
- ・ 対面審査 課題2：放射線科 南広哲
「非造影 MRA による Adamkiewicz 動脈の描出」
- ・ 研究倫理審査の目的と審査について
- ・ 臨床研究ニュース第5号の発行報告
- ・ 実施不許可について
- ・ 変更申請時の対応について
- ・ 2023 実施状況報告、研究責任者異動に伴う変更及び研究終了報告の提出について

第10回 令和6年3月27日

- ・ 対面審査：多々羅靖則
「腰椎後方椎体間固定術に用いるケージの形状と固定椎間角との関係を調査するランダム化比較試験」
- ・ 2023 実施状況報告、研究責任者異動に伴う変更及び研究終了報告の提出について
- ・ 委員マニュアル回収の実施
- ・ 次年度の迅速審査当番、委員の任命と任期について確認

Ⅷ 各科診療実績

1. 循環器内科

循環器内科検査 2023/4/1-2024/3/31

心臓カテーテル検査

1) 冠動脈造影	941 件
PCI	339 件
緊急PCI	57 件
Rotablator	14 件
エキシマレーザー	8 件
DiamondBack	32 件
2) 高周波カテーテルアブレーション	191 例
3) 永久ペースメーカー	55 件
植込み型除細動器	13 件
両室ペースメーカー (CRTP/CRTD)	4 件
経カテーテル左心耳閉鎖術 (Watchman)	12 件

生理機能検査

トレッドミル負荷心電図	134 件
心肺運動負荷検査 (CPX)	59 件
経胸壁心エコー	5,144 件
経食道心エコー	161 件
Holter心電図	1,129 件

心臓核医学検査

心筋シンチ	867 例
アデノシン負荷TlCl	136 件
アデノシン負荷Tc	278 件
負荷無し Tl/BMIPP dual	124 件
負荷無し Tc/BMIPP dual	244 件

2. 消化器内科

検査・治療等件数 (2023年4月～2024年3月)

(件)

内視鏡検査	上部内視鏡	3,635
	下部内視鏡	2,083
	ERCP	439
	小腸内視鏡	6
	カプセル内視鏡	16
	超音波内視鏡	196
内視鏡治療	上部ESD	88
	下部ESD	68
	上部EMR	13
	下部ポリペクトミー・EMR	649
	食道静脈瘤硬化療法	30
	食道静脈瘤結紮術	13
	超音波内視鏡下穿刺吸引術	45
	乳頭バルーン拡張術 (EPBD)	47
	乳頭切開術 (EST)	164
	截石・碎石術	145
	経鼻胆道ドレナージ (ENBD)	7
	胆管ステント	198
	消化管ステント	41
肝細胞癌関係	腹部血管造影	17
	ラジオ波焼却術	4
	肝生検	42
	造影超音波検査	47

3. 腎臓高血圧内科

入院患者数	471名		
<腎臓>		腹膜透析導入	3名
慢性糸球体腎炎		PDカテーテル手術	3名
IgA腎症	15名	急性腎不全	36名
微小変化群	9名	シャント不全	15名
膜性腎症	7名	シャント感染	2名
その他腎炎	15名	CAPD腹膜炎	3名
ネフローゼ症候群	11名	その他	85名
ANCA関連血管炎	8名	<その他領域>	
間質性腎炎	2名	感染症(腎領域除く)	
多発性嚢胞腎	7名	肺炎	35名
電解質異常	35名	尿路感染症	34名
慢性腎不全		敗血症	10名
腎不全教育	5名	その他	16名
血液透析導入	60名	その他	33名
シャント手術	50名		(重複あり)

4. 内分泌代謝内科

入院患者数(2023年4月～2024年3月)	313名		
◎糖尿病関連		◎内分泌／電解質異常疾患	
2型糖尿病	128名	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	10名
1型糖尿病	10名	副腎皮質機能亢進症、非機能的副腎皮質腫瘍	6名
*糖尿病教育入院	117名	下垂体機能低下症・汎下垂体機能低下症	6名
糖尿病性ケトアシドーシス及び高血糖高浸透圧症候群	12名	その他の副腎皮質機能低下症	4名
低血糖及び低血糖昏睡	8名	甲状腺機能亢進症	3名
その他の糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く)	7名	Na・K代謝異常(SIADH含む)	3名
◎他疾患		下垂体機能亢進症	2名
上気道・下気道感染症(肺炎など:誤嚥含む)	34名	原発性副甲状腺機能亢進症	1名
その他の感染症(真菌を除く)	21名	体液量減少症	1名
尿路感染症(急性腎盂腎炎など)	18名		(重複あり)
敗血症・播種性血管内凝固症候群・菌血症・細菌感染症	10名		
狭心症・心筋梗塞・CPA蘇生など	3名		
腎不全・横紋筋融解症	1名		
その他	25名		

(重複あり)

5. 呼吸器内科

入院患者延べ人数 982名（気管支鏡検査入院を含む）

気管支鏡検査件数 199件

主な内訳	肺がん	334名
	その他の呼吸器悪性疾患など（胸膜中皮腫、胸腺がん、がん性胸膜炎など）	8名
	気管支喘息（アレルギー性肺真菌症含む）・慢性閉塞性肺疾患	129名
	細菌性肺炎・気管支肺炎・胸膜炎・気管支拡張症 など	106名
	びまん性肺疾患	91名
	（特発性間質性肺炎、過敏性肺炎、薬剤性肺炎、器質性肺炎、その他）	
	誤嚥性肺炎	77名
	COVID-19肺炎（中等症～重症：基礎疾患ありを含む）・ウイルス肺炎など	50名
	膿胸・肺化膿症・真菌症	32名
	非結核性抗酸菌症（疑い含む）	22名
	結核症（疑い含む）	10名
	気胸・喀血・縦隔気腫	21名
	胸水貯留・胸部異常陰影（原因不明）	19名
	その他の内科疾患など	83名

6. 血液内科

疾患別入院患者数(2023年4月～2024年3月) 延べ389名

疾患名	人数(名)
非ホジキンリンパ腫	156
急性白血病	61
多発性骨髄腫	49
その他	22
骨髄異形成症候群	28
肺炎等	21
骨髄増殖性腫瘍	10
その他の感染症(真菌を除く)	10
腎臓又は尿路の感染症	10
出血性疾患(その他)	6
敗血症	5
再生不良性貧血	5
白血球疾患(その他)	3
貧血(その他)	1
重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	1
ホジキン病	1
造血幹細胞採取(末梢血幹細胞採取)(自家移植)	6
造血幹細胞移植(末梢血幹細胞移植)(自家移植)	7
造血幹細胞移植(末梢血幹細胞移植)(同種移植)	0

7. 膠原病リウマチ内科

1. 入院統計					
患者数	235名				
転帰:軽快	109名				
不変	40名				
死亡	8名				
転院	13名				
2. 疾患内訳	外来	入院		外来	入院
関節リウマチ	1,452名	15名	IgG4関連疾患	21名	1名
シェーグレン症候群	335名	1名	抗リン脂質抗体症候群	15名	
全身性エリテマトーデス	169名	1名	成人スティル病	11名	2名
リウマチ性多発筋痛症	103名	9名	サルコイドーシス	5名	
血管炎症候群	100名	17名	痛風	4名	
全身性硬化症	86名	4名	偽痛風	2名	
多発筋炎・皮膚筋炎	58名	3名	再発性多発軟骨炎	1名	
脊椎関節炎	51名		肺炎		35名
ベーチェット病	28名		尿路感染		17名
混合性結合組織病	28名		敗血症・菌血症		9名
線維筋痛症	28名		その他		59名

8. 脳神経内科

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

全入院患者数		561名		
疾患一覧				
<脳血管障害>	271名	<末梢神経疾患>	59名	
脳梗塞	227名	ギラン・バレー症候群	6名	
(血栓溶解療法(tPA)施行例:29名)		慢性炎症性脱髄性多発神経根炎	44名	
一過性脳虚血発作	23名	その他のニューロパシー	9名	
脳出血	26名	<免疫・脱髄疾患>	15名	
その他	1名	重症筋無力症	8名	
<感染症・脳症>	15名	多発性硬化症	3名	
髄膜炎	6名	視神経脊髄症	4名	
脳炎・脳症	6名	<筋疾患>	10名	
脊髄炎	3名	<発作性疾患>	48名	
<変性疾患>	57名	てんかん	48名	
筋萎縮性側索硬化症	7名	頭痛	0名	
パーキンソン病・レビー小体病	31名	<その他の神経疾患>	19名	
多系統萎縮症	6名	<内科系外科系疾患>	67名	
進行性核上性麻痺、大脳基底核変性症	5名			
認知症	4名			
その他	1名			

9. 精神科

認知症専門外来

2023年4月～2024年3月

疾患別新患者数 80件（院内：37件 地域：43件）

疾患名	件数
アルツハイマー型認知症 （脳血管障害を伴うものを含む）	42
レビー小体型認知症	3
脳血管性認知症	2
前頭葉側頭葉変性症	0
軽度認知障害	15
特発性正常圧水頭症	0
正常（年齢相応）	5
その他（精神疾患含む）	67

院内リエゾン件数

2023年4月～2024年3月

疾患別新患者数 184件

疾患名	件数
認知症（F01-F04）	13
せん妄（F05）	58
器質性精神障害（F06-F09）	5
アルコール関連（F1）	11
統合失調症（F2）	21
気分感情障害（F3）	22
神経症性障害（F4）	40
摂食障害、不眠症（F5）	8
パーソナリティ障害（F6）	0
精神遅滞（F7）	3
発達障害（F8）	1
その他	2

10. 小児科

2023年度 入院患者疾病統計

分類		症例数	分類		症例数
A. 全身性疾患	川崎病(不全型含む)	26	G. 消化器系疾患	急性胃腸炎(アデノ・ロタ・ノロ感染症含む)	5
	IgA血管炎	2		腸重積症	4
	小計	28		食物蛋白誘発胃腸炎	3
B. 呼吸器疾患	RSウイルス感染症	39	細菌性腸炎(サルモネラ感染症・食中毒含む)	2	
	気管支喘息発作・気管支喘息・喘息性気管支炎	28	麻痺性イレウス	1	
	ヒトメタニューモウイルス感染症	18	便秘症	1	
	急性肺炎・気管支肺炎・急性気管支炎・非定型肺炎	17	炎症性腸疾患	1	
	ライノウイルス/エンテロウイルス感染症	14	小計	17	
	パラインフルエンザウイルス感染症	14	H. 腎・泌尿器系疾患	尿路感染症/急性腎盂腎炎・急性巣状細菌性腎炎・腎膿瘍	11
	アデノウイルス感染症	10		ネフローゼ症候群	2
	SARS-COV2感染症	8		逆流性腎症	1
	細菌性肺炎・大葉性肺炎・誤嚥性肺炎	7		溶連菌感染後急性糸球体腎炎	1
	ウイルス性肺炎	2		小計	15
	呼吸不全	2	I. 皮膚疾患		
	グループ性気管支炎	1		蜂窩織炎	6
	急性中耳炎	1		頸部膿瘍	3
小計	161	頸部リンパ節炎		2	
C. 循環器内科	左大腿動静脈瘻	1		ぶどう球菌性熱傷様皮膚症候群	1
	小計	1		薬疹	1
			耳介後部腫瘤	1	
D. 内分泌疾患	脱水症	8	小計	14	
	ケトン性低血糖症・嘔吐症	6	J. その他	食物アレルギー・アナフィラキシー	99
	SGA性低身長症	2		インフルエンザA型B型	14
	小計	16		細菌感染症・菌血症・敗血症	4
E. 血液疾患	特発性血小板減少性紫斑病	1		溶連菌感染症(劇症型A群連鎖球菌感染症含む)	3
	播種性血管内凝固	1		伝染性単核症	3
	発熱性好中球減少症	1	被虐待児症候群	2	
	小計	3	ビタミンB1欠乏症	1	
F. 神経系疾患	複雑型熱性痙攣	8	小計	126	
	てんかん(ドラベ症候群含む)	6	K. 新生児疾患	新生児呼吸障害・新生児一過性多呼吸	40
	ギラン・バレー症候群	3		新生児黄疸	32
	脳症(MERS, SARS-COV2感染, ミトコンドリア病)	3		早産児・低出生体重児	31
	脳出血	3		糖尿病母体児・妊娠糖尿病母体児症候群	26
	脳腫瘍	2		新生児仮死(重度軽度含む)	13
	ウイルス性髄膜炎(パレコウイルス・エンテロウイルス)	2		新生児低血糖	6
	急性細菌性髄膜炎	1		新生児発熱・新生児感染症・新生児敗血症	4
	運動発達遅滞	1		新生児気胸	2
	脊椎板裂症	1		胎便吸引症候群	2
	前庭神経炎	1		B群溶連菌感染母体より出生した児	1
	脳梁形成不全	1		新生児特発性呼吸窮迫症候群	1
	頭部打撲	1		羊水大量吸引症候群	1
	小計	33		小計	159
				総計	573

11. 外科・消化器外科

				2018	2019	2020	2021	2022	2023	
食道	悪性		開胸開腹 鏡視下	2	3	7	2 3	2	1	
	その他									
胃	悪性	TG	開腹	13	15	8	7	12	15	
			腹腔鏡	6	8	2	3	2	1	
		DG	開腹	15	15	12	15	18	18	
			腹腔鏡 ロボット	11	13	14	11	12	6 6	
		PG	開腹						2	
			腹腔鏡					1	3	
		部切	開腹	1			2			
			腹腔鏡	4	7	1	2	4	5	
		その他	開腹	3	1	7	3	3	6	
			腹腔鏡	3	2		1			
十二指腸 ・小腸	悪性	PD			2	4		1		
	その他	開腹 腹腔鏡	3	1	5	3	3	1		
	その他		17	12	18	10	8	3		
大腸	悪性	結腸	開腹	47	38	35	42	34	43	
			腹腔鏡	51	52	39	37	45	65	
		直腸	開腹	9	10	11	9	6	6	
			腹腔鏡 ロボット	17	23	21	23	10	4 11	
		その他	開腹	13	10	12	21	22	20	
			腹腔鏡	3	1				2	
	その他		開腹	23	15	8	12	19	32	
			腹腔鏡	1	1			2	3	
	肝	悪性	原発	開腹	3	5	7	3	7	4
				腹腔鏡	4	5	4	6	4	1
		転移	開腹	8		4	6	7	4	
			腹腔鏡		2	2	0			
その他			2	1			1			
				2			1			
膵	悪性	PD	8	6	10	5	4	12		
		DP	2	3	2	1	3			
		TP	開腹	1	5	3	4	3	3	
			腹腔鏡					1		
	その他		2	2	2	2				
		1	1							
胆	悪性	PD 拡大胆摘 肝切 胆管切除		4	4 1	7	3 1	7 4	6 5	
	結石	開腹	23	32	29	20	35	25		
	その他	腹腔鏡	108	92	95	89	63	111		
		開腹			2		1	3		
脾		開腹				1	3			
		腹腔鏡			3		3			
腹膜・後腹膜・腹壁		開腹	13	5	7	4	2	4		
		腹腔鏡		1		2				
虫垂炎		開腹	45	31	31	12	11	6		
		腹腔鏡	38	38	65	44	60	57		
腹膜炎・出血		開腹	17	32	29	20	20	20		
		腹腔鏡						4		
イレウス		開腹	19	31	34	39	34	49		
		腹腔鏡	1	1			3	3		
肛門			2			2	2			
ヘルニア	成人鼠径・大腿	前方	腹腔鏡	103	98	98	95	125	119	
				60	42	45	54	60	95	
		小児鼠径	前方	2		1	1	1	1	
			腹腔鏡	3	4	4	4	5	2	
		腹壁・臍	前方	6	6	8	5	6	10	
腹腔鏡			5	2	7	5	5	3		
体表・その他			84	75	77	100	72	92		
				806	754	779	740	762	894	

12. 乳腺外科

手術症例数

乳がん手術	231
乳房温存術	169
乳房切除術	54
その他	9

乳房再建術	2
良性腫瘍、他	18

13. 呼吸器外科

胸部外科学術調査(B) 大項目番号				症例数
1	良性肺腫瘍			1
2	原発性肺悪性腫瘍	肺癌(2-A)	胸腔鏡下	54
			開胸	7
		その他(2-B,C,D)		2
3	転移性肺腫瘍		胸腔鏡下	6
			開胸	
4	気管腫瘍			
5	胸膜腫瘍			
6	胸壁腫瘍			1
7	縦隔腫瘍			5
8	重症筋無力症に対する胸腺摘除術			
9	非腫瘍性良性疾患	膿胸(9-B)		11
		嚢胞性肺疾患(9-D)		
		自然気胸(9-E)		17
		胸部外傷(9-H)		1
		その他(9の中から上記4つ以外)		5
16	その他	縦隔鏡		
		胸腔鏡下/開胸生検		13
		その他		
合計				123

※10. 肺移植は除外

14. 整形外科

2023年度手術件数

全科	6,656
整形外科	1,296
内訳(再掲)	
全身麻酔	1,225
脊椎	314
スポーツ	379
人工関節	372
その他	231

脊椎手術 部位別内訳

部位	手術数
頸椎	99
胸椎	21
腰椎	194
合計	314

2023年度人工関節チーム手術実績

TKA	142件
THA	215件
再置換	2件
その他	13件

2023年度スポーツチーム手術実績

肩	61件
肘	65件
膝	174件
足	46件
その他	33件

15. 形成美容外科

疾患別診療実績(2022年4月～2024年3月)

(件)

疾患名	件数	
	2022年4月～2023年3月	2023年4月～2024年3月
外傷	99	117
先天異常	7	4
腫瘍	354	356
瘢痕・ケロイド	8	8
難治性潰瘍	26	37
炎症性疾患	11	12
美容	1	1
その他	18	7
合計	524	542

16. 脳神経外科

令和5年度手術

部位	手術形式	令和5年										令和6年			計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
血管障害	脳動脈瘤クリッピング(破裂)															0
	脳動脈瘤クリッピング(未破裂)		2	1		1									1	5
	脳内血腫除去							1	1						1	3
	脳室ドレナージ術												1			1
	脳動静脈奇形										1					1
	内頸動脈内膜剥離術															0
	浅側頭動脈中大脳動脈吻合術				1				1			1				3
	減圧開頭術									2					1	3
	その他															0
脳腫瘍	グリオーマ															0
	髄膜腫											1				1
	聴神経腫瘍															0
	転移性脳腫瘍				1										1	2
	下垂体腺腫(経鼻的内視鏡的摘出術)															0
	その他															0
外傷	急性硬膜外血腫除去術														1	1
	急性硬膜下血腫除去術		1								1		1	1		4
	急性硬膜外/硬膜下血腫 穿頭術										2					2
	慢性硬膜下血腫除去術	6	8	5	7	11	4	10	7	4	11	7	6			86
	減圧開頭術															0
	外傷性脳内血腫除去術															0
	その他															0
水頭症	脳室腹腔シャント術		1							1		1	1			4
	腰椎腹腔シャント術															0
	脳室心房シャント術															0
	内視鏡的第三脳室開窓術															0
	脳室ドレナージ術					1				1	1				1	4
血管内治療	脳動脈瘤コイル塞栓術(破裂)	3		2	2	2	2	3			1		2	3		20
	脳動脈瘤コイル塞栓術(未破裂)	2	3	1	1	1	2	4	6					1		21
	頸動脈ステント術	1		3	1	1	1	1	1	1	1			1		12
	急性期血行再建(血栓回収ほか)	1			2			1	1			1	1			7
	シャント疾患(脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻など)	1				2					2	1	1			7
	その他				1	1						1				3
その他	微小血管減圧術															0
	頭蓋形成術										1					1
	脳膿瘍、硬膜外膿瘍					1						1		1		3
	その他					1		1				1	2			5
合計		14	15	12	16	22	11	22	18	14	20	16	19		199	

17. 心臓血管外科

令和5年度 手術

心臓手術	41 件
胸部大動脈（解離含む）	22 件
腹部大動脈瘤	19 例
ASO	124 件
下肢静脈瘤	117 件
透析シャント	173 件
そのほか	36 件

18. 皮膚科

皮膚科病床数	5 床
皮膚科年間総外来患者数	10,319 人
皮膚科年間新規入院患者数	184 人
皮膚科年間入院総手術数	64 件
皮膚科年間外来手術数	346 件（生検含む）

19. 泌尿器科

令和5年度 泌尿器科手術統計

臓器	術式	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
前立腺	前立腺生検	36	34	22	23	25	16	27	18	21	33	23	35	313
	ロボット支援下前立腺全摘	7	7	8	6	6	5	4	7	7	7	4	6	74
	ツリウムレーザー前立腺蒸散術	9	10	13	9	14	10	9	6	10	8	13	12	123
	経尿道的前立腺水蒸気治療			6						4				10
	TURP						1		1					2
膀胱	TURBT	19	19	23	13	15	15	10	2	7	3	3	6	135
	PDD-TURBT				15	4		6	6	7	8	7	11	64
	ロボット支援下膀胱全摘						3	3	2	2	2	1		13
	回腸導管造設				1		2	3	2	2	1			11
	尿管皮膚瘻造設						1				1	1		3
	経尿道的膀胱結石破砕			1	5		1	1	1	1	3	2	3	18
	膀胱瘻造設	1	1	1		1				1			3	8
	ロボット支援下仙骨子宮固定術					1	1		1	1	1	1		6
	腹腔鏡下尿管摘出術										1			1
	経尿道的膀胱憩室焼灼					2								2
	経尿道的止血術		1	2	2	1		4		1				11
	尿失禁手術(TVT)				1					1				2
	尿失禁手術(ボツリヌス注入)			1	1		1		1	1		1		6
	膀胱水圧拡張術		1				1			1				3
腎臓・尿管	腹腔鏡下腎摘	2				1					1	1	1	6
	腹腔鏡下尿管全摘		3	2	1	2	1	2	1	2		4		18
	ロボット支援下腎部分切除	1	1		4		1	2	1	2		1	1	14
	ロボット支援下腎摘除						1	1						2
	ロボット支援下尿管摘除						1	1			1	1		4
	開腹腎摘		1											1
	開腹尿管全摘							1						1
	ロボット支援下腎盂形成術						1							1
	開腹腎盂形成			1										1
	経尿道的尿管結石破砕	6	5	4	5	7	8	7	11	7	7	13	9	89
	経尿道摘止血術(上部尿路)				1									1
	尿管ステント留置	8	19	11	10	29	16	11	19	18	13	20	18	192
	逆行性腎盂造影	3	4	4	5	4		3		3		2	1	29
	経皮的腎瘻造設	1	2	1	3	1			1		2	2	3	16
	経皮的腎嚢胞穿刺									1				1
	腎生検							1				1		2
	尿管鏡、尿管鏡下生検	2		1	1	1	1		1		1	1		9
副腎	腹腔鏡下副腎腫瘍摘出										2		1	3
精巣・陰囊	高位除辜術			1		1							1	3
	低位除辜術	1	2					1			1		1	6
	精巣・精索水腫根治術				2	1		1		1	1	1	1	8
	陰囊膿瘍ドレナージ	1										1		2
	精液嚢摘出												1	1
	精巣上部摘除						1							1
精巣捻転手術		1			1							1	3	
陰茎・尿道	陰茎部分切除													0
	陰茎折症手術			1										
	包茎手術		2		1		2		1				3	9
	内尿道切開						1		1					2
その他								1					1	2
合計	97	113	103	109	117	91	99	83	101	97	104	119	1,232	
結石破砕	ESWL	4	5	5	6	3	3	4	4	2	6	6	1	49

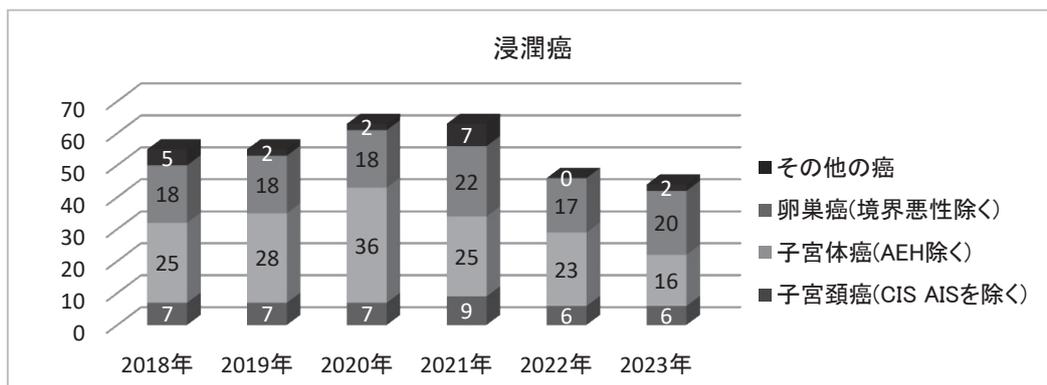
20. 産婦人科

分娩総数（1月～12月）	478
早産22-27週	0
早産28-36週	7
周産期救急応需数	15
帝王切開数	144
吸引分娩数	19
鉗子分娩数	7
経膈骨盤位数	0
頸管縫縮術	0
多胎	2

新規癌患者年次推移

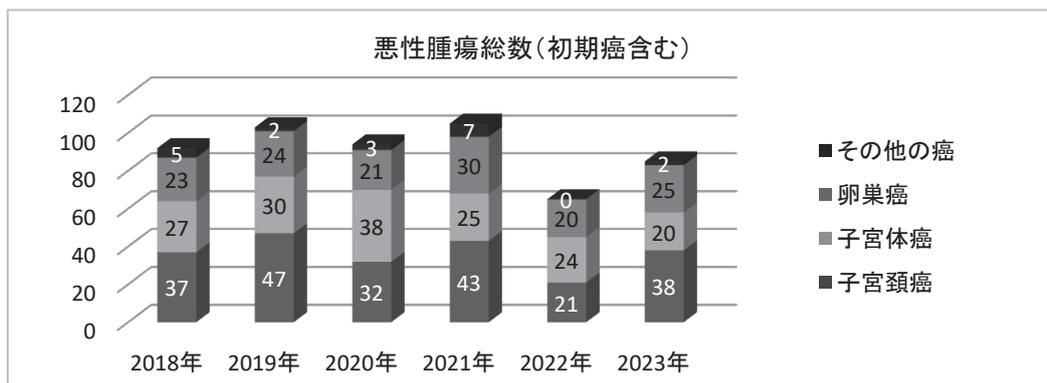
浸潤癌

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頸癌(CIS AISを除く)	7	7	7	9	6	6
子宮体癌(AEH除く)	25	28	36	25	23	16
卵巣癌(境界悪性除く)	18	18	18	22	17	20
その他の癌	5	2	2	7	0	2
計	55	55	63	63	46	44



悪性腫瘍総数（初期癌も含む）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頸癌	37	47	32	43	21	38
子宮体癌	27	30	38	25	24	20
卵巣癌	23	24	21	30	20	25
その他の癌	5	2	3	7	0	2
計	92	103	94	105	65	85



総手術合計数	合計	536	
産科手術合計数(帝王切開など)	合計	144	
婦人科手術合計数	合計	392	
【開腹手術】	69	【腹腔鏡下手術・ロボット支援下手術】	205
広汎子宮全摘	2	腹腔鏡下準広汎子宮全摘術	4
準広汎子宮全摘	2	腹腔鏡下準広汎子宮全摘術+骨盤リンパ節郭清	0
腹式単純子宮全摘	32	全腹腔鏡下子宮全摘出術	89
子宮付属器悪性腫瘍手術	16	腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術	2
付属器・のうしゅ(良性)手術	12	腹腔鏡下子宮筋腫核出術	13
その他の開腹術	5	腹腔鏡下付属器切除術	49
【腔式手術】	118	腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術	34
腔式子宮全摘	3	腹腔鏡補助下卵巣嚢腫摘出術	1
性器脱根治術	6	異所性妊娠手術	5
円錐切除術	29	多孔術(LOD)	0
TCR レゼクトスコープ	15	その他の腹腔鏡下手術	10
その他の腔式手術(アウス等)	68	ロボット支援下手術	2

21. 眼科

2023年度眼科主要手術件数

分類	術式名称	件数	総計
硝子体	硝子体切除術	17	77
	硝子体茎頭微鏡下離断術(網膜付着組織を含むもの)	36	
	硝子体茎頭微鏡下離断術(その他のもの)	17	
	増殖性硝子体網膜症手術	7	
水晶体	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合・縫着レンズを挿入するもの)	5	550
	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合・その他のもの)	496	
	水晶体再建術(眼内レンズを挿入しない場合)	9	
	後発白内障手術	40	
緑内障	緑内障手術(虹彩切除術)	0	23
	緑内障手術(流出路再建術)	19	
	緑内障手術(濾過手術)	2	
	緑内障手術(治療用プレート有)	1	
	緑内障手術(治療用プレート無)	1	
	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	0	
角膜	角膜移植術	0	0
	角膜切開術	0	
斜視	斜視手術(前転法)	5	28
	斜視手術(後転法)	9	
	斜視手術(前転法及び後転法の併施)	14	
	斜視手術(直筋の前転法及び斜筋手術の併施)	0	
	斜視手術(斜筋手術)	0	

22. 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科手術件数

部位	手術術式	令和5年度(2023.4-2024.3)											計		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3	
耳	鼓室形成術	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	乳突洞削開術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳突洞充填術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	アブミ骨手術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼓膜形成術	1	0	2	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	7
	鼓膜切開術	0	1	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6
	耳介腫瘍摘出術・耳介軟骨生検	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外耳道腫瘍摘出術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼓膜チューブ留置術	5	6	2	4	8	6	7	2	8	2	6	6	6	62
	外耳道異物摘出術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳瘻管摘出術	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	4	
顔面神経減価術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鼻	ESS II型	0	0	0	1	1	0	1	1	2	0	1	0	7	
	ESS III型	8	10	2	7	4	7	3	5	4	4	10	7	71	
	ESS IV型	7	0	2	0	7	0	4	8	2	8	2	8	48	
	ESS V型	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	4	
	内視鏡下下鼻甲介手術I型	16	10	2	2	18	6	12	20	18	18	18	10	150	
	鼻中隔矯正術	8	5	1	1	9	3	6	9	7	6	5	5	65	
	鼻腔腫瘍摘出術	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	5	
	鼻腔悪性腫瘍手術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	副鼻腔悪性腫瘍全摘術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鼻前庭嚢胞摘出術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	涙嚢鼻腔吻合術	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	後鼻神経切断術	6	2	0	0	0	0	6	2	4	6	6	0	32	
	眼窩底骨折整復術	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
	鼻骨骨折整復術	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	
	前頭洞鼻外解放術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鼻腔粘膜焼灼術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
口腔	口腔腫瘍摘出術(舌腫瘍含む)	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	
	舌部分切除術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	舌小帯形成術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	
	アデノイド切除術	2	3	3	6	8	5	5	3	5	5	3	3	51	
	口蓋扁桃摘出術	6	12	12	8	18	16	10	18	10	14	12	14	150	
	口蓋扁桃摘出術術後出血	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
	軟口蓋形成術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	口唇腫瘍摘出術(下口唇生検含む)	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
咽頭	咽頭腫瘍摘出術	0	0	0	6	3	0	2	0	0	1	1	13		
	下咽頭悪性腫瘍手術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		
	咽後膿瘍切開術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
喉頭	喉頭腫瘍摘出術	0	3	0	2	0	1	2	1	1	1	0	11		
	喉頭嚢嚢胞摘出術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	喉頭悪性腫瘍手術(切除)	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3		
	喉頭全摘術	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
頸部	頸部郭清術	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3		
	頸部リンパ節摘出術	2	0	2	2	2	3	6	4	1	0	2	25		
	頸部腫瘍摘出術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	耳下腺腫瘍摘出術	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	3		
	顎下腺摘出術	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	5		
	唾石摘出術	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3		
	頸部膿瘍切開術	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2		
	頸嚢摘出術	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	4		
	顎下腺悪性腫瘍手術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	気管切開術	1	0	2	5	1	0	1	1	3	2	0	2	18	
気管食道甲状腺	気管口拡大術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	気切孔閉鎖術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	甲状腺部分切除術	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2		
	甲状腺葉切除術	2	0	1	1	2	0	0	0	1	0	3	10		
	甲状腺全摘出術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	上皮小体摘出術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	1	0	5		
計	70	57	39	54	86	49	70	83	71	76	76	62	793		

23. 歯科口腔外科

口腔外科手術件数(中央手術室症例)

疾患名	令和5年4月～令和6年3月
悪性腫瘍	21件
良性腫瘍	30件
炎症(骨髄炎顎炎)	4件
嚢胞	25件
外傷	6件
抜歯	424件
その他	19件

24. 救急科

救急患者総数	14,761 人/年	(+1,115 人/年)
救急車搬送件数	8,661 件/年	(+965 件/年)
応需率(全体)	85.2%	(+7.6%)
応需率(診療時間内)	90.8%	(+2.9%)
応需率(診療時間外)	82.6%	(+9.0%)

25. 緩和支援療法科

診療実績（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

【緩和ケア外来】

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
新患件数	30	28	25	18	38	35	36	22

【緩和ケアチーム】

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
依頼件数	218	267	277	213	239	244	205	239

【緩和ケア病棟】

<入棟面談数>	312名
<入院患者数>	
実入院患者数	142名
のべ入院患者数	153名
<入院日数>	平均 31.5日
<転帰>	
のべ退院患者	153名
自宅退院	12名 (7.8%)
施設へ転出	5名 (3.3%)
転科	2名 (1.3%)
転院	1名 (0.7%)
死亡	133名 (86.9%)

26. 病理診断科

年度	病理組織検査	細胞診検査	術中迅速診断	病理解剖
2023年度	7,337	6,404	262	5

IX 救急患者統計

救急患者集計表

トリアージ区分	1	2	3	4	5	合計
	重篤	重症	中等症	軽症		
内科	261	919	1,251	560	215	3,206
精神科						
小児科	25	156	406	436	49	1,072
外科	1	29	57	17	96	200
整形外科	5	142	126	36	139	448
形成・美容外科		4	16	18	171	209
脳神経外科	25	105	254	65	210	659
皮膚科		4	4	8	15	31
泌尿器科	3	32	43	37	32	147
産婦人科	2	17	43	44	91	197
眼科			1		7	8
耳鼻咽喉科	1	8	32	12	36	89
心臓血管外科	1	8	9	4	43	65
放射線科						
口腔外科		2	5	7	11	25
救急科	681	2,419	3,657	1,596	51	8,404
緩和支援療法科					1	1
総計	1,005	3,845	5,904	2,840	1,167	14,761

救急病棟	入院			転院	死亡
	ICU・CCU	HCU	一般病棟		
848	61	87	272	2	24
3			184	11	
61	23	11	28		
60	1	1	32	4	
1			3		
104	8	3	27	2	
4			3		
33	1		5	1	
1	1	1	44	3	
1					
14		1	8		
9	16	7	3		1
1			3		
1,663	156	125	603	69	226
			1		
2,803	267	236	1,216	92	251

計 4,522

《救急車来院》

トリアージ区分	1	2	3	4	5	合計
	重篤	重症	中等症	軽症		
内科	218	721	834	344	11	2,128
精神科						
小児科	13	58	153	150	7	381
外科		19	30	4		53
整形外科	5	121	105	22	1	254
形成・美容外科		2	11	6		19
脳神経外科	23	94	195	43	4	359
皮膚科		2	2	6	1	11
泌尿器科	3	27	32	17		79
産婦人科	2	6	14	8	17	47
眼科					1	1
耳鼻咽喉科	1	5	23	5	7	41
心臓血管外科		6	5	1	3	15
放射線科						
口腔外科				1		1
救急科	599	1,786	2,249	632	5	5,271
緩和支援療法科					1	1
総計	864	2,847	3,653	1,239	58	8,661

救急病棟	入院			転院	死亡
	ICU・CCU	HCU	一般病棟		
643	58	70	167	2	24
			45	5	
20	4	6	8		
48	1		28	2	
			17		
82	7	3	17		
1			1		
19			2	1	
	1		21	1	
4			1		
4	3	5	1		
			1		
1,311	143	107	478	65	225
			1		
2,132	217	191	771	76	249

計 3,311

《救急車来院 搬送地区別件数》

救急隊	金沢区	磯子区	港南区	栄区	中区	南区	横浜市 その他	横須賀	逗子市	葉山町	三浦市	鎌倉市	その他	合計
内科	1,201	99	61	49	10	22	18	371	240	35	2	5	15	2,128
精神科														
小児科	251	8	13	11	1		1	44	51	1				381
外科	27	4	4	3		1	1	6	5	1			1	53
整形外科	125	12	6	11	2	1	1	47	36	5		1	7	254
形成・美容外科	12		1					1	4		1			19
脳神経外科	232	10	20	7			4	32	46	4			4	359
皮膚科	8								3					11
泌尿器科	43	4	2		1	3	1	16	7	2				79
産婦人科	23	2	1		1	2	2	10	4	1			1	47
眼科	1													1
耳鼻咽喉科	20	2		2		1		10	5	1				41
心臓血管外科	6	1	2		1	1		1				1	2	15
放射線科														
口腔外科	1													1
救急科	2,864	249	168	185	17	50	15	951	677	70	1	10	14	5,271
緩和支援療法科	1													1
総計	4,815	391	278	268	33	81	43	1,489	1,078	120	4	17	44	8,661

救急患者集計表(時間内)

トリアージ区分	1	2	3	4	5	合計
	重篤	重症	中等症	軽症		
内科	63	218	404	163	73	921
精神科						
小児科	9	53	139	94	12	307
外科	1	12	20	9	26	68
整形外科	2	12	13	2	19	48
形成・美容外科			2	5	13	20
脳神経外科	2	18	44	8	23	95
皮膚科					6	6
泌尿器科	1	3	11	6	4	25
産婦人科			1		19	20
眼科					4	4
耳鼻咽喉科			2		16	18
心臓血管外科	1	5	6	1	12	25
放射線科						
口腔外科			1		10	11
救急科	272	905	1,137	275	11	2,600
緩和治療法科					1	1
総計	351	1,226	1,780	563	249	4,169

救急病棟	入院			転院	死亡
	ICU・CCU	HCU	一般病棟		
251	17	24	131		
2			84	4	
19	7	3	15		
14	1		6		
30	3		12		
11			2	1	
			4	1	
1			2		
5	4	5	1		
			1		
640	80	50	280	50	68
			1		
973	112	82	539	56	68

計 1,706

《救急車来院》

トリアージ区分	1	2	3	4	5	合計
	重篤	重症	中等症	軽症		
内科	30	97	102	28	9	266
精神科						
小児科	6	19	49	32	2	108
外科		6	10	1		17
整形外科	2	7	7		1	17
形成・美容外科						
脳神経外科	2	15	17	1	2	37
皮膚科					1	1
泌尿器科	1	3	7	1		12
産婦人科					7	7
眼科					1	1
耳鼻咽喉科					7	7
心臓血管外科		4	3		3	10
放射線科						
口腔外科						
救急科	256	874	1,060	230	2	2,422
緩和治療法科					1	1
総計	297	1,025	1,255	293	36	2,906

救急病棟	入院			転院	死亡
	ICU・CCU	HCU	一般病棟		
124	15	13	57		
			20	1	
6	2	2	4		
8	1		5		
20	2		7		
9			1	1	
			3		
2	2	4	1		
615	79	49	268	48	66
			1		
784	101	68	367	50	66

計 1,320

《救急車来院 搬送地区別件数》

救急隊	金沢区	磯子区	港南区	栄区	中区	南区	横浜市 その他	横須賀	逗子市	葉山町	三浦市	鎌倉市	その他	合計
内科	139	12	8	8	4	6	2	54	21	5		2	5	266
精神科														
小児科	60	4	5	8	1			14	16					108
外科	10	2	3	1					1					17
整形外科	5		2					5	2				3	17
形成・美容外科														
脳神経外科	17	3	1	2			2	4	5	1			2	37
皮膚科	1													1
泌尿器科	8	1				1			1	1				12
産婦人科	4						1	1	1					7
眼科	1													1
耳鼻咽喉科	2	1						2	1	1				7
心臓血管外科	5	1	1		1			1					1	10
放射線科														
口腔外科														
救急科	1,190	124	78	90	11	26	8	505	334	44		7	5	2,422
緩和治療法科	1													1
総計	1,443	148	98	109	17	33	13	586	382	52		9	16	2,906

救急患者集計表(夜間・休日)

トリアージ区分	1	2	3	4	5	合計
	重篤	重症	中等症	軽症		
内科	198	701	847	397	142	2,285
精神科						
小児科	16	103	267	342	37	765
外科		17	37	8	70	132
整形外科	3	130	113	34	120	400
形成・美容外科		4	14	13	158	189
脳神経外科	23	87	210	57	187	564
皮膚科		4	4	8	9	25
泌尿器科	2	29	32	31	28	122
産婦人科	2	17	42	44	72	177
眼科			1		3	4
耳鼻咽喉科	1	8	30	12	20	71
心臓血管外科		3	3	3	31	40
放射線科						
口腔外科		2	4	7	1	14
救急科	409	1,514	2,520	1,321	40	5,804
緩和治療科						
総計	654	2,619	4,124	2,277	918	10,592

救急病棟	入院			転院	死亡
	ICU・CCU	HCU	一般病棟		
597	44	63	141	2	24
1			100	7	
42	16	8	13		
46		1	26	4	
1			3		
74	5	3	15	2	
4			3		
22	1		3		
1	1	1	40	2	
1					
13		1	6		
4	12	2	2		1
1			2		
1,023	76	75	323	19	158
1,830	155	154	677	36	183

計 2,816

《救急車来院》

トリアージ区分	1	2	3	4	5	合計
	重篤	重症	中等症	軽症		
内科	188	624	732	316	2	1,862
精神科						
小児科	7	39	104	118	5	273
外科		13	20	3		36
整形外科	3	114	98	22		237
形成・美容外科		2	11	6		19
脳神経外科	21	79	178	42	2	322
皮膚科		2	2	6		10
泌尿器科	2	24	25	16		67
産婦人科	2	6	14	8	10	40
眼科						
耳鼻咽喉科	1	5	23	5		34
心臓血管外科		2	2	1		5
放射線科						
口腔外科				1		1
救急科	343	912	1,189	402	3	2,849
緩和治療科						
総計	567	1,822	2,398	946	22	5,755

救急病棟	入院			転院	死亡
	ICU・CCU	HCU	一般病棟		
519	43	57	110	2	24
			25	4	
14	2	4	4		
40			23	2	
62	5	3	10		
1			1		
10			1		
	1		18	1	
4			1		
2	1	1			
			1		
696	64	58	210	17	159
1,348	116	123	404	26	183

計 1,991

《救急車来院 搬送地区別件数》

救急隊	金沢区	磯子区	港南区	栄区	中区	南区	横浜市 その他	横須賀	逗子市	葉山町	三浦市	鎌倉市	その他	合計
内科	1,062	87	53	41	6	16	16	317	219	30	2	3	10	1,862
精神科														
小児科	191	4	8	3			1	30	35	1				273
外科	17	2	1	2		1	1	6	4	1			1	36
整形外科	120	12	4	11	2	1	1	42	34	5		1	4	237
形成・美容外科	12		1					1	4		1			19
脳神経外科	215	7	19	5			2	28	41	3			2	322
皮膚科	7								3					10
泌尿器科	35	3	2		1	2	1	16	6	1				67
産婦人科	19	2	1		1	2	1	9	3	1			1	40
眼科														
耳鼻咽喉科	18	1		2		1		8	4					34
心臓血管外科	1		1			1						1	1	5
放射線科														
口腔外科	1													1
救急科	1,674	125	90	95	6	24	7	446	343	26	1	3	9	2,849
緩和治療科														
総計	3,372	243	180	159	16	48	30	903	696	68	4	8	28	5,755

X 看護部紹介

1. 看護部の概況

今年度は2023～2027年度までの看護部ビジョンを検討し「働き続けられる魅力ある職場づくり」としました。2016年度に導入した看護体制PNS[®]が浸透するよう部署監査を看護部主導で実施し標準化を図ってきました。その結果PNS[®]マインドの醸成が進みマニュアルに近づくよう指導してきた成果が出てきました。さらに離職が減り、新卒既卒採用に困らなくなった状況で、今年度はさらなる看護の質向上を図ることで患者満足度向上を目指したいと考え、身体拘束低減に取り組みたいと考えました。当院は認知症加算1を取得し専門職種による認知症ケアチームが中心となり、各部署の認知症コアナースを通して部署活動を実施し身体拘束率(2022年度)は8.3%でした。看護部運営会議で考案し、師長主任合同研修の場で「身体拘束ゼロを目指す(5年計画)」と宣言しました。看護部目標にすることで各部署の特徴を踏まえながら、倫理的感受性を高め三原則(切迫性・一時性・非代替性)を浸透させていきました。その結果身体拘束率5.4%まで低減でき、転倒転落率も増えませんでした。5年計画にしたことで、各部署が積極的に課題に取り組む姿勢が見られているため次年度に期待したいと思います。

また新型コロナウイルス感染症対応4年目の5月8日より、2類感染症から5類となりました。コロナ対応補助金による黒字経営からの脱却が求められ、今年度は受診控えの患者さんがコロナ前のように戻ってくるか不安を抱えながらのスタートとなりました。そこで二つ目の看護部目標を「看護力を発揮し病床稼働率88%を達成する」を掲げ、各部署が急性期医療を提供する患者と感染症患者の両方を自部署で観ていくことを前提にしました。スタッフ一人ひとりが自分ごととして病院経営を意識するように働きかけてきました。その結果、77.8%台だった病床稼働率は上昇し最終は86.2%台まで回復しました。目標値は達成されませんが、一般病床は88%以上の稼働をしており、特殊科や土日祝日の患者数減少等の問題点が明確になりました。

看護部の理念は『やさしさのある確かな看護をとどけます』です。これまでよい看護は豊かな人間性と高い専門的知識、技術に裏打ちされて表現されるものと考え、技術の裏付けがないと本当の優しさとは言えないと「やさしさ」と「確かさ」を持った看護師の育成をしてきました。その結果、横浜南共済病院の看護が受けたいと患者家族に選ばれる、看護学生などが横浜南共済病院で働きたいと人材が集まる。そして働く看護職員が横浜南共済病院で働き続けたいと思いつけられる環境が整えば、当院の看護師が看護を通して地域住民に、安心とやさしさを永年的に届けられると思います。

【2023年度 看護部目標】

1. 看護力を発揮し 病床稼働率88%を達成する

*看護力とは「確かな看護スキル」「生活の質の視点」「地域マネジメント」

入院前から在宅療養に向けた切れ目のない看護の提供のための、入退院支援は基本の看護。看護師ならではの「生活の質の視点」は持ち続けよう

*with コロナで、臨機応変な対応を！

入院患者の原疾患治療の優先度に応じて自部署の陰圧個室で対応

エアロゾル発生するケアや処置に注意した感染対策を地域包括ケアシステムのなかで看護力を発揮する

2. 身体抑制ゼロを目指す(5年計画)

*患者・家族が人として大事にされた、尊重されたと感じられるようなケアは何か

*倫理的感受性を高める

*抑制の基礎を学ぶ(3原則など)

(看護部長 佐竹 みゆき)

2. 看護職員状況及び病床管理状況

1) 看護職員状況(パート含)

看護師 693名 99.9% 准看護師 1名 0.1%

(2023年4月1日現在)

看護単位	稼働 ベッド数	看護職員 配置	看護要員				夜勤人員	
			看護師	准看護師	看護補助者	計		
中4E	産婦人科・小児科・外科 乳腺外科	44	7対1	34		4	38	5
中4W	小児科・泌尿器外科・形成外科	42	7対1 小児加算	31		6	37	4
中5E	循環器内科・整形外科 心臓血管外科	44	7対1	30		5	35	3
中5W	循環器内科・耳鼻咽喉科 心臓血管外科	44	7対1	31		6	37	3
中6E	脳神経外科・眼科	44	7対1	30		6	36	3
中6W	血液内科・神経内科	44	7対1	31		7	38	3
中7E	腎臓高血圧内科・外科 呼吸器内科・乳腺外科	44	7対1	30		5	35	3
中7W	消化器内科	44	7対1	32		5	37	3
中8E	整形外科・膠原病リウマチ内科	38	7対1	27		6	33	3
中8W	整形外科・神経内科	42	7対1	31		5	36	3
南2F	呼吸器内科・皮膚科・口腔外科	35	7対1	27		5	32	3
南3F	消化器内科・腎臓高血圧内科 内分泌代謝内科	40	7対1	26		5	31	3
南4F	緩和支援療法科	20	7対1	19		3	22	3
救急	初療室			21		2	23	3
	病棟	20	4対1	31		2	33	5
ICU・CCU		10	2対1 特定加算	33		2	35	5
HCU		10	4対1	23		1	24	3
手術室 中央材料室				38	1	4	43	
外	診療部門			46		6	52	
	検査部門			28		3	31	
	透析センター			9		1	10	
来	健康管理センター			3			3	
看護部他				83		1	84	
		565		694	1	90	785	

勤続年数

看護師 平均9.4年 准看護師 平均36.6年

(2023年4月1日現在)

年数	看護師	准看護師	計	年数	看護師	准看護師	計
1年未満	66		66	9～10年未満	28		28
1～2年未満	63		63	10～11年未満	17		17
2～3年未満	63		63	11～14年未満	47		47
3～4年未満	51		51	14～17年未満	39		39
4～5年未満	39		39	17～20年未満	31		31
5～6年未満	45		45	20～23年未満	20		20
6～7年未満	35		35	23～26年未満	14		14
7～8年未満	28		28	26～30年未満	34		34
8～9年未満	35		35	30年以上	38	1	39

経験年数(平均)

看護師 11.5年 准看護師 40.0年

(2023年4月1日現在)

年数	看護師	准看護師	計	年数	看護師	准看護師	計
1年目	57		57	10年目	29		29
2年目	54		54	11年目	22		22
3年目	43		43	12～14年目	51		51
4年目	37		37	15～17年目	48		48
5年目	31		31	18～20年目	44		44
6年目	29		29	21～23年目	27		27
7年目	40		40	24～26年目	25		25
8年目	30		30	27～30年目	36		36
9年目	32		32	31年目以上	58	1	59

採用者・退職者数

(2023年4月～2024年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年間取得者数
採用者	59	0	0	1	0	2	0	0	1	1	1	0	65	
退職者 (定年退職者含む)	3	0	5	7	6	5	2	0	3	6	3	24	64	

2)病棟別病床管理状況

令和5年4月1日～令和6年3月31日

病棟名	病床数	看護体系	延入院患者数	1日平均患者数	病床利用率	平均在院日数	1日平均		死亡退院数		出産総数		看護必要度
							入院	退院		月平均数	月平均数	月平均数	
中4東	44	7対1	12,921	35.3	80.2%	5.8日	4.7	5.0	7	0.6	485	40.4	48.8%
中4西	42	7対1	12,796	35.0	83.2%	4.8日	5.2	5.5	13	1.1			36.6%
中5東	44	7対1	14,145	38.6	87.8%	7.7日	2.7	3.7	40	3.3			35.6%
中5西	44	7対1	13,891	38.0	86.3%	6.3日	3.1	4.2	22	1.8			35.6%
中6東	44	7対1	14,415	39.4	89.5%	8.1日	2.9	4.1	35	2.9			18.3%
中6西	44	7対1	15,206	41.5	94.4%	18.0日	1.3	2.1	37	3.1			33.0%
中7東	44	7対1	14,427	39.4	89.6%	7.8日	2.5	3.4	27	2.3			42.4%
中7西	44	7対1	14,796	40.4	91.9%	7.6日	3.2	4.5	50	4.2			34.8%
中8東	38	7対1	12,125	33.1	87.2%	13.1日	1.8	2.1	13	1.1			36.6%
中8西	42	7対1	12,727	34.8	82.8%	10.6日	2.0	2.3	7	0.6			41.5%
南2	35	7対1	11,784	32.2	92.0%	9.3日	2.3	2.9	58	4.8			17.0%
南3	40	7対1	13,782	37.7	94.1%	12.2日	1.6	2.6	36	3.0			21.8%
南4	20	7対1	4,919	13.4	67.2%	31.5日	0.2	0.4	132	11.0			
救命救急	20	4対1	5,443	14.9	74.4%	1.7日	8.4	0.5	32	2.7			
ICU・CCU	10	2対1	2,567	7.0	70.1%	2.3日	0.8	0.1	27	2.3			
HCU	10	4対1	2,244	6.1	61.3%	1.9日	0.8	0.1	15	1.3			
総計	565		178,188	486.9	86.2%	10.2日	43.5	43.5	551	45.9	485	40.4	33.8%

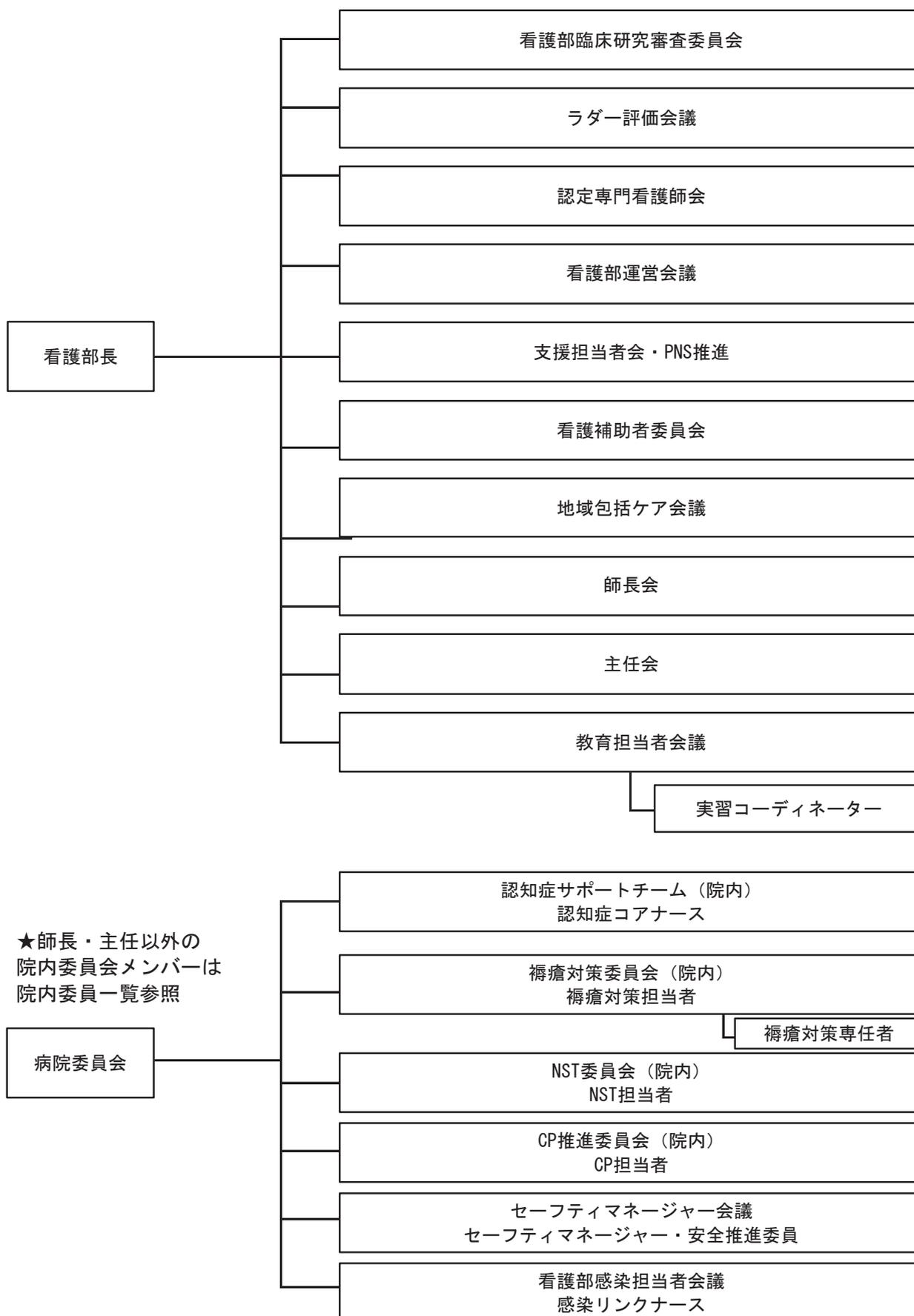
※看護必要度の数値は、必要度Ⅱの数値で算出。

その他の患者数等

令和5年4月1日～令和6年3月31日

項目	数値
1日平均外来患者数	1,298.7
1日平均救急患者受診者数	40.3
1日平均透析患者数	12.4
年間手術件数	6,656

2023年度 看護部会議・委員会等担当



令和5年度 院外長期研修受講者

研修名	主催	氏名
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	神奈川工科大学看護生涯学習センター	鈴木 毅
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	菊池 絵里
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	公益社団法人日本看護協会	鈴木 唯
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	湘南医療大学看護キャリア開発コアセンター	園田 美帆子
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	北里大学看護キャリア開発研究センター	山口 ひとみ
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	県立保健福祉大学	大學 好子
認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	末永 八千代
実習指導者養成講習会	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	松川 穂
実習指導者養成講習会	横浜市立大学医学部看護学科	渡邊 夏帆

令和5年度 認定看護師認定資格更新者

分野	氏名
救急看護	前田 智香
感染管理	土田 陽子
集中ケア	三浦 広美
がん化学療法看護	平賀 久仁子
がん放射線療法看護	宮下 明子
透析看護	石黒 美紀
慢性心不全看護	羽鳥 美樹

令和5年度 認定／専門看護師

認定	氏名	備考
緩和ケア	松村 奈留美	
	佐藤 久美恵	
	田中 みどり	
集中ケア	北原 富美子	
	三浦 広美	
	津内口 春美	
	田村 直美	
	北上 智美	
	下田 綾子	
皮膚排泄ケア	菊池 絵里	特定行為研修修了者
	島田 恵美	
がん化学療法看護	井村 沙耶花	
	平賀 久仁子	
がん性疼痛看護	高橋 悦子	
	石川 敦子	
	行谷 裕美	
感染管理	伊藤 恵美	
	土田 陽子	
がん放射線療法看護	宮下 明子	
手術看護	田中 佳那	
認知症看護	小宮山 瞳	
透析看護	石黒 美紀	
脳卒看護	大島 恵弥	特定行為研修修了者
救急看護	前田 智香	

専門	氏名	備考
慢性疾患看護	三橋 啓太	
感染症看護	土田 陽子	
精神看護	永田 加奈子	
老人看護	佐藤 清美	
がん看護	寺尾 律	

	氏名	備考
特定行為研修修了者	石川 智一	
	丸山 拓也	
	大島 恵弥	
	菊池 絵里	

認定看護管理者	氏名	備考
	丸山 為美	
	折内 奈津江	

3. 看護部活動報告

1) 令和5年度看護部教育担当の1年

今年度の看護部教育担当は、新型コロナウイルスの推移を慎重に見ながら、研修や実習などを組み立ててスタートいたしました。そのような状況でしたが、令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が『5類感染症』となりました。今後の実習や教育研修など、様々なことが以前のように実施されるのだと安心した気持ちと同時に、そのブランクを埋める作業に追われることとなりました。しかし、対面で話すこと…つまりコミュニケーションの大切さを改めて実感する機会でもありました。

教育担当の主な業務内容は、新人看護職員の研修やサポート、看護職員全体の院内教育運営、看護実習生の受け入れ調整、キャリアサポート支援など多岐にわたっています。感染状況に大きく影響を受けていた看護実習も全面受け入れで実施され、新型コロナウイルス専用病棟も11月で閉鎖となり一般病棟となりました。11月からは全病棟での看護実習の受け入れが可能となりました。看護実習生は、看護実習生自身が学ぶだけでなく入院患者にも良い影響を与え、また病棟スタッフにも初心に戻ることや、新たな学びを多く与えてくれる存在だと感じています。また、臨地で実習する学生の学びはこちらが驚くほど大きく、臨地実習の重要性を改めて実感しています。

最後に教育担当者内部のこととなりますが、横浜南共済病院始まって以来の初の男性教育担当者が誕生しました。歴史的快挙とでもいいでしょうか…ジェンダーレスの時代ですので、このようなことを記載して良いものか迷いましたが、これからどんどん視野を広げ進化していく看護部教育担当に皆さんも期待して下さい。

(文責 看護部教育担当者 佐々木智子)

令和5年度 看護部主催の集合研修

研修名	実施日・実施期間	参加人数
リーダーⅠ (新人看護職員研修)	2023年4月～2024年3月	58名
リーダーシップⅡ	2023年5月・7月(全2回)	34名
リーダーシップⅢリフレクション	2023年6月・8月(全2回)	26名
文献を臨床看護に活かそうⅠ	2023年8月～12月(全3回)	4名
文献を臨床看護に活かそうⅡ	2023年7月～2024年1月(全4回)	8名
看護研究のプロセスを学ぼう	2023年6月～2024年2月(全6回)	7名
	講師: 関東学院大学 看護学部 西岡久美子先生	
リーダーシップⅣ (解決志向による組織活性化研修)	2023年7月～2023年12月(全4回)	18名
	講師: 株式会社ハートセラピー 柳原里枝子先生	

令和5年度 看護師長・主任合同研修

講演名	講師	実施日
目標管理における目標設定、評価、面接	(株)サフィール代表取締役 看護管理総合教育研修センター 河野秀一先生	2023年5月19日・22日(目標設定) 2023年10月30日・11月2日(中間評価) 2024年2月20日・22日(期末評価) 2024年3月9日(成果発表会)

2023 年度 実習生受け入れ

神奈川県立保健福祉大学	成人実習(慢性期) 基礎Ⅰ実習
	統合実習(慢性) 統合実習(基盤)
関東学院大学	看護の統合と実践Ⅰ 成人実習Ⅱ(クリティカル) 総合基礎
	統合実習(小児) 小児実習Ⅱ 成人実習Ⅰ 成人実習Ⅲ 看護援助実習
神奈川県立衛生看護専門学校	
	看護学科 小児実習 統合実習 基礎実習Ⅱ 老人実習Ⅲ
	助産師学科 助産学実習
病院協会看護専門学校	小児実習 母性実習 基礎実習Ⅰ①② 成人老年 統合実習
聖灯看護専門学校	
	第1看護学科 成人実習Ⅱ(周手術期)
	第2看護学科 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ
よこはま看護専門学校	母性実習
神奈川県立歯科大短期大学部	母性実習
横浜実践看護専門学校	小児実習

延べ人数 合計 2,829 名

2) 看護実践推進担当

看護補助者委員会の師長・主任を中心に、看護職と看護補助者とのさらなる協働に向け、看護補助者委員会の運営と看護補助者および看護職を対象とした研修の企画・運営を行いました。

看護補助者委員会では2021年度に立案した「みなみのキラキラ看護補助者」3ヶ年計画の3年目として、「看護補助者と看護職のパートナーシップが図れる」ことを目指し、看護職とのパートナーシップをイメージするグループワークを行いました。「密なコミュニケーション」「信頼関係の構築」「互いの仕事の理解」「よい職場環境」など協働に欠かせないキーワードを導くことができました。また、各部署で協働が進むようPDCAシートを導入し、看護チームとして目標を共有し、話し合いの機会を増やしてもらおうよう投げかけました。看護補助者による入院案内ができることを目標とする部署が多くあり、この取り組みにより患者を待たせないよう看護チームとして対応することが定着してきていることを嬉しく思います。

研修では、育児休業明けの看護師や新人看護師対象の研修を開催しました。患者状態をアセスメントすることや具体的に業務を委譲することの重要性を再認識する場となりました。全看護補助者を対象にした研修では、半日研修4回に分けて開催しました。看護部目標のひとつである「身体拘束ゼロを目指す」ため、看護補助者による患者の見守りを見据えた内容としました。リエゾンナースのアドバイスを得ながら、認知機能が低下した患者の理解、対応がわかりやすく学べるよう動画や演習を企画しました。研修後には心がけたい対応として「思いを受けとめる」「相手のペースに合わせる」「安心感を与えるため笑顔で接する」「行動の意味を考える」「自尊心を傷つけないよう責めるような言動をとらない」など、具体的な行動に繋がる意見が多く聞かれました。

今年度は主任会の看護補助者グループ主催で、「正しく安全に指示し委譲を達成する5T（通称5T）」の啓蒙活動を兼ねて現状調査を行いました。この結果により、看護職と看護補助者の感じ方には違いあり、さらに協働を進めていくためには指示・委譲をする看護職への教育が重要であることが再認識できました。この課題を踏まえて、今後も患者利益のための看護チームとして協働を進めていきたいと思えます。

看護体制であるPNSの監査では、看護補助者との協働についても上記の5Tを参考に監査項目に加え、全師長が他部署の監査を行いました。多くの部署でリチャップルの進め方に悩んでおり、師長会ではPNS研修を受けた師長から進め方を学び、うまくリチャップルが進められている部署の師長から進め方を聞く機会がありました。今後もPNSのメリットを最大限活かし、患者さんと医療者がともに満足する医療を目指して、看護の提供体制の充実を図っていきたくと考えています。

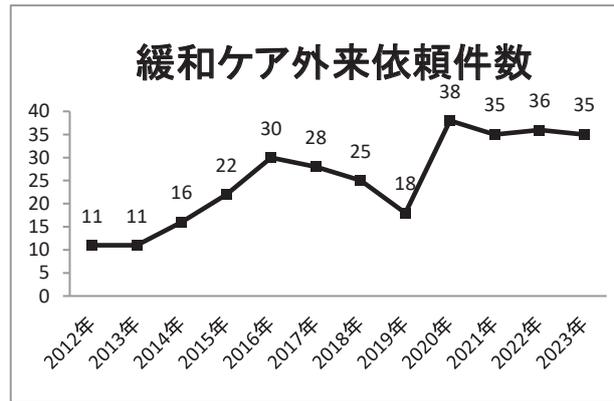
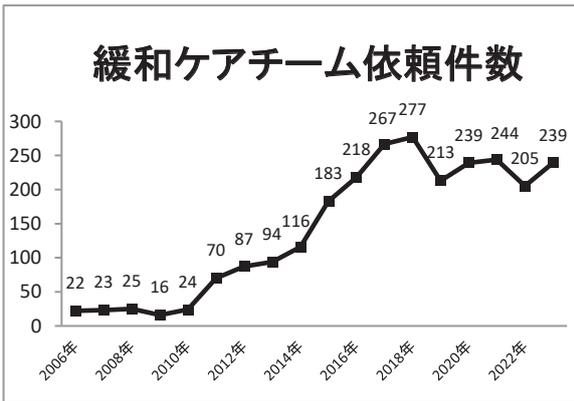
(文責 看護管理室 看護実践推進担当 町 奈美子)

3) その他活動実績

①2023年度 緩和ケアチーム活動報告

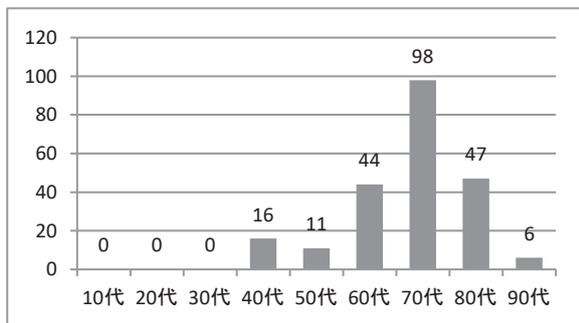
依頼総数	239
新規依頼	185
再入院	37
病棟カンファレンス開催件数	351
緩和ケアチームカンファレンス	524
医療者間カンファレンス	11
デスケースカンファレンス	2

非がん	17		
心不全	8	呼吸困難感	12
誤嚥性肺炎	1	疼痛	6
間質性肺炎	2	口渇	1
COVID肺炎	1	吐気	1
肝硬変	1	倦怠感	1
血管炎	1	不眠	1
脊柱管狭窄症	1	精神的苦痛	1
化膿性関節炎	1	希死念慮	1
尿路感染症	1	スピリチュアルペイン	1

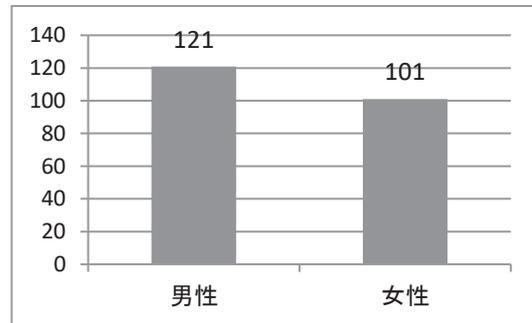


(身体13 精神22) 新患(身体11 精神11) (延べ患者数 187)

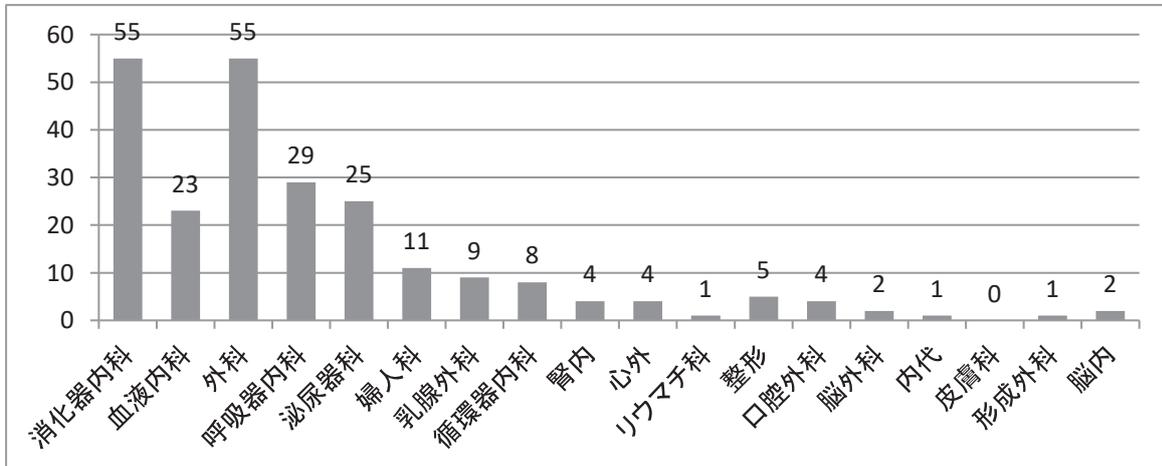
1. 年齢



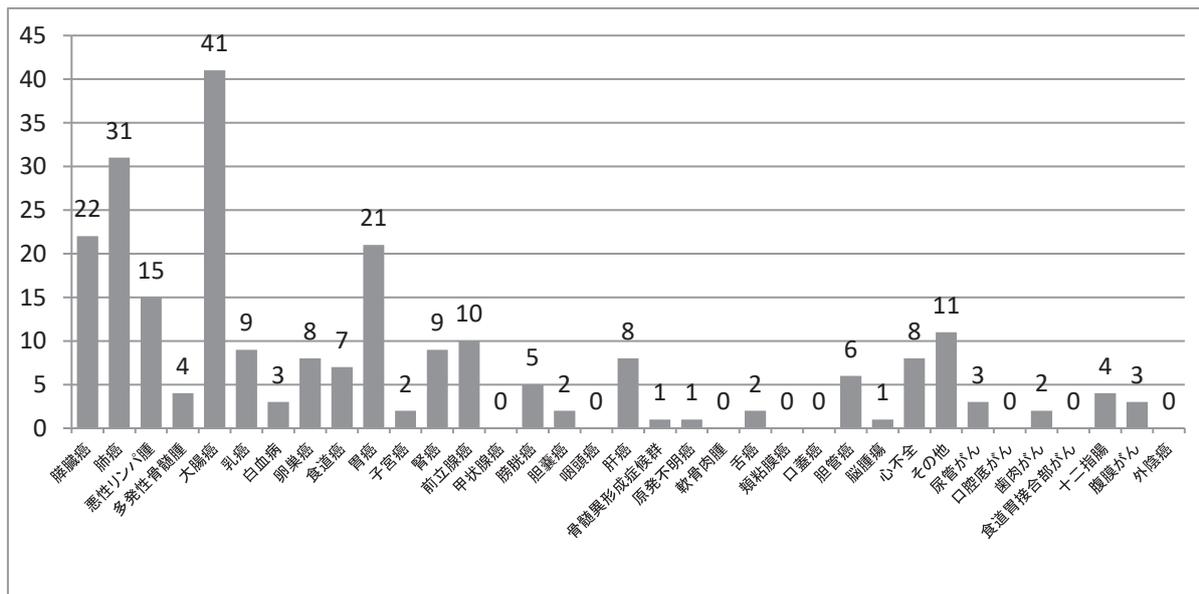
2. 性別



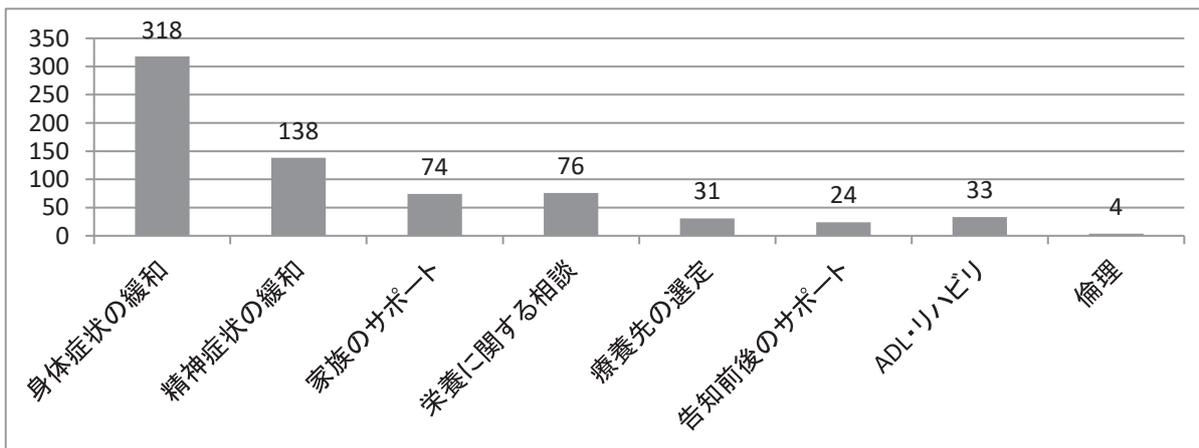
3. 科別



4. 主病名(がん)

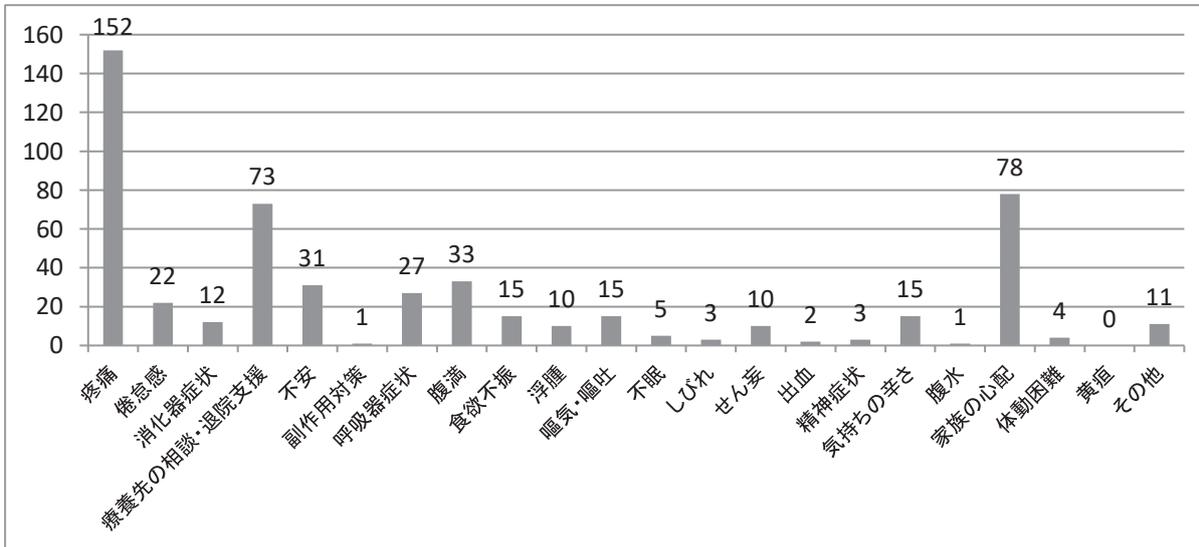


5. 依頼内容(複数あり)全件数

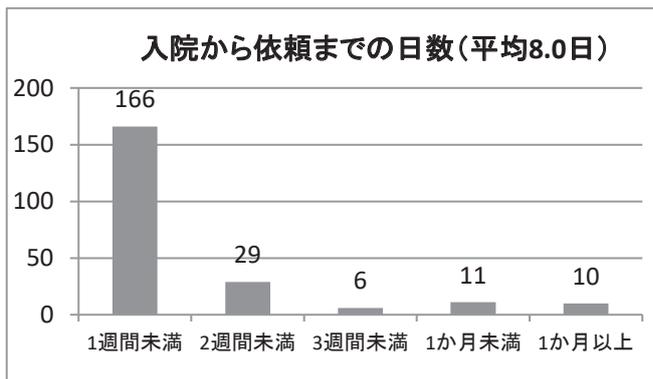


(依頼内容 非がんのみ) 疼痛・疼痛以外の身体症状・精神症状

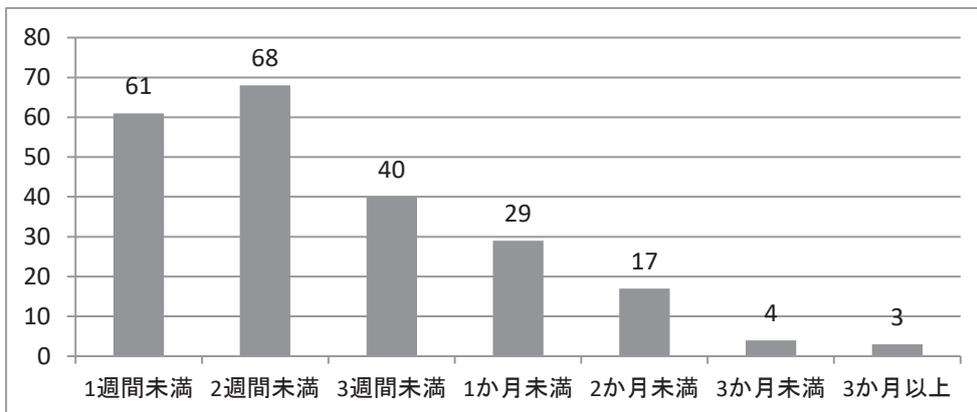
6. 依頼時の問題症状(複数あり)



7. 入院から依頼までの日数[最低日～最高日 平均日][がん患者のみ最低日～最高日 平均8.0日]

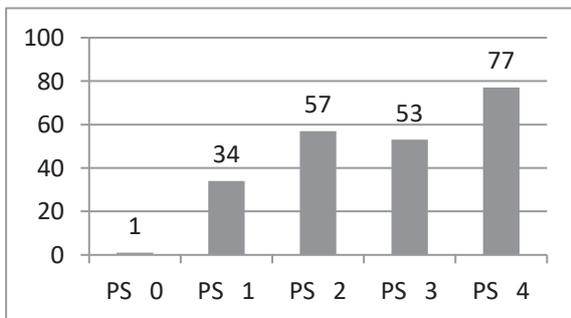


8. 介入期間(がん患者のみ平均日)

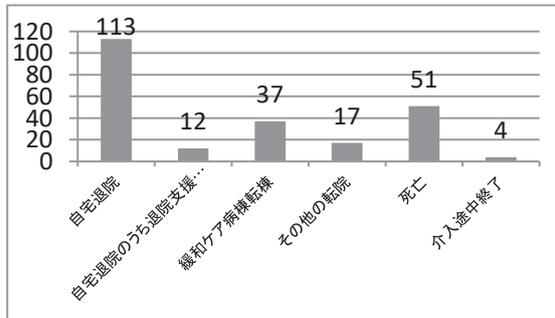


3/31現在 1名入院継続中

9. 依頼時のPS



10. 転帰(がん患者のみ)



② ストーマ外来

[令和5年度ストーマ外来受診患者延べ件数]

診療科	外科(名)		泌尿器科(名)		月別合計	
	前年度	令和5年度	前年度	令和5年度	前年度	令和5年度
4月	25	25	5	7	30	32
5月	20	24	8	6	28	30
6月	32	37	10	12	42	49
7月	29	33	10	10	39	43
8月	18	35	11	11	29	46
9月	27	34	5	10	32	44
10月	26	26	9	11	35	37
11月	22	26	5	9	27	35
12月	28	35	10	9	38	44
1月	24	32	11	11	35	43
2月	19	29	10	15	29	44
3月	25	31	11	8	36	39
年間合計	295	367	105	119	400	486

③ フットケア外来

[令和5年度フットケア外来患者延べ件数]

月	人数(名)
R5年 4月	16
5月	13
6月	14
7月	15
8月	12
9月	14
10月	16
11月	13
12月	15
R6年 1月	7
2月	12
3月	16
合計	163

④術前ストーマサイトマーキング実施・算定状況(消化器外科・泌尿器科)

2023年度実績

人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 450点

診療科	造設術件数	算定件数	算定率	金額(円)	前年比
外科	57	42	73.7%	189,000	
泌尿器科	9	9	100.0%	40,500	
合計	66	51	77.3%	229,500	

⑤2023年度 RST 活動報告書

活動日：令和5年4月1日～令和6年3月31日：毎週水曜日9：45～11：00前後

I 病棟での人工呼吸器装着患者への活動

①介入患者：患者数 19名（男性16名、女性3名） 却下7名

年齢 50歳～93歳 平均75.3歳

科別患者数：呼吸器内科5名 循環器内科4名 整形外科3名 脳神経外科3名 神経内科1名 呼吸器外科1名
外科1名 心臓血管外科1名

②介入日数（介入受付日～介入終了日）：1～28日 平均16.9日

③介入理由ならびに介入結果（離脱の成否）、予後

CPA 蘇生後 5名：1名、気切、呼吸器離脱、転院
2名、気切、呼吸器のまま、転院
2名、

頸椎損傷 3名：3名、気切、呼吸器のまま、転院

肺炎 3名：3名、気切、呼吸器のまま、死亡

STEMI VF 後 1名：1名、気切、呼吸器のまま、転院

呼吸器からの離脱成功：3名/19名

不成功（管理中含む）：10名（使用中で死亡）

☆病棟に転棟する前の患者（ICU/CCU/HCU）についても、ほぼ毎回回診を行い、離脱出来る場合や継続のままの退室等経過によりチーム内で対応を協議した。今年度も人工呼吸器管理のCOVID19患者についても診察を行った。

II 人工呼吸器管理以外の活動

①RST 通信の発行：今年度は1回

2023年12月発行 vol.11「NPPVについて NPPVを理解しよう！」

②人工呼吸器管理に関わる関係者への勉強会（新研修医、看護師、ME、PT など）

・「RSTによる呼吸器勉強会」

・3回に分けて開催した

・内容等の詳細は院内の医療機器の研修会の実施としてME科で記録している

・1回目：2022/05/19 17:30～19:30 参加者40名

2回目：2023/06/30 17:30～19:30 参加者41名

3回目：2023/10/06 17:30～19:30 参加者32名

③人工呼吸器、NPPV、HFNCの点検表作成

安全管理の観点から点検表の見直しと新規作成を行った。

④NPPV、酸素療法（ネーザルハイフローを含む）

ネブライザー等の使用に関しての助言や指導を行った。

⑤ネーザルハイフロー使用者

ラウンド加算対象者ではないが病棟管理の安全使用ラウンドを行った。

⑥アクアサーム使用

病棟からの相談、ICU内での物品管理、今後の使用デバイス内容の協議を行った。

⑥2023年度 患者相談窓口相談件数

	1. 取次・伝言・預かり	2. 場所・受診行動	3. 事務手続き、入院患者	4. 受診療養に関する相談	5. 社会福祉に関する相談	6. 検査に関する相談	7. 栄養に関する相談	8. 処方箋の取扱い	9. がん支援に関する相談	10. 苦情	11. その他患者対応、直接来院等	計
4月	29	69	1	23	1				2	5	2	132
5月	32	84		16	1					8	5	146
6月	24	73	2	22	3	1			1	6	5	137
7月	34	59	3	20	3				1	9	6	135
8月	23	67	2	26	1			2	1	4	8	134
9月	20	70	1	15	3					7	2	118
10月	22	83	2	6			1			3		117
11月	22	93	4	23	5	1				4	5	157
12月	31	79	4	15	2			1	1	2	7	142
1月	32	79	3	11	1				1	4	6	137
2月	16	56	4	16	2					2	4	100
3月	24	76	1	12	3	1				8	3	128
計	309	888	27	205	25	3	1	3	7	62	53	1,583

XI 事務部紹介

1. 事務部について

当年度は、約5年に及んだ新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが5類感染症へ変更になり、通常診療体制にシフトさせるための取組みを加速させた。

併せて、第四次連合会病院中期計画（本部・病院）の重点事項である新外来棟建築計画を着実に前進させるための経営基盤の安定化と、令和6年度を初年度とする第8次医療計画の諸々の施策を見据えた病院の体制づくりを構築した一年である。

【第四次連合会病院中期計画の進捗】

(1)地域・社会の中でのポジションの確立

地域の高度急性期医療を担う病院として、病病、病診、介護連携等を強化するため地域医療支援病院運営委員会では情報共有の取組みを強化した。また、コロナ禍で開催を見合わせていた連携医療機関と当院医師との交流の機会を再開させ、紹介、逆紹介患者のスムーズな流れと病床の安定的な稼働を目途とした活動を展開した。

(2)患者の視点に立った質の高い医療の提供

令和6年度から実施される医師の時間外労働の上限規制を見据えた、医師の勤務実態の把握と宿日直許可継続によるA水準確保の準備作業、医師事務作業補助者の業務見直しと適正配置を進めタスクシフト/シェアを支えるフレームづくりに取り組んだ。また、将来を担う事務総合職の採用のほか、医療のデジタル化を積極的に推し進めるため専門領域の事務職員の採用を検討してきた。

併せて事務職員の人材育成、能力開発を活性化するため院内・外での業務改善報告、研修機会を提供してきた。さらに、管理職に占める女性比率を高めるため、優秀な人材を積極的に管理職ポストへ登用した。前記の取組みは、今後も継続することとしている。

(3)健全な経営の確保

事務部門、また病院全体でコロナ禍後の通常診療体制による安定経営を目標として、収支両面の課題に積極的に取り組んだ。特に救急科体制が一新されたことによる体制強化の支援、DPC 特定病院群維持のため年間12症例の診断群分類算定が条件となるカバー率係数や重篤な疾患など医療資源投入量の高い疾患を評価する複雑性係数の引き上げが求められることから診療部、看護部とも協働し係数引き上げに注力した。

このほか、令和6年度診療報酬改定を控え、施設基準、加算の新規取得、上位基準への移行等の情報収集と対策の検討に組織横断的に取組み、院内各部門に対する早期の情報提供体制を整えることに努めた。

一方、物価、エネルギー価格高騰に対する医薬品、材料費、光熱水料の適正使用に係る職員意識の改革を事務部主導で取り組んだ。

【第8次医療計画（令和6～11年度）対策】

(1)医師の時間外労働の上限規制対策

令和6年度から施行される医師の時間外労働の上限規制のA水準（超過勤務時間 960時間/年間）確保に向けた、勤務実態把握、評価、分析を進めた。

医師業務のタスクシフト/シェアを支援する看護師の特定行為研修指定研修機関の開設準備のほか、診療技術部門、事務部門によるタスクシフト/シェアについて積極的に展開できる体制の検討を進めた。

(2)医療DXの推進

医師の働き方改革や少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少による働き手を確保する観点から、限られた医療資源を効率的・効果的に活用していく必要があり、当院においても遅れが目立つICT、デジタル技術の各部門への導入の議論を深めた。具体的には、令和6年度下半期に予定している医療情報システム更新の際に実装できるよう検討を進めた。

【医業損益・当期損益】

受療動向をいち早くコロナ禍以前へ回復させるため、連携医療機関、行政機関等との地域連携体制を更に強化した。また、救急・手術・がん領域は、今後計画されている新外来棟建築計画においても当院の柱として段階的に体制整備に取り組んでいくこととしており、診療部等と基盤整備、実績評価に注力し、受療動向は入院・外来ともにコロナ禍以前の約10%減で推移した。

医業収入の大宗を占める入院患者収入は、コロナ禍後の通常診療体制へ移行したことに伴い、新入院患者15,905名（前年比+983名）、病床利用率86.2%（前年比+8.4%）、手術件数6,593件（前年比+99件）など主要な指標が増加傾向を示したこと

で、前年比+8ポイントの15,205百万円（前年比+1,405百万円）を計上した。

一方、人件費は、人事院勧告のプラス改定を受けた給与改定が実施されたことや、高度急性期医療を担うにあたり優秀な医療従事者を採用したことなどから11,052百万円（前年比+451百万円）、材料費は、コロナ禍後の労働力不足、国際紛争などの影響もあり世界的な物価高騰が顕著な状況が続き、7,220百万円（前年比+722百万円）と大幅に増加している。

前記を総括すると、医業収入の総額は21,915百万円で、前年度に比べ752百万円の増加（+3.6%）、医業費用の総額は22,025百万円で、前年度に比べ1,254百万円（+6.0%）と収入を上回る伸びとなった。この結果、医業損益は▲110百万円（前年度比▲502百万円）を計上し、その他の収入、費用を加えた当期損益は▲186百万円（前年度比▲477百万円）となった。

（事務部長 川村 周三）

2. 会 計 課

(1) 令和5年度決算について

令和2年2月のダイヤモンドプリンセス号の患者受け入れから始まる当院の新型コロナウイルス感染症への対応は、令和5年5月8日からの感染症法上の位置づけの「5類感染症」へ移行した。それに伴い経営状況も大きく変化した。コロナ禍では患者収入が大きく減少していたものの、雑収入でコロナ補助金として、令和2年度は1,463百万円、令和3年度は1,798百万円、令和4年度は950百万円もの計上があった為、最終的には医業損益は黒字を計上していた。しかし、令和5年度については、患者収入は若干の回復傾向を示していたものの、コロナ補助金は34百万円のみ計上となったことが大きく影響して、コロナ禍以前の平成30年度から5年間継続していた黒字計上が赤字へ転落することとなった。

収入については、入院では、コロナ禍で悪化していた病床利用率は前年度の77.8%から86.2%となり+8.4%改善はみられたものの、事業計画値の88.0%に対して1.8%未達となった。入院患者数は178,188人で対前年度比+17,755名増加し、入院収入の要である手術件数については、事業計画値7,200件であったが、前年度よりは99件増加したものの6,593件にとどまった。結果、入院患者収入は、対前年度比+1,405百万円増収の15,205百万円となり、入院診療単価は、対前年度比で▲687円減少して85,328円となった。一方、外来では、患者数は逆紹介の推進により、コロナ禍によって大きく落ち込んだ前年度から更に減少し、対前年度比▲21,492名減少して314,293人となった。しかし、診療単価が対前年度比+1,718円増加したことにより、外来患者収入は対前年度比+163百万円増収の6,055百万円となった。一方、その他収入の雑収入については、上段にて説明したとおり新型コロナウイルス感染症関連補助金が対前年度比▲916百万円の減少の34百万円のみ計上となった。上記要因によって収入合計は、対前年度比で+775百万円増収の22,047百万円となった。

費用については、人件費では、給与改定に伴う本俸や地域手当、看護職員等処遇改善手当等が増加したことにより職員給与は対前年度比338百万円増加の9,128百万円を計上し、また、それに伴い負担金も増加（対前年度比+47百万円）した。材料費については、薬品費は生物学的製剤の使用増加や化学療法の件数増加に伴う腫瘍用薬の使用増加が要因となり対前年度比で+448百万円増加の4,305百万円の計上となり、医療材料費は手術件数増加の影響等で対前年度比+250百万円の増加の2,781百万円の計上となった。費用全体では対前年度比で+1,252百万円増加となる22,233百万円となった。

以上により、当期損益は、対前年度比で▲477百万円減少の186百万円の赤字計上となり、医業損益では、対前年度比で▲502百万円減少の110百万円の赤字計上となった。

令和6年度以降も引き続き多額の資金を必要とする外来棟の建替え工事などが控えており、より厳しい経営状況が予想されますので、全職員がコスト意識を持ち、当院の更なる発展のためにご協力をお願いいたします。

(2) 特記事項

- ・4月 事務部長交代に伴い、出納役交代（大嶋一郎 → 川村周三）
- ・10月 法改正に伴い、インボイス制度に対応

(3) 人事異動

なし

（会計課長 吉田 信幸 記）

3. 医 事 課

(1) 令和5年度の業務経過（トピックス）

【施設基準関係】

令和5年【届出事項】

- 4月 医師事務作業補助体制加算1（20対1）、導入期加算2及び腎代替療法実績加算（経過措置にて再提出）、
腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、
腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、

腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

5月 遺伝学的検査の注1に規定する基準

7月 医師事務作業補助体制加算1（25対1）、在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算

8月 特定集中治療室管理料3（早期栄養介入管理加算）

10月 看護職員処遇改善評価料60、角結膜悪性腫瘍切除手術、
緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））、
緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）、
緑内障手術（濾過泡再建術（needle法））

令和6年

3月 排尿自立支援加算、外来排尿自立指導料

(2) 特筆事項

令和5年度は、令和6年度の医療・介護の同時診療報酬改定の準備の年であった。令和6年度診療報酬改定は、①雇用情勢も踏まえた人材確保・働き方改革等の推進。②ポスト2025を見据えた包括ケアシステムの深化・推進や医療DXを含めた医療機能分化・強化、連携の推進。③安心・安全で質の高い医療の推進。④効率化・適正化を通じた医療保険制度の安定性・持続可能性の向上を基本方針とした改定であり準備を開始した。

新型コロナウイルス感染症については、感染症法上の位置づけが令和5年5月8日から季節性インフルエンザと同じ「5類感染症」に位置づけられることとなったが、新型コロナウイルス感染症は一定の流行が続いたため引き続き感染症対策が必要となった。

医療機関別係数は、医師事務作業補助体制加算1を（20対1）から（25対1）に変更した影響などから令和5年4月1.5813であったのが令和6年3月には1.5781に下がっている。

令和4年6月からオンライン資格確認の運用を開始しているが、利用率が上がらず令和6年3月時点で7.4%であったため、マイナ保険証の使用について周知をしていく。

（医事課長 記）

4. 診療情報管理科

(1) 特筆事項

診療情報管理士6名を中心に診療録管理業務、DPC関連業務、がん診療関連業務、診療情報提供業務、個人情報保護関連業務、各種疾病統計業務、スキャンセンターを主とした画像情報管理業務等を行っています。

診療録管理業務では、電子カルテにおけるカルテ監査に重点を置き、量的・質的監査を推進し、記載内容の評価を行っています。また、診療録管理体制加算の施設基準として、退院サマリーの2週間以内90%以上の提出が毎月求められていますが、各診療科の協力により、令和5年度も月平均95%以上の提出を維持できました。

DPC関連業務では、適切なDPC病名が選択されているか、副傷病に漏れがないか等のDPCコーディングチェックを行い、正確なDPCデータを厚生労働省へ提出するように努めています。

がん登録業務では、がん登録実務中級認定者を含む2名の担当者が登録を行い、外来・入院合わせて1,744件の登録データを全国がん登録として国立がん研究センターへ提出する予定です。

診療情報提供業務では、診療情報の開示件数が105件と前年度の132件から27件減少しましたが、6年連続で100件を超えています。

今後も診療情報を活用することにより医療の質の向上及び病院運営に寄与できるように取り組んでいきたいと考えています。

(2) 人事異動

【採用】令和5年4月1日 畦地 友蘭

（診療情報管理科 事務課長 久保田 宜克 記）

5. 用 度 課

(1) 医療機器等の購入について

令和5年度医療器具機械等の購入額は277,978千円となり、内訳は医療器具機械267,471千円、車両運搬具1,767千円、器具備品6,745千円、開発費1,995千円となる。

(2) 人事について

特になし。

(3) その他

コロナ禍では、人と人との関係が希薄となり、病院経営も大きく毀損した。

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5類感染症に移行されたことにより、物流も徐々に平時の状態に戻りつつ、欠品等の対応も減少していった。一方で、新型コロナウイルス感染症対応にて、整備した物品をどのように活かすか、新たな課題も発見された。

今後はこの新型コロナウイルス感染症対策を経て、培った経験、知識を活かすべく、アナログとデジタルを融合させて、より良いサービスの提供、業務の効率化を図り、楽しい職場を築いていく。

課構成

課長1名、係長1名、主任1名、課員2名、計5名

(用度課長 鈴木 義昭 記)

6. 施設課

(1) 特記事項

新型コロナウイルス感染症が5類へと引き下げられ、長く続いた感染対策も落ち着きかけた頃、院内で突如発生した害虫対策に翻弄され、また老朽化した配管から漏水が数多く発生し、対応・対策を余儀なくされた。

また、今年度も原油価格の高騰や世界情勢などの影響で、院内全体の光熱水料費増加や機材、資材などの物価高騰に対し、節電・節水・節約を呼び掛けるなど、引き続き費用削減に取り組んだ。

昭和14年の開院以来、多くの先輩方が築いてこられた当院だが、大きな事業計画となる外来棟及び南棟の建替計画を継続して進めており、“地域を愛し、地域に愛される病院であり続ける”ことを念頭におき、先輩方が築いてこられた当院の新たな一歩となる建築計画を、施設課が一丸となり、他部署とも連携・協力し、「患者さんと医療者がともに満足する医療」の実現を目指して計画を進めていく。

(2) 人事異動

【採用】令和6年 3月 1日 高橋 沙織(事務員)

【退職】令和6年 3月 31日 中尾 信治(施設助手)

(施設課長 瀧本 昇 記)

7. 総務課

令和5年4月1日に高橋健一病院長が就任されたことに伴い、7月15日に横浜ベイホテル東急において就任披露のパーティーを行った。また、当院名誉院長である蜂谷將史先生が瑞宝中綬章を受章されたことをお祝いするため、9月23日に横浜ベイシェラトンホテル&タワーズにて祝賀会を行った。

5月8日をもって新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類となったことに伴い、院内行事等も徐々に従前に戻りつつある。当課としては今後も適切な労務管理を行い、関連部署と連携しながら、良質な医療従事者の確保、福利厚生の実施等に努めていくこととしたい。

令和5年度永年勤続者表彰式

令和5年6月14日(水) 講堂棟講堂において実施

表彰受賞者は計178名

40年勤続表彰者	4名
35年勤続表彰者	5名
30年勤続表彰者	13名
25年勤続表彰者	14名
20年勤続表彰者	17名
15年勤続表彰者	29名
10年勤続表彰者	33名
5年勤続表彰者	63名
合計	178名

8. 電 算 課

(1) 特筆事項

主に病院情報システムの更新に向けた作業を開始した。仕様書や、連合会本部と折衝するための資料作成、各部門ベンダとの調整等を実施した。令和5年12月に入札を実施し、富士通製の電子カルテ「HOPE LifeMark-HX」の導入が決定した。令和6年3月に部長会やサイボウズを通じて院内周知を行い、稼働日やWGのスケジュール調整など、導入に向けて準備を開始した。その他に病院ホームページのサーバが、カゴヤジャパンのレンタルサーバから連合会本部が管理しているサーバに変更、集約された。

(2) 主な稼働システム

電子カルテ・オーダーリング・看護支援システム

医事会計システム

健診システム

病歴管理システム

看護勤務管理システム

薬剤管理・医薬品情報システム

職員給与システム

臨床検査システム

人事情報システム

細菌検査システム

財務会計システム

輸血管理システム

物品管理システム

生理検査システム

ICU・CCU 部門システム

RIS・PACS

眼科・耳鼻科等診療支援システム

アンギオ動画ファイリング・解析システム

自科検査ファイリングシステム

栄養給食管理システム

手術室部門システム

内視鏡部門システム

DPC コード入力支援システム

オカレンスレポート報告システム

診断書作成システム

グループウェア

DPC 診療情報分析システム

スポットチェックモニタシステム

(電算課長 伊藤 久庸 記)

9. 経営企画課

(1) 特筆事項

経営企画課は、病院の経営課題に対する取組みと病院広報活動を積極的に行うことが主な業務になります。具体的には、診療分析、DPC データ分析、収入・費用分析を行い病院経営に貢献することです。病院広報活動としては、市民公開講座の企画、病院臨床指標 (QI プロジェクト) の公表、みなみフェスタの企画・運営等を行っています。

また、各部署からの統計依頼の実績は、令和3年度70件、令和4年度113件、令和5年度157件となっており、年々増加しています。学会発表、研究、業務等で電子カルテデータの抽出・集計や各種統計資料が必要な場合は、迅速に対応しますので、ご相談ください。

(経営企画課長 久保田 宜克 記)

10. 医療秘書課

(1) 令和元年度病院勤務医の負担軽減に対する体制推移

平成31年4月 医師事務作業補助体制加算1 40対1

令和 元年6月 医師事務作業補助体制加算1 30対1

令和 4年4月 医師事務作業補助体制加算1 25対1

(2) 特筆事項

従前より行っていた診断書の作成、代行業務 (内科外来・整形外科・泌尿器科・心臓血管外科・麻酔科・入退院調整)、症例登録 (NCD、JOANR)、心電図術前検査異常値リスト作成を行いつつ新たにICU患者データ集計業務を追加、令和5年4月には新卒者3名を採用しました。

また、派遣職員2名も新たに採用し、上位加算へ向けて準備を進めておりましたが、退職、産休、病休が続いたため上位加算申請は次年度へ持ち越しとなりました。

今後も対応業務内容の拡大を進めつつ、当課職員の教育にも力を注ぎ、医師の働き方改革に合わせた負担軽減のためのタスクシフトタスクシェアに貢献してまいります。

(3) 構成

令和6年3月31日現在 課長・主任（1名）・事務員（27名）

(4) 人事異動

【採用】	令和5年4月1日	／	医療秘書課員	幸野 碧
	令和5年4月1日	／	医療秘書課員	高橋沙也佳
	令和5年4月1日	／	医療秘書課員	金子 桜名
	令和5年11月1日	／	医療秘書課員	足立 夏海
	令和6年1月1日	／	医療秘書課員	加藤 萌花
【退職】	令和5年5月13日	／	医療秘書課員	安部 菜子
【異動】	令和5年5月1日	／	地域連携室より	松本 梓
	令和5年11月1日	／	総務課へ	武井優之介
	令和6年1月1日	／	用度課へ	横山 晃子

(医療秘書課長 岩本 龍熙 記)

XII 定例院内会議及び委員会

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 管理者会議 | 29 医療機器等購入委員会 |
| 2 部長会 | 30 薬事委員会 |
| 3 医局会 | 31 医療材料委員会 |
| 4 目標管理委員会 | 32 治験審査委員会 |
| 5 個人情報保護管理委員会 | 33 保険委員会 |
| 6 労働協議会 | 34 院内停電対策委員会 |
| 7 医療の質向上委員会 | 35 医療情報システム委員会 |
| 8 安全推進委員会 | 36 診療情報管理委員会 |
| 9 臨床研修管理委員会 | 37 (分会)DPCコーディング委員会 |
| 10 横浜南共済病院内科専門研修プログラム管理委員会 | 38 図書学術委員会 |
| 11 横浜南共済病院内科専門研修プログラム研修委員会 | 39 防災委員会 |
| 12 倫理委員会 | 40 医療ガス安全対策委員会 |
| 13 (分会)臨床研究審査委員会 | 41 広報委員会 |
| 14 救急対策委員会 | 42 (分会)季報発行委員会 |
| 15 栄養管理委員会 | 43 QC委員会 |
| 16 NST運営委員会(SST委員会を統合) | 44 院内ストーマ委員会 |
| 17 輸血療法委員会 | 45 業務負担軽減委員会 |
| 18 クリニカルパス推進委員会 | 46 かもめネットみなみ委員会 |
| 19 ICU/CCU・HCU運営委員会 | 47 手術部運営委員会 |
| 20 院内感染対策委員会 | 48 外来運営委員会 |
| 21 院内褥瘡対策委員会 | 49 師長会 |
| 22 がん診療委員会 | 50 看護師特定行為業務管理委員会 |
| 23 (分会)化学療法委員会 | 51 課長会 |
| 24 (分会)緩和ケア委員会 | 52 衛生管理委員会 |
| 25 地域連携推進委員会 | 53 がん診療支援委員会 |
| 26 地域医療支援病院運営委員会 | 54 (分会)医療事故調査委員会 |
| 27 地域医療研修委員会 | 55 (分会)臨床倫理コンサルテーションチーム |
| 28 病院機能向上委員会 | 56 新外来棟建築準備委員会 |

随時(必要時)開催する委員会

随-1 臓器移植対策委員会

随-2 病床管理委員会

随-3 診療情報提供委員会

随-4 児童虐待対策委員会

XIII 研究会、研修会

1. 令和5年度院内集談会及び臨時院内集談会

第172回院内集談会 令和5年6月28日(水)
(当番 脳神経外科 間中 浩) 演題 4題

第173回院内集談会 令和5年11月6日(月)
(当番 消化器内科 近藤 正晃) 演題 4題

第136回CPC 令和5年8月9日(水)

内容:

1、肺塞栓症の一例

臨 床: 山 崎 (研修医)・原 田
病 理: 多々納 (研修医)・小 嶋

2、膀胱腫瘍が疑われた一例

臨 床: 前 田 (研修医)・三 留
病 理: 河 合 (研修医)・小 嶋

XIV 院外活動・学会役員一覧

- 高橋 健一：日本内科学会総合内科専門医 日本呼吸器学会指導医 日本呼吸器内視鏡学会指導医 日本アレルギー学会専門医
(内科) 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 日本化学療法学会臨床試験指導医 日本結核病学会結核・抗酸菌症指
導医 ICD 日本人間ドック学会人間ドック健診専門医 人間ドック健診情報管理指導士 肺がん CT 検診認定医師
日本禁煙学会認定指導医 横浜市立大学医学部第一内科非常勤講師 横浜市南部地区胸部疾患懇話会世話人 三浦半
島在宅呼吸ケア懇話会世話人 神奈川呼吸器CPC幹事 三浦半島喘息フォーラム幹事 身体障害者福祉法第15条指定
医
- 長岡 章平：日本リウマチ学会評議員 日本リウマチ学会指導医 日本内科学会認定医 日本アレルギー学会専門医 日本リウマチ
財団登録医 日本リウマチ学会専門医 日本骨粗鬆症学会認定医 難病指定医 神奈川臨床リウマチ研究会幹事 神
奈川リウマチ医会幹事 横浜膠原病治療研究会幹事 湘南免疫疾患カンファランス代表世話人 神奈川県続発性骨粗
鬆症研究会幹事 神奈川膠原病肺を語る会代表世話人 神奈川骨粗鬆症治療フォーラム代表世話人 神奈川県シェーグ
レン症候群研究会世話人 FM シーサイドカンファランス世話人 横浜内科学会リウマチ膠原病研究会世話人
ADDMe 研究会代表世話人 横浜リウマチ研究会幹事 横浜南共済病院近隣施設病診連携の会世話人 ドライアイ・ド
ライマウスベイスайдカンファランス世話人 Y-CURD 研究会世話人 神奈川リウマチのリハ・ケア研究会世話人 炎
症性腸疾患と免疫を語る会世話人 横浜市介護認定審査会委員 神奈川県社会保険診療報酬請求書審査委員会審査委
員 神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会部会運営部会長 横浜市病院協会理事 俱進会理事 俱進会金沢支部
会副会長 横浜市立大学医学部医学科非常勤講師
- 松川 博史：日本外科学会認定医・専門医 神奈川県国民健康保険審査報酬審査委員 身体障害者福祉法指定医
- 三原 久範：日本整形外科学会 日本脊椎脊髄病学会 日本脊椎手術手技研究会 日本側弯症学会 日本整形外科超音波研究会
東日本整形災害外科学会 神奈川整形災害外科学会 Cervical Spine Research Society (CSRS) Cervical Spine Research
Society Asia Pacific Section (CSRS-AP) 脊椎外科同好会 日本整形外科学会代議員 日本脊椎脊髄病学会評議員 東
日本整形災害外科学会評議員 神奈川整形災害外科学会常任幹事 日本整形外科勤務医会幹事 脊椎外科同好会世話
人 整形外科勤務医会関東地区常任幹事 整形外科勤務医会神奈川支部常任幹事、事務局長 神奈川骨粗鬆フォーラム
世話人 京都鴨川脊椎外科研究会世話人 金沢区整形外科医会世話人 地方労災医員 社会保険支払基金神奈川支部
審査員 横浜地方裁判所鑑定医 NPO 法人国際頸椎学会日本機構代表 CSRS-AP 理事 同事務局代表 Visiting
Professor of Dalian Orthopaedic Hospital Editorial board member/ Journal of Clinical Spine Surgery Review member/
European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology Editorial member/ Journal of Medical Case Report Editorial
member/ Journal of Spine Research Editorial member/ Asian Spine Journal 身体障害者福祉法第15条指定医
- 池田伊知郎：日本泌尿器科学会専門医・指導医 代議員 日本癌治療学会臨床試験登録医 日本がん治療認定医機構暫定指導医およ
びがん治療認定医 泌尿器科腹腔鏡技術認定医 緩和ケア研修修了 横浜市立大学泌尿器科非常勤講師 神奈川進行
腎癌研究会世話人 神奈川泌尿器科学研究会幹事 横浜泌尿器科手術手技勉強会世話人 二俣川カンファランス世話
人 神奈川泌尿器科疾患懇話会世話人 横浜膀胱腫瘍研究会世話人 横浜泌尿器科セミナー世話人 日本泌尿器科学
会評議員 神奈川県国民健康保険診療報酬審査委員 泌尿器科ロボット支援手術プロクタ 横浜市難病指定医 身体
障害者福祉法指定医
- 鈴木 誠：東京医科歯科大学医学部臨床教授 日本内科学会認定医・指導医 日本循環器学会専門医 日本不整脈学会心電学会不
整脈専門医 日本循環器学会関東甲信越地方会 評議員 日本循環器学会 FJCS 日本不整脈心電学会 評議員 日本心
臓病学 FJCC 日本心不全学会 代議員 日本心臓電気生理研究会幹事 Heart Rhythm Society (HRS) 正会員 日本心
臓リハビリテーション学会認定指導士 日本医師会認定産業医
- 生駒 亮：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医 日本鼻科学会鼻科手術暫定指導医 神奈川県労災委員 補聴器適合
判定医 厚生労働省臨床研修指導医 日本口腔・咽頭科学会評議員 日本耳鼻咽喉科学会認定騒音難聴担当医 横浜
市耳鼻咽喉科医会副会長 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川地方部理事 緩和ケア研修修了 インフェクシ
ョンコントロールドクター (ICT) 医学博士
- 循環器内科**
- 藤井 洋之：東京医科歯科大学医学部臨床教授 日本内科学会認定医・指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専
門医 日本心血管インターベンション治療学会専門医 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越支部運営
委員 神奈川 PET・SPECT 研究会幹事 神奈川 PTCA 研究会幹事 関東血管内視鏡研究会世話人
- 清水 雅人：日本内科学会認定医・指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本外科学会認定医 日本不
整脈学会心電学会不整脈専門医 日本心血管インターベンション治療学会専門医 集中治療専門医 JBPOT 認定医
- 鈴木 秀俊：日本内科学会認定医・指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンシ

ン治療学会専門医 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越支部運営委員

一色 亜美：日本内科学会認定医・指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本不整脈心電学会専門医
島田 博史：日本内科学会認定医・指導医・日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本不整脈心電学会専門医
加藤 信孝：日本内科学会認定医・指導医・日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本不整脈心電学会専門医
日本心臓リハビリテーション学会認定指導士

山口 正男：日本内科学会認定医・指導医・日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンション治療学会認定医

立石 遼：日本内科学会認定医・日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医

三須 彬生：日本心血管インターベンション治療学会認定医

酒井 瑛子

清水 厚哉

角田 貴大

消化器内科

近藤 正晃：日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝臓学会専門医・指導医 難病指定医 身体障害者福祉法第 15 条指定医 日本消化器病学会関東支部会評議員 日本肝臓学会東部会評議員 横浜市立大学客員准教授 神奈川県消化器病医学会評議員

岡 裕之：日本内科学会認定内科医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会関東支部評議員 難病指定医

濱中 潤：日本内科学会認定内科医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医 難病指定医 日本肝臓学会専門医 身体障害者福祉法第 15 条指定医

小柏 剛：日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 難病指定医 身体障害者福祉法第 15 条指定医 小児慢性特定疾病指定医

中野間 紘：日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 難病指定医

小串 勝昭：日本内科学会認定内科医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 難病指定医 身体障害者福祉法第 15 条指定医 がん治療認定医

塚本 恵：日本専門医機構認定内科専門医

比嘉 愛里：日本専門医機構認定内科専門医

腎臓高血圧内科

岩野 剛久：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本腎臓学会腎臓専門医・指導医 日本透析医学会透析専門医・指導医 身体障害者福祉法第 15 条指定医（じん臓機能）

川田 貴章：日本内科学会認定内科医

春原須美玲：日本内科学会認定内科医 日本腎臓学会腎臓専門医 身体障害者福祉法第 15 条指定医（じん臓機能）

星野 薫：日本専門医機構認定内科専門医

北地 大祐：日本専門医機構認定内科専門医

内分泌代謝内科

中口 裕達：日本内科学会認定内科医・内科指導医 日本糖尿病学会専門医・特例指導医 日本糖尿病協会療養指導医 日本老年医学会 老年病専門医 難病指定医 小児慢性特定疾病指定医 産業医 関東学院大学看護学部 非常勤講師

橘 幸治：日本内科学会専門医 日本糖尿病学会専門医

大出由紀子

金子 彩乃

三上佳奈子

呼吸器内科

小泉 晴美：日本内科学会総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医・指導医 横浜呼吸器カンファレンス世話人 身体障害者福祉法第 15 条指定医 難病指定医 JMECC インストラクター ICLS インストラクター

加志崎史大：日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医（内科）日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本医師会認定産業医 日本呼吸リハビリテーション学会呼吸ケア指導士 身体障害者福祉法第 15 条指定医 難病指定医

湯本健太郎：日本内科学会総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医 日本アレルギー学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会専門医

金子 舞：日本内科学会総合内科専門医

加濃 大貴：日本内科学会総合内科専門医

宮坂 篤史

山田 千尋
岡崎 俊祐
土屋 七海

血液内科

中山 一隆：日本内科学会総合内科専門医、指導医 日本血液学会認定専門医、指導医 日本造血細胞移植学会認定医 日本輸血細胞治療学会認定医 日本がん治療認定医

岸田 侑也：日本内科学会総合内科認定医 日本血液学会専門医 日本造血細胞移植学会認定医

膠原病リウマチ内科（リウマチ科）

國下 洋輔：日本内科学会認定内科医 日本内科学会認定総合内科専門医 日本内科学会認定内科指導医 日本リウマチ学会専門医 日本リウマチ学会指導医 日本リウマチ学会登録ソノグラファー 日本リウマチ財団登録医 日本臨床免疫学会免疫療法認定医 難病指定医 横浜市立大学客員研究員

小宮 孝章：日本内科学会認定内科医 日本リウマチ学会専門医 日本リウマチ学会指導医 難病指定医

鶴澤 侑司：日本専門医機構認定内科専門医 日本リウマチ学会専門医 日本リウマチ学会指導医 難病指定医

渡辺 武俊：なし

三木 智代：なし

脳神経内科

児矢野 繁：日本神経学会専門医・指導医・代議員 日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本脳卒中学会専門医・指導医 日本認知症学会専門医・指導医 日本神経病理学会代議員・指導医 日本神経治療学会評議員

城村 祐司：日本神経学会専門医・指導医 脳卒中学会専門医 日本内科学会認定医・総合内科専門医

岡田 雅仁：日本神経学会専門医・指導医 日本内科学会認定医

栗田 悠輔：日本内科学会専門医

精神科

近藤 大三：日本精神神経学会専門医・指導医 日本認知症学会専門医・指導医 日本プライマリケア連合学会認定医・指導医 横浜認知症研究会世話人

政岡 数紀：日本精神神経学会専門医 精神保健指定医

小児科

西澤 崇：日本小児科学会専門医・指導医 日本循環器学会専門医 日本小児循環器学会専門医 厚生労働省臨床研修指導医 小児慢性特定疾病指定医 難病指定医 横浜市学校心臓検診 2次精密検査管理委員・再判読委員会委員長 金沢区学校心臓検診判定医

出来 沙織：日本小児科学会専門医・指導医 日本腎臓学会専門医 小児慢性特定疾病指定医 難病指定医

杉山 弘樹：日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会専門医

西村 直人：日本小児科学会専門医・指導医 臨床遺伝専門医

松本 峻：日本小児科学会専門医

平井 祐士：日本小児科学会専門医 小児慢性特定疾病指定医 難病指定医 BEAMS stage1

糸永 育：日本小児科学会専攻医

外科・消化器外科

佐伯 博行：日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科専門医・指導医 日本内視鏡学会専門医 日本がん治療認定医機構暫定教育医

呼吸器外科

大沢 宏至：日本 DMAT 隊員 金沢区医師会勤務医部長 横浜市医師会勤務医事業部会 横浜市肺がん検診事業（二次読影）

整形外科

山崎 哲也：日本整形外科学会専門医 日本体育協会公認スポーツドクター 日本整形外科学会スポーツ医 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）評議員 日本整形外科スポーツ医学会評議員 日本臨床スポーツ医学会評議員 日本肩関節学会評議員 日本肘関節学会評議員 日本整形外科学会学術用語委員会委員 スポーツメディスンフォーラム世話人 よこはまスポーツ整形外科フォーラム世話人 神奈川上肢の外科研究会運営委員 東京スポーツ整形外科研修会世話人 ヨコハマベイ・スポーツセミナー世話人 横浜膝関節研究会世話人 横浜上肢手術セミナー世話人 横浜ベイスターズチームドクター 関東学院大学ラグビー部チームドクター 関東学院大学野球部チームドクター 神奈川県国民健康保険診療報酬審査委員 MLB 公認ドクター Editorial Board for Journal of Orthopaedics Science

柘原 俊久：本整形外科学会専門医 身体障害者福祉法第 15 条指定医 日本整形外科学会変形性股関節症ガイドライン作成委員 関東股関節懇話会幹事 昭和大学藤が丘病院整形外科兼任講師 日本股関節学会評議員

佐藤 昌明：日本整形外科学会専門医 日本リウマチ学会専門医 身体障害者福祉法第 15 条指定医 神奈川リウマチネットワーク世

話人 関東学院保健相談医 関東学院看護学部非常勤講師 神奈川リウマチ幹事 安全管理推進委員 地方防災委員
多々羅靖則：日本整形外科学会専門医 脊椎脊髄病認定医 日本脊椎脊髄病指導医 身体障害者福祉法指定医 義肢装具等適合判定医

新村 高典：日本整形外科学会専門医 脊椎脊髄病認定医 日本脊椎脊髄病学会指導医

形成美容外科

高山 敦子：日本形成外科学会認定専門医 日本形成外科学会レーザー分野指導医 日本創傷外科学会会員 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会会員 日本美容外科学会会員 北里大学医学部形成外科・美容外科

松尾 裕美：日本形成外科学会会員 日本熱傷学会会員 日本職業・災害医学会会員 北里大学医学部形成外科・美容外科

西山 恵美：日本形成外科学会会員 北里大学医学部形成外科・美容外科

心臓血管外科

孟 真：横浜市立大学医学部臨床教授 日本静脈学会理事長 日本静脈学会弾性ストッキングコンダクター養成委員会委員 日本フットケア足病医学会 理事 日本リンパ浮腫治療医学会 理事 日本血管診療技師認定機構 理事 日本心臓血管外科学会 評議員 日本血管外科学会評議員 日本血管外科学会広報委員 日本血管外科学会保険委員 日本脈管学会 評議員 血管外科症例検討会幹事 カリフォルニア大学サンジエゴ校胸部心臓血管外科フェロー 日本循環器学会ガイドライン作成班員（静脈血栓塞栓症） 日本循環器学会ガイドライン作成協力員 閉塞性動脈硬化症 日本静脈学会下肢静脈瘤血管内焼灼術ガイドライン委員 日本フットケア足病ガイドライン班員 日本医療安全調査機構専門急性肺血栓塞栓症専門分析部会員 日本心臓血管外科専門医認定機構専門医・指導医 日本胸部外科学会認定医 日本外科指導医・専門医・認定医

橋山 直樹：日本心臓血管外科専門医認定機構専門医・指導医 日本胸部外科学会 認定医 日本外科学会指導医・専門医・認定医 日本脈管学会 脈管学会指導医・専門医 下肢静脈瘤血管内治療認定医

輕部 義久：日本外科学会 専門医・指導医 日本胸部外科学会 認定医 心臓血管外科専門医・修練指導医 日本血管外科学会 血管内治療医 胸部・腹部ステントグラフト実施医・指導医 経カテーテルの大動脈弁置換術実施医・指導医 臨床研修指導医 下肢静脈瘤血管内治療認定医 大動脈ステントグラフト研究会 世話人

阿賀健一郎：日本脈管学会 脈管専門医

皮膚科

廣門未知子：日本皮膚科学会専門医 日本アレルギー学会専門医 横浜市立大学医学部皮膚科非常勤講師

菱沼 千尋：日本皮膚科学会会員

産婦人科

永田 智子：横浜市立大学医学部産婦人科臨床准教授 横浜市立大学医学部産婦人科非常勤講師 日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本内分科学会内分泌代謝科（産婦人科）専門医 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 マンモグラフィ読影認定医 思春期学会代議員 日本女性医学学会女性ヘルスケア暫定指導医 母体保護法指定医 難病指定医（神奈川県） 関東学院大学非常勤講師 神奈川県立衛生看護専門学校助産師科非常勤講師 新生児蘇生法一次コースインストラクター

古野 敦子：日本産科婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 癌治療認定医 婦人科腫瘍専門医

松崎結花里：日本産科婦人科学会専門医 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医

橋本 彩紗：日本産科婦人科学会専門医 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医

宮本 麻美：日本産科婦人科学会専門医

佐藤 理穂：日本産科婦人科学会専門医

清瀬 愛：日本産科婦人科学会専門医

荒川 聡美：医員

越後貫 優：医員

耳鼻咽喉科

松本 悠：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医 緩和ケア研修会修了

古川 俊：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医 緩和ケア研修会修了

松下祐希子：緩和ケア研修会修了

朝比奈光暉：緩和ケア研修会修了

歯科口腔外科

加藤 智弘：日本口腔外科学会認定医 日本有病者歯科医療学会認定医・専門医 歯科臨床研修指導医 神奈川県口腔癌検診協力医 口腔外科の会 幹事 神奈川歯科大学大学院 神経組織発生学講座 特任講師 日本歯科大学附属病院 臨床講師 関東ラグビーフットボール協会メディカル委員会歯科委員 神奈川県ラグビーフットボール協会医務委員会委員 日

本サッカー協会公認D級指導者 日本サッカー協会4級審判員

大村 雄介：日本口腔外科学会認定医

武田 祥治：日本口腔外科学会認定医

麻酔科

渡邊 至：横浜市立大学医学部麻酔科客員教授 日本麻酔科学会麻酔科指導医・評議員 日本区域麻酔学会指導医・評議員 日本ポイントオブケア超音波学会理事 European Diploma in Regional Anesthesia & Acute Pain Management (EDRA)

刈谷 隆之：日本麻酔科学会麻酔科指導医

柳 大介：日本麻酔科学会麻酔科指導医

小林 憲弥：日本麻酔科学会麻酔科専門医

横山 千咲：日本麻酔科学会麻酔科専門医

佐藤 茜：日本麻酔科学会麻酔科専門医

山内 朋子：日本麻酔科学会麻酔科専門医

閻 碩：日本麻酔科学会麻酔科認定医

望月 友樹：横浜市立大学附属病院シニア・レジデント

佐藤 滯令：横浜市立大学附属病院シニア・レジデント

萩原 祐里：横浜市立大学附属病院シニア・レジデント

中島 聖太：横浜市立大学附属病院シニア・レジデント

釧持 清花：横浜市立大学附属病院シニア・レジデント

大山 真弥：横浜市立大学附属病院シニア・レジデント

リハビリテーション科

石渡のり子：3学会合同呼吸療法認定士

栗田 健：日本理学療法士協会登録理学療法士 日本理学療法士協会運動器専門理学療法士 日本理学療法士協会スポーツ理学療法専門理学療法士 神奈川県理学療法士協会学術局学術誌編集部 査読係員 運動器の健康・日本協会成長期スポーツ障害予防講習会理学療法講師 横浜南共済スポーツ整形外科研究会 世話人 日本スポーツ医学検定機構 Medical Advisory Board

日野原 晃：日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士 心不全療養指導士

小野 元揮：神奈川県立保健福祉大学非常勤講師 日本理学療法士協会登録理学療法士 日本理学療法士協会運動器専門理学療法士 日本理学療法士協会スポーツ理学療法専門理学療法士 神奈川県理学療法士会競技スポーツ支援部副部長 横浜野球肘検診推進協議会 日本スポーツ医学検定機構 Medical Advisory Board 特定非営利活動法人神奈川スポーツメディカルサポート理事

吉田 典史：心臓リハビリテーション指導士 AHA BLS インストラクター 日本DMAT 隊員 心電図検定3級 心不全療養指導士

吉岡 毅：日本理学療法士協会登録理学療法士 3学会合同呼吸療法認定士

鈴木真理子：日本理学療法士協会登録理学療法士 福祉住環境コーディネーター2級 心臓リハビリテーション指導士

木元 貴之：日本理学療法士協会登録理学療法士 日本理学療法士協会スポーツ理学療法認定理学療法士 ナショナルストレンクス&コンディショニング協会認定ストレンクス&コンディショニングスペシャリスト (NSCA-CSCS) 3学会合同呼吸療法認定士

内倉 大貴：3学会合同呼吸療法認定士

小松 留美：3学会合同呼吸療法認定士

中西理佐子：神奈川県作業療法士会学術部査読委員 日本リウマチ財団認定作業療法士 リウマチリハケア研究会世話人

河野美有紀：横浜失語症友の会支援 ST 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会世話人

森 麻美子：公認心理師 社会福祉士 日本言語聴覚士協会認定言語聴覚士 (失語・高次脳機能障害領域) 臨床神経心理士 LSVT® LOUD 認定療法士 日本メロディックイントネーションセラピー協会 (日本MIT協会) 認定資格 MIT トレーナー

救急科

森 浩介：日本救急医学会専門医 日本救急医学会関東地方会幹事 日本DMAT 隊員 神奈川DMAT-L 隊員 ICLS コースインストラクター

松本 順：日本救急医学会専門医 日本救急医学会関東地方会幹事 日本DMAT 隊員 ICLS コース 指導者養成 WS ディレクター JPTEC インストラクター

大矢あいみ：日本救急医学会専門医 神奈川DMAT-L 隊員

岸本 勇将：日本内科学会認定内科医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会専門医 神奈川DMAT-L 隊員 MCLS プロバイ

ダー

菊池 優志：日本救急医学会専門医 日本DMAT 隊員 ICLS コースインストラクター

野崎祐希里：日本救急医学会専門医 神奈川 DMAT-L 隊員

山本 翔太：なし

放射線科

【医師】

萩原 浩明：日本医学放射線学会放射線診断専門医 日本核医学会専門医 PET 核医学認定医 検診マンモグラフィ読影認定医師
小田急カンファレンス代表実務者 横浜市医師会横浜放射線医学会理事

金野 義紀：第 1 種放射線取扱主任者 日本医学放射線学会専門医 日本医学放射線学会認定医学物理士 日本核医学会専門医
PET 核医学認定医 日本ハイパーサーミア学会認定医 日本医師会認定産業医 介護支援専門員 横浜市医師会横浜
放射線医学会副会長 横浜市医師会学術研修専門部会部員 神奈川県立衛生看護専門学校放射線科非常勤講師 横須賀
三浦らせんCT 研究会世話人 情報セキュリティアドミニストレータ 初級システムアドミニストレータ 基本情報技
術者 NTT ドットコムマスターダブルスター 医療情報技師

久保田昭彦：日本医学放射線学会放射線診断専門医

安田 尚史：日本専門医機構認定放射線科診断専門医 検診マンモグラフィ読影認定医師

込田みどり：日本専門医機構認定放射線科専門医

竹内 結花：検診マンモグラフィ読影認定医師

【放射線技師】

津久井達人：神奈川県放射線技師会編集理事・委員長 神奈川県放射線技師会広報理事・委員長 神奈川県放射線技師会公益事業
検討委員 神奈川県医療専門職連合会代議員 横須賀・三浦放射線技師会担当理事 共済医報査読委員 日本放射線
技師会代議員

中島 義人：横浜市安全管理士放射線部会委員 横須賀三浦 MR 研究会世話人 横浜南部地区放射線技師会副会長 神奈川県放射線
技師会代議員

小笠原 純：AI 認定診療放射線技師 横須賀三浦らせん CT 研究会世話人

玉村 隆行：横須賀三浦放射線技師会 NAS チーム

向瀬友喜夫：放射線治療専門放射線技師

平林 公二：胃がん検診専門認定技師

打田 繁範：第一種放射線取扱主任者 放射線管理士 放射線機器管理士

廣寄 智英：横須賀三浦放射線技師会広報理事 放射線治療専門放射線技師 放射線管理士

高橋 尚己：横須賀三浦 MR 研究会世話人

池谷 篤：第一種放射線取扱主任者 AI 認定診療放射線技師

本田 幸一：CT 認定技師

西條 美里：検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師 デジタルマンモ品質管理認定 神奈川乳房画像研究会世話人 日本乳がん
検診学会

長川奈津美：検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師

南 広哲：CT 認定技師 放射線管理士 放射線機器管理士 日本上級磁気共鳴 (MRI) 専門技術者 MRI 創意工夫懇話会世話人
神奈川 GE MR User's Meeting 代表世話人 Body MRI 技術研究会世話人 GE DWIBS 研究会副代表 横浜南部地区放射
線技師会学術理事 神奈川 MRI 技術研究会事務局兼広報兼監査

磯野 裕太：放射線管理士 放射線機器管理士 第一種放射線取扱主任者 日本磁気共鳴 (MRI) 専門技術者 横須賀三浦放射線技
師会 NAS チーム 神奈川県放射線技師会横浜南部地区地区委員

大嶋 理沙：検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師 デジタルマンモ品質管理認定 神奈川県放射線技師会総務委員

石丸 雄太：第一種放射線取扱主任者 放射線管理士 放射線機器管理士

長谷川英夫：放射線管理士 放射線機器管理士 横須賀三浦放射線技師会福利理事

阿部 澄絵：検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師

佐川 誠：第一種放射線取扱主任者 医学物理士認定 放射線治療品質管理士

塚原菜々美：検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師

緩和と支持療法科

馬渡 弘典：日本緩和医療学会緩和医療指導医 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会認定消化器病専門医 日本緩和医療
学会 代議員 日本緩和医療学会 ガイドライン統括委員会 委員 日本緩和医療学会 がん疼痛薬物療法ガイドライン
改訂 WPG 員長 日本緩和医療学会 輸液ガイドライン改訂 WPG 員 日本緩和医療学会 専門家をめざす人のための緩和
と医療学 WPG WPG 員 日本がんサポーターブケア学会 痛み部会員 日本 IVR 学会 CT ガイド下内臓神経ブロックガ

イドライン作成グループ委員 「かながわ緩和ケア医キャリアパス説明会」実行委員会 代表幹事 Palliative care Investigators NetworK (PINK) 世話人 がん疼痛マネジメント研究会世話人 神奈川県緩和医療研究会世話人 神奈川県ホスピス緩和ケア交流会世話人 臨床研修指導医講習会修了 緩和ケア研修会修了 緩和ケアの基本教育に関する指導医研修会修了 コミュニケーション技術研修会修了

榎山 正人：日本緩和医療学会緩和医療専門医 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 内視鏡外科技術認定医 緩和ケア研修会修了 緩和ケアの基本教育に関する指導医研修会修了 臨床研修指導医講習会修了

長尾 茂輝：日本内科学会認定内科医 日本血液学会認定血液専門医 緩和ケア研修会修了 緩和ケアの基本教育に関する指導医研修会修了

ICU/CCU室

關野 長昭：日本専門医機構認定麻酔科指導医・専門医 麻酔科標榜医 日本専門医機構認定集中治療専門医 日本救急医学会専門医 横浜市救命指導医 日本救急医学会インфекションコントロールドクター (ICD) 日本体育協会認定スポーツドクター JATEC インストラクター ICLS インストラクター MCLS インストラクター AHA ACLS/BLS インストラクター 日本 DMAT 隊員 統括 DMAT DMAT ロジスティックチーム YMAT 登録医師 医療研修財団臨床研修指導医養成講習会終了/プログラム責任者養成講習会終了

臨床検査科

住友みどり：保険医 認定内科医 呼吸器専門医 アレルギー専門医 感染症専門医 感染症指導医 ICD 気管支鏡専門医 抗菌化学療法指導医 臨床検査専門医 臨床検査管理医 難病指導医 臨床研修指導医 横浜市立大学医学部呼吸器病学客員講師

佐藤真由美：認定臨床化学者 二級臨床検査士(臨床化学、微生物) 厚労省精度管理責任者 臨地実習指導者 神奈川県立衛生看護学校非常勤講師

松井 浩之：超音波検査士(消化器、表在) JHRS 認定心電図専門士 心電図検定1級 医療安全管理者研修修了

鈴木 圭子：有機溶剤取り扱い業務従事者労働衛生教育終了

斎藤美菜子：認定分析機器・試薬アナリスト 認定臨床化学・免疫化学精度管理保証管理検査技師

原 優子：認定輸血検査技師 超音波検査士(表在) 心電図検定1級 医療安全管理者研修修了

宮前 香織：糖尿病療養指導士 認定一般検査技師 腎臓病単位履修終了検査技師 神奈川県臨床検査技師会横浜Ⅱ地区代表

中村美奈子：超音波検査士(表在、消化器) 心電図検定2級

西島 渚：超音波検査士(心臓、表在) JHRS 認定心電図専門士 心電図検定1級

草刈 翔：超音波検査士(心臓) JHRS 認定心電図専門士 血管診療技師 AHA BLS インストラクター BLS プロバイダー ICLS 心電図検定1級

龍 紘一朗：超音波検査士(心臓、消化器) JHRS 認定心電図専門士 二級臨床検査士(循環生理学) 心電図検定1級

西田 祐子：二級臨床検査士(微生物学)

小山 郁子：緊急臨床検査士 二級臨床検査士(微生物学)

東野麻衣子：POCT 測定認定士 緊急臨床検査士 二級臨床検査士(微生物学、呼吸生理学) 心電図検定1級

高梨 丈治：毒物劇物取扱責任者

山口真裕子：緊急臨床検査士 二級臨床検査士(微生物学)

菅原 拓也：二級臨床検査士(微生物学)

市川かおり：緊急臨床検査士 二級臨床検査士(微生物学) 心電図検定3級

宮澤 佑衣：血管診療技師 心電図検定1級 BLS インストラクター 心電図検定1級

松尾 崇史：緊急臨床検査士 二級臨床検査士(臨床化学) 心電図検定1級 神奈川県臨床検査技師会生物化学分析検査研究班委員

中丸 歌澄：緊急臨床検査士 二級臨床検査士(血液) 心電図検定3級 有機溶剤取り扱い業務従事者労働衛生教育終了

佐藤 雅樹：有機溶剤取り扱い業務従事者労働衛生教育終了

三好 菜摘：二級臨床検査士(微生物学) 遺伝子分析科学認定師初級

江口 康喜：二級臨床検査士(血液)

新田 龍人：二級臨床検査士(呼吸生理学) 血管診療技師 心電図検定1級

横内 花香：心電図検定3級

溝井 莉奈：心電図検定3級

小野 成幸：POCT 測定認定士

加藤 菜佳：心電図検定2級

佐藤 緑：二級臨床検査士(血液)

川名 順子：二級臨床検査士(臨床化学)

佐久間初代：認定輸血検査技師

病理診断科

河野 尚美：死体解剖資格認定医 日本病理学会専門医 日本病理学会学術評議員 日本病理専門医研修指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医

小嶋 結：死体解剖資格認定医 日本病理学会専門医 日本臨床細胞学会細胞診専門医

今井 宏樹：細胞検査士 国際細胞検査士 認定病理検査技師 二級臨床検査士（病理学） 特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 神奈川臨床細胞学会幹事 神奈川県細胞検査士会会長

小山 剛司：細胞検査士 国際細胞検査士

中野 睦子：細胞検査士 国際細胞検査士

牧野 純：細胞検査士 国際細胞検査士 有機溶剤作業主任者

野崎 真仁：細胞検査士 国際細胞検査士 認定病理検査技師 特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 有機溶剤作業主任者 上級バイオ技術者 二級臨床検査士（病理学） 遺伝子分析科学認定士（初級） 第Ⅱ種上級雇用環境整備士（障害者雇用） 毒物劇物取扱者（種別：一般） 危険物取扱者（甲種） 労務管理士（一級） 神奈川県臨床検査技師会細胞検査研究班班員

毛利かれん：細胞検査士 国際細胞検査士 二級臨床検査士（病理学） 特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者

石田 瑠菜：細胞検査士

ME科

藤田 勇人：体外循環技術認定士 呼吸療法認定士 神奈川県臨床工学技士会公益委員会委員 神奈川県臨床工学技士会横須賀三浦地区取り纏め役 神奈川県臨床工学技士会組織委員会委員

小澤 紀子：体外循環技術認定士 呼吸療法認定士 日本アフェリシス学会認定技士 透析技術認定士

横松 温子：呼吸療法認定士 透析技術認定士 臨床ME 専門認定士

志村 貴之：呼吸療法認定士 日本アフェリシス学会認定技士 透析技術認定士 日本急性血液浄化学会認定指導者 不整脈治療専門臨床工学技士 横浜市立病院等安全管理者会議臨床工学部会委員 認定集中治療関連臨床工学技士

竹内 寛志：不整脈治療専門臨床工学技士 体外循環技術認定士

瀧澤 龍太：血液浄化関連専門臨床工学技士 認定集中治療関連臨床工学技士

紺野 光鶴：呼吸療法認定士 透析技術認定士

竹重 建吾：臨床ME 専門認定士 不整脈治療専門臨床工学技士

栄養科

井上 温：日本臨床栄養代謝学会認定 NST 専門療法士

伊藤 豊高：日本臨床栄養代謝学会認定 NST 専門療法士

島根 優子：日本臨床栄養代謝学会認定 NST 専門療法士

徳島 真弓：日本臨床栄養代謝学会認定 NST 専門療法士 日本腎臓病協会認定 腎臓病療養指導士

炭谷 裕美：日本臨床栄養代謝学会認定 NST 専門療法士 日本糖尿病療養指導士認定機構認定 糖尿病療養指導士

大里 繭子：日本臨床栄養代謝学会認定 NST 専門療法士 日本病態栄養学会認定病態栄養専門管理栄養士 日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士

北園 晶子：日本病態栄養学会認定病態栄養専門管理栄養士 日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士

飯野 悠：日本病態栄養学会認定病態栄養専門管理栄養士

米田 早希：日本臨床栄養代謝学会認定 NST 専門療法士 日本病態栄養学会認定病態栄養専門管理栄養士 日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士

薬剤科

中島 研：東京理科大学薬学部医療薬学教育研究支援センターアドバイザー 星薬科大学客員講師 東京医療保健大学非常勤講師 日本病院薬剤師会妊婦授乳婦専門薬剤師 日本病院薬剤師会妊婦授乳婦専門薬剤師認定審査委員会委員長 神奈川県病院薬剤師会理事 神奈川県病院薬剤師会専門認定支援委員会副委員長 日本薬剤疫学会治療管理タスクフォース委員 日本病院薬剤師研修センター実務実習指導認定薬剤師 妊婦・授乳婦を対象とした薬の適正使用推進事業妊娠と薬情報センター情報提供ワーキンググループ委員会委員 成育ステートメント検討会委員 RevMate 第三者評価委員会委員

橋口 宏司：日本臨床腫瘍薬学会認定 外来がん治療認定薬剤師 日本医療情報学会認定 医療情報技師 日本病院薬剤師会認定 病院薬学認定薬剤師 日本病院薬剤師会認定 医療薬学専門薬剤師（暫定） 日本臨床腫瘍薬学会認定制度委員会技能評価小委員会副委員長 日本臨床腫瘍薬学会がんゲノム医療ワーキンググループ委員 日本臨床腫瘍薬学会 ISOPP Standards 翻訳ワーキンググループ委員 日本臨床腫瘍薬学会 Web セミナー検討ワーキンググループアドバイザー 神奈川県病院薬剤師会専門・認定薬剤師養成支援特別委員会委員 Japan TeamOncology Program (J-TOP) チューター 神

奈川県がん診療連携協議会がん薬物療法部会部会員 日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師事例査読委員 よこはま乳がん学校運営委員 神奈川乳腺疾患懇話会世話人 神奈川乳癌治療研究会会員 かながわ乳がん市民フォーラム実行委員 神奈川がん薬物療法・専門薬剤師ワークショップチューター アフラック キャンサーエコシステムにおけるエンゲージメント研究会委員

鈴木 良江：日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師 神奈川糖尿病療養指導士 日本薬剤師研修センター認定薬剤師 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本病院薬剤師研修センター実務実習指導認定薬剤師

篠田 聡：日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師 日本病院薬剤師会認定病院薬学認定薬剤師 日本薬剤師研修センター認定薬剤師 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本病院会主催（厚生労働省後援）感染制御スタッフ（ICS）神奈川 DMAT-L 隊員 防災トイレアドバイザー（日本トイレ研究所）

佐藤 剛：日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム専門療法士 日本臨床栄養代謝学会 臨床栄養代謝専門療法士（腎疾患専門療法士）

岩崎 正宏：日本薬剤師研修センター認定薬剤師 日本臨床栄養代謝学会 栄養サポート専門療法士 神奈川 DMAT-L 隊員

仁平 匡俊：日本薬剤師研修センター認定薬剤師 神奈川糖尿病療養指導士 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 日本病院薬剤師会認定病院薬学認定薬剤師 日本アンチ・ドーピング機構公認スポーツファーマシスト 日本臨床栄養代謝学会栄養サポート専門療法士 横浜 DeNA ベイスターズ薬剤サポート

横山 敦：日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師 日本病院薬剤師認定薬病院薬学認定薬剤師 日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師 日本臨床腫瘍薬学会認定制度委員会資格審査小委員会委員 神奈川県病院薬剤師会専門認定支援委員会委員補佐 神奈川 DMAT-L 隊員

大津 楓：日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

鈴木 隆之：神奈川県糖尿病療養指導研究会 幹事

原田 優：日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師

池田 莉帆：日本アンチ・ドーピング機構公認スポーツファーマシスト 横浜 DeNA ベイスターズ薬剤サポート

久下 柊子：日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師

眞崎紗也加：日本アンチ・ドーピング機構公認スポーツファーマシスト

医療社会福祉相談室

玉村 江里：日本医療ソーシャルワーカー協会会員

桑原 利華：日本医療ソーシャルワーカー協会会員

長瀬 彩子：日本医療ソーシャルワーカー協会会員 日本社会福祉学会会員 日本保健医療社会福祉学会会員

山田 哲也：日本医療ソーシャルワーカー協会会員

臨床研究センター

松本 里美：日本癌治療学会会員 日本癌治療学会認定データマネージャー 東京医科歯科大学 生命倫理研究センター 倫理審査専門職 CReP 日本スポーツ協会 公認スポーツ栄養士（メディカルサイエンス部門）

看護部

石川 敦子：横浜市金沢福祉保健センター介護保険認定審査委員

鈴木 則子：横浜市金沢福祉保健センター介護保険認定審査委員

高橋 悦子：横浜市金沢福祉保健センター介護保険認定審査委員

滝口由起子：横浜市金沢福祉保健センター介護保険認定審査委員

折内奈津江：神奈川県看護協会教育研修委員会委員

三橋 啓太：神奈川県看護協会 神奈川県看護学会運営委員

山中みゆき：神奈川県看護協会支部委員 一般社団法人日本終末期ケア協会アドバイザー

XV 研究業績目録

循環器内科

(学会発表)

国内学会

- 1) 清水雅人
Diagnosis of Left Ventricular Hypertrophy on 12-leads Electrocardiogram by Historical Criterion and Artificial Intelligence
第1回循環器 non deep learning 集談会, Online, 2023年4月12日
- 2) 清水雅人
12誘導心電図の機械学習による左室肥大の診断
心電学関連春季大会 2023, 東京, 2023年4月22日
- 3) 西山夏奈子, 清水雅人, 一色亜美, 木村茂樹, 藤井洋之, 鈴木誠
特異な経過を呈した急性心外膜炎の1例
第686回日本内科学会関東地方会, 東京, 2023年5月20日
- 4) 三須彬生, 藤井洋之, 角田貴大, 清水厚哉, 酒井瑛子, 立石遼, 山口正男, 加藤信孝, 島田博史, 一色亜美, 鈴木秀俊, 清水雅人, 鈴木誠
運動誘発性冠攣縮性狭心症により急性冠症候群を発症した一例
第18回冠攣縮性狭心症研究会学術集会, 東京, 2023年6月9日
- 5) 清水雅人, 鈴木誠, 笹野哲郎
12誘導心電図の機械学習による冠動脈多枝攣縮性狭心症の予測
第5回日本メディカルAI学会学術集会, 東京, 2023年6月17日
- 6) 三須彬生, 角田貴大, 清水厚哉, 酒井瑛子, 立石遼, 山口正男, 加藤信孝, 島田博史, 一色亜美, 鈴木秀俊, 清水雅人, 藤井洋之, 鈴木誠
ステージBでのARNIの臨床応用を考える
Cardiology Seminar for TMDU in Kanagawa, 横浜, 2023年6月26日
- 7) 一色亜美, 清水雅人, 角田貴大, 三須彬生, 立石遼, 山口正男, 加藤信孝, 島田博史, 藤井洋之, 鈴木誠
Prognostic value of machine learning on 12-leads ECG in patients with ventricular pacing after pacemaker implantation
第69回日本不整脈心電学会総会・学術集会, 札幌, 2023年7月7日
- 8) 清水雅人, 角田貴大, 宮崎紘子, 三須彬生, 立石遼, 山口正男, 山上洋介, 加藤信孝, 島田博史, 一色亜美, 木村茂樹, 藤井洋之, 鈴木誠, 西崎光弘, 笹野哲郎
Diagnostic performance of machine learning on 12-lead electrocardiogram for predicting multi-vessel coronary vasospastic angina
第69回日本不整脈心電学会総会・学術集会, 札幌, 2023年7月7日
- 9) Nobutaka Kato, Masato Shimizu, Takahiro Tsunoda, Hiroko Miyazaki, Yoshiki Misu, Ryo Tateishi, Yosuke Yamakami, Masao Yamaguchi, Hiroshi Shimada, Ami Isshiki, Shigeki Kimura, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki
Usefulness of clustering by artificial intelligence in predicting recurrence of atrial fibrillation after pulmonary vein isolation
第69回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2023年7月8日
- 10) Ryo Tateishi, Masato Shimizu, Hiroshi Shimada, Takahiro Tsunoda, Hiroko Miyazaki, Yoshiki Misu, Yosuke Yamakami, Masao Yamaguchi, Nobutaka Kato, Ami Isshiki, Shigeki Kimura, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki, Mitsuhiro Nishizaki, Tetsuo Sasano
Risk prediction of inappropriate implantable cardioverter-defibrillator therapy using machine learning
(Young Investigator Award グランプリ受賞)
第69回日本不整脈心電学会学術大会, 札幌, 2023年7月8日
- 11) 清水雅人
心不全 small data で何が出来るか ~ Non deep learning 機械学習 ~
第3回お茶の水循環器AI研究会, 東京 (online), 2023年7月12日
- 12) 清水厚哉, 清水雅人, 角田貴大, 酒井瑛子, 三須彬生, 立石遼, 山口正男, 加藤信孝, 島田博史, 鈴木秀俊, 一色亜美, 藤井洋之, 鈴木誠, 西崎光弘, 笹野哲郎
急性期に生じた完全房室ブロックが軽快したたこつぼ症候群の1例
第13回失神研究会, Online, 2023年7月22日
- 13) Yoshiki Misu, Masao Yamaguchi, Takahiro Tsunoda, Atsuya Shimizu, Akiko Sakai, Ryo Tateishi, Nobutaka Kato, Hiroshi Shimada, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Masato Shimizu, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki, Tetsuo Sasano

- Predictive Value of Machine Learning on Non-culprit Lipid-Rich Plaque in Patients with Acute Coronary Syndrome
第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 福岡, 2023 年 8 月 5 日
- 14) Masao Yamaguchi, Takahiro Tsunoda, Atsuya Shimizu, Eiko Sakai, Yoshiki Misu, Ryo Tateishi, Hiroshi Shimada, Nobutaka Kato, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Masato Shimizu, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki
Predictive Value of Machine Learning on Coronary Computed Tomography Angiography for Near-infrared Spectroscopy-Defined Lipid Rich Plaque
第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 福岡, 2023 年 8 月 4-6 日
- 15) Hiroyuki Fujii, Takahiro Tsunoda, Atsuya Shimizu, Akiko Sakai, Yoshiki Misu, Ryo Tateishi, Masao Yamaguchi, Nobutaka Kato, Hiroshi Shimada, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Masato Shimizu, Makoto Suzuki, Tetsuo Sasano
Correlation between arrhythmogenesis and microvascular dysfunction in coronary spastic angina
第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 福岡, 2023 年 8 月 5 日
- 16) 酒井瑛子, 島田博史, 角田貴大, 清水厚哉, 三須彬生, 立石遼, 山口正男, 加藤信孝, 一色亜美, 鈴木秀俊, 清水雅人, 藤井洋之, 鈴木誠
植え込み後 40 年以上経過したペースメーカーリードを経静脈的に抜去しえた一例
第 269 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2023 年 9 月 2 日
- 17) 林珠理, 清水雅人, 三須彬生, 一色亜美, 鈴木秀俊, 藤井洋之, 鈴木誠
運動誘発性冠攣縮性狭心症により急性心筋梗塞を発症した 1 例
第 689 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2023 年 9 月 16 日
- 18) 清水厚哉, 山口正男, 角田大貴, 酒井瑛子, 三須彬生, 立石遼, 島田博史, 加藤信孝, 一色亜美, 鈴木秀俊, 清水雅人, 藤井洋之, 鈴木誠, 笹野哲郎
大動脈内視鏡で不安定プラークを認めていた急性心筋梗塞の 1 例
第 20 回関東血管内視鏡研究会, 東京, 2023 年 9 月 16 日
- 19) 清水雅人, 鈴木誠, 笹野哲郎
Risk Stratification by Artificial Intelligence Clustering on Initial Clinical Data in Patients with Acute Heart Failure
第 27 回日本心不全学会学術集会, 横浜, 2023 年 10 月 7 日
- 20) 清水厚哉, 山口正男, 角田貴大, 酒井瑛子, 三須彬生, 立石遼, 島田博史, 加藤信孝, 一色亜美, 鈴木秀俊, 清水雅人, 藤井洋之, 鈴木誠, 笹野哲郎
9 年前に施行した大動脈内視鏡で Vulnerable plaque を認めた急性心筋梗塞の 1 例
第 62 回日本インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 東京, 2023 年 10 月 13-14 日
- 21) 三須彬生, 角田貴大, 清水厚哉, 酒井瑛子, 立石遼, 山口正男, 加藤信孝, 島田博史, 一色亜美, 鈴木秀俊, 清水雅人, 藤井洋之, 鈴木誠
循環器内科医が診る睡眠時無呼吸症候群
横浜南部心不全医療連携セミナー, 横浜, 2023 年 11 月 8 日
- 22) 加藤信孝, 立石遼, 島田博史, 一色亜美, 鈴木誠, 西崎光弘, 笹野哲郎
2 種類のクライオバルーンにおける左房天蓋部線状アブレーションの効果について
カテーテルアブレーション関連秋季大会 2023, 福岡, 2023 年 11 月 18 日
- 23) 立石 遼, 加藤 信孝, 島田 博史, 鈴木 誠, 角田 貴大, 酒井 瑛子, 清水 厚哉, 三須 彬生, 山口 正男, 一色 亜美, 鈴木 秀俊, 清水 雅人, 藤井 洋之, 西崎 光弘, 笹野 哲郎
Cryoballoon ablation における Perclose™ ProStyle™ と 8 の字縫合を併用した止血の有用性の検証
カテーテルアブレーション関連秋季大会 2023, 福岡, 2023 年 11 月 18 日
- 24) 三須彬生, 角田貴大, 清水厚哉, 酒井瑛子, 立石遼, 山口正男, 加藤信孝, 島田博史, 一色亜美, 鈴木秀俊, 清水雅人, 藤井洋之, 鈴木誠
「心臓病について」
市民公開講座, 横浜, 2023 年 11 月 29 日
- 25) 角田貴大, 清水雅人, 他
乳頭筋, 腱索原発と考えられた粘液腫の一例
第 270 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2023 年 12 月 16 日
- 26) 酒井瑛子, 加藤信孝, 角田貴大, 清水厚哉, 三須彬生, 立石遼, 山口正男, 島田博史, 一色亜美, 鈴木秀俊, 清水雅人, 藤井洋之, 鈴木誠
嚥下誘発性心房頻拍をトリガーとした発作性上室性頻拍により失神発作をきたした一例
(Case Report Award 最優秀賞受賞)

- 第 270 回日本循環器学会関東甲信越地方会，東京，2023 年 12 月 16 日
- 27) 立石 遼，島田 博史，加藤 信孝，鈴木 誠，西崎 光弘，笹野 哲郎
Octaray を用いて特発性左室起源心室頻拍の P2 最早期部位を観察し得た 1 例
第 36 回臨床不整脈研究会，東京，2024 年 1 月 13 日
- 28) 酒井 瑛子，島田 博史，角田 貴大，清水 厚哉，三須 彬生，立石 遼，山口 正男，加藤 信孝，一色 亜美，鈴木 秀俊，清水 雅人，藤井 洋之，鈴木 誠
40 年以上経過し感染したペースメーカーリードを経静脈的に抜去しえた一例
第 16 回植込みデバイス関連冬季大会，広島，2024 年 2 月 9-10 日
- 29) 紺野 南帆，清水 雅人，他
Noninfective Endocarditis: Vegetation Expansion and Shrinkage in Conjunction with State of Ovarian Cancer
第 88 回日本循環器学会学術集会，神戸，2024 年 3 月 8 日
- 30) 山本 航，山口 正男，他
Assessment of coronary physiology in a patient with takotsubo cardiomyopathy
第 88 回日本循環器学会学術集会，神戸，2024 年 3 月 8 日
- 31) 西山 夏奈子，清水 雅人，他
A Case of Acute Pericarditis with an Atypical Course
第 88 回日本循環器学会学術集会，神戸，2024 年 3 月 10 日
- 32) Eiko Sakai, Masato Shimizu, Takahiro Tsunoda, Atsuya Shimizu, Yoshiki Misu, Ryo Tateishi, Masao Yamaguchi, Nobutaka Kato, Hiroshi Shimada, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki
Prognostic Value of Bayesian Network Based Score on Dual-Isotope Myocardial SPECT in Patients with Congestive Heart failure
第 88 回日本循環器学会学術集会，神戸，2024 年 3 月 10 日
- 33) 一色 亜美，清水 雅人，他
Prognostic Value of Bayesian Network Based Score on 12-leads Electrocardiogram in Patients with Ventricular Pacing after Pacemaker Implantation
第 88 回日本循環器学会学術集会，神戸，2024 年 3 月 9 日
- 34) 角田 貴大，清水 雅人，他
Prognostic Value of Artificial Intelligence Clustering on 12-leads Electrocardiogram in Patients with Low Left Ventricular Ejection Fraction
第 88 回日本循環器学会学術集会，神戸，2024 年 3 月 9 日
- 35) 清水 雅人，他
Prognostic Value of Bayesian Network Based Score for Pulmonary Hypertension with Preserved Left Ventricular Ejection Fraction
第 88 回日本循環器学会学術集会，神戸，2024 年 3 月 10 日
- 36) 清水 雅人，他
Prognostic Value of Bayesian Network Based Score on Ultrasound Echocardiography for Prognosis of Patients with Low Left Ventricular Ejection Fraction
第 88 回日本循環器学会学術集会，神戸，2024 年 3 月 10 日
- 37) Atsuya Shimizu, Masato Shimizu, Takahiro Tsunoda, Eiko Sakai, Yoshiki Misu, Ryo Tateishi, Masao Yamaguchi, Hiroshi Shimada, Nobutaka Kato, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki, Tetsuo Sasano
Machine Learning on Ultrasound Echocardiographic Parameters for Predicting Prognosis in Patients with Aortic Valve Regurgitation
第 88 回日本循環器学会学術集会，神戸，2024 年 3 月 10 日
- 38) Hiroyuki Fujii, Takahiro Tsunoda, Atsuya Shimizu, Akiko Sakai, Yoshiki Misu, Ryo Tateishi, Masao Yamaguchi, Nobutaka Kato, Hiroshi Shimada, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Masato Shimizu, Makoto Suzuki, Tetsuo Sasano
Assessment of microcirculation in CSA patients by using dynamic 99mTc SPECT and wire-derived CFR
第 88 回日本循環器学会学術集会，神戸，2024 年 3 月 10 日
- 39) Hiroyuki Fujii, Takahiro Tsunoda, Atsuya Shimizu, Akiko Sakai, Yoshiki Misu, Ryo Tateishi, Masao Yamaguchi, Nobutaka Kato, Hiroshi Shimada, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Masato Shimizu, Makoto Suzuki, Tetsuo Sasano
Arrhythmogenesis in CSA patients in the point of microvascular disturbance by dynamic 99mTc SPECT parameter and wire-derived CFR
第 88 回日本循環器学会学術集会，神戸，2024 年 3 月 10 日
- 40) Ryo Tateishi, Masato Shimizu, Hiroshi Shimada, Takahiro Tsunoda, Atsuya Shimizu, Eiko Sakai, Yoshiki Misu, Masao Yamaguchi, Nobutaka Kato, Ami Isshiki, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki, Mitsuhiro Nishizaki, Tetsuo Sasano

Machine Learning-based Clustering Using 12-lead Electrocardiogram in Implantable Cardioverter-defibrillator Patients to Identify Future Ventricular Arrhythmia

第 88 回日本循環器学会学術集会, 神戸, 2024 年 3 月 9 日

- 41) Masao Yamaguchi, Takahiro Tsunoda, Atsuya Shimizu, Eiko Sakai, Yoshiki Misu, Ryo Tateishi, Hiroshi Shimada, Nobutaka Kato, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Masato Shimizu, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki

Long Term Follow up of Clinical Significance of the Presence of Puff-Chandelier Ruptures detected by Non-obstructive Aortic Angioscopy

第 88 回日本循環器学会学術集会, 神戸, 2024 年 3 月 10 日

- 42) Masao Yamaguchi, Takahiro Tsunoda, Atsuya Shimizu, Eiko Sakai, Yoshiki Misu, Ryo Tateishi, Hiroshi Shimada, Nobutaka Kato, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Masato Shimizu, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki

Predictive Value of Machine Learning on Physiological Assessment for the Poor Prognosis in Patients with Non-Ischemic Lesions

第 88 回日本循環器学会学術集会, 神戸, 2024 年 3 月 8 日

- 43) Masao Yamaguchi, Takahiro Tsunoda, Atsuya Shimizu, Eiko Sakai, Yoshiki Misu, Ryo Tateishi, Hiroshi Shimada, Nobutaka Kato, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Masato Shimizu, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki

Prognostic Value of Clustering by Artificial Intelligence on Physiological Assessment for the Poor Prognosis in Patients with Coronary Artery Disease

第 88 回日本循環器学会学術集会, 神戸, 2024 年 3 月 9 日

- 44) Yoshiki Misu, Masato Shimizu, Tsunoda Takahiro, Atsuya Shimizu, Akiko Sakai, Ryo Tateishi, Masao Yamaguchi, Nobutaka Kato, Hiroshi Shimada, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki, Tetsuo Sasano

Prognostic Value of Artificial Intelligence Clustering in Patients with Mitral Valve Regurgitation

第 88 回日本循環器学会学術集会, 神戸, 2024 年 3 月 8 日

- 45) Nobutaka Kato, Masato Shimizu, et al

Usefulness of clustering by artificial intelligence in patients with atrial fibrillation after Cryoballoon ablation

第 88 回日本循環器学会学術集会, 神戸, 2024 年 3 月 8 日

- 46) 島田博史, 他

The Assessment of the Optimal Timing for Left Atrial Appendage Closure in Atrial Fibrillation Patients

第 88 回日本循環器学会学術集会, 神戸, 2024 年 3 月 10 日

国際学会

- 1) Ryo Tateishi, Masato Shimizu, Hiroshi Shimada, Takahiro Tsunoda, Hiroko Miyazaki, Yoshiki Misu, Yosuke Yamakami, Masao Yamaguchi, Nobutaka Kato, Ami Isshiki, Shigeki Kimura, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki, Mitsuhiro Nishizaki, Tetsuo Sasano

Risk prediction of inappropriate implantable cardioverter-defibrillator therapy using machine learning

European Society of Cardiology (ESC) Congress 2023, Amsterdam, 24 August 2018

- 2) Yoshiki Misu, Masato Shimizu, Tsunoda Takahiro, Atsuya shimizu, Akiko Sakai, Ryo Tateishi, Masao Yamaguchi, Nobutaka Kato, Hiroshi Shimada, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki, Tetsuo Sasano

Comparison of historical criterion and artificial intelligence in patients with left ventricular hypertrophy

European Society of Cardiology (ESC) Congress 2023, Amsterdam, August 25, 2023

- 3) Yoshiki Misu, Masato Shimizu, Tsunoda Takahiro, Atsuya shimizu, Akiko Sakai, Ryo Tateishi, Masao Yamaguchi, Nobutaka Kato, Hiroshi Shimada, Ami Isshiki, Hidetoshi Suzuki, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki, Tetsuo Sasano

Diagnostic performance of machine learning on 12-lead electrocardiogram for predicting multi-vessel coronary vasospastic angina

European Society of Cardiology (ESC) Congress 2023, Amsterdam, August 27, 2023

- 4) Takahiro Tsunoda, Masato Shimizu, et al.

Diagnosis of Left Ventricular Hypertrophy on 12-leads Electrocardiogram by Historical Criterion and Machine Learning Models

American Heart Association (AHA) Congress 2023, Philadelphia, November 12, 2023

- 5) Masato Shimizu, et al.

Diagnostic Performance of Machine Learning on 12-lead Electrocardiogram for Predicting Multi-vessel Coronary Vasospastic Angina

American Heart Association (AHA) Congress 2023. Philadelphia, November 13, 2023

(講演)

- 1) 清水雅人

心不全 small data で何ができるか ~ Non deep learning 機械学習 ~

第 3 回お茶の水循環器 AI 研究会

2023 年 7 月 12 日. 東京 (online)

2) 中村知史・清水雅人
教育セッション I: AI ハンズオン 1 テーブルデータ解析
第 270 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2023 年 12 月 16 日, 東京

3) 鈴木 誠
健康寿命延伸を目指したアクティブシニアに対する早期心不全管理の重要性
第 68 回日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会 2023
心不全と心房細動セミナー, 2023 年 10 月, 福岡

(著 書)

- 1) 鈴木 誠: 今日の臨床サポート 第 4 版「頻拍」2023
- 2) 鈴木 誠: 今日の臨床サポート 第 4 版「不整脈」2023

(論 文)

欧文

- 1) Tateishi R, Suzuki M, Shimizu M, Shimada H, Tsunoda T, Miyazaki H, Misu Y, Yamakami Y, Yamaguchi M, Kato N, Isshiki A, Kimura S, Fujii H, Nishizaki M, Sasano T.
Risk prediction of inappropriate implantable cardioverter-defibrillator therapy using machine learning. Sci Rep. 2023 Nov 9;13(1):19586.
- 2) Shigeki Kimura, Ami Isshiki, Masato Shimizu, Hiroyuki Fujii, Makoto Suzuki.
Clinical Significance of Coronary Healed Plaques in Stable Angina Pectoris Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention Circ J. 2023 Oct; 87(11):1643-53

消 化 器 内 科

(学会発表)

- 1) 安部真蔵、小串勝昭、平松直樹、久米菜緒、石原 鴻、林 智恩、比嘉愛里、塚本 恵、中野間 紘、小柏 剛、濱中 潤、岡 裕之、近藤正晃: 胆嚢癌との鑑別に難渋した黄色肉芽腫性胆嚢炎の 1 例。第 378 回日本消化器病学会関東支部例会 2024.2. 東京
- 2) 石原 鴻、中野間 紘、安部真蔵、平松直樹、久米菜緒、林 智恩、比嘉愛里、塚本 恵、小串勝昭、小柏 剛、濱中 潤、岡 裕之、近藤正晃: 診断に苦慮した胃癌下行結腸転移の 1 例。第 377 回日本消化器病学会関東支部例会 2023.12. 東京
- 3) 林 智恩、近藤正晃、石原 鴻、久米菜緒、塚本 恵、中野間 紘、小柏 剛、濱中 潤、岡 裕之、小泉晴美: 門脈狭窄を合併した肺がん原発の肺腫瘍血栓性微小血管症 (PTTM) の 1 例。第 692 回日本内科学会関東地方会 2023.12. 東京
- 4) 石原 鴻、安部真蔵、平松直樹、久米菜緒、林 智恩、塚本 恵、比嘉愛里、小串勝昭、中野間 紘、小柏 剛、濱中 潤、岡 裕之、近藤正晃: 結核罹患歴のない健常高齢者に発症した結核性腹膜炎の 1 例。第 375 回日本消化器病学会関東支部例会 2023.7. 東京
- 5) 平松直樹、小串勝昭、西郡修平、濱中 潤、近藤正晃: 人間ドッグで偶発的に見つかった総肝動脈仮性動脈瘤の 1 例。第 67 回神奈川県消化器病研究会 2023.7. 横浜

腎 臓 高 血 圧 内 科

(学会発表)

- 1) 星野 薫: 抗 GBM 抗体陽性の ANCA 関連血管炎に対して免疫抑制療法と血漿交換の併用が有効であった 1 例。第 53 回日本腎臓学会東部学術大会, 仙台, 2023, 10.
- 2) 紺野 南帆: Durvalumab による急性間質性腎炎の一例。第 692 回日本内科学会関東地方会, 東京, 2023, 12.

(講演会)

- 1) 春原須美玲: 心不全合併 CKD 患者での ARNI 使用経験。神奈川県腎臓内科領域高血圧 Web Symposium, Web 開催, 2023, 5.
- 2) 北地大祐: 当院におけるエンレストの使用経験からの考察。5th Y-NEXUS, Web 開催, 2023, 10.
- 3) 星野 薫: 当院での HIF-PH 阻害薬の使用状況。横浜南部心腎連携 Web セミナー, Web 開催, 2023, 10.
- 4) 岩野 剛久: 座長、5th Y-NEXUS, Web 開催, 2023, 10
- 5) 岩野 剛久: 座長、第 2 回横浜南部 CKD 診療連携講演会, Web 開催, 2023, 11.
- 6) 岩野 剛久: 腎性貧血 最近の話題。第 5 回 MK 腎臓内科セミナー, Web 開催, 2023, 12.

内 分 泌 代 謝 内 科

(学会発表)

- 1) 「たこつぼ型心筋症を契機に判明した褐色細胞腫の 1 例」

大出 由紀子、橘 幸治、金子 彩乃、三上 佳奈子、山田 摺
国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院 内分泌代謝内科
第 694 回 日本内科学会関東地方会 (2024 年 3 月 16 日)

(論 文)

- 1) Proposed carbohydrate antigen 19-9 (CA19-9) cut-off values for the detection of pancreatic cancer in patients with poorly controlled diabetes: a real-world study.
Taku Yamada, et al.
Endocr J. 2023;70(11):1069-1075.

呼 吸 器 内 科

(学会発表)

- 1) 宮坂篤史、加志崎史大、山田千尋、岡崎俊祐、田中杏奈、金子舞、加濃大貴、湯本健太郎、小泉晴美、高橋健一、金子猛
Osimertinib による薬剤性肺炎後に Gefitinib 投与を行った非小細胞肺癌の 2 例
第 63 回日本呼吸器学会学術集会 東京 2023/4/28
- 2) 山田千尋、加志崎史大、土屋七海、岡崎俊祐、田中杏奈、宮坂篤史、金子舞、加濃大貴、湯本健太郎、陳昊、小泉晴美、高橋健一、亀田洋平、菊池章友、大沢宏至、北地大祐、河野尚美、金子猛
化学放射線療法後の初回 Durvalumab 投与で腎不全に至った一例
第 255 回日本呼吸器学会関東地方会 東京 2023/7/1
- 3) 土屋七海、加志崎史大、岡崎俊祐、山田千尋、宮坂篤史、金子舞、加濃大貴、湯本健太郎、小泉晴美、高橋健一、亀田洋平、菊池章友、大沢宏至、河野尚美
12 年間の画像経過を追跡できた Calcifying fibrous tumor (CFT) of pleura の 1 例
第 256 回日本呼吸器学会関東地方会 東京 2023/9/2
- 4) 坂幸雄、加志崎史大、山田千尋、前川仁孝、山本航、土屋七海、岡崎俊祐、宮坂篤史、小泉晴美、高橋健一
難治性再発気胸を契機に Birt-Hogg-Dube 症候群の診断に至った一例
第 689 回日本内科学会関東地方会 東京 2023/9/16

(論 文)

- 1) KEYNOTE-407: an effective and safe first-line treatment option for metastatic squamous non-small cell lung cancer.
Chen H, Yumoto K, Kashizaki F, Koizumi H, Ikeda I, Horita N, Takahashi K, Kaneko T. *Transl Lung Cancer Res.* 2023 Aug 30;12(8):1830-1833. doi: 10.21037/tlcr-23-271. Epub 2023 Jul 19.
- 2) The Effectiveness and Safety of Long-Term Macrolide Therapy for COPD in Stable Status: A Systematic Review and Meta-Analysis.
Nakamura K, Fujita Y, Chen H, Somekawa K, Kashizaki F, Koizumi H, Takahashi K, Horita N, Hara Y, Muro S, Kaneko T. *Diseases.* 2023 Oct 27;11(4):152. doi: 10.3390/diseases11040152.
- 3) Tailoring Therapeutic Strategies in Non-Small-Cell Lung Cancer: The Role of Genetic Mutations and Programmed Death Ligand-1 Expression in Survival Outcomes.
Kobayashi N, Miura K, Kaneko A, Matsumoto H, Somekawa K, Hirose T, Kajita Y, Tanaka A, Teranishi S, Sairenji Y, Kawashima H, Yumoto K, Tsukahara T, Fukuda N, Nishihira R, Kudo M, Miyazawa N, Kaneko T. *Cancers (Basel).* 2023 Oct 31;15(21):5248. doi: 10.3390/cancers15215248.
- 4) The Complex Interaction between Proton Pump Inhibitors and Cancer Treatment.
Chen H, Kondo M, Horita N, Takahashi K, Kaneko T. *Cancers (Basel).* 2023 Nov 9;15(22):5346. doi: 10.3390/cancers15225346.
- 5) Safety of Readministration of EGFR-TKI After Onset of Interstitial Lung Disease in Advanced EGFR-Mutated NSCLC: A Systematic Review and Meta-Analysis.
Kashizaki F, Chen H, Miyasaka A, Tsuchiya N, Yamada C, Okazaki S, Kaneko M, Kano T, Kameda Y, Kikuchi A, Yumoto K, Osawa H, Koizumi H, Takahashi K, Kaneko T. *Clin Lung Cancer.* 2024 Jan;25(1):e52-e57.e2. doi: 10.1016/j.clcc.2023.09.009.
- 6) Hemodialysis requirement after the first dose of durvalumab following chemoradiation therapy: a case report.
Yamada C, Kashizaki F, Kaneko M, Kitaji D, Kawano N, Kaneko T. *Anticancer Drugs.* 2024 Feb 1;35(2):199-202. doi: 10.1097/CAD.0000000000001544. Epub 2023 Nov 11.

血 液 内 科

(論 文)

- 1) Mutational analysis of DNMT3A improves the prognostic stratification of patients with acute myeloid leukemia.
Wakita S, Marumo A, Morita K, Kako S, Toya T, Najima Y, Doki N, Kanda J, Kuroda J, Mori S, Satake A, Usuki K, Ueki T, Uoshima

N, Kobayashi Y, Kawata E, Nakayama K, Nagao Y, Shono K, Shibusawa M, Tadokoro J, Hagihara M, Uchiyama H, Uchida N, Kubota Y, Kimura S, Nagoshi H, Ichinohe T, Kurosawa S, Motomura S, Hashimoto A, Muto H, Sato E, Ogata M, Mitsuhashi K, Ando J, Tashiro H, Sakaguchi M, Yui S, Arai K, Kitano T, Miyata M, Arai H, Kanda M, Itabashi K, Fukuda T, Kanda Y, Yamaguchi H.

Cancer Sci. 2023 Apr;114(4):1297-1308. doi: 10.1111/cas.15720. Epub 2023 Jan 27

- 2) Immunogenicity of three versus four doses of 13-valent pneumococcal conjugate vaccine followed by 23-valent pneumococcal polysaccharide vaccine in allogeneic haematopoietic stem cell transplantation recipients: a multicentre, randomized controlled trial.

Okinaka K, Akeda Y, Inamoto Y, Fuji S, Ito A, Tanaka T, Kurosawa S, Kim SW, Tanosaki R, Yamashita T, Ohwada C, Kurata K, Mori T, Onozawa M, Takano K, Yokoyama H, Koh K, Nagafuji K, Nakayama K, Sakura T, Takahashi T, Oishi K, Fukuda T.

Clin Microbiol Infect. 2023 Apr;29(4):482-489.

- 3) Safety and efficacy of high-dose cytarabine MEAM therapy and other treatments for auto-peripheral blood stem cell transplantation: A retrospective comparative study.

Yui S, Wakita S, Nagata Y, Kuribayashi Y, Asayama T, Fujiwara Y, Sakaguchi M, Yamanaka S, Marumo A, Omori I, Kinoshita R, Onai D, Sunakawa M, Kaito Y, Inai K, Tokura T, Takeyoshi A, Yasuda S, Honma S, Nakayama K, Hirakawa T, Arai K, Kitano T, Okamoto M, Inokuchi K, Yamaguchi H.

Asia Pac J Clin Oncol. 2023 Feb;19(1):136-148.

(学会発表)

- 1) 繰り返す憩室炎の再発予防目的に予防的結腸切除術を施行し、造血幹細胞移植を行った骨髄異形成症候群

土蔵太一朗, 由井俊輔, 砂川美香, 丸毛淳史, 岡本宗雄, 脇田知志, 山口博樹

第46回 日本造血・免疫細胞療法学会 2024年3月22日

- 2) 昏睡とCushing反射を伴うDLBCL脳内再発にtirabrutinibの簡易懸濁液が奏功した症例

土蔵太一朗, 岸田侑也, 中山一隆

第20回 日本血液学会関東甲信越地方会 2024年3月9日

- 3) 左肺全摘後の慢性膿胸から生じた膿胸関連リンパ腫(PAL)に対し、化学放射線療法が奏功した1例

土蔵太一朗, 岸田侑也, 中山一隆

第20回 日本血液学会関東甲信越地方会 2024年3月9日

- 4) The clinical features and prognostic impact of acute myeloid leukemia with KMT2A gene abnormalities

土蔵太一朗, 脇田知志, 丸毛淳史, 森田薫, 賀古真一, 土岐典子, 諫田淳也, 黒田純也, 森慎一郎, 佐竹敦志, 臼杵憲祐, 植木俊充, 魚嶋伸彦, 河田英里, 中山一隆, 永尾侑平, 鐘野勝洋, 澁澤基治, 木村晋也, 一戸辰夫, 本村小百合, 橋本朗子, 佐藤恵理子, 緒方正男, 安藤純, 田代晴子, 阪口正洋, 神田善伸, 山口博樹

第85回 日本血液学会学術集会 2023年10月13日

- 5) 横浜南共済病院地域医療支援病院研修会 2023年7月27日

日常診療におけるリンパ節腫大

岸田侑也

膠原病リウマチ内科

(論文発表)

- 1) Clinical and genetic features of Japanese cases of MDS associated with VEXAS syndrome.

Kunimoto H, Miura A, Maeda A, Tsuchida N, Uchiyama Y, Kunishita Y, Nakajima Y, Takase-Minegishi K, Yoshimi R, Miyazaki T, Hagihara M, Yamazaki E, Kirino Y, Matsumoto N, Nakajima H.

Int J Hematol. 2023 Oct;118(4):494-502.

- 2) Protective effect of hydroxychloroquine on infections in patients with systemic lupus erythematosus: an observational study using the LUNA registry.

Hidekawa C, Yoshimi R, Saigusa Y, Tamura J, Kojitani N, Suzuki N, Sakurai N, Yoshioka Y, Sugiyama-Kawahara Y, Kunishita Y, Kishimoto D, Higashitani K, Sato Y, Komiya T, Nagai H, Hamada N, Maeda A, Tsuchida N, Hirahara L, Soejima Y, Takase-Minegishi K, Kirino Y, Yajima N, Sada KE, Miyawaki Y, Ichinose K, Ohno S, Kajiyama H, Sato S, Shimajima Y, Fujiwara M, Nakajima H.

Front Immunol. 2023 Sep 1;14:1227403.

- 3) Immune checkpoint inhibitor-induced arthralgia is tightly associated with improved overall survival in cancer patients.

Maeda A, Takase-Minegishi K, Kirino Y, Hamada N, Kunishita Y, Yoshimi R, Meguro A, Namkoong H, Horita N, Nakajima H; Yokohama City University irAE Working Group.

Rheumatology (Oxford). 2023 Apr 3;62(4):1451-1459.

- 4) Efficacy and safety of abatacept in patients with rheumatoid arthritis with previous malignancy.

(学会発表)

- 1) W3-4 SLE 患者における低補体血症と感染症合併の関連について (第2報) -LUNA レジストリを用いた観察研究 麴谷 典子, 吉見 竜介, 矢嶋 宣幸, 杉山 裕美子, 鈴木 直樹, 秀川 智春, 櫻井 菜月, 吉岡 裕二, 國下 洋輔, 岸本 大河, 前田 彩花, 平原 理紗, 小宮 孝章, 副島 裕太郎, 濱田 直樹, 土田 奈緒美, 峯岸 薫, 桐野 洋平, 佐田 憲映, 宮脇 義亜, 一瀬 邦弘, 梶山 浩, 佐藤 秀三, 下島 恭弘, 藤原 道雄, 木田 節, 松尾 祐介, 西村 啓佑, 大野 滋, 中島 秀明: 第 67 回 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 Page 518 (2023.04)、博多
- 2) W4-3 全身性エリテマトーデスにおける再燃と肥満の関連について-LUNA レジストリを用いた観察研究 鈴木 直樹, 吉見 竜介, 秀川 智春, 矢嶋 宣幸, 櫻井 菜月, 麴谷 典子, 國下 洋輔, 吉岡 裕二, 岸本 大河, 前田 彩花, 平原 理紗, 小宮 孝章, 副島 裕太郎, 濱田 直樹, 土田 奈緒美, 峯岸 薫, 桐野 洋平, 佐田 憲映, 宮脇 義亜, 一瀬 邦弘, 梶山 浩, 佐藤 秀三, 下島 恭弘, 藤原 道雄, 木田 節, 松尾 祐介, 山本 譲, 大野 滋, 中島 秀明: 第 67 回 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 Page 520 (2023.04)、博多
- 3) W14-1 全身性エリテマトーデスにおける共同意思決定と医師への信頼度の関連についての前向きコホート研究: TRUMP2-SLE 研究 吉見 竜介, 矢嶋 宣幸, 栗田 宜明, 秀川 智春, 櫻井 菜月, 小黒 奈緒, 志田原 健太, 林 啓悟, 市川 貴規, 岸田 大, 宮脇 義亜, 佐田 憲映, 下島 恭弘, 石川 雄一, 吉岡 裕二, 國下 洋輔, 岸本 大河, 峯岸 薫, 桐野 洋平, 大野 滋, 中島 秀明: 第 67 回 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 Page 539 (2023.04)、博多
- 4) W114-1 UBA1 バリエント解析に基づく, 本邦における VEXAS 症候群疑い症例の多施設共同前向きコホート研究 前田 彩花, 土田 奈緒美, 桐野 洋平, 國下 洋輔, 岸本 大河, 峯岸 薫, 吉見 竜介, 中島 秀明: 第 67 回 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 Page 733 (2023.04)、博多
- 5) W115-2 家族性地中海熱に伴うコルヒチン治療抵抗性の髄膜炎に対してカナキヌマブが奏効した一例 渡辺 武俊, 峯岸 薫, 吉見 竜介, 岸田 大, 前田 彩花, 土田 奈緒美, 三木 智代, 佐藤 雄一郎, 小宮 孝章, 濱田 直樹, 副島 裕太郎, 桐野 洋平, 中島 秀明: 第 67 回 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 Page 735 (2023.04)、博多
- 6) P1-137 VEXAS 症候群を疑う症状を認めたが末梢血 UBA1 バリエントが陰性であった一例 三木 智代, 桐野 洋平, 前田 彩花, 土田 奈緒美, 渡辺 武俊, 小宮 孝章, 佐藤 雄一郎, 濱田 直樹, 副島 裕太郎, 峯岸 薫, 吉見 竜介, 中島 秀明: 第 67 回 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 Page 795 (2023.04)、博多
- 7) P2-020 rs2609255 FAM13A と関節リウマチ関連間質性肺病変との関連 樋口 貴士, 岡 笑美, 古川 宏, 島田 浩太, 角田 慎一郎, 伊藤 聡, 片山 雅夫, 税所 幸一郎, 篠原 聡, 松井 利浩, 右田 清志, 長岡 章平, 當間 重人: 第 67 回 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 Page815 (2023.04)、博多
- 8) P2-087 全身性エリテマトーデス診療における共同意思決定が LLDAS 達成に与える影響:TRUMP2-SLE 研究 櫻井 菜月, 吉見 竜介, 矢嶋 宣幸, 栗田 宜明, 秀川 智春, 小黒 奈緒, 志田原 健太, 林 啓悟, 市川 貴規, 岸田 大, 宮脇 義亜, 佐田 憲映, 下島 恭弘, 石川 雄一, 吉岡 裕二, 國下 洋輔, 岸本 大河, 峯岸 薫, 桐野 洋平, 大野 滋, 中島 秀明: 第 67 回 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 Page832 (2023.04)、博多
- 9) P2-104 当科の実臨床における巨細胞性動脈炎の治療の現状とトシリズマブの有用性の検討 三橋 正季, 國下 洋輔, 張田 佳代, 本多 主税, 大田 聡一, 五十嵐 俊久, 長岡 章平: 第 67 回 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 Page836 (2023.04)、博多
- 10) P3-060 関節リウマチに対してトファシニブ使用中に両側副腎腫瘍を指摘された 1 例 本多 主税, 國下 洋輔, 張田 佳代, 三橋 正季, 大田 聡一, 五十嵐 俊久, 長岡 章平: 第 67 回 日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集 Page871 (2023.04)、博多

脳 神 経 内 科

(論 文)

- 1) Nakahara Y, Mitsui J, Date H, Porto KJ, Hayashi Y, Yamashita A, Kusakabe Y, Matsukawa T, Ishiura H, Yasuda T, Iwata A, Goto J, Ichikawa Y, Momose Y, Takahashi Y, Toda T, Ohta R, Yoshimura J, Morishita S, Gustavsson EK, Christy D, Maczys M, Farrer MJ, Kim HJ, Park SS, Jeon B, Zhang J, Gu W, Scholz SW, Singleton AB, Houlden H, Yabe I, Sasaki H, Matsushima M, Takashima H, Kikuchi A, Aoki M, Hara K, Kakita A, Yamada M, Takahashi H, Onodera O, Nishizawa M, Watanabe H, Ito M, Sobue G, Ishikawa K, Mizusawa H, Kanai K, Kuwabara S, Arai K, Koyano S, Kuroiwa Y, Hasegawa K, Yuasa T, Yasui K, Nakashima K, Ito H, Izumi Y, Kaji R, Kato T, Kusunoki S, Osaki Y, Horiuchi M, Yamamoto K, Shimada M, Miyagawa T, Kawai Y, Nishida N, Tokunaga K, Dürr A, Brice A, Filla A, Klockgether T, Wüllner U, Tanner CM, Kukull WA, Lee VM, Masliah E, Low PA, Sandroni P, Ozelius L, Foroud T, Tsuji S.

Genome-wide association study identifies a new susceptibility locus in *PLA2G4C* for Multiple System Atrophy. *medRxiv* May 2023

- 2) Ishikawa S, Kudo Y, Miyake S, Akimoto T, Chiba S, Saruta W, Mochizuki T, Shimizu S, Amano Y, Yamamoto R, Amari K, Kovano S, Johkura K, Yamamoto T, Nakai Y. Cerebral foreign body granulomas after mechanical thrombectomy: Two case reports and a review of the literature. J Stroke Cerebrovasc Dis. 32(3):106990. 2023

(学会発表)

- 1) 岸田 日帯, 國井 美紗子, 多田 美紀子, 林 紀子, 木村 活生, 宮地 洋輔, 東山 雄一, 土井 宏, 竹内 英之, 上田 直久, 児矢野 繁, 北本 哲之, 田中 章景. 第 64 回日本神経学会学術大会、千葉、2023, 5
2) 岡田 雅仁, 児矢野 繁. 第 64 回日本神経学会学術大会、千葉、2023, 5

小 児 科

(論 文)

- 1) Hattori S, Nozawa T, Nishimura K, Hara R, Murase A, Ohara A, Ohnishi A, Ohya T, Ito S: Characteristics of persistent arthritis with refractory Kawasaki disease: a single center retrospective study. Sci rep, 13(1):9890, 2023. doi:10.1038/s41598-023-36308-9.
2) 石丸 愛, 内村 暢, 只木弘美, 白井綾乃, 加藤愛美, 神山裕二, 伊波勇輝, 高橋英里佳, 矢内貴憲, 本井宏尚, 塩谷裕美, 原 良紀, 福山綾子, 出来沙織, 稲葉 彩, 大谷 子, 鏑木陽一, 伊藤秀一: 免疫抑制剤の併用により再発なく経過した小児腎限局性サルコイドーシスの 1 例. 日本小児腎臓病学会雑誌, 36 : 1-7, 2023. doi:10.3165/jjpn.cr.2022.0210.
3) 糸永 育, 鶴岡洋子, 今野裕章, 沼沢慶太, 志賀健太郎, 伊藤秀一: 重症呼吸器症候群コロナウイルス 2 感染症に伴う免疫性血小板減少症の臨床的特徴. 横浜医学, 74(4) : 559-564, 2023.

(学会等発表)

- 1) Ogata A, Deki S, Uchimura T, Inaba A, Otani M, Ito S: Multinucleated podocyte may lead to the diagnosis of cystinosis: a case report (Best Presentation Award). The 19th Korea-China-Japan Pediatric Nephrology Seminar, Seoul, 2023, 4.
2) Nishimura N : Response to Sandostatin-LAR in a patient with CHI caused by a maternally inherited ABCC8 heterozygous variant. Human Genetics Asia 2023, Tokyo, 2023, 10.
3) 大泉泰彦, 西村直人, 菅野 元, 江並龍之介, 遠坂 崇, 清宮優香, 坪倉 慎, 南澤有紀, 小笹浩二, 咲間裕之, 菊池信行: オクトレオチドで良好な血糖管理を得ている ABCC8 遺伝子ヘテロ接合性変異を同定した先天性高インスリン血症の 1 例. 第 374 回日本小児科学会神奈川県地方会 (WEB 開催), 2023, 3.
4) 島田清子, 西村直人, 平井祐士, 糸永 育, 松本 峻, 杉山弘樹, 西澤 崇: FilmArray®髄膜炎・脳炎パネルで診断したヒトパレコウイルス感染症の乳児例. 第 376 回日本小児科学会神奈川県地方会, 横浜, 2023, 9.
5) 平井祐士, 糸永 育, 松本 峻, 西村直人, 杉山弘樹, 西澤 崇: アデノウイルス 41 により著名な肝逸脱酵素上昇を認めた川崎病の 1 歳女児. 第 377 回日本小児科学会神奈川県地方会, 横浜, 2023, 11.
6) 遠坂 崇, 菅野 元, 江並龍之介, 清宮優香, 坪倉 慎, 南澤由紀, 西村直人, 小笹浩二, 咲間裕之, 菊池信行: 中枢神経症状に乏しい脂肪塞栓症候群を発症したデュシェンヌ型筋ジストロフィーの 15 歳男児例. 第 36 回日本小児救急医学会学術集会, 幕張, 2023, 7.
7) 西村直人: オクトレオチド LAR で良好な血糖管理を得ている母由来 ABCC8 遺伝子変異を同定した先天性高インスリン血症の 1 例. 第 46 回日本小児遺伝学会学術集会, 沖縄, 2023, 12.

(総 説)

- 1) 林 弘明, 岩下広道, 立石健祐: 【臨床脳神経外科医にとっての WHO 脳腫瘍分類第 5 版】小児脳腫瘍 限局性星細胞系膠腫. Neurological Surgery, 51(5) : 884-891, 2023. doi:https://doi.org/10.11477/mf.1436204830.
2) 西村直人 (訳): 家族性高インスリン血症. GeneReviews Japan, 2023. http://grj.umin.jp/grj/fhi.htm.

(勉強会)

- 1) 第 46 回横浜 GP フォーラム (第 46 回横浜小児感染症懇話会) 2024, 2 横浜

外科・消化器外科

(論 文)

- 1) 空腸病変の出血により緊急手術を行った T 細胞性リンパ腫の 1 例
藤井 悠 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科), 澤崎 翔, 樋口 晃生, 福田 敏之, 箕輪 和陽, 中園 真聡, 加藤 綾, 川邊 泰一, 小嶋 結, 青山 徹, 玉川 洋, 湯川 寛夫, 利野 靖, 齋藤 綾, 佐伯 博行
癌と化学療法 50 巻 13 号 Page1641-1643 (2023.12)
2) 下部胆管原発神経内分泌癌の 1 例
鈴木 智裕 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科), 澤崎 翔, 中園 真聡, 末石 結衣, 村田 光隆, 田中 翔真, 箕輪 和陽, 伊豆川 翔太, 加藤 綾, 川邊 泰一, 樋口 晃生, 松川 博史, 利野 靖, 齋藤 綾, 佐伯 博行
癌と化学療法 50 巻 13 号 Page1563-1565 (2023.12)

3) 注腸による整復後に待機的手術を施行した直腸S状部癌による成人腸重積症の1例

秋元 規宏 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科), 澤崎 翔, 樋口 晃生, 箕輪 和陽, 土屋 皓平, 栗原 正輝, 加藤 綾, 川邊 泰一, 利野 靖, 佐伯 博行
横浜医学 74 巻 2 号 Page67-71 (2023.04)

(学会発表)

1) 回腸導管傍ストーマヘルニアと腹壁癒痕ヘルニアの合併に対して腹腔鏡下 Sugarbaker 法と IPOM-Plus 法を施行した1例

股部 紘也 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 消化器外科), 川邊 泰一, 藤井 悠, 金井 達哉, 松下 直彦, 朱 美和, 中園 真聡, 玉川 洋, 樋口 晃生, 利野 靖, 佐伯 博行, 松川 博史, 齋藤 綾
第 85 回日本臨床外科学会総会 2023.11 岡山

2) 食毛症による食餌性イレウスに対し緊急手術を施行した一例

藤井 悠 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科・消化器外科), 樋口 晃生, 玉川 洋, 川邊 泰一, 朱 美和, 松下 直彦, 金井 達哉, 股部 紘也, 佐伯 博行, 中園 真聡, 利野 靖, 齋藤 綾
第 85 回日本臨床外科学会総会 2023.11 岡山

3) 腸閉塞を契機に診断に至った腸管囊腫性気腫症に対して保存治療し改善した1例

福井 さくら (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科・消化器外科), 股部 紘也, 藤井 悠, 金井 達哉, 松下 直彦, 朱 美和, 川邊 泰一, 玉川 洋, 樋口 晃生, 佐伯 博行, 松川 博史
第 60 回日本腹部救急医学会総会 2024.3 北九州

4) 12歳男児に発症した十二指腸潰瘍穿孔・汎発性腹膜炎に対して腹腔鏡下穿孔部閉鎖・大網被覆術を施行し救命しえた一例

股部 紘也 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科・消化器外科), 佐伯 博行, 藤井 悠, 金井 達哉, 松下 直彦, 朱 美和, 川邊 泰一, 玉川 洋, 樋口 晃生, 利野 靖, 松川 博史
第 60 回日本腹部救急医学会総会 2024.3 北九州

5) 低分化腺癌・印環細胞癌・粘液癌成分を伴う結腸癌の予後因子解析 (英語)

渥美 陽介 (横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科), 沼田 正勝, 風間 慶祐, 原田 龍之助, 伊豆川 翔太, 鈴木 佳透, 古谷 晃伸, 菅野 伸洋, 鈴木 善裕, 五代 天偉, 佐伯 博行, 渡邊 純, 國崎 主税, 利野 靖, 齋藤 綾
第 61 回日本癌治療学会学術集会 2023.10 横浜

6) barbed suture 糸を用いて腹腔鏡下に胆嚢頸部断端処理を行った1例

朱 美和 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科), 金井 達哉, 松下 直彦, 川邊 泰一, 玉川 洋, 樋口 晃生, 佐伯 博行
第 36 回日本内視鏡外科学会総会 2023.12 横浜

7) 鏡視下大腸癌切除の周術期合併症予測における GNRI の有用性

大谷 一貴 (横浜市立大学 外科治療学), 風間 慶祐, 青山 徹, 沼田 正勝, 澤崎 翔, 加藤 綾, 佐伯 博行, 五代 天偉, 菅野 伸洋, 虫明 寛行, 鈴木 喜裕, 湯川 寛夫, 齋藤 綾, 利野 靖
第 36 回日本内視鏡外科学会総会 2023.12 横浜

8) 結腸癌切除術における体内吻合—どんな症例に、どんな方法で行なうか— 腹腔鏡下右側結腸癌手術における体腔内吻合の安全性に関する前向き観察研究 (KYCC2101)

風間 慶祐 (横浜市立大学 外科治療学), 沼田 正勝, 澤崎 翔, 渥美 陽介, 虫明 寛行, 菅野 伸洋, 岡本 浩直, 五代 天偉, 鈴木 紳祐, 佐伯 博行, 樋口 晃生, 塩澤 学, 利野 靖, 齋藤 綾
第 36 回日本内視鏡外科学会総会 2023.12 横浜

9) 左側結腸癌に対する体腔内吻合の短期成績

小野寺 篤 (横浜市立大学 外科治療学), 沼田 正勝, 渥美 陽介, 風間 慶祐, 虫明 寛行, 菅野 伸洋, 澤崎 翔, 佐伯 博行, 利野 靖, 國崎 主税, 齋藤 綾
第 36 回日本内視鏡外科学会総会 2023.12 横浜

10) 多発肝転移を伴う RAS/BRAF 変異陰性の S 状結腸癌に対し SOX+BEV 療法にて臨床的 CR が得られた一例

中園 真聡 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科・消化器外科), 島田 清子, 藤井 悠, 股部 紘也, 金井 達哉, 松下 直彦, 朱 美和, 川邊 泰一, 樋口 晃生, 佐伯 博行, 利野 靖, 齋藤 綾
第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会 2023.11 熊本

11) 腹腔鏡下右側結腸癌手術における縫合不全のリスク因子

風間 慶祐 (横浜市立大学 外科治療学), 沼田 正勝, 澤崎 翔, 渥美 陽介, 神谷 夏美, 大谷 一貴, 橋本 至, 加藤 綾, 原田 龍之助, 伊豆川 翔太, 鈴木 佳透, 樋口 晃夫, 佐伯 博行, 五代 天偉, 菅野 伸洋, 虫明 寛行, 鈴木 喜裕, 湯川 寛夫, 齋藤 綾, 利野 靖
第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会 2023.11 熊本

- 12) 腹腔鏡下直腸手術における腹膜外経路人工肛門造設術の安全性に関する検討 最終報告
樋口 晃生 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科), 沼田 正勝, 佐伯 博行, 松本 里美, 井口 健太, 岡本 浩直, 風間 慶祐, 片山 雄介, 沼田 幸司, 白井 順也, 菅野 伸洋, 五代 天偉, 虫明 寛行, 塩澤 学, 齋藤 綾
第 78 回日本大腸肛門病学会学術集会 2023.11 熊本
- 13) ロボット支援下直腸癌手術において助手経験数は安全性に影響するか?
斉藤 健太郎 (横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター), 沼田 正勝, 渥美 陽介, 風間 慶祐, 五代 天偉, 澤崎 翔, 佐伯 博行, 湯川 寛夫, 國崎 主税, 利野 靖
第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.7 函館
- 14) 85 歳以上の超高齢者胃癌手術の検討
川邊 泰一 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科・消化器外科), 村田 光隆, 末石 結衣, 箕輪 和陽, 伊豆川 翔太, 中園 真聡, 加藤 綾, 樋口 晃生, 利野 靖, 佐伯 博行
第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.7 函館
- 15) 腹腔鏡-ロボット過渡期における手術教育プログラム 現状と課題
沼田 正勝 (横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター), 渥美 陽介, 風間 慶祐, 澤崎 翔, 鈴木 佳透, 五代 天偉, 佐伯 博行, 湯川 寛夫, 國崎 主税, 利野 靖
第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.7 函館
- 16) 当院における ASA3 以上の高齢者に対する大腸癌手術
加藤 綾 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院), 末石 結衣, 村田 光隆, 箕輪 和陽, 伊豆川 翔太, 中園 真聡, 川邊 泰一, 樋口 晃生, 佐伯 博行, 利野 靖
第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.7 函館
- 17) 胃癌における術前 SIS の有用性の検討 (英語)
朱 美和 (横浜市立大学附属病院 一般外科), 青山 徹, 石黒 哲史, 神尾 一樹, 風間 慶祐, 澤崎 翔, 玉川 洋, 佐伯 博行, 湯川 寛夫, 利野 靖
第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.7 函館
- 18) 腹腔鏡下直腸手術における腹膜外経路人工肛門造設術の安全性に関する検証試験の中間報告
樋口 晃生 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科), 沼田 正勝, 佐伯 博行, 井口 健太, 岡本 浩直, 沼田 幸司, 菅野 伸洋, 五代 天偉, 虫明 寛行, 塩澤 学
第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.7 函館
- 19) 低分化腺癌・印環細胞癌・粘液癌成分を伴う結腸癌の予後因子解析
渥美 陽介 (横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター), 沼田 正勝, 風間 慶祐, 古谷 晃伸, 菅野 伸洋, 鈴木 喜裕, 五代 天偉, 佐伯 博行, 國崎 主税, 利野 靖
第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.7 函館
- 20) 食道がん手術症例における術前口腔内評価 (OHAT score) が長期成績に及ぼす影響 (英語)
玉川 洋 (横浜市立大学 医学部外科治療学), 青山 徹, 前澤 幸男, 風間 慶祐, 澤崎 翔, 湯川 寛夫, 朱 美和, 樋口 晃生, 佐伯 博行, 利野 靖
第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.7 函館
- 21) 臍頭十二指腸切除術における胃排泄遅延の検討 結腸前か結腸後か
佐伯 博行 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科), 末石 結衣, 村田 光隆, 箕輪 和陽, 伊豆川 翔太, 中園 真聡, 加藤 綾, 川邊 泰一, 樋口 晃生, 松川 博史
第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.7 函館
- 22) 高齢者直腸癌に対するロボット支援下手術の有用性・安全性についての検討
伊豆川 翔太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター), 沼田 正勝, 渥美 陽介, 風間 慶祐, 澤崎 翔, 五代 天偉, 佐伯 博行, 湯川 寛夫, 國崎 主税, 利野 靖
第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.7 函館
- 23) 右側結腸癌に対する Overlap 体腔内吻合の有用性 体腔外吻合との比較
風間 慶祐 (横浜市立大学附属病院 一般外科), 沼田 正勝, 澤崎 翔, 五代 天偉, 佐伯 博行, 虫明 寛行, 菅野 伸洋, 青山 徹, 湯川 寛夫, 利野 靖
第 78 回日本消化器外科学会総会 2023.7 函館
- 24) 内視鏡的治療後 pT1 結腸癌において, 外科的切除断端長が予後に与える影響
風間 慶祐 (横浜市立大学 外科治療学), 沼田 正勝, 澤崎 翔, 渥美 陽介, 福田 桃子, 石黒 哲史, 朱 美和, 杉山 敦彦, 井口 健太, 齋藤 健太郎, 神尾 一樹, 青山 徹, 玉川 洋, 湯川 寛夫, 樋口 晃生, 佐伯 博行, 五代 天偉, 菅野 伸洋, 内山 護,

利野 靖

第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04 東京

25) ロボット直腸癌手術の中期成績

沼田 正勝(横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター), 渥美 陽介, 風間 慶祐, 五代 天偉, 鈴木 紳祐, 玉川 洋, 樋口 晃生, 齋藤 健太郎, 井口 健太, 菅野 伸洋, 澤崎 翔, 石黒 哲史, 内山 護, 玉川 綾子, 渡邊 純, 鈴木 喜裕, 佐伯 博行, 湯川 寛夫, 國崎 主税, 利野 靖

第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04 東京

26) 低分化腺癌・印環細胞癌・粘液癌成分を伴う結腸癌に対する D3 郭清の意義

渥美 陽介 (横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター), 沼田 正勝, 風間 慶祐, 澤崎 翔, 古谷 晃伸, 藤野 泰宏, 菅野 伸洋, 内山 護, 鈴木 喜裕, 井口 健太, 齋藤 健太郎, 渡邊 純, 玉川 綾子, 玉川 洋, 五代 天偉, 樋口 晃生, 佐伯 博行, 湯川 寛夫, 國崎 主税, 利野 靖

第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04 東京

27) 高齢者閉塞性大腸癌の検討

樋口 晃生 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 外科), 佐伯 博行, 沼田 正勝, 風間 慶祐, 渥美 陽介, 井口 健太, 齋藤 健太郎, 内山 護, 岡本 浩直, 片山 雄介, 鈴木 紳祐, 澤崎 翔, 菅野 伸洋, 玉川 洋, 五代 天偉, 湯川 寛夫, 利野 靖

第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04 東京

28) 腹腔鏡下大腸切除における硬膜外麻酔使用有無による術後鎮痛効果の検討 多施設前向き観察研究 KYCC1806

加藤 綾 (神奈川県立がんセンター 消化器外科), 沼田 正勝, 大宜見 崇, 伊豆川 翔太, 岡本 浩直, 渥美 陽介, 風間 慶祐, 浅利 昌大, 澤崎 翔, 沼田 幸司, 渡辺 卓央, 三箇山 洋, 五代 天偉, 樋口 晃生, 佐伯 博行, 羽鳥 慎祐, 虫明 寛行, 松本 里美, 利野 靖, 塩澤 学

第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04 東京

29) 重症併存疾患を有する直腸癌患者におけるロボット支援下直腸手術の安全性の検討

澤崎 翔 (横浜市立大学 外科治療学), 沼田 正勝, 風間 慶祐, 渥美 陽介, 福田 桃子, 石黒 哲史, 朱 美和, 杉山 敦彦, 井口 健太, 齋藤 健太郎, 神尾 一樹, 青山 徹, 玉川 洋, 玉川 綾子, 湯川 寛夫, 鈴木 紳祐, 五代 天偉, 樋口 晃生, 佐伯 博行, 利野 靖

第 123 回日本外科学会定期学術集会 2023.04 東京

呼 吸 器 外 科

(学会発表)

- 1) 亀田洋平, 大沢宏至, 前原孝光, 利野 靖 : 肺癌に対する VATS 生検術後、遅発性の胸壁出血に対して血管内治療を施行した 1 例. 第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会, 新潟

整 形 外 科

(著 書)

- 1) 三原久範、遠藤健司 : 解剖から理解する頸椎診療、日本医事新報社、東京、7.23、2023
- 2) 山崎哲也 : 肘離断性骨軟骨炎—整形外科疾患。今日の治療指針 2023 年版 (Volume65) デスク判。医学書院、東京、P1108-1109, 2023 [ポケット判. P1108-1109, 2023 (医学書院)]
- 3) 山崎哲也 : 肘スポーツ障害に対する鏡視下手術。新 OS NEXUS. No.12, 上肢の鏡視下手術, メジカルビュー社、東京、P92-101, 2024

(論 文)

- 1) 三原久範、多々羅靖則、新村高典、坂口彰、近藤直也、長島清貴 : 私の術前説明書 : 頸椎前方手術, 脊椎脊髄ジャーナル 35 巻 12 号 : 569-575, 2023
- 2) 三原久範、多々羅靖則、新村高典、坂口彰、近藤直也、長島清貴 : アテトーゼ型脳性麻痺患者の頸椎症に対する治療戦略 前方再建 VS 後方固定 —前方再建の立場から—, Loco Cure Vol.9 no.1, : 66-70, 2023
- 3) 三原久範 : 頸椎疾患の病態と治療、e-casebook 横浜整形外科ハマセイプロジェクト、Web Archives, 2023
- 4) Ishii K, Isogai N, Urata R, Funao H, Igawa T, Mihara H, Yamazaki T: Navigation-Assisted Micro-Window Excision of Thoracic Ossification of Ligamentum Flavum (Mishima Surgery) in Professional Baseball Pitchers: A Case Report and Technical Note. Medicina (Kaunas). 2023 Jul 14;59(7):1303.
- 5) 山崎哲也 : 【成長期以降の野球選手の肘内側障害】肘内側側副韌帯損傷に対する Tommy John 手術 (横浜南共済病院方式) —適応と術式および成績。臨スポーツ医学 40: 840-845, 2023
- 6) 山崎哲也 : 【ゆるい肩 (非外傷性肩関節不安定症) とどう向き合うか】スポーツにおけるゆるい肩に対する診断と治療。関節

外科 43(3): 260(36)-267(43), 2024

- 7) 山崎哲也：肘離断性骨軟骨炎に対する骨軟骨柱移植術. MB Orthop. 37(3): 59-68, 2024
- 8) 佐藤昌明, 柁原俊久, 篠原健太郎：AMIS アプローチ人工股関節全置換術におけるテーパウェッジ型ステム MasterLoc の HA コーティング有無の効果について. Hip Joint 第 49 巻 507-9, 2023.
- 9) 篠原健太郎, 柁原俊久, 佐藤昌明：CR 型人工膝関節置換術における術中動作解析と不安定性の評価 - CS インサートと CR インサートでの比較 - 日本人工関節学会誌 53 157-158, 2023.
- 10) 佐藤昌明, 柁原俊久, 篠原健太郎：超音波検査を使用した, 術前外側大腿皮神経マーキングによる仰臥位前方アプローチ人工股関節全置換術での神経障害の発生頻度について. 日本人工関節学会誌 53 325-326, 2023.
- 11) 篠原健太郎, 柁原俊久, 佐藤昌明：CR 型人工膝関節置換術における術中動作解析と不安定性の評価 - CS インサートと CR インサートでの比較 - 日本人工関節学会誌 53 157-158, 2023.

(学会発表、講演等)

- 1) Mihara H: Anterior cervical plate system, Aesculap Spine Days 2023, Berlin, 5.8, 2023
- 2) Sakaguchi A, Mihara H, et al.: Clinical comparison between anterior and posterior procedures for patients with cervical myelopathy over 80 years old. 38th CSRS-E, Stockholm, 6.1, 2023
- 3) 三原久範：脳性麻痺患者の頚椎の病気. 福島 CP 患者の会講演会, 福島, 7.30, 2023
- 4) 三原久範：頚椎疾患がもたらす痛みと機能障害を克服したい, 旭区・瀬谷区整形セミナー, 横浜, 8.2, 2023
- 5) 三原久範：頚椎疾患の診断と治療. 日本整形外科学会脊椎脊髄病医研修会, Web, 8.28, 2023
- 6) 三原久範：脊椎疾患における骨粗鬆症治療と病診連携について, 骨粗鬆症治療セミナー, 横浜, 8.30, 2023
- 7) 三原久範：指定発言 頚椎前方法の合併症について, 頚椎前方を語る会, 東京, 9.9, 2023
- 8) 三原久範：頚椎前方手術に潜む鬼と福 -骨化浮上から人工椎間板まで-, 東京, 9.16, 2023
- 9) 三原久範：頚椎前方手術 -歴史と展望-, Medtronic 匠セミナー, Web, 9.27, 2023
- 10) Mihara H: Anterior procedure with O-arm for cervical OPLL, Seoul, 10.7, 2023
- 11) 三原久範：頚椎疾患の痛みと機能障害に対峙して, 足柄地区整形外科セミナー, 小田原, 10.16, 2023
- 12) Hisanori Mihara: Daemon and fortune in anterior cervical surgery. CSRS-AP Chinese Chapter, Tianjin, 10.24, 2023
- 13) 三原久範：頚椎人工椎間板講習会. 第 32 回日本脊椎インスツルメンテーション学会, 札幌, 11.25, 2023
- 14) Mihara H: Dyspnea, Dysphagia, Dysphonia following anterior cervical surgery, CSRS-AP Instructional Course in Taiwan, 1.6, 2024
- 15) Mihara H: Surgical option for cervical OPLL, CSRS-AP Instructional Course in Taiwan, 1.6, 2024
- 16) 山崎哲也：上肢における筋腱・靭帯付着部症. 第 96 回日本整形外科学会 (シンポジウム), 横浜, 2023, 5
- 17) 山崎哲也：野球選手における投球側の肩関節前方不安定症に対する手術的治療. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会 (シンポジウム), 広島, 2023, 6
- 18) 山崎哲也：投球障害肘に対する保存治療の限界と手術治療の実際. 第 33 回日本臨床スポーツ医学会 (シンポジウム), 横浜, 2023, 11
- 19) 山崎哲也：野球肘診療における up to date. 下鴨スポーツ整形 up to date, 京都, 2023, 6
- 20) 山崎哲也：成長期の肩・肘スポーツ障害. 令和 5 年度京整会秋季研修会, 京都, 2023,
- 21) 山崎哲也：肩のスポーツ障害の診断と治療. 第 50 回日本肩関節学会 (教育研修講演), 東京, 2023, 10
- 22) 山崎哲也：子供の野球肘を見逃さない -野球肘検診の必要性-. 第 1 回堺スポーツ障害予防セミナー, 堺, 2023, 11
- 23) 山崎哲也：肘内側障害 2 手術療法について (治療法の選択と適応) -UCL 損傷に着目して- 「再建術の立場から」. 第 19 回神楽坂スポーツ医学セミナー, 東京, 2023, 12
- 24) 山崎哲也：スポーツによる外傷と障害 (1) 上肢. 日本スポーツ協会公認スポーツドクター養成講習会, 東京, 2024, 1
- 25) 山崎哲也：学童野球における肩肘障害. 第 5 回神奈川学童野球指導者セミナー, 横浜, 2024, 1
- 26) 山崎哲也：成長期のスポーツ障害. 第 3 回よすかこどもスポーツ障害予防クリニック-少年期スポーツ傷害予防講和-, 横須賀, 2024, 1
- 27) 佐藤昌明, 柁原俊久, 篠原健太郎：超音波検査を使用した, 術前外側大腿皮神経マーキングによる仰臥位前方アプローチ THA での神経障害の発生頻度について. 第 53 回日本人工関節学会 (Hybrid) 横浜 2023, 2
- 28) 佐藤昌明, 柁原俊久, 篠原健太郎, 小倉和成：AMIS アプローチにて MasterLoc stem を使用したセメントレス THA 後のインプラント周囲骨折 (PPF) の発生と治療について. 第 50 回 日本股関節学会学術集会 福岡 2023
- 29) Yasunori Tataru, Takanori Niimura, Akira Sakaguchi, Naoya Kondo, Hisanori Mihara: Vascular anatomy of the lumbosacral region in patients with lumbosacral and/or thoracolumbar transitional vertebrae. 第 57 回日本側彎症学会学術集会, 2023/11/10-11, 大阪
- 30) 篠原健太郎, 柁原俊久, 佐藤昌明：セメントレス CR 型人工膝関節置換術の長期成績, 日本膝関節学会, 横浜, 2023.12.8 口演
- 31) 篠原健太郎, 柁原俊久, 佐藤昌明：セメントレス CR 型人工膝関節置換術の術後 15 年以上経過した長期成績, 日本人工関節

学会, 横浜, 2024.2.17 口演

- 32) 篠原健太郎, 柘原俊久, 佐藤昌明: ロボティックアーム手術支援システム MAKO を使用した CR 型人工膝関節置換術の短期成績 従来法との比較, CAOS 学会, 宇部, 2024.3.6 口演

(その他)

- 1) 佐藤昌明: 骨粗鬆症と治療選択当院の二次性骨折予防から. 帝人株式会社 社内研修 2023, 2 web
2) 佐藤昌明: 術前超音波マーキングを施行した AMIS アプローチ THA での大腿外側皮神経障害について. メダクタジャパン株式会社 社内研修 2023, 2 web
3) 佐藤昌明: 骨粗鬆症と治療選択当院の二次性骨折予防から. 旭化成株式会社 社内研修 2023, 7 web

心 臓 血 管 外 科

(メディア)

- 1) 孟 真
NHK チョイス あしのむくみ NHK 2023 年 10 月 15 日

(論 文)

- 1) 脚のむくみの臨床 福岡医師会雑誌「きんむ医」
下肢静脈瘤、血栓後症候群 2023 年 4 月 19-26 頁
安斉俊久編 最新ガイドラインに基づく循環器診療指針 総合医学社 2023 年 5 月東京
- 2) Yamada N, Fukuda I, Nakamura M, Takayama M, Maeda H, Yamashita T, Ikeda T, Mo M, Yamazaki T, Okumura Y, Hirayama A. Prognostication of Patients with Pulmonary Thromboembolism with and without Residual Deep Vein Thrombosis: A Subanalysis of the J'xactly Study. Ann Vasc Dis. 2023 Sep 25;16(3):181-188. doi: 10.3400/avd.oa.22-00111. PMID: 37779650; PMCID: PMC10539124.
- 3) Yamashita Y, Morimoto T, Muraoka N, Oyakawa T, Umetsu M, Akamatsu D, Nishimoto Y, Sato Y, Takada T, Jujo K, Minami Y, Ogihara Y, Dohi K, Fujita M, Nishikawa T, Ikeda N, Hashimoto G, Otsui K, Mori K, Sueta D, Tsubata Y, Shoji M, Shikama A, Hosoi Y, Tanabe Y, Chatani R, Tsukahara K, Nakanishi N, Kim K, Ikeda S, Mo M, Yoshikawa Y, Kimura T; ONCO DVT Study Investigators. Edoxaban for 12 Months Versus 3 Months in Cancer Patients With Isolated Distal Deep Vein Thrombosis (ONCO DVT study): An Open-label, Multicenter, Randomized Clinical Trial. Circulation. 2023 Aug 28. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.123.066360. Epub ahead of print. PMID: 37638968.
- 4) Migita S, Okumura Y, Fukuda I, Nakamura M, Yamada N, Takayama M, Maeda H, Yamashita T, Ikeda T, Mo M, Yamazaki T, Hirayama A; J'xactly Investigators. Rivaroxaban treatment for asymptomatic venous thromboembolism: insights from the J'xactly study. Thromb J. 2023 Aug 21;21(1):88. doi: 10.1186/s12959-023-00528-w. PMID: 37599351; PMCID: PMC10440934.
- 5) Umetsu M, Kanamori H, Murakami K, Shiga T, Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Tsujino I, Nakamura J, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Aikawa S, Hayashi H, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ogihara Y, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, Yamada N, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M, Yamashita Y. Clinical Features Comparing Arterial Thrombosis and Venous Thromboembolism in Hospitalized Patients with COVID-19: Result from the CLOT-COVID Study. Ann Vasc Dis. 2023 Jun 25;16(2):115-123. doi: 10.3400/avd.oa.22-00112. PMID: 37359099; PMCID: PMC10288120.
- 6) Yamashita Y, Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Tsujino I, Nakamura J, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Umetsu M, Aikawa S, Hayashi H, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ogihara Y, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, Yamada N, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M. Significant Impact of Age on Mortality and Non-significant Impact of Age on Thrombosis and Major Bleeding in Patients with COVID-19: From the CLOT-COVID Study. J Atheroscler Thromb. 2023 Jun 1;30(6):624-635. doi: 10.5551/jat.63702. Epub 2022 Jul 29. PMID: 35908882; PMCID: PMC10244071.
- 7) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) における静脈血栓塞栓症予防および抗凝固療法の診療指針 (Version 4.1) (解説)
孟 真 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 山田 典一, 山下 侑吾, 小林 隆夫, 日本静脈学会: 日本での新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と VTE の実態調査タスクフォース, 肺塞栓症研究会, 日本血管外科学会, 日本脈管学会, 日本循環器学会 心臓 (0586-4488) 55 巻 7 号 Page719-726 (2023.07)
- 8) 【リンパ浮腫圧迫療法を科学する】リンパ浮腫の QOL 指標と圧迫療法の評価指標 (ICC-COMPRESSION QUESTIONNAIRE) (解説)
孟 真 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 根本 寛子
日本リンパ浮腫治療学会雑誌 (2433-7110) 6 巻 1 号 Page44-48 (2023.04)
- 9) 【循環を止めるな! 血液凝固とくすり】抗血小板薬・抗凝固薬・血栓溶解薬の使いどころ 末梢動脈に生じる血栓・塞栓症 (解説)
孟 真, 鈴木 隆之 薬局 (0044-0035) 74 巻 8 号 Page1428-1431 (2023.07)
- 10) 根本 寛子 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科)

- フットケア 下肢静脈瘤 (解説) Bella Pelle (2432-2016) 8 巻 2 号 Page88-92 (2023.06)
- 阿賀 健一郎 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 根本 寛子, 箕輪 和陽, 伏見 謙一, 軽部 義久, 橋山 直樹, 安田 章沢, 内田 敬二, 鈴木 伸一, 孟 真
- 11) Umetsu M, Hirokawa M, Fukaya E, Teshima E, Kusagawa H, Nishibe T, Nemoto H, Mo M, Ogawa T. Serious Adverse Events with Cyanoacrylate Closure of Varicose Veins: An Initial Report from a Large-Scale National Survey in Japan. *Ann Vasc Dis.* 2024 Mar 25;17(1):21-24. doi: 10.3400/avd.0a.23-00106. Epub 2023 Dec 8. PMID: 38628936; PMCID: PMC11018107.
- 12) Sueta D, Yamashita Y, Morimoto T, Muraoka N, Umetsu M, Nishimoto Y, Takada T, Ogihara Y, Nishikawa T, Ikeda N, Otsui K, Tsubata Y, Shoji M, Shikama A, Hosoi Y, Tanabe Y, Chatani R, Tsukahara K, Nakanishi N, Kim K, Ikeda S, Mo M, Kimura T, Tsujita K; ONCO DVT Study Investigators. The impact of renal function on clinical outcomes of patients with cancer-associated isolated distal deep vein thrombosis: Insights from the ONCO DVT study. *Thromb Res.* 2024 Mar;235:107-115. doi: 10.1016/j.thromres.2024.01.021. Epub 2024 Feb 2. PMID: 38335565.
- 13) 孟 真 急性深部静脈血栓症に対する血栓除去デバイス
Cath Lab Jin 2024 Vol 7 (2) 20-22
- 14) Superficial Radial Artery を橈側皮静脈と誤認し、ジアゼパムが動脈注射された 1 例 (原著論文)
小林 由幸 (済生会横浜市南部病院 心臓血管外科), 角田 翔, 小島 貴弘, 橋山 直樹, 軽部 義久, 齋藤 綾
日本血管外科学会雑誌 (0918-6778) 33 巻 4 号 Page179-183 (2024.)
- 15) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) における血栓症の現状 多施設共同後ろ向きコホート研究 (CLOT-COVID study) から (解説)
軽部 義久 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院), 佐戸川 弘之, 西本 裕二, 中田 弘子, 奥野 善教, 山本 尚人, 相川 志都, 岩田 英理子, 近藤 朱音, 小川 智弘, 山下 侑吾, 小林 隆夫, 日本での新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と VTE の実態調査タスクフォース
心臓 (0586-4488) 55 巻 7 号 Page727-731 (2023.07)
- 16) 外陰部静脈の分枝に流入する小伏在静脈 thigh extension に対し下肢静脈瘤血管内焼灼術を施行した一例 (会議録)
金井 春果 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 原田 祐輔, 阿賀 健一郎, 伏見 謙一, 軽部 義久, 橋山 直樹
脈管学 (0387-1126) 63 巻 Suppl. Page S249 (2023.10)
- 17) 中枢型深部静脈血栓症の亜急性期に腸骨静脈にステントを挿入した 1 例 (会議録)
阿賀 健一郎 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 増田 拓, 伏見 謙一, 根本 寛子, 軽部 義久, 橋山 直樹
日本血管外科学会雑誌 (0918-6778) 32 巻 Suppl. Page P17-6 (2023.)
- 18) ここまでできる! 足病ケア 特定行為で広がる実践活動 (会議録)
菊池 絵里 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 看護部), 軽部 義久, 折内 奈津江, 佐竹 みゆき, 阿賀 健一郎, 伏見 謙一, 橋山 直樹, 孟 真
日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌 (1884-233X) 27 巻 2 号 Page277 (2023.06)
- 19) 一次性下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術における皮下組織穿刺法 (会議録)
根本 寛子 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 菊池 絵里, 増田 拓, 阿賀 健一郎, 伏見 謙一, 軽部 義久, 橋山 直樹, 鈴木 伸一, 齋藤 綾
静脈学 (0915-7395) 34 巻 2 号 Page277 (2023.06)
- 20) 深部静脈血栓症に対して新規保険償還が期待されている腸骨静脈にステント留置手技を行った 3 例 (会議録)
原田 祐輔 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 橋本 直樹, 軽部 義久, 伏見 謙一, 阿賀 健一郎, 金井 春果, 齋藤 綾
静脈学 (0915-7395) 34 巻 2 号 Page272 (2023.06)
- 21) COVID-19 関連血栓症の予防 オミクロン株出現前後での血栓症の観点から見た COVID-19 肺炎の臨床像の相違 (会議録)
軽部 義久 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 根本 寛子, 伏見 謙一, 阿賀 健一郎, 増田 拓, 橋山 直樹
静脈学 (0915-7395) 34 巻 2 号 Page166 (2023.06)
- 22) 深部静脈血栓症に対して新規保険償還が期待されている腸骨静脈にステント留置手技を行なった 3 例
原田 祐輔 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 橋山 直樹, 軽部 義久, 伏見 謙一, 阿賀 健一郎, 金井 春果, 齋藤 綾
静脈学 (0915-7395) 34 巻 2 号 Page272 (2023.06)
- 23) 有痛性青股腫に対して外科的血栓摘除術を施行した 2 例

原田 裕輔 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 橋山 直樹, 軽部 義久, 伏見 謙一, 阿賀 健一郎

日本血管外科学会雑誌 (0918-6778) 33 卷 Suppl. Page P28-10 (2024.)

24) Klippel-Trenaunay 症候群の臨床所見とその治療

原田 裕輔 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 橋山 直樹, 軽部 義久, 伏見 謙一, 阿賀 健一郎, 齋藤 綾

静脈学 (0915-7395) 35 卷 2 号 Page277 (2024.05)

25) COVID-19 関連血栓症の予防 オミクロン株出現前後での血栓症の観点から見た COVID-19 肺炎の臨床像の相違 (会議録)

軽部 義久 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 根本 寛子, 伏見 謙一, 阿賀 健一郎, 増田 拓, 橋山 直樹

静脈学 (0915-7395) 34 卷 2 号 Page166 (2023.06)

26) 深部静脈血栓症に対して新規保険償還が期待されている腸骨静脈にステント留置手技を行なった 3 例

原田 裕輔 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 橋山 直樹, 軽部 義久, 伏見 謙一, 阿賀 健一郎, 金井 春果, 齋藤 綾

静脈学 (0915-7395) 34 卷 2 号 Page272 (2023.06)

27) 有痛性青股腫に対して外科的血栓摘除術を施行した 2 例

原田 裕輔 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 橋山 直樹, 軽部 義久, 伏見 謙一, 阿賀 健一郎

日本血管外科学会雑誌 (0918-6778) 33 卷 Suppl. Page P28-10 (2024.)

28) Klippel-Trenaunay 症候群の臨床所見とその治療

原田 裕輔 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 橋山 直樹, 軽部 義久, 伏見 謙一, 阿賀 健一郎, 齋藤 綾

静脈学 (0915-7395) 35 卷 2 号 Page277 (2024.05)

(発 表)

1) Mo M Appropriateness in Graduated Compression Use

Venous-lymphatics multi-specialty «PAIRS»coupling Vein & Lymphaetic

February 13, 2024PAIRS Dubai

2) 孟 真 日本静脈学会のこれまでとこれから -圧迫療法を含めて日本静脈学会のこれまでとこれから 第 1 回北海道 Venous Forum 2024 年 1 月 20 日 旭川

3) 孟 真 論文を書こう! 編集委員会からのお願いです! 第 4 回日本フットケア足病医学会 2023 年 12 月 23 日 沖縄

4) 孟 真 急性下肢動脈閉塞に対する血栓吸引カテーテル Indigo CAT8&6 第 4 回日本フットケア足病医学会 2023 年 12 月 23 日 沖縄

5) 孟 真 これからの日本静脈学会の目指すもの 関東 Venous Forum 2023 年 11 月 20 日 松本

6) 孟 真 静脈疾患診療の“これまで”と“これから” 第 27 回近畿 Venous forum 2023 年 11 月 18 日 大阪

金井春果 孟真 原田祐輔 阿賀健一郎 伏見謙一 軽部義久 橋山直樹

7) 孟 真 外陰部静脈の分枝に流入する小伏在静脈 thigh extension に対し下肢静脈瘤血管内焼灼術を施行した一例 2023 年 10 月 26 日 横浜

8) 孟 真 深部静脈血栓後症候群 (Post thrombotic syndrome) の発症予防と保存的治療 第 64 回日本脈管学会学術総会 2023 年 10 月 26 日 横浜

9) 孟 真 静脈疾患に対する血栓除去デバイスおよび静脈ステントの適正使用指針 第 64 回日本脈管学会学術総会 2023 年 10 月 26 日 横浜

10) The Current Status of Thrombosis and Anticoagulation Therapy in patients with COVID-19 in Japan: From the CLOT-COVID Study International Union of Phlebology 2023, Sept 21 2023

Makoto Mo, Yuji Nishiomto, Yachi Sen, Ichizo Tsujino, Junichi Nakamura, Naoto Yamamoto, Hiroko Nakata, Satoshi Ikeda, Michihisa Umetsu, Shizu Aikawa, Hiroya Hayashi, Hirono Satokawa, Yoshinori Okuno, Eriko Iwata, Yoshito Ogihara, Nobutaka Ikeda, Akane Kondo, Takehisa Iwai, Norikazu Yamada, Tomohiro Ogawa, Takao Kobayashi, Yugo Yamashita

11) Science per Aquam: Veno-Lymphatic Evidence-Based Advancements in Hydrotherapy

Asian Academic Perspective 29th ISL World Congress of Lymphology Sept 13 2023 (WEB)

Makoto Mo

12) 深部静脈血栓症の亜急性期インターベンションの成功例:

これからの静脈デバイスを考える

- Japan Endovascular Symposium 2023 2023年8月26日 東京
- 13) 孟 真 深部静脈血栓症の治療 抗凝固療法から新規カテーテル治療まで
横浜南循環器談話会 2023年8月24日 横浜
 - 14) 孟 真 (横浜南共済病院)、山本 剛
肺血栓塞栓症血栓除去デバイス適正使用指針 CVIT 2023 2023年8月4日 札幌
 - 15) 孟 真、横井宏佳、田島廣之、東信良 深部静脈血栓症血栓吸引デバイス/静脈ステント適正使用指針 CVIT 2023 2023年8月4日 札幌
 - 16) 孟 真 下肢静脈瘤の治療 (圧迫療法、レーザー・高周波による下肢静脈瘤血管内焼灼術、シアノアクリレート血管内塞栓術) CVIT 2023 2023年8月4日 札幌
 - 17) 孟 真 原田裕輔、橋山直樹、軽部義久、伏見謙一、阿賀健一郎、金井春果、齋藤綾
血管外科医が行う静脈ステント TOPIC 2023 東京 2023年7月21日
 - 18) 孟 真 根本寛子 静脈うっ滞性潰瘍の治療圧迫療法の重要性和静脈圧迫処置保険算定の実際 第15回日本創傷外科学会
2023年7月13日 東京
 - 19) 根本寛子、孟真、菊池絵里、増田拓、阿賀健一郎、伏見謙一、軽部義久、橋山直樹、鈴木伸一
一次性下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術における皮下組織穿刺法第43回日本静脈学会 2023年7月6日 松山
 - 20) 原田裕輔 橋山直樹 軽部義久 伏見謙一 阿賀健一郎 金井春果 孟真 齋藤綾
深部静脈血栓症に対して新規保険償還が期待されている腸骨静脈にステント留置手技を行った3例 第43回日本静脈学会
2023年7月6日 松山
 - 21) 孟 真 日本での新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と VTE の実態調査タスクフォース
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) における血栓症予防および抗凝固療法の診療指針 (Ver4.1) 第43回日本静脈学会
2023年7月6日 松山
 - 22) 孟 真 新たな重症深部静脈血栓症に対する血栓除去デバイス Penumbra INDIGO Aspiration System 第43回日本静脈学会
2023年7月6日 松山
 - 23) Makoto Mo Venous and arterial thrombosis in COVID-19 in Japan: East Asian Paradox, 12th Japan and Korean joint meeting for
Vascular Surgery June 10 2023
 - 24) Makoto MO The Role of Standardized Compression Education for Providers v-ITALY2023 Albarella Island (ITALY) May 25 - 27,
2023.
 - 25) Makoto MO Graduated compression MUST KNOW principles v-ITALY2023 Albarella Island (ITALY) May 25 - 27, 2023.
 - 26) Makoto MO Effectiveness of ECS for PTS prevention CELEST study v-ITALY2023 Albarella Island (ITALY) May 25 - 27, 2023.
 - 27) Makoto MO IPC: literature we all should know, research lines we should develop IPC: literature we all should know, research lines we
should develop v-ITALY2023 Albarella Island (ITALY) May 25 - 27, 2023.
 - 28) 孟 真 なぜ外国に行ってきたか? なぜ外国へ行くか? Keen Institute of Phlebologists Society 2023年4月8日 奈良
 - 29) 有痛性青股腫に対して外科的血栓摘除術を施行した2例 (会議録)
原田 裕輔 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 橋山 直樹, 軽部 義久, 伏見 謙一, 阿賀 健一郎
日本血管外科学会雑誌 (0918-6778) 33 卷 Suppl. Page P28-10 (2024.)
 - 30) 当院における肺動脈肉腫の2例 (会議録)
土屋 七海 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 呼吸器内科), 加志崎 史大, 陳 昊, 岡崎 俊祐, 山田 千尋, 金井 春果,
宮坂 篤史, 加濃 大貴, 金子 舞, 原田 裕輔, 小嶋 結, 湯本 健太郎, 菊池 章友, 阿賀 健一郎, 伏見 謙一, 河野 尚美,
軽部 義久, 橋山 直樹, 孟 真, 大沢 宏至, 小泉 晴美, 高橋 健一, 金子 猛
日本呼吸器学会誌 (2186-5876) 13 卷増刊 Page237 (2024.03)
 - 31) 外陰部静脈の分枝に流入する小伏在静脈 thigh extension に対し下肢静脈瘤血管内焼灼術を施行した一例 (会議録)
金井 春果 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 原田 祐輔, 阿賀 健一郎, 伏見 謙一, 軽部
義久, 橋山 直樹
脈管学 (0387-1126) 63 卷 Suppl. Page S249 (2023.10)
 - 32) 中枢型深部静脈血栓症の亜急性期に腸骨静脈にステントを挿入した1例 (会議録)
阿賀 健一郎, 孟 真, 増田 拓, 伏見 謙一, 根本 寛子, 軽部 義久, 橋山 直樹
日本血管外科学会雑誌 (0918-6778) 32 卷 Suppl. Page P17-6 (2023.)
 - 33) ここまでできる! 足病ケア 特定行為で広がる実践活動 (会議録)
菊池 絵里 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 看護部), 軽部 義久, 折内 奈津江, 佐竹 みゆき, 阿賀 健一郎, 伏
見 謙一, 橋山 直樹, 孟 真

- 34) 一次性下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術における皮下組織穿刺法 (会議録)
根本 寛子 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 菊池 絵里, 増田 拓, 阿賀 健一郎, 伏見 謙一, 輕部 義久, 橋山 直樹, 鈴木 伸一, 齋藤 綾
静脈学 (0915-7395) 34 卷 2 号 Page277 (2023.06)
- 35) COVID-19 関連血栓症の予防 オミクロン株出現前後での血栓症の観点から見た COVID-19 肺炎の臨床像の相違 (会議録)
輕部 義久 (国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院 心臓血管外科), 孟 真, 根本 寛子, 伏見 謙一, 阿賀 健一郎, 増田 拓, 橋山 直樹
静脈学 (0915-7395) 34 卷 2 号 Page166 (2023.06)
- 36) 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 第 32 回学術集会
理事会企画 6 ここまでできる! 足病ケア~特定行為で広がる実践活動~
菊池絵里 輕部義久 折内奈津江 佐竹みゆき 阿賀健一郎 伏見謙一 橋山直樹 孟真
日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌 (1884-233X) 27 卷 2 号 Page277 (2023.06)
- 37) 中枢型深部静脈血栓症の亜急性性に 腸骨静脈にステントを挿入した 1 例.
阿賀健一郎, 橋山直樹, 輕部義久, 伏見謙一, 原田祐輔, 金井春果, 孟真, 齋藤綾
第 51 回日本血管外科学会総会, 東京, 2023.5
- 38) 心臓血管外科チーム所属特定看護師
理事会企画 6 ここまでできる! 足病ケア~特定行為で広がる実践活動~
菊池絵里 輕部義久 折内奈津江 佐竹みゆき 阿賀健一郎 伏見謙一 橋山直樹 孟真 2023 年 7 月 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 第 32 回学術集会

皮膚科

(学会発表)

- 重症薬疹と鑑別を要した成人型黄色ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群 (SSSS) の 1 例
横浜南共済病院 皮膚科 菱沼千尋、廣門未知子
日本皮膚科学会東京支部 第 906 回東京地方会 2023/5/20 (横浜)
- ドキシサイクリン塩酸塩が効果のあった顔面皮膚リンパ型ノカルジア症の 1 例
横浜南共済病院 菱沼千尋、石田彩乃、廣門未知子
日本皮膚科学会東京支部 第 910 回東京地方会 2024/2/17 (横浜)
- デュピルマブ投与によりステロイド漸減が可能となった難治性水疱性類天疱瘡の 1 例
荒川遥¹⁾、熱田桃佳¹⁾、石田彩乃¹⁾、菱沼千尋¹⁾、大須賀裕子¹⁾、島佳世²⁾、廣門未知子¹⁾
1) 横浜南共済病院皮膚科 2) 能見台皮フ科
日本皮膚科学会東京支部 第 910 回東京地方会 2024/2/17 (横浜)

(講演会、勉強会など)

- アトピー性皮膚炎とその治療の進化
廣門未知子
アレルギー疾患研修会 2023 年 6 月 29 日 (横浜)
- ステロイド忌避アトピー性皮膚炎患者に対するリンヴォックの使用経験
廣門未知子
Zoom up AD in YOKOHAMA・YOKOSUKA 2024 年 2 月 9 日 (横浜)

(論文)

- 血清 TARC 値が病勢と相関した抗ラミニン γ 1 類天疱瘡の 1 例
須藤 晶¹⁾ 大須賀 裕子¹⁾ 廣門 未知子¹⁾ 石井 文人²⁾
1) 横浜南共済病院皮膚科 2) 久留米大学医学部皮膚科
臨床皮膚科 77 卷 11 号 : 851-856 2023 年 10 月

泌尿器科

(原著論文：症例報告を含む)

- 池田舞子, 植村公一, 荒木雄至, 入部康弘, 浅岡美保, 佐野太, 河野尚美, 池田伊知郎: 集学的治療により長期生存が得られている膀胱癌小腸転移の一例. 泌尿器科紀要, 69(2): 55-58, 2023.
- 鈴木敦人, 野口毅朗, 能登紀彰, 三留拓, 春日純, 佐野太, 池田伊知郎: 尿管由来が示唆された低悪性度粘液性嚢胞性腫瘍 (mucinous cystic tumor of low malignant potential) の 1 例 日泌尿会誌, 114(4): 128-132, 2023.

- 3) 鈴木敦人, 野口毅朗, 能登紀彰, 三留拓, 春日純, 佐野太, 池田伊知郎: 外傷契機の非虚血性持続勃起症に対して, 右閉鎖動脈塞栓術を施行した1例. 泌尿器外科 36(12), 1340-1343, 2023.

(学会等報告)

- 1) 池田舞子, 植村公一, 蓼沼知之, 伊藤悠城, 古目谷暢, 伊藤悠亮, 村岡研太郎, 林成彦, 蓮見壽史, 槇山和秀: ロボット支援下腎部分切除術(RAPN)後再発症例の検討. 第110回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2023,4.
- 2) 鈴木敦人, 野口毅朗, 能登紀彰, 三留拓, 春日純, 佐野太, 池田伊知郎: 当院における上部尿路癌に対する術前化学療法の有効性の検討. 第110回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2023,4.
- 3) 染野秀介, 池田舞子, 能登紀彰, 三留拓, 春日純, 佐野太, 池田伊知郎: 2回のTAE後に緊急腎摘となった腎損傷の一例. 第67回日本泌尿器科学会神奈川地方会, 横浜, 2023,9.
- 4) 能登紀彰, 染野秀介, 池田舞子, 三留拓, 春日純, 佐野太, 河原崇司, 池田伊知郎: 筋層非浸潤性膀胱癌中リスク初発例における膀胱再発因子と膀胱注入療法の治療効果の検討. 第88回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌, 2023,10.
- 5) 春日純, 染野秀介, 池田舞子, 能登紀彰, 三留拓, 佐野太, 池田伊知郎: 当院におけるプロステートヘルスインデックス(phi)と前立腺癌に関する臨床的検討. 第88回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌, 2023,10.
- 6) 池田舞子, 植村公一, 伊藤悠城, 河原崇司, 古目谷暢, 伊藤悠亮, 村岡研太郎, 三好康秀, 林成彦, 蓮見壽史, 槇山和秀, 上村博司: nmCRPCに対するapalutamide及びdarolutamideの安全性と有効性. 第88回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌, 2023,10.
- 7) 三留拓, 染野秀介, 池田舞子, 能登紀彰, 春日純, 佐野太, 池田伊知郎: 横浜南共済病院におけるRezūmTMシステムによる経尿道的水蒸気治療の初期治療経験. 第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 神戸, 2023,11.

(講演)

- 1) 能登紀彰: 当院における膀胱癌周術期治療. Bladder Cancer Web Seminar in Kanagawa, 横浜, 2023,6.
- 2) 佐野太: ツリウムレーザー蒸散術. 横浜泌尿器科セミナー, 横浜, 2023,6.
- 3) 三留拓: 各施設における腎細胞癌薬物療法の考察. RCC Meet the Expert, 横浜, 2023,9.
- 4) 染野秀介: 特発性腎出血に対してツリウムレーザーによる止血術が奏効した一例. 第2回ツリウムレーザー研究会学術集会, 米子, 2023,11.
- 5) 佐野太: エンドポイントはどこに置くのか. 第2回ツリウムレーザー研究会学術集会, 米子, 2023,11.
- 6) 三留拓: 横浜南共済病院の進行性腎細胞癌に対する1st lineとirAE対策. RCC web seminar, 横浜, 2023,12.

産 婦 人 科

(学会発表)

- 1) 佐藤理穂, 越後貫優, 荒川聡美, 清瀬愛, 宮本麻美, 橋本彩紗, 松崎結花里, 古野敦子, 永田智子
ロボット支援下子宮全摘出術の際に縫合針を見失った一例
第63回日本産科婦人科内視鏡学会講演会 びわ湖大津プリンスホテル・滋賀 2023年9月
- 2) 松崎結花里, 越後貫優, 荒川聡美, 清瀬愛, 佐藤理穂, 宮本麻美, 橋本彩紗, 古野敦子, 永田智子
全腹腔鏡下子宮全摘術後5か月で陰断端離開を呈した一例
第63回日本産科婦人科内視鏡学会講演会 びわ湖大津プリンスホテル・滋賀 2023年9月
- 3) 越後貫優, 松崎結花里, 荒川聡美, 清瀬愛, 佐藤理穂, 宮本麻美, 古野敦子, 永田智子
閉経後の巨大子宮筋腫を伴う子宮捻転を来した1例
第440回 神奈川産科婦人科学会学術講演会(ハイブリット開催) 川崎・神奈川 2023年9月
- 4) 永田智子, 清瀬愛, 越後貫優, 荒川聡美, 佐藤理穂, 宮本麻美, 橋本彩紗, 松崎結花里, 古野敦子
当院におけるvNOTES導入と初期経験
第24回横浜市南部医療圏産婦人科病院連絡会学術集会 横浜・神奈川 2023年12月

(論文)

- 1) 佐藤 理穂, 永田 智子, 川上 郁苗, 清瀬 愛, 岩泉 ゆき葉, 萩原 有子, 橋本 彩紗, 松崎 結花里, 沼崎 令子
腹腔鏡下手術で診断されたダグラス窩成熟奇形腫の1例
日本女性医学学会雑誌 31 巻 2 号 P.296-300

眼 科

(原著)

- 1) Huang SK, Ishii M, Mizuki Y, Kawagoe T, Takeuchi M, Nomura E, Mizuki N. Circadian Fluctuation Changes in Intraocular Pressure Measured Using a Contact Lens Sensor in Patients with Glaucoma after the Adjunctive Administration of Ripasudil: A Prospective Study. *J Pers Med.* 2023 May 6;13(5):800.
- 2) Teshigawara T, Akaishi M, Mizuki Y, Takeuchi M, Hata S, Meguro A, Mizuki N. Modified Technique of Setting Capsulotomy Thickness

in Reducing Capsulotomy-Related Complications During Femtosecond Laser-Assisted Cataract Surgery: A Prospective, Comparative Cohort Study. *Ophthalmol Ther.* 2023 Oct;12(5):2621-2630.

(学会発表)

- 1) 水木 悠喜. 神奈川眼科医会教育講演. 横浜南共済病院の硝子体手術・白内障手術・緑内障手術の現状. 2024年1月13日

耳鼻咽喉科

(学会発表)

- 1) Ryo Ikoma, Yoshinobu Takahata, and Nobuhiko Oridate: 4 cases of anaplastic thyroid carcinoma. 45th Annual Meeting of the European Thyroid Association, Milano, 2023, 9.
- 2) 生駒 亮, 松本 悠, 山田将大, 松下祐希子, 岡部佑夏, 折館伸彦: 全身麻酔下手術で摘出できなかった咽頭魚骨異物症例. 第124回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 福岡, 2023, 5.
- 3) 生駒 亮, 松本 悠, 河野尚美: 術前診断が困難であった COREAH 症例. 第62回日本鼻科学会総会・学術講演会, 津, 2023, 9.
- 4) 生駒 亮, 松本 悠, 古川 駿, 松下祐希子, 朝比奈光暉: 眼窩内炎症性偽腫瘍症例. 第73回共済医学会, 金沢, 2023, 10.
- 5) 生駒 亮, 折館伸彦, 岩崎博幸: 気管合併切除を施行した甲状腺分化癌の3症例. 第73回日本気管食道科学会総会・学術講演会, 福岡, 2023, 11.
- 6) 松本 悠, 生駒 亮: Nasal chondromesenchymal hamartoma の成人症例. 第62回日本鼻科学会総会・学術講演会, 津, 2023, 9.
- 7) 朝比奈光暉, 生駒 亮, 松本 悠, 古川 駿, 松下祐希子, 小宮孝章, 長岡章平: 下鼻甲介に生じた関節リウマチ関連リンパ増殖性疾患の一例. 第73回共済医学会, 金沢, 2023, 10.
- 8) 河合朋佳, 生駒 亮: 内視鏡下に切除した上咽頭乳頭腫例. 第84回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会, 高知, 2023, 9.
- 9) 河野敏朗, 島田翔子, 奥住沙也, 岩村節子, 鯨井和明, 高畑喜延, 高畑喜臣, 石戸谷淳一, 古川滋, 栗原美樹, 生駒 亮, 折館伸彦: 突発性難聴 (Grade4) 373例の治療成績と予後因子 (cVEMP) について. 第124回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 福岡, 2023, 5.

(講演)

- 1) 生駒 亮: 好酸球性副鼻腔炎の管理とデュピルマブ. SANOFI Type2 Forum in Yokohama. 横浜, 2023年6月.
- 2) 生駒 亮: ガイドラインをふまえたアレルギー性鼻炎の治療選択. アレルギー疾患研修会. 横浜, 2023年6月.
- 3) 生駒 亮: デュピルマブの作用機序と ECRS に対する治療効果. SANOFI Type2 Forum in Kanagawa. 横浜, 2023年8月.
- 4) 生駒 亮: CRSwNP Session. 第2回 Type2 炎症による疾患負荷を考える会. 横浜, 2023年11月.
- 5) 生駒 亮: AMR 対策と耳鼻咽喉科領域感染症. 横浜南共済病院 地域医療支援病院研修会 当院の抗菌薬適正化への取り組み. 横浜, 2023年11月.
- 6) 生駒 亮: 慢性副鼻腔炎における Bio 製剤の有効性. クリニックでできる Bio 製剤治療のポイントを学ぶ会. 横浜, 2024年1月.
- 7) 生駒 亮: 当科で行っている慢性副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎診療について. 金沢区耳鼻咽喉科医会学術講演会. 横浜, 2024年1月.
- 8) 生駒 亮: ECRS 治療の現在 ～基礎と実臨床から Dupilumab を再考する～. 第52回 西横浜喘息懇話会. 横浜, 2024年2月.
- 9) 生駒 亮: AMR 対策アクションプランに基づいた適正な抗菌薬選択. 相模原市耳鼻咽喉科医会 学術講演会. 相模原, 2024年3月.

(座長)

- 1) 横浜市耳鼻咽喉科医会学術講演会. 横浜, 2023年10月.

歯科口腔外科

(学会発表・講演)

- 1) 第68回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会
令和5年11月10日～11月12日 大阪国際会議場 大阪市
「超高齢者の口腔-乳腺 重複癌に対し同時手術を行った1例」
加藤智弘、大村雄介、武田祥治、小泉雄
- 2) 第68回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会

令和5年11月10日～11月12日 大阪国際会議場 大阪市

「比較的まれな上唇に発生した扁平上皮癌の1例」

武田祥治、大村雄介、小泉雄、加藤智弘

麻 酔 科

(講 演)

- 1) 渡邊 至：日本区域麻酔学会第10回学術集会 ランチョンセミナー4
乳腺外科手術とアネレム® 麻酔～レミ・デス・ブロックを超えるのか？大阪 2023.04.15
- 2) 渡邊 至：新潟大学神経ブロックセミナー 2023.05.27 新潟大学
- 3) 渡邊 至：日本麻酔科学会第70回学術集会富士フィルムメディカル(株) 展示ブース内セミナー「これから始める PENG Block
～コツとビットフォール」 2023.06.01 神戸
- 4) 渡邊 至：第3回築地神経ブロックセミナー 腕神経叢ブロックの実際～ブロック“いいね”を増やすコツ教えます
2023.06.24 聖路加国際病院
- 5) 渡邊 至：第15回ポイントオブケア超音波学会学術集会ハンズオンセミナー：頸部 2023.07.15 出雲
- 6) 渡邊 至：第15回ポイントオブケア超音波学会学術集会：初学者のための1Dayセミナー 末梢神経 2023.07.15 出雲
- 7) 渡邊 至：千葉大学神経ブロックセミナー「手術室下肢静脈エコーのススメ」2023.08.05 千葉
- 8) 渡邊 至：日本医科大学神経ブロックセミナー「レミ・デス・ブロックから始める麻酔科超音波診療」2023.09.30 東京
- 9) 渡邊 至：末梢神経ブロックハンズオンセミナーYOKOHAMA 2023.10.14 横浜
- 10) 渡邊 至：第4回関西麻酔シンポジウム「エコーガイド下神経ブロックは量子物理学なのか？」2023.11.10 Web
- 11) 渡邊 至：ビーブラウン株式会社主催「明日の神経ブロックを語る会」コーディネーター2023.11.19 東京
- 12) 渡邊 至：山梨若手PNBセミナー「麻酔科医がエコーを使う3つの理由」2023.11.25 山梨大学医学部附属病院
- 13) 渡邊 至：第8回奈良区域麻酔研究会「麻酔科医に必要な3つの超音波診療」2024.02.17 奈良
- 14) 渡邊 至：沖縄県麻酔集中治療研究会「麻酔科診療におけるGame Changer」2024.03.02 沖縄
- 15) 菊池 賢・渡邊 至：神奈川麻酔科医会第55回学術集会 エコー下神経ブロックハンズオンセミナー 2024.03.09 神奈川
- 16) 渡邊 至：第8回相模原地区神経ブロックセミナー 2024.03.30 北里大学

(学会発表)

- 1) 渡邊 至. フェノールによるSmithwick神経遮断術(変法)が有用であった重症下肢虚血2症例. 日本区域麻酔学会第10回
学術集会 2023.4 大阪
- 2) 明石裕里・渡邊 至. 術中costoclavicular approachで腕神経叢のレスキューブロックを行った一例. 日本区域麻酔学会第10
回学術集会 2023.4 大阪
- 3) 柳 大介・渡邊 至. 術後疼痛管理チームの回診により発見された大腿神経ブロックカテーテル逸脱症例. 日本区域麻酔学
会第10回学術集会 2023.4 大阪

リハビリテーション科

(学会発表、講演、座長)

- 1) 中西理佐子「手指基節骨折の保存療法におけるナックルキャストと新規2指固定スプリントのMP関節の固定性の一致度
を検証するバイオメカニクス研究」第35回ハンドセラピー学会 2023.4 東京
- 2) 小野元揮：「緩和期のリハビリテーション」神奈川県立保健福祉大学 2023.11.6 横須賀
- 3) 森麻美子、河野美由紀、栗田健、中西理佐子「トグル入力と触覚フィードバックによりスマートフォン操作が可能となった
Balint症候群の一例」第24回日本語聴覚学会 2023.6 愛媛
- 4) 森麻美子、河野美由紀「自己修正を伴う音韻性錯語が特徴的な交叉性失語症を呈した一例」第47回日本高次脳機能障害学
会学術総会 2023.10 仙台
- 5) 吉田知也、森麻美子、河野美由紀、牧田優佳、栗田健、佐々木芽衣「脳炎を発症した成人男性に急性期治療と並行してリハ
ビリを行い、回リハを経由し、復職に至った症例」第19回神奈川県作業療法学会 2023.10 茅ヶ崎
- 6) 中西理佐子、津久井達人、中島義人、松本里美、牧田優佳、菅原寿姫、吉田知也、戸崎江理、石渡規子、山崎哲也、三原久範
「基節骨折に対する保存療法における、ナックルキャストとスプリント療法の比較」第72回共済医学会 2023.10 金沢
- 7) 菅原寿姫、中西理佐子、牧田優佳、長岡章平、根本明宜「手指関節炎後の屈曲制限に対しスプリント療法で改善が得られた
症例について」第57回日本作業療法学会 2023.11 沖縄
- 8) 中西理佐子、牧田優佳、菅原寿姫「手の横アーチによる中手指関節の伸展動作への抑制機能 基節骨折の保存療法にお
けるスプリントデザインの検証」第57回日本作業療法学会 2023.11 沖縄
- 9) 栗田健 座長 第10回日本スポーツ理学療法学会学術大会 一般演題7 下肢のスポーツ障害 2024.1.7 埼玉県大宮市ソ

ニックシティ

- 10) 中西理佐子、牧田優佳、菅原寿姫、吉田知也、戸崎江理、長岡章平、根本明宜「3D プリンターによる手指スプリント作成の試みー若年リウマチ患者のニーズに合わせてー リウマチリハケア研究会 2024.1 横浜

(文 献)

- 1) 木元貴之:「肘内側側副靭帯損傷に対する Tommy John 手術の後療法」臨床スポーツ医学 40(8): 852-856. 2023

放 射 線 科

(論 文)

【医師】

- 1) H.Hagiwara, Y.Kinno, T.Ikegami: Negative Pressure Pneumomediastinum: A Novel Concept of Spontaneous Pneumomediastinum Without Mediastinal Widening Following Weight Loss, International Journal of General Medicine, 2023;16 1227-1236

(講演・学会発表)

【医師】

- 1) 萩原浩明、金野義紀、久保田昭彦、安田尚史、込田みどり、竹内結花: 陰圧性縦隔気腫: 特発性縦隔気腫の特殊な病態、神奈川県放射線医会第63回例会、2023.10 横浜
2) 萩原浩明、金野義紀: 縦隔圧が低下することで発症する縦隔気腫、第31回横浜臨床医学会学術集談会 2023.12 横浜

【技師】

- 1) 南 広哲: Inversion Recovery シーケンス ～STIR～
第95回 神奈川 GE MR User's Meeting 2023、5 Web 開催
2) 南 広哲: MRIによるCT like Bone Image のトライアルと画像の振り返り ～腰椎分離症～
第95回 神奈川 GE MR User's Meeting 2023、5 Web 開催
3) 南 広哲: 第95回神奈川 GE MR User's Meeting 座長 2023、5 Web 開催
4) 南 広哲: 被曝線量の低減に向けて ～循環器内科チーム用～
循環器内科医師対象 被曝線量低減のための勉強会 (院内) 2023、6
5) 南 広哲: 第96回 神奈川 GE MR User's Meeting 座長 2023、6 Web 開催
6) 南 広哲: MRI 検査中に遭遇した事象と対応 (展開不良 Artifact)
第5回 MRI 症例検討会 発表 2023、7 Web 開催
7) 南 広哲: T2 Weighted Opposed-Fat Subtraction Image 臨床応用は如何に
MRI 創意工夫懇話会 発表 2023、7 東京
8) 南 広哲: 新しい Let's try DWIBS !! 教えてください!!
第20回 GE DWIBS 研究会 2023、8 Web 開催
9) 南 広哲: DWIBS に関わる論文紹介
第20回 GE DWIBS 研究会 発表 2023、8 Web 開催
10) 南 広哲: 診療放射線の安全利用について～臨床研修医用～
2023年度 Clinical Conference 研修医レクチャー (院内) 2023、9
11) 南 広哲: GEHC 社製 MRI 装置を用いた全身拡散強調画像の標準化に向けた取り組み
第51回 日本磁気共鳴医学会大会 2023、9 東京
12) 南 広哲: 非造影! アダムキュービッツ MRA
第97回 神奈川 GE MR User's Meeting (Signa 甲子園 神奈川県予選会) 2023、10 Web 開催
13) 南 広哲: 第97回 神奈川 GE MR User's Meeting 座長 2023、10 Web 開催
14) 南 広哲: 第1部 ユーザーが考える DWIBS 標準化の方法
第6回 Body MRI 技術研究会 座長 2023、11 Web 開催
15) 南 広哲: 基調講演I MRCPを中心とした撮像技術
第11回 C-MAC 研究会 2023、11 千葉県 + Web 開催
16) 南 広哲: 令和5年度 第1回 横浜南部地区放射線技師会勉強会 司会 兼 座長 2023、11 Web 開催
17) 南 広哲: COVID-19の対応について ～放射線科の立場から～
2023年度 感染講演会 発表 (院内) 2023、11
18) 南 広哲: 非造影! アダムキュービッツ MRA
第18回 Signa 甲子園 2023 全国大会 東京都+Web 開催 2023、12
19) 南 広哲: 第98回 神奈川 GE MR User's Meeting 座長 2024、1 Web 開催
20) 南 広哲: 男性骨盤 (泌尿器科) 領域の MRI ～前立腺・膀胱を中心に～

令和5年度 神奈川県放射線技師講習会 2024、1 横浜 + Web 開催

- 21) 南 広哲：第56回 神奈川県MRI技術研究会 受付+質疑応答担当 2024、2 横浜+Web
- 22) 南 広哲：ADC値カラー表示の臨床応用（GE MRI group）MRI 創意工夫懇話会 2024、2 東京
- 23) 南 広哲：第21回 GE DWIBS研究会 座長 2024、2 Web 開催
- 24) 南 広哲：世話人からの情報提供 検査時間短縮へのアプローチ@横浜南共済病院
第21回 GE DWIBS研究会 発表 2024、2 Web 開催
- 25) 長谷川 英央：血管造影にて意識消失の原因が判明した椎骨動脈循環不全の一例
第1回横浜南部地区放射性技師会勉強会 2023、11 Web 開催
- 26) 中島 義人：当院MRIにおけるCT Like imageの使用状況と有用性
横須賀三浦地区MRI研究会 2023、6 横須賀
- 27) 阿部 澄絵：下肢静脈3D描出におけるDual Energy撮影の活用
第72回共済医学会 2023、10 金沢（石川）
- 28) 阿部 澄絵：下肢静脈3D描出におけるDual Energy撮影の活用
横須賀三浦地区らせんCT研究会 2023、11 横須賀
- 29) 阿部 澄絵：下肢静脈3D描出におけるDual Energy撮影の活用
第20回神奈川県放射線学術大会 2024、2 横浜

緩和 支持療法科

（論文）

- 1) Tsuno T, Kawaguchi T, Yanaizumi R, Kondo J, Kojima K, Igarashi T, Inoue M, Miura T, Miyasato A, Azuma K, Hamada H, Saeki T, Mawatari H, Ogura H, Kotani A, Yamaguchi T, Hakamata H. Psychological Barriers to the Use of Opioid Analgesics for Treating Pain in Patients With Advanced Recurrent Cancer: A Multicenter Cohort Study. *Palliat Med Rep.* 2024 Jan 19;5(1):43–52.
- 2) 吉田希美, 大島亮, 佐藤久美恵, 田中みどり, 寺尾律, 馬渡弘典, 藤澤順, 高橋悦子. 緩和ケア病棟における遺族ケアの取り組み. *共済医報.* 2023;72(3):295–9.
- 3) Kusakabe A, Mawatari H, Hirano K, Ohta M, Inamori M, Morita T. Identifying the unmet physical and psychological intimacy and sexual needs of partners of patients with terminal cancer. *J Sex Med.* 2023 Oct 31;20(11):1312–8.

（学会発表）

- 1) 津野丈彦, 川口崇, 柳泉亮太, 近藤潤一, 小島圭子, 五十嵐隆志, 井上将貴, 三浦智史, 宮里明芽, 東加奈子, 濱田宏, 田上正, 佐伯朋哉, 馬渡弘典, 藤宮龍祥, 小倉宏之, 大山優, 小谷明, 山口拓洋, 袴田秀樹. 進行再発がん患者におけるオピオイド鎮痛薬導入前後の心理的障壁と疼痛 多施設共同研究. 第28回日本緩和医療学会学術大会; 2023年6月; 神戸.
- 2) 田中幸介, 竹田雄馬, 平塚裕介, 采野優, 大屋清文, 岡本宗一郎, 松本衣里, 山代亜紀子, 野里洵子, 田上恵太, 馬渡弘典, 中島淳, 市川靖史, 森雅紀, 森田達也, 結束貴臣. 座学・ビデオ・ロールプレイを用いた看取りの学生教育に、事前動画学習を用いて教員の対面指導時間を短縮した際の困難感の改善効果を比較検討した研究. 第28回日本緩和医療学会学術大会; 2023年6月; 神戸.
- 3) 木村尚子, 竹田雄馬, 馬渡弘典. 多施設合同web抄読会「かながわ緩和ジャーナルクラブ」の活動報告. 第28回日本緩和医療学会学術大会; 2023年6月; 神戸.
- 4) 馬渡弘典. 「かながわ緩和ケア医キャリアパス説明会」を通じた地域の緩和ケア均てん化の試み. 第5回 日本緩和医療学会 関東・甲信越支部学術大会; 2023年10月; 足利.

（座長）

- 1) 馬渡弘典. 第8回 日本がんサポートケア学会学術集会 E-poster 痛み; 2023年6月; 奈良.
- 2) 的場元弘（演者）, 馬渡弘典（座長）. がんの痛みの治療と医療用麻薬の自己管理～退院後に向けた病棟管理からの卒業～. 第28回日本緩和医療学会学術大会; 2023年6月; 神戸.

（講演・その他）

- 1) 馬渡弘典. 第5回かながわ緩和ケア医キャリアパス説明会; 2022年7月19日, 27日; 横浜（横浜市医療局と共催）
- 2) 馬渡弘典. e-learning の復習, 事例検討（膝がん）ワークショップ. 令和5年度神奈川県がんセンター緩和ケア研修会; 2023年10月15日; 横浜.
- 3) 馬渡弘典. 終末期医療. 横浜市立大学医学部講義; 2023年11月24日; 横浜.
- 4) 馬渡弘典. 当PCUの案内. 令和5年度 三浦半島緩和ケア研修会; 2023年12月10日; 横須賀.
- 5) 馬渡弘典. 緩和ケア病棟や自宅療養への移行を上手に行うコツ; 2024年2月28日; 横浜.
- 6) 馬渡弘典. 緩和ケア医のキャリアパス～緩和ケア医の歩んできた道～. 第11回 日本緩和医療学会 医学生・若手医師のための緩和ケアセミナー on WEB; 2024年3月16日; Web.

- 7) 初山正人. 病棟での指示について. 横浜南共済病院研修医講義; 2024年9月6日; 横浜.
- 8) 初山正人. e-learningの復習, 令和5年度横浜栄共済病院緩和ケア研修会; 2024年11月16日; 横浜.
- 9) 初山正人. せん妄. 横浜南共済病院講義; 2024年11月25日; 横浜.

(総説・コラム・著書)

- 1) 馬渡弘典. がん疼痛治療の概要, がん疼痛や症状のアセスメント. In: 日本緩和医療薬学会 編. 緩和医療薬学 改訂第2版. 東京: 南江堂; 2023. p.44-48.
- 2) 日本緩和医療学会ガイドライン統括委員会 編. がん患者の治療抵抗性の苦痛と鎮静に関する基本的な考え方の手引き 2023年版. 東京: 金原出版; 2023. (外部評価委員)
- 3) 馬渡弘典. まだできる! 難治性疼痛の緩和ケア (第1章) 治療モダリティを知る 難治性疼痛を前提とした薬物療法 内服できる時・できない時 難治性疼痛を前提としたアセトアミノフェン・NSAIDsの考え方 (解説). 緩和ケア. 2023;33 (増刊6月): 29-34.

I C U / C C U 室

(学会発表)

- 1) 刈谷隆之, 佐藤茜. びまん性特発性骨増殖症 (DISH) の頸椎病変のため、術後の抜管に慎重な気道評価・手技を要した頸椎骨折の1例. 第51回日本集中治療医学会学術集会 2024.3.15 札幌

臨 床 検 査 科

(学会発表、講演)

- 1) 宮前香織: 尿沈渣中に糞便成分を認めた症例、共済医学会、10月25日.
- 2) 横田晶子: 寒冷凝集素の影響により自己血が使用できなかった症例、日本輸血・細胞治療学会、5月11日.
- 3) 西島渚: 超音波検査で描出可能であった転移性骨腫瘍の2症例、日本超音波学会、6月10日.
- 4) 草刈翔: 診断に苦慮した Platypnea Orthodeoxia Syndrome の一例、日本超音波学会、6月10日.
- 5) 小野田素大: 尿沈渣検査精度向上に向けての検討-eGFRと尿沈渣検査-, 共済医学会、10月25日.
- 6) 菅原拓也: 当院における FilmArray 呼吸器パネル 2.1 の運用実績および臨床的有用性の検討、日臨技首都圏・関甲信支部医学検査学会、11月26日.
- 7) 宮澤佑衣: 診断に苦慮した膝窩動脈捕捉症候群の一例、日本超音波学会、6月11日.
- 8) 松尾崇史: 当院における FilmArray 髄膜炎・脳炎パネルの運用実績と臨床的有用性、日臨技首都圏・関甲信支部医学検査学会、11月26日
- 9) 佐藤雅樹: 単球分布幅 (MDW) の基礎的および臨床的有用性の検討、日臨技首都圏・関甲信支部医学検査学会、11月26日.
- 10) 溝井莉奈: ISO に対する心電図検査四肢誘導装着部位による波形変化の検討、共済医学会、10月25日.

(論文等)

- 1) 横田晶子: 当院における妊産婦の不規則抗体検出と HDFN 発生状況、妊娠回数との関連性についての考察、日本輸血細胞治療学会誌、69:442-447、2023.

病 理 診 断 科

(論 文)

- 1) 毛利かれん、今井宏樹、小嶋結、河野尚美: 細胞診が診断の契機となった漿液性子宮内膜上皮内癌 (SEIC) の1例、神奈川県臨床細胞学会雑誌第28巻1号. P7-10.

(学会発表、講演)

- 1) 今井宏樹: 令和5年度生活習慣病従事者講習会「乳腺・リンパ節 講義・実習」2023.9.3. 横浜
- 2) 野崎真仁: 第35回神臨技スライドセミナー【婦人科領域】2023.10.7. 横浜
- 3) 毛利かれん: スライドカンファレンス「症例2 唾液腺」出題者、第40回神奈川県臨床細胞学会、2023.10.14. 相模原
- 4) 今井宏樹、小山剛司、中野睦子、牧野純、野崎真仁、毛利かれん、石田瑠菜、小嶋結、河野尚美: ホジキンリンパ腫と鑑別が困難であったびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の細胞像、第62回日本臨床細胞学会秋期大会、2023.11.4-5. 福岡
- 5) 野崎真仁、今井宏樹、小山剛司、中野睦子、牧野純、毛利かれん、石田瑠菜、小嶋結、河野尚美: 破骨型多核巨細胞を伴う退形成癌の1例、第62回日本臨床細胞学会秋期大会、2023.11.4-5. 福岡
- 6) 毛利かれん、今井宏樹、小山剛司、中野睦子、牧野純、野崎真仁、石田瑠菜、小嶋結、河野尚美: 細胞診で組織型推定が困難であった甲状腺悪性リンパ腫の1例、第62回日本臨床細胞学会秋期大会、2023.11.4-5. 福岡

M E 科

(学会発表)

- 1) 紺野光鶴 「体外式除細動器により植え込み型心電計が故障した一例」 第 16 回植込みデバイス関連冬季大会 2024.2.9
～10 広島

栄 養 科

(学会発表)

- 1) 北岡 瑞希 (管理栄養士) 「ホームページを活用した地域支援活動の取組み」 第 72 回共済医学会
- 2) 北園 晶子 (管理栄養士) 「化学療法患者におけるスクリーニングツールの検討」 日本病態栄養学会

薬 剤 科

(講 演)

- 1) 中島 研：助産薬理学特論 東京医療保健大学大学院 2023.5.25, 2023.6.7
- 2) 中島 研：地域保健薬学概論 東京薬科大学 2023.11.1, 2023.11.22
- 3) 橋口 宏司：「がん患者に対するチーム医療における薬剤師の役割 (病院薬剤師編)」薬剤師によるがん患者本位のエンゲージメントを考える会 2023.05.30
- 4) 橋口 宏司：「抗がん剤治療中の過程での曝露対策 ―ご本人、ご家族にどのように指導を行うか―」金沢区薬剤師会講演会 2023.06.15
- 5) 橋口 宏司：「「みんなが悩む高額な経口抗がん薬の取り扱いについて」―採用、発注、納品、在庫管理について病院・薬局双方の立場から考えてみよう―」金沢区薬業連携講演会 2023.11.16
- 6) 横山 敦：「薬剤師外来の現状と加算を見据えた今後の課題」第 1 回神奈川県東和薬品オンコロジーセミナー『がん薬物療法体制充実加算、迷う君へ』 2024.03.27
- 7) 加茂 広晃：排尿領域で使用される薬剤について～薬剤師の立場から～ 市民公開講座 2023.7.6 金沢公会堂
- 8) 加茂 広晃：排尿領域で使用される薬剤について～薬剤師の立場から～ 市民公開講座 2023.9.7 金沢公会堂

(学会発表)

- 1) 橋口 宏司：シンポジウム 3 「「外来腫瘍化学療法診療料に向けた曝露対策患者指導」への新たなエビデンス」 日本医療薬学会 2023.11.03 仙台
- 2) 橋口 宏司：シンポジウム 10 「Complex case カンファレンス ―複雑な症例の薬物療法をプロフェッショナルな薬剤師と一緒に考えてみよう」 日本医療薬学会 2023.11.03 仙台
- 3) 佐藤 剛、仁平匡俊、田島亜希子、岡田雅仁：アナモレリン使用に関する当院医師の意識調査 第 39 回日本臨床栄養代謝学会 学術集会 JSPEN2024 2024.2.15 横浜
- 4) 佐藤 剛、池上悠貴、鈴木隆之、原田 優、神尾佐織、孟 真、中島 研：横浜南共済病院の周術期薬剤管理加算取得の取り組み 第 72 回共済医学会 2023.10.25 金沢
- 5) 横山 敦、加茂広晃、原田 優、佐伯朋哉、橋口宏司、中島 研：「横浜南共済病院におけるエンホルツマブ ベドチンの使用状況および副作用調査」ポスター 日本病院薬剤師会関東ブロック第 53 回学術大会 2023.8.26 新潟
- 6) 池上悠貴：北川郁代、田中佳那、中島 研、渡邊 至. 当院の術後疼痛管理チームの取り組みと課題. 第 72 回共済医学会. 2023 年 10 月 25 日. 金沢.
- 7) 原田 優、鈴木 葵、横山 敦、小泉晴美、中島 研：「吸入指導に関連した保険調剤薬局との薬業連携の取り組み」口頭演題 第 72 回共済医学会 2023.10.25 仙台
- 8) 原田 優、橋口宏司、横山 敦、鈴木 葵、相馬終子、佐伯朋哉、坪井仁美、中島 研：「ICI に対する当院の適正使用および安全管理の取り組み」ポスター 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 JASPO2024 2024.03.03 神戸
- 9) 横山 敦、加茂広晃、原田 優、佐伯朋哉、橋口宏司、中島 研：横浜南共済病院におけるエンホルツマブ ベドチンの使用状況および副作用調査 日本病院薬剤師会関東ブロック 第 53 回学術大会 2023.8.27 新潟

(院内講演会)

- 1) 橋口 宏司：「血管外漏出ガイドライン改訂のポイント」共済オンコロジーミーティング 2023.06.20
- 2) 橋口 宏司：「がん患者と栄養 薬剤師はどこまで取り組めば良いのか」共済オンコロジーミーティング 2023.12.08
- 3) 横山 敦：「肺癌治療におけるレジメンを理解し、一歩進んだ薬業連携を実践する」がん領域における地域連携研修会 2023.4.11
- 4) 横山 敦：「アロカリスの使用経験」がん化学療法ミーティング 2023.6.20
- 5) 大津 楓：静脈注射 (看護師対象研修会)
- 6) 原田 優：「肺癌治療における注意すべき副作用とマネジメントについて」がん領域における地域連携研修会 2023.04.11

7) 原田 優:「トレーニングレポートの解析と薬薬連携」第1回吸入指導セミナー 2024.01.22

(座長)

- 1) 橋口 宏司:日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2024 一般口演 7「病診(薬薬)連携・チーム医療②」:座長 2024.03.02
- 2) 橋口 宏司:「ベネクレクスタ Pharmacist Seminar」:座長 2023.09.29

(ファシリテーター・パネリスト)

- 1) 橋口 宏司:「外来化学療法運用効率化のためのワークショップ GAIRAI」:ファシリテーター 2023.06.10
- 2) 橋口 宏司:「外来化学療法運用効率化のためのワークショップ GAIRAI」:ファシリテーター 2023.09.09
- 3) 橋口 宏司:「Taiho CINV Seminar in 横浜市南部、横須賀三浦〜アロカリス発売1周年記念講演会〜」:ディスカッサント 2023.09.23
- 4) 橋口 宏司:「Mikaela M. Olsen 先生と取り組むハザードドラッグ (HD) の安全な取り扱いのベストプラクティス」:パネリスト 2024.01.25
- 5) 橋口 宏司:「みんなで作るがん医療プロジェクト JTOP×東海電子」:ファシリテーター 2023.12.10
- 6) 橋口 宏司:「The 2nd Team Science Workshop: Strategies for Empowered Teams」:ファシリテーター 2024.02.10-13
- 7) 橋口 宏司:「よこはま乳がん学校 第13期」:ファシリテーター 2024.03.10,17
- 8) 横山 敦:「2023 年度第1回神奈川がん薬物療法・専門薬剤師ワークショップ 課題症例(婦人科がん)」ファシリテーター 2023.6.3 Web
- 9) 横山 敦:「2023 年度第2回神奈川がん薬物療法・専門薬剤師ワークショップ 課題症例(肺がん)」ファシリテーター 2023.10.14 Web
- 10) 横山 敦:「2023 年度第3回神奈川がん薬物療法・専門薬剤師ワークショップ 課題症例(大腸がん)」ファシリテーター 2024.2.3 Web
- 11) 横山 敦:「よこはま乳がん学校 第13期」:サブファシリテーター 2024.03.10, 17

(共著)

- 1) 橋口 宏司:「ISOPP Standards for the Safe Handling of Cytotoxics 日本語翻訳版」日本臨床腫瘍薬学会雑誌 Vol32

(共同演者)

- 1) 香西祥子、中島研、河西邦浩. 授乳婦への使用薬剤の情報検索および指導ツールとしてのアプリの開発. 第37回日本母乳哺育学会学術集会. 2023年9月17日. 東京.
- 2) 櫻井洋臣(慶應義塾大学病院薬剤部)、板垣麻衣、鎌田隼、橋口宏司、衛藤智章、角佳亮、牧陽介、米村雅人、向原徹、土原一哉、橋場元、遠藤一司、近藤直樹:「がんゲノム医療に係る医療機関と薬局の連携を推進する教育プログラムへの取り組み」癌治療学会 2023.10.20 横浜
- 3) Chihiro Kondoh (Department of Clinical Oncology, Toranomon HP), Shogo Watanabe, Takeshi Yamaguchi, Yuko Tanabe, Atsushi Yokoyama, Rika Kizawa, Taro Yamanaka, Yosuke Aoyama, Koichiro Yoshino, Tomoya Saeki, Koji Hashiguchi, Keita Mori, Koichi Suyama, Yuji Miura: CHEMOTHERAPY-INDUCED DYSGEUSIA: A PROSPECTIVE OBSERVATIONAL STUDY OF 4 TASTE CHANGES AND QUALITY OF LIFE ; MASCC 2023 NARA

臨床研究センター

(学会発表)

- 1) 武井 陽子、新井 裕香莉、今一 留実、井村 夏子、大崎 理海、河西 香里、栗林 航、椿 麻由美、中嶋 良子、畠中 麻美、福田 美也子、松本 里美、身崎 昌美、渡辺 梨華、江花 有亮. 委員会事務局・研究支援者に寄り添う CReP と CReP WG の奇跡. 日本臨床試験学会第15回学術集会総会. 2024.3.8. 大阪.
- 2) 栗林 航、武井 陽子、新井 裕香莉、今一 留実、井村 夏子、大崎 理海、河西 香里、椿 麻由美、中嶋 良子、福田 美也子、松本 里美、身崎 昌美、渡辺 梨華、江花 有亮. 一括審査はどこまで審査すべきか?〜倫理審査専門職 CReP にホンネを聞いてみた〜. 日本臨床試験学会第15回学術集会総会. 2024.3.8. 大阪.

看護部

(学会発表)

- 1) 園田美帆子:一般病棟から緩和ケア病棟に配置転換した看護師が困難を乗り越えた経験, 第54回日本看護学会学術集会, 2023.9.29~30, 大阪.
- 2) 福田詩織:集中治療室で働く看護師が意識障害患者の家族へ家族看護を実践するまでの思考プロセス, 第54回日本看護学会学術集会, 2023.11.8~9, 神奈川.
- 3) 福島章枝:ソリューションフォーカスを用いた中堅スタッフのモチベーション向上への取り組み, 第72回共済医学会, 2023.10.25~26, 金沢.

- 4) 福井春樹, 吉良奈穂子, 前田智香, 北川郁代: ICU・CCU 部署内防災訓練の取り組み, 第 72 回共済医学会, 2023.10.25~26, 金沢.
- 5) 高橋悦子, 殿川真弥, 山口ひとみ: 産婦人科病棟のスタッフ教育～経験学習による意識の変化～, 第 72 回共済医学会, 2023.10.25~26, 金沢.
- 6) 小野美穂, 折内奈津江, 滝口由紀子, 佐々木智子, 丸山為美, 佐竹みゆき: パートナーシップ・ナーシング・システム®導入後の監査の取り組み～PNS®定着に向けた監査の継続～, 第 72 回共済医学会, 2023.10.25~26, 金沢.
- 7) 伊藤恵美, 土田陽子, 佐藤恵: 看護部感染担当者育成への取り組み, 第 72 回共済医学会, 2023.10.25~26, 金沢.
- 8) 永田加奈子, 佐々木智子, 野間由美恵, 渋谷光, 青木実希, 西岡寛子, 佐竹みゆき: リエゾンナースを含めた新人看護師メンタルヘルス支援の取り組み, 第 72 回共済医学会, 2023.10.25~26, 金沢.
- 9) 佐藤久美恵, 田中亜季, 小野寺幸江, 山村みどり: 緩和ケア病棟の看護補助者によるスタッフ支援～「いいね」・「つらさ」を表出する取り組み～, 第 72 回共済医学会, 2023.10.25~26, 金沢.
- 10) 吉田あゆみ, 萩原晴香, 鈴木毅, 田澤春香, 今井泉, 桑原清子, 高木香織, 家高聡子: 入退院調整室の役割と課題について～病棟看護師を対象とした聞き取り調査から～, 第 72 回共済医学会, 2023.10.25~26, 金沢.

XVI 業務概要

A 診療業務

1. 患者状況

(1)入院 R5. 4. 1～R6. 3. 31

科別	新入院	退院	再掲	患者延数	1日平均	比率	在院日数
			死亡退院				
内科	3	3	244	11	0.0	0.0%	2.7
循環器内科	1,654	1,653	58	15,448	42.2	8.7%	8.3
消化器内科	2,178	2,191	77	19,941	54.5	11.2%	8.1
呼吸器内科	922	931	86	13,005	35.5	7.3%	13.0
血液内科	391	388	22	8,581	23.4	4.8%	21.0
脳神経内科	532	530	27	10,998	30.0	6.2%	19.7
腎臓高血圧内科	444	433	29	9,294	25.4	5.2%	20.2
内分泌代謝内科	327	320	14	4,996	13.7	2.8%	14.5
膠原病リウマチ内科	220	220	10	3,245	8.9	1.8%	13.8
小児科	567	567	0	2,924	8.0	1.6%	4.2
外科	991	1,006	19	11,485	31.4	6.4%	10.5
乳腺外科	242	243	3	1,500	4.1	0.8%	5.2
呼吸器外科	152	153	2	1,566	4.3	0.9%	9.3
整形外科	1,573	1,579	5	24,863	67.9	14.0%	14.8
形成外科	248	245	1	3,558	9.7	2.0%	13.4
脳神経外科	545	546	40	8,471	23.1	4.8%	14.5
皮膚科	184	185	2	2,370	6.5	1.3%	11.8
泌尿器科	1,414	1,420	20	8,166	22.3	4.6%	4.8
産婦人科	1,088	1,094	3	7,989	21.8	4.5%	6.3
眼科	571	570	0	1,561	4.3	0.9%	1.7
耳鼻咽喉科	608	610	0	4,074	11.1	2.3%	5.7
心臓血管外科	343	334	14	6,787	18.5	3.8%	19.1
口腔外科	557	562	3	2,436	6.7	1.4%	3.3
緩和ケア	151	155	125	4,919	13.4	2.8%	31.1
救急科	0	0	0	0	0.0	0.0%	-
計	15,905	15,938	804	178,188	486.9	100.0%	10.2

註1・診療日数=366日

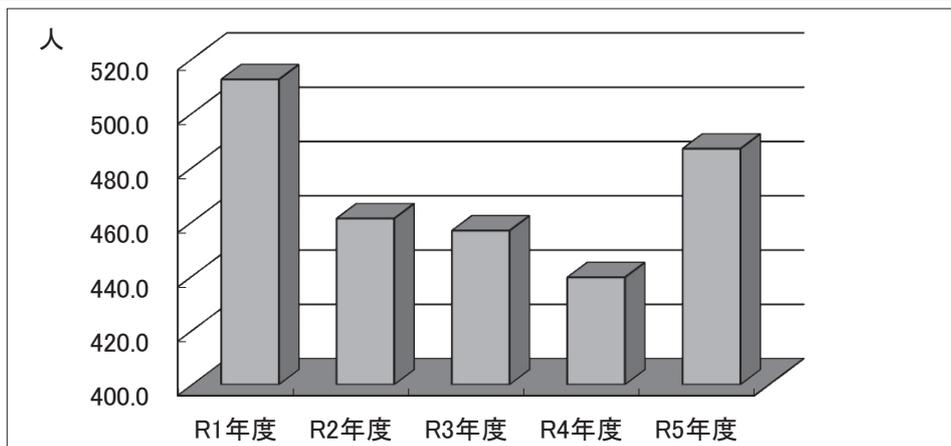
註2・内科死亡退院数は、救急外来死亡患者含む

$$\text{在院日数} = \frac{\text{患者延数} - \text{退院}}{(\text{新入院} + \text{退院}) / 2}$$

(2)入院 1日平均患者数

(人)

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均	512.4	461.2	456.7	439.5	486.9



(3) 外来 R5. 4. 1～R6. 3. 31

科別	新患	1日平均	再来	患者延数	1日平均	比率	通院日数
内科	2,130	8.8	2,275	4,405	18.2	1.4%	2.1
循環器内科	872	3.6	25,995	26,867	111.0	8.5%	30.8
消化器内科	1,544	6.4	22,771	24,315	100.5	7.7%	15.7
呼吸器内科	489	2.0	16,304	16,793	69.4	5.3%	34.3
血液内科	142	0.6	7,034	7,176	29.7	2.3%	50.5
脳神経内科	396	1.6	11,300	11,696	48.3	3.7%	29.5
腎臓高血圧内科	193	0.8	12,421	12,614	52.1	4.0%	65.4
内分泌代謝内科	190	0.8	13,575	13,765	56.9	4.4%	72.4
膠原病リウマチ内科	319	1.3	15,389	15,708	64.9	5.0%	49.2
精神科	31	0.1	1,088	1,119	4.6	0.4%	36.1
小児科	1,603	6.6	7,160	8,763	36.2	2.8%	5.5
外科	394	1.6	10,508	10,902	45.0	3.5%	27.7
乳腺外科	417	1.7	12,388	12,805	52.9	4.1%	30.7
呼吸器外科	25	0.1	1,552	1,577	6.5	0.5%	63.1
整形外科	3,042	12.6	28,891	31,933	132.0	10.2%	10.5
形成外科	800	3.3	7,340	8,140	33.6	2.6%	10.2
脳神経外科	1,025	4.2	6,907	7,932	32.8	2.5%	7.7
皮膚科	960	4.0	9,359	10,319	42.6	3.3%	10.7
泌尿器科	1,118	4.6	17,882	19,000	78.5	6.0%	17.0
産婦人科	1,140	4.7	16,984	18,124	74.9	5.8%	15.9
眼科	622	2.6	8,803	9,425	38.9	3.0%	15.2
耳鼻咽喉科	1,141	4.7	8,975	10,116	41.8	3.2%	8.9
心臓血管外科	466	1.9	11,109	11,575	47.8	3.7%	24.8
放射線科	1,166	4.8	4,751	5,917	24.5	1.9%	5.1
口腔外科	3,162	13.1	8,704	11,866	49.0	3.8%	3.8
緩和ケア	1	0.0	78	79	0.3	0.0%	79.0
人間ドック	0	0.0	1,362	1,362	5.6	0.4%	-
計	23,388	96.6	290,905	314,293	1,298.7	100.0%	13.4

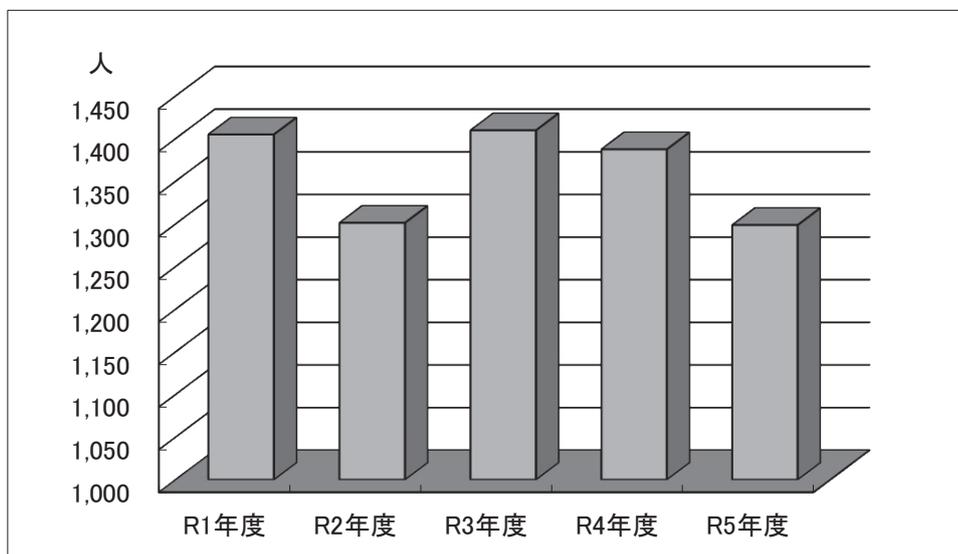
註・外来診療日数=242日

通院日数 = $\frac{\text{患者延数}}{\text{新患者数}}$

(4) 外来 1日平均患者数

(人)

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
1日平均	1,404.9	1,301.3	1,409.8	1,387.5	1,298.7



2. 年度別診療収入額

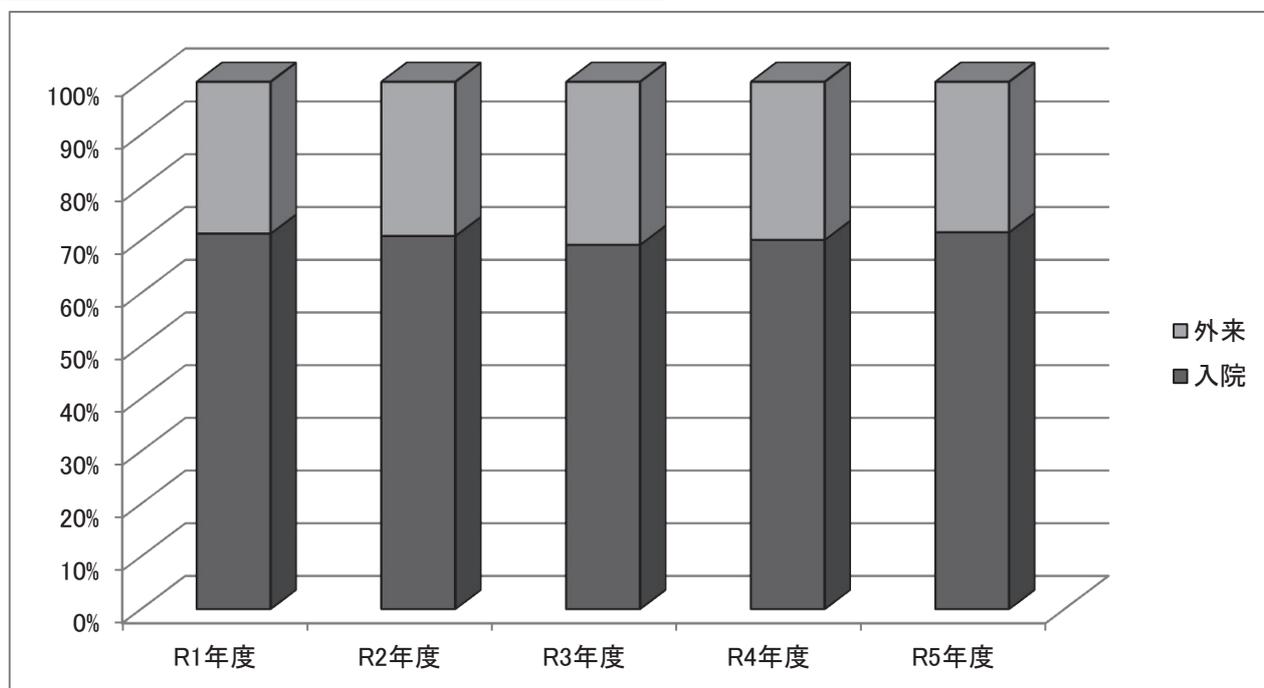
(1) 入院・外来

(単位:千円)

年度	入院		外来		合計	
	収入金額	前年比	収入金額	前年比	収入金額	前年比
R1年度	14,066,263	103.1	5,606,851	101.9	19,673,114	102.7
R2年度	13,262,837	94.3	5,465,880	97.5	18,728,717	95.2
R3年度	13,478,792	101.6	6,015,174	110.0	19,493,966	104.1
R4年度	13,799,588	102.4	5,892,635	98.0	19,692,223	101.0
R5年度	15,204,507	110.2	6,055,497	102.8	21,260,004	108.0

(2) 年度別診療収入額入院・外来百分率

年度	入院	外来	合計
R1年度	71.3	28.7	100.0
R2年度	70.8	29.2	100.0
R3年度	69.1	30.9	100.0
R4年度	70.1	29.9	100.0
R5年度	71.5	28.5	100.0

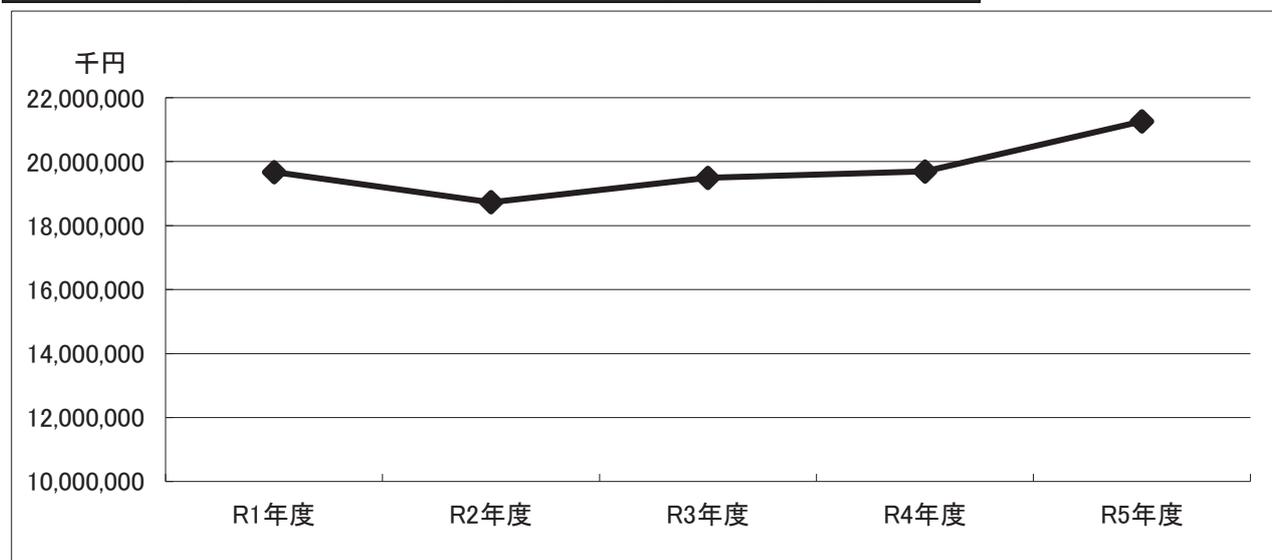


3. 科別稼働額状況

(1) 患者収入合計

(単位:千円)

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
患者収入	19,673,114	18,728,717	19,493,966	19,692,223	21,260,004



(2) 科別収入

R5. 4. 1~R6. 3. 31

(単位:千円)

項目別 科別	入院		外来		合計	
	稼働額	比率	稼働額	比率	稼働額	比率
内科	29,260	0.2%	118,102	2.0%	147,362	0.7%
循環器内科	2,147,123	14.1%	324,309	5.4%	2,471,432	11.6%
消化器内科	1,310,241	8.6%	437,239	7.2%	1,747,479	8.2%
呼吸器内科	793,824	5.2%	432,858	7.1%	1,226,682	5.8%
血液内科	1,027,962	6.8%	692,974	11.4%	1,720,936	8.1%
脳神経内科	681,871	4.5%	237,966	3.9%	919,837	4.3%
腎臓高血圧内科	561,852	3.7%	211,033	3.5%	772,885	3.6%
内分泌代謝内科	274,839	1.8%	192,263	3.2%	467,102	2.2%
膠原病リウマチ内科	194,535	1.3%	723,016	11.9%	917,552	4.3%
精神科	2,113	0.0%	4,934	0.1%	7,047	0.0%
小児科	184,617	1.2%	97,951	1.6%	282,567	1.3%
外科	1,019,878	6.7%	333,362	5.5%	1,353,241	6.4%
乳腺外科	174,403	1.1%	365,865	6.0%	540,268	2.5%
呼吸器外科	214,826	1.4%	18,879	0.3%	233,705	1.1%
整形外科	2,449,059	16.1%	324,377	5.4%	2,773,436	13.0%
形成外科	194,694	1.3%	46,382	0.8%	241,076	1.1%
脳神経外科	668,075	4.4%	96,753	1.6%	764,828	3.6%
皮膚科	110,624	0.7%	78,488	1.3%	189,112	0.9%
泌尿器科	744,665	4.9%	475,869	7.9%	1,220,534	5.7%
産婦人科	735,723	4.8%	221,677	3.7%	957,400	4.5%
眼科	171,691	1.1%	125,071	2.1%	296,761	1.4%
耳鼻咽喉科	326,071	2.1%	121,004	2.0%	447,074	2.1%
心臓血管外科	762,335	5.0%	94,358	1.6%	856,693	4.0%
放射線科	0	0.0%	136,806	2.3%	136,806	0.6%
口腔外科	148,575	1.0%	96,418	1.6%	244,993	1.2%
緩和ケア	275,651	1.8%	2,005	0.0%	277,656	1.3%
人間ドック	0	0.0%	45,539	0.8%	45,539	0.2%
計	15,204,507	100.0%	6,055,497	100.0%	21,260,004	100.0%

4. 診療行為別収入報酬額

※各年度10月分の金額

(1) 入院

(単位:千円)

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
初診料	1,066	1,093	856	1,104	1,136
入院料・DPC	660,362	670,373	664,022	664,315	723,000
食事療養費	24,040	22,845	22,761	20,296	22,897
医学管理等	4,905	6,377	6,240	7,238	9,809
在宅医療	1,333	1,602	1,077	1,487	1,809
検査	13,577	15,381	19,621	19,195	16,724
画像診断	2,970	3,390	2,886	3,441	3,627
投薬	6,982	9,765	7,378	8,340	6,699
注射	9,753	8,182	16,197	22,775	79,235
リハビリテーション	16,809	20,446	19,176	17,593	19,464
精神科専門療法	361	367	247	144	209
処置	23,635	20,971	22,133	17,995	19,333
手術・麻酔	411,403	403,288	368,929	341,592	384,471
慣行料金	35,856	37,505	33,974	31,779	31,611
合計	1,213,052	1,221,585	1,185,497	1,157,294	1,320,024

(2) 外来

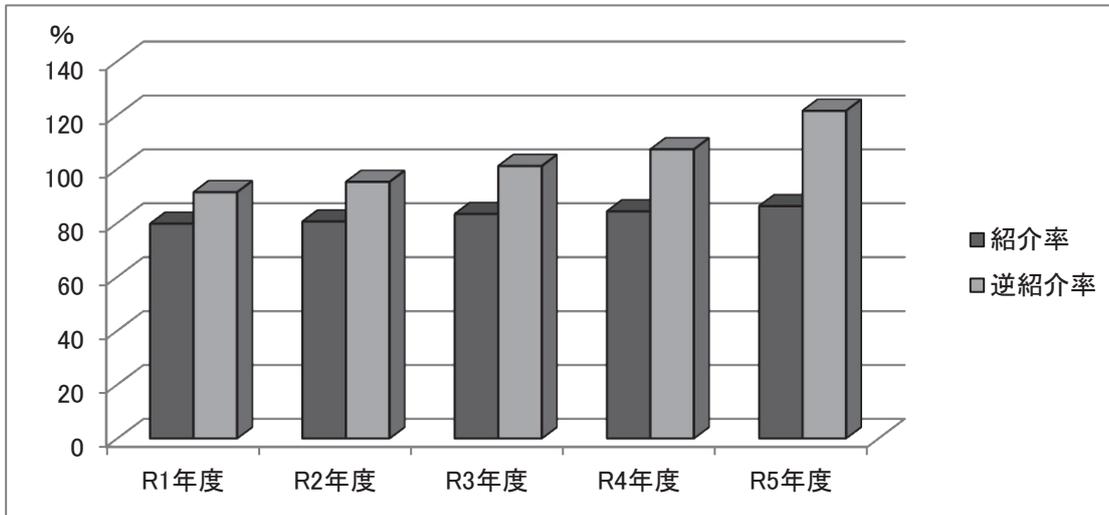
(単位:千円)

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
初診料	7,844	7,464	7,185	6,703	7,032
外来診療料	18,323	17,429	17,078	15,855	16,510
医学管理等	14,741	15,591	15,133	17,205	21,055
在宅医療	60,513	58,139	48,898	51,053	51,576
検査	103,332	108,986	119,243	108,450	109,367
画像診断	77,280	79,849	78,041	74,327	75,501
投薬	28,526	27,669	28,463	30,292	32,693
注射	126,556	118,919	141,385	119,681	144,630
リハビリテーション	2,790	3,471	2,463	2,194	1,813
精神科専門療法	162	162	168	157	110
処置	10,373	7,344	8,443	9,731	9,571
手術・麻酔	13,908	14,897	13,978	16,529	17,122
放射線治療	18,398	17,699	16,286	6,171	8,143
慣行料金	12,163	11,664	11,148	10,606	9,749
合計	494,909	489,283	507,912	468,954	504,872

5. 地域医療支援病院紹介率

(%)

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
紹介率	79.7	80.5	83.3	84.3	86.2
逆紹介率	91.4	95.2	101.1	107.3	121.6



6. 地域別患者数

(1) 入院

地域別	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
金沢区	10,199	10,109	11,039	52.3%
磯子区	716	773	950	4.5%
港南区	273	274	357	1.7%
南区	191	205	187	0.9%
戸塚区	125	113	73	0.3%
栄区	122	115	134	0.6%
横浜市他	509	434	364	1.7%
横須賀市	4,785	4,572	4,809	22.8%
逗子市	1,841	1,698	1,869	8.9%
葉山町	512	530	555	2.6%
鎌倉市	146	104	133	0.6%
県内他	343	315	354	1.7%
東京	118	147	105	0.5%
東京・神奈川外	190	225	160	0.8%
合計	20,070	19,614	21,089	100.0%

(2) 外来

地域別	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
金沢区	167,130	167,896	156,943	49.8%
磯子区	11,578	11,674	11,286	3.6%
港南区	5,788	5,112	5,135	1.6%
南区	3,757	3,711	3,223	1.0%
戸塚区	1,775	1,671	1,273	0.4%
栄区	2,286	2,168	2,265	0.7%
横浜市他	7,768	7,013	6,172	2.0%
横須賀市	89,022	89,155	81,801	25.9%
逗子市	28,569	28,440	26,603	8.4%
葉山町	9,641	9,817	9,014	2.9%
鎌倉市	2,521	2,228	1,993	0.6%
県内他	6,668	6,086	5,901	1.9%
東京	1,705	1,879	1,662	0.5%
東京・神奈川外	2,391	2,577	2,089	0.7%
合計	340,599	339,427	315,360	100.0%

7. 中央手術室統計

2023年度診療科別手術件数

診療科	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計	
	定時	緊急	定時	緊急	定時	緊急	定時	緊急	定時	緊急	定時	緊急	定時	緊急	定時	緊急	定時	緊急	定時	緊急	定時	緊急	定時	緊急		
循環器内科	2	0	0	0	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	0	1	0	1	0	1	0	14	
消化器内科	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	5	
神経内科	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
腎臓高血圧内科	7	2	2	1	2	0	5	0	9	0	3	0	1	1	4	1	5	2	8	0	3	0	4	0	60	
外科	61	23	60	20	47	30	54	15	69	12	58	17	55	16	60	18	55	11	57	13	57	13	54	19	894	
乳腺外科	19	0	22	0	17	0	21	0	20	0	24	0	20	0	16	0	10	0	17	0	14	0	17	0	218	
呼吸器外科	10	1	10	4	9	2	8	3	5	1	3	3	8	4	6	2	8	4	10	1	8	4	7	2	123	
整形外科	68	15	74	12	68	16	88	10	110	18	95	18	90	29	104	16	99	29	97	17	92	16	96	19	1,296	
形成・美容外科	18	0	23	2	16	3	17	2	24	1	16	6	24	2	17	0	14	1	14	1	16	2	16	3	238	
脳神経外科	6	1	5	8	1	6	4	5	6	11	0	6	3	12	4	10	4	9	5	12	2	10	6	14	150	
皮膚科	2	0	5	1	4	0	6	0	8	0	3	0	3	0	8	0	6	0	6	0	5	0	4	0	61	
泌尿器科	87	5	99	10	93	5	92	8	98	12	75	10	82	6	73	6	93	3	84	9	87	8	106	12	1,163	
産婦人科	33	6	32	10	41	15	40	11	38	14	29	9	39	6	47	4	38	7	38	9	38	10	38	4	556	
眼科	41	1	39	2	36	5	46	2	53	2	44	3	47	5	55	5	34	2	46	4	52	6	47	1	578	
耳鼻咽喉科	25	1	22	0	20	2	22	4	37	2	21	2	28	2	34	1	26	2	26	2	31	0	20	3	333	
心臓血管外科	24	9	26	5	31	10	22	7	23	8	14	6	26	2	30	4	24	11	25	5	20	3	23	10	368	
口腔外科	41	2	39	0	45	2	46	0	48	0	41	0	42	0	38	1	46	1	46	1	41	1	49	1	531	
麻酔科	0	5	0	3	0	4	0	3	1	5	2	5	0	5	1	6	0	8	0	7	1	6	0	2	64	
総計	446	71	458	78	433	100	473	70	551	86	429	85	471	90	498	76	464	91	480	81	468	79	488	90	6,656	
	517		536		533		543		637		514		561		574		555		561		547		578		6,656	

8. 薬剤科業務状況

(1) 各科別院内処方件数表及び比率表 (R5.4.1～R6.3.31)

令和5年度	外来処方せん	入院処方せん	計	(%)
内 科	1,440	271	1,711	0.72
神 経 科	85	979	1,064	0.45
小 児 科	1,791	1,559	3,350	1.40
外 科	423	9,349	9,772	4.09
整 形 外 科	700	18,013	18,713	7.83
形成美容外科	363	3,926	4,289	1.80
脳神経外科	262	10,242	10,504	4.40
皮 膚 科	527	4,146	4,673	1.96
泌 尿 器 科	336	5,131	5,467	2.29
産 婦 人 科	313	5,517	5,830	2.44
眼 科	240	3,133	3,373	1.41
耳 鼻 咽 喉 科	845	3,961	4,806	2.01
心 臓 外 科	139	13,164	13,303	5.57
放 射 線 科	162	0	162	0.07
健康管理センター	0	0	0	0.00
麻 酔 科	0	43	43	0.02
歯科、口腔外科	200	2,124	2,324	0.97
透 析 科	295	74	369	0.15
循環器内科	2,657	23,945	26,602	11.13
消化器内科	545	16,342	16,887	7.07
呼吸器内科	1,439	17,855	19,294	8.08
血液内科	3,823	14,242	18,065	7.56
脳神経内科	385	12,557	12,942	5.42
腎臓高血圧内科	892	15,833	16,725	7.00
内分泌代謝内科	5,359	10,967	16,326	6.83
膠原病リウマチ内科	4,193	4,509	8,702	3.64
救 急 科	5,297	463	5,760	2.41
新 生 児 科	0	0	0	0.00
緩和 支 持 療 法	0	5,063	5,063	2.12
乳 腺 外 科	67	824	891	0.37
呼吸器外科	73	1,847	1,920	0.91
消化器外科	0	0	0	0.00
計	32,851	206,079	238,930	100.00
前 年 度	31,357	180,645	212,002	
前 年 比	4.76%	14.08%	12.70%	

(2) 月別調剤件数表 (R5.4.1～R6.3.31)

	外 来	入 院	合 計
4月	2,528	15,541	18,069
5月	2,816	17,129	19,945
6月	2,829	17,397	20,226
7月	2,951	17,261	20,212
8月	3,144	17,269	20,413
9月	2,515	16,174	18,689
10月	2,495	17,222	19,717
11月	2,533	17,374	19,907
12月	2,932	18,479	21,411
1月	2,932	17,044	19,976
2月	2,538	17,667	20,205
3月	2,638	17,522	20,160
計	32,851	206,079	238,930
前 年 度	31,357	180,645	212,002
前 年 比	4.76%	14.08%	12.70%

(3) 月別院内処方箋枚数表 (R5.4.1～R6.3.31)

	外 来	入 院	合 計
4月	1,312	7,125	8,437
5月	1,415	7,773	9,188
6月	1,459	7,909	9,368
7月	1,496	7,969	9,465
8月	1,621	7,987	9,608
9月	1,358	7,357	8,715
10月	1,306	7,669	8,975
11月	1,275	7,779	9,054
12月	1,477	7,857	9,334
1月	1,475	7,515	8,990
2月	1,282	7,481	8,763
3月	1,333	7,719	9,052
計	16,809	92,140	108,949
前 年 度	16,192	83,085	99,277
前 年 比	3.81%	10.90%	9.74%

(4) 各科別院内処方箋枚数表 (R5.4.1～R6.3.31)

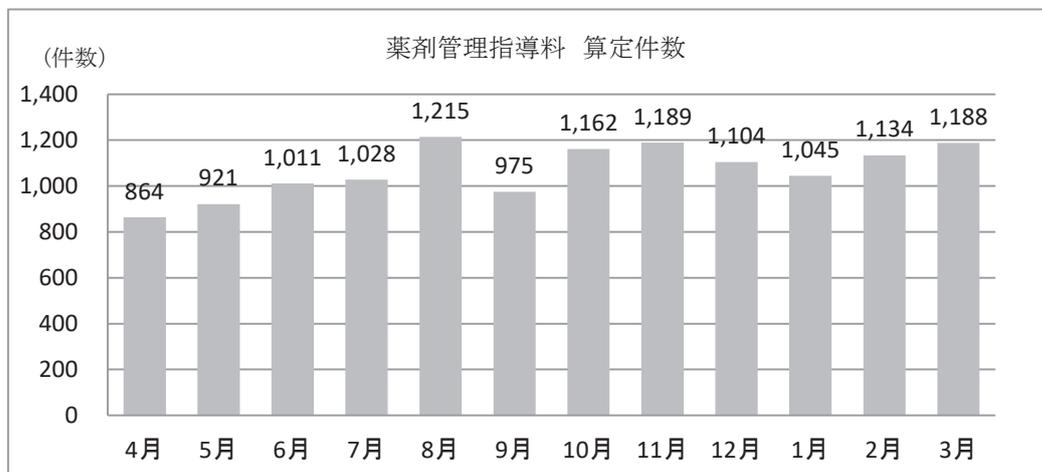
令和5年度	院内処方せん	入院処方せん	計
内 科	853	93	946
神 経 科	28	597	625
小 児 科	907	1,063	1,970
外 科	251	5,270	5,521
整 形 外 科	447	9,461	9,908
形成美容外科	223	1,920	2,143
脳神経外科	182	3,656	3,838
皮 膚 科	248	2,162	2,410
泌 尿 器 科	185	3,666	3,851
産 婦 人 科	205	4,340	4,545
眼 科	138	1,258	1,396
耳 鼻 咽 喉 科	373	2,148	2,521
心 臓 外 科	62	4,415	4,477
放 射 線 科	64	0	64
健康管理センター	0	0	0
麻 酔 科	0	39	39
歯科、口腔外科	108	1,885	1,993
透 析 科	99	69	168
循環器内科	1,087	8,172	9,259
消化器内科	277	7,927	8,204
呼吸器内科	554	7,010	7,564
血液内科	700	5,058	5,758
脳神経内科	209	5,069	5,278
腎臓高血圧内科	397	5,358	5,755
内分泌代謝内科	3,672	5,791	9,463
膠原病リウマチ内科	2,000	1,773	3,773
救 急 科	3,472	161	3,633
新 生 児 科	0	0	0
緩和 支 持 療 法	0	2,521	2,521
乳 腺 外 科	36	491	527
呼吸器外科	32	767	799
消化器外科	0	0	0
計	16,809	92,140	108,949
前 年 度	16,192	83,085	99,277
前 年 比	3.81%	10.90%	9.74%

(5)各科別注射集計表(R5.4.1～R6.3.31)

令和5年度	払出患者数	注射箋枚数	注射件数	薬品件数
内 科	1,872	2,863	3,574	5,240
精 神 科	1	1	1	1
小 児 科	1,797	3,651	7,306	12,302
外 科	11,189	17,124	42,651	79,537
整 形 外 科	8,680	12,089	25,161	63,790
形 成 美 容 外 科	1,504	2,073	4,067	7,013
脳 神 経 外 科	3,558	6,522	16,719	32,168
皮 膚 科	1,497	2,288	5,171	11,646
泌 尿 器 科	8,549	10,792	23,756	69,636
産 婦 人 科	4,878	6,810	14,070	29,352
眼 科	203	246	364	663
耳 鼻 咽 喉 科	2,589	3,551	6,918	16,714
心 臓 外 科	5,754	11,295	31,541	90,460
放 射 線 科	10	14	14	15
健康管理センター	242	468	468	696
麻 酔 科	4,630	8,968	9,526	28,728
歯 科、口 腔 外 科	1,851	2,242	4,248	7,567
透 析 科	29	37	38	126
循 環 器 内 科	10,116	17,858	41,351	78,248
消 化 器 内 科	18,375	31,230	69,836	123,718
呼 吸 器 内 科	10,513	16,154	39,329	84,564
血 液 内 科	12,488	17,981	41,667	91,902
脳 神 経 内 科	6,323	10,634	27,054	56,582
腎 臓 高 血 圧 内 科	6,889	10,894	21,047	43,624
内 分 泌 代 謝 内 科	4,008	7,191	15,107	31,263
膠 原 病 リウマチ 内 科	3,654	5,574	10,865	21,784
救 急 科	5,506	8,972	10,544	17,881
リハビリテーション科	0	0	0	0
総 合 内 科	0	0	0	0
緩 和 支 持 療 法	3,739	5,799	16,804	45,839
乳 腺 外 科	3,221	3,768	6,923	13,966
呼 吸 器 外 科	884	1,388	3,827	7,654
消 化 器 外 科	0	0	0	0
新 生 児 科	1	2	2	2
計	144,550	228,479	499,949	1,072,681
前 年 度	128,871	208,047	437,830	898,266
前 年 比	12.17%	9.82%	14.19%	19.42%

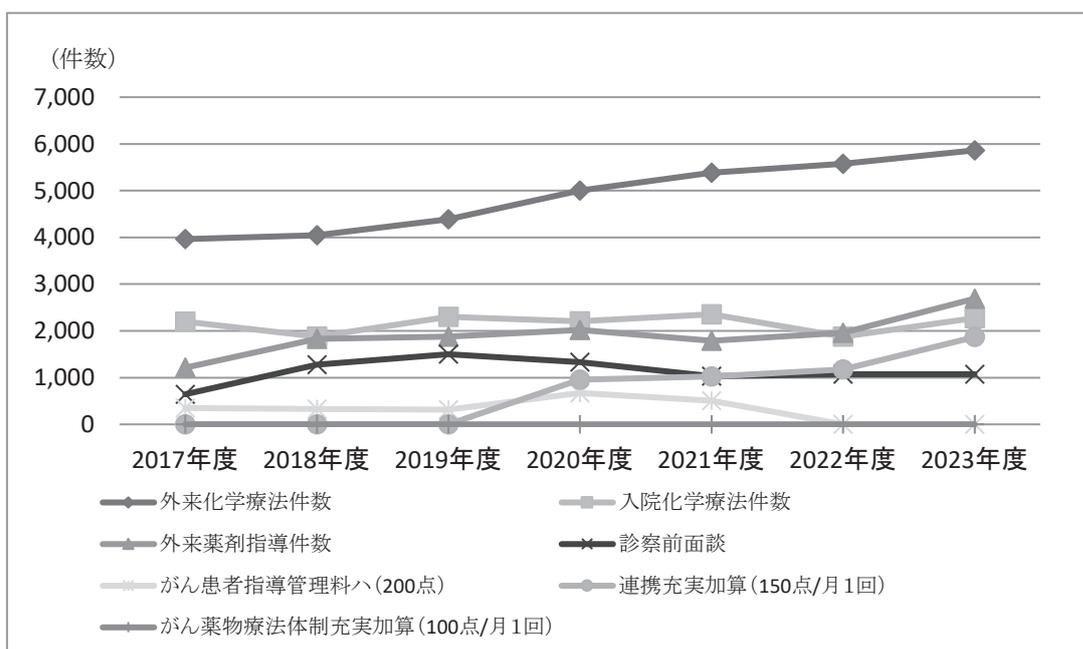
(6)月別薬剤管理指導料 算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
薬剤管理指導料件数	603	645	692	721	853	670	819	842	757	761	794	862	9,019
特定薬剤管理指導料件数	261	276	319	307	362	305	343	347	347	284	340	326	3,817
合 計	864	921	1,011	1,028	1,215	975	1,162	1,189	1,104	1,045	1,134	1,188	12,836



(7)外来化学療法関連 指導・算定件数

年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外来化学療法件数	3,963	4,048	4,387	5,001	5,383	5,575	5,862
入院化学療法件数	2,200	1,877	2,302	2,203	2,355	1,879	2,274
外来薬剤指導件数	1,212	1,830	1,876	2,021	1,790	1,957	2,688
診察前面談	644	1,279	1,500	1,334	1,030	1,072	1,069
がん患者指導管理料ハ(200点)	352	330	317	671	504	0	0
連携充実加算(150点/月1回)	0	0	0	959	1,026	1,177	1,867
がん薬物療法体制充実加算(100点/月1回)	0	0	0	0	0	0	0



(8) 各科・月別院外処方箋発行枚数表(R5.4.1～R6.3.31)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内 科	13	10	9	15	13	12	10	7	14	11	11	10	135
精 神 科	22	18	19	19	17	15	17	14	21	22	15	27	226
小 児 科	223	293	379	377	326	269	307	308	307	286	266	322	3,663
外 科	275	267	264	253	289	280	287	276	260	276	271	270	3,268
整 形 外 科	710	806	836	805	790	723	758	691	738	653	692	704	8,906
形 成 美 容 外 科	143	129	128	113	153	137	140	133	127	128	125	141	1,597
脳 神 経 外 科	113	104	135	112	114	120	123	119	124	108	97	127	1,396
皮 膚 科	491	522	527	473	557	500	508	491	496	463	438	577	6,043
泌 尿 器 科	516	512	555	528	552	499	504	534	543	440	472	475	6,130
産 婦 人 科	274	298	325	307	322	312	329	272	306	276	271	286	3,578
眼 科	256	268	255	285	265	295	288	311	288	276	272	316	3,375
耳 鼻 咽 喉 科	257	286	270	289	317	247	333	305	336	267	310	342	3,559
心 臓 外 科	231	196	216	216	202	207	219	205	203	227	170	210	2,502
放 射 線 科	21	18	16	21	20	26	36	34	27	20	15	17	271
健康管理センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科、口腔外科	161	175	174	159	161	158	162	188	155	164	169	181	2,007
透 析 科	39	44	47	45	49	49	48	53	50	42	47	52	565
循 環 器 内 科	1,292	1,336	1,356	1,228	1,275	1,334	1,250	1,222	1,336	1,281	1,193	1,259	15,362
消 化 器 内 科	467	515	478	441	506	464	469	473	529	467	474	507	5,790
呼 吸 器 内 科	673	628	647	633	648	649	713	630	663	661	653	687	7,885
血 液 内 科	237	229	244	240	272	239	240	266	245	237	227	258	2,934
脳 神 経 内 科	634	622	712	612	673	654	658	667	698	667	660	626	7,883
腎臓高血圧内科	541	539	585	526	614	511	521	554	544	522	504	544	6,505
内 分 泌 代 謝 内 科	783	695	816	721	793	726	808	713	807	787	750	797	9,196
膠原病リウマチ内科	745	872	871	807	868	826	830	822	902	845	801	923	10,112
救 急 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新 生 児 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緩 和 支 持 療 法	2	1	1	1	0	1	0	2	3	7	5	7	30
乳 腺 外 科	338	343	320	315	351	349	345	356	386	325	366	308	4,102
呼 吸 器 外 科	18	20	24	15	15	21	16	16	16	18	12	11	202
消 化 器 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	9,475	9,746	10,209	9,556	10,162	9,623	9,919	9,662	10,124	9,476	9,286	9,984	117,222
院外処方箋発行率	78.94%	77.58%	78.30%	76.41%	76.37%	79.28%	79.90%	79.23%	77.54%	76.37%	78.54%	79.10%	78.11%

9. 放射線科業務状況

(1) 令和5年度月・科別撮影件数

外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	1,581	1,580	1,488	1,413	1,442	1,489	1,551	1,458	1,468	1,503	1,469	1,593	18,035
-内科	103	98	77	106	77	67	98	86	86	93	71	77	1,039
-循環器内科	416	366	374	323	302	330	352	336	367	403	384	424	4,377
-消化器内科	125	129	109	118	128	103	96	120	93	109	96	113	1,339
-呼吸器内科	589	615	600	558	603	630	651	585	610	612	587	623	7,263
-血液内科	11	17	19	7	13	13	16	11	16	10	11	11	155
-神経内科	31	17	14	18	14	16	21	34	23	18	29	20	255
-腎臓高血圧内科	48	38	34	52	47	33	45	41	34	38	53	35	498
-内分泌代謝内科	22	17	19	19	14	32	20	24	33	19	24	33	276
-膠原病リウマチ科	236	283	242	212	244	265	252	221	206	201	214	257	2,833
精神科													0
小児科	35	40	64	68	37	39	41	42	44	30	35	36	511
外科	355	365	376	378	373	352	392	379	385	366	339	402	4,462
-外科	102	85	84	100	105	97	110	105	109	77	81	105	1,160
-乳腺外科	220	239	232	238	232	215	244	243	235	249	217	251	2,815
-呼吸器外科	33	41	60	40	36	40	38	31	41	40	41	46	487
整形外科	1,470	1,345	1,532	1,492	1,479	1,354	1,500	1,500	1,427	1,402	1,364	1,469	17,334
形成・美容外科	37	28	32	31	36	28	20	25	25	26	25	30	343
脳神経外科	41	33	41	40	40	39	32	42	39	49	30	32	458
皮膚科	12	15	19	20	18	22	22	17	18	10	11	16	200
泌尿器科	144	145	148	136	137	130	138	139	156	141	134	139	1,687
産婦人科	119	114	124	123	122	100	111	108	116	94	101	98	1,330
眼科	4	5	1	3	5	5	1	2	3	3	4	2	38
耳鼻咽喉科	47	44	42	56	45	54	61	57	36	41	52	49	584
心臓・血管外科	89	76	94	69	72	74	80	70	85	60	74	55	898
放射線科	74	34	9	10	6	6	10	8	20	29	13	7	226
健康管理センター	72	69	122	91	97	86	126	175	124	120	113	93	1,288
麻酔科	1		2	1	2	1	1						11
歯科・口腔外科	163	186	212	193	160	160	200	208	180	206	196	192	2,256
透析科	26	20	20	22	18	18	17	18	20	19	17	21	236
救急科	394	482	430	449	471	449	440	449	512	501	423	394	5,394
緩和支援療法科										1			1
新生児科													0
職員健診			757	410	8			17					1,192
その他													0
合計	4,664	4,581	5,513	5,005	4,568	4,406	4,743	4,714	4,658	4,601	4,400	4,631	56,484
入院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	1,125	1,228	1,348	1,271	1,309	1,165	1,200	1,306	1,288	1,346	1,166	1,256	15,008
-内科	7	11	11	15	9	8	9	13	9	8	8	10	118
-循環器内科	481	495	474	398	445	425	426	497	505	577	398	485	5,606
-消化器内科	164	163	202	175	201	213	170	185	179	189	182	143	2,166
-呼吸器内科	295	309	324	311	364	306	320	314	300	295	285	297	3,720
-血液内科	41	59	100	94	62	70	57	86	64	57	73	55	818
-神経内科	24	48	41	48	46	37	45	69	61	64	48	67	598
-腎臓高血圧内科	70	72	79	106	92	56	88	73	108	88	81	89	1,002
-内分泌代謝内科	24	30	46	37	34	37	39	38	37	29	36	39	426
-膠原病リウマチ科	19	41	71	87	56	13	46	31	25	39	55	71	554
精神科													0
小児科	5	19	33	28	18	12	24	28	13	13	22	14	229
外科	420	428	418	448	363	413	469	464	397	347	386	409	4,962
-外科	305	311	301	356	306	345	329	348	243	238	274	288	3,644
-乳腺外科	18	9	9	14	12	14	10	5	1	10	9	11	122
-呼吸器外科	97	108	108	78	45	54	130	111	153	99	103	110	1,196
整形外科	390	378	390	433	481	443	520	458	505	459	477	483	5,417
形成・美容外科	9	14	9	23	23	12	3	5	8	7	15	13	141
脳神経外科	69	65	69	52	64	60	81	76	75	96	91	135	933
皮膚科	10	6	6	4	4	7	6	13	5	4	5	4	74
泌尿器科	62	58	82	67	76	70	98	86	75	79	71	61	885
産婦人科	19	29	41	33	27	22	17	26	46	36	26	21	343
眼科													0
耳鼻咽喉科	8	5	5	12	8	5	10	3	3	11	4	6	80
心臓・血管外科	242	255	246	284	248	157	191	183	188	253	219	326	2,792
放射線科		4		2	2	4	3		1	2			18
健康管理センター													0
麻酔科	5	15	12	35	10	11	40	32	19	20	16	24	239
歯科・口腔外科	56	28	46	27	40	40	34	30	17	27	36	29	410
透析科	4	2	4	3	5	4	3		4	2	2	3	36
救急科	18	31	39	27	31	29	26	32	33	33	40	18	357
緩和支援療法科	17	12	14	17	26	8	14	11	18	12	5	3	157
新生児科				1									1
職員健診			21	10				1					32
その他													0
合計	2,459	2,577	2,783	2,777	2,735	2,462	2,739	2,754	2,695	2,747	2,581	2,805	32,114
総合計	7,123	7,158	8,296	7,782	7,303	6,868	7,482	7,468	7,353	7,348	6,981	7,436	88,598

(2) 令和5年度月・撮影区分別撮影件数

外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
単純	4,070	4,010	4,901	4,419	4,017	3,867	4,147	4,085	4,088	4,000	3,861	4,012	49,477
単純(予)	6	5	1	7	2	5	2	6	3	6	3	4	50
骨密度	259	207	232	202	190	204	219	218	199	206	178	212	2,526
アンギオ	1	2		1			1	1	1	2	1		10
IVDSA	6	7	7	6	7	7	4	5	7	4	6	3	69
心カテ	7	11	10	4	7	6	7	7	11	6	6	3	85
その他													0
歯科	65	68	76	85	49	69	71	84	65	83	81	104	900
健診													0
OP室造影			1	1		1	1						4
病室造影													0
消化器系造影	11	12	16	12	16	8	13	21	20	28	25	15	197
胆嚢造影	4	1		3	1	1	2	2	1	2	3	3	23
泌尿器・生殖器系造影	12	10	10	13	13	11	11	14	13	9	9	12	137
呼吸器系造影		1	1		2	1	3	1		2	1	1	13
骨格系造影	23	32	27	31	40	20	23	25	22	26	25	31	325
脈管系造影													0
その他造影	12	7	16	10	13	14	11	11	13	11	8	11	137
乳房	188	208	215	211	211	192	228	234	215	216	193	220	2,531
合計	4,664	4,581	5,513	5,005	4,568	4,406	4,743	4,714	4,658	4,601	4,400	4,631	56,484

入院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
単純	2,194	2,266	2,450	2,488	2,430	2,181	2,429	2,449	2,376	2,462	2,309	2,507	28,541
単純(予)		2	1		1			1	3	1	1		10
骨密度	16	35	20	12	11	13	18	12	18	15	14	21	205
アンギオ	14	20	14	14	22	22	15	24	14	13	10	19	201
IVDSA	17	26	17	15	19	7	13	16	23	16	18	19	206
心カテ	97	98	118	102	98	81	99	113	101	110	88	114	1,219
その他													0
歯科	1		1	4	1	2	1	2	1	4		2	19
健診													0
OP室造影	9	8	12	11	11	13	10	10	10	10	9	7	120
病室造影													0
消化器系造影	25	41	46	46	41	36	63	42	41	32	39	27	479
胆嚢造影	43	39	60	44	59	65	56	43	75	54	52	47	637
泌尿器・生殖器系造影	9	8	8	8	11	7	4	9	9	10	7	4	94
呼吸器系造影	10	16	8	13	5	7	6	9	3	4	7	10	98
骨格系造影	12	8	21	15	12	14	9	10	14	4	13	13	145
脈管系造影										1			1
その他造影	11	10	7	5	14	12	16	14	7	9	10	15	130
乳房	1					2				2	4		9
合計	2,459	2,577	2,783	2,777	2,735	2,462	2,739	2,754	2,695	2,747	2,581	2,805	32,114
総合計	7,123	7,158	8,296	7,782	7,303	6,868	7,482	7,468	7,353	7,348	6,981	7,436	88,598

(3)令和5年度撮影区分別・科別撮影件数

区分 / 外来	内	内	循環器内科	消化器内科	呼吸器内科	血液内科	神経内科	腎臓高血圧内科	内分泌代謝内科	膠原病リウマチ科	精神科	小児科	外科	乳腺外科	呼吸器外科	整形外科	形成美容外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼	耳鼻咽喉科	心臓血管外科	放射線科	健康管理センター	麻酔科	歯科	整形外科	透視科	救急科	緩和支援療法科	新生児科	職員	その他	合計
単純	16,955	1,033	4,312	1,270	7,238	155	237	479	171	2,060	500	1,804	999	318	487	16,244	343	425	165	1,546	938	38	580	830	20	962	11	1,353	236	5,334	1	1,192	49,477			
単純(子)												6	6	6		19				1									24					50		
骨密度	943		6	12	10		18	19	105	773	1	105	1	104		742			35	4	389	4	197			106								2,526		
アンギオ																	5						3						2					10		
IVDSA	1																						68											69		
心カテ	61	3	58													1												23					85			
その他																																		0		
歯科																											899	1						900		
健診																																		0		
OP室造影												3	3										1											4		
病室造影																																0	0	0	0	
消化器系造影	30	2		28							1	66	66	4												92	4						197			
胆嚢造影	23			23																													23			
泌尿器・生殖器系造影											9	11	11							114	1							2					137			
呼吸器系造影	13				13																													13		
骨格系造影																325																		325		
尿管系造影																																		0		
その他造影	9	1		6	2							69	69			3					2								8					137		
乳房												2,398	11	2,387										5		128								2,531		
合計	18,035	1,039	4,377	1,339	7,263	155	255	498	276	2,833	0	511	4,462	1,160	2,815	487	17,334	343	458	200	1,687	38	584	898	226	1,288	11	2,256	236	5,394	1	1,192	0	56,484		

区分 / 入院	内 科	循環器内科	消化器内科	呼吸器内科	血液内科	神経内科	腎臓高血圧内科	内分泌代謝内科	膠原病リウマチ科	精神科	小児科	外科	乳腺外科	呼吸器外科	整形外科	形成美容外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	心臓血管外科	放射線科	健康管理センター	麻酔科	普科	透折科	救急科	緩和支援療法科	新生児科	職員健診	その他	合 計
単純	12,695	113	4,397	1,388	3,583	816	961	408	503	223	4,604	3,300	111	1,193	5,091	136	774	66	760	343	79	2,589	5		239	371	36	341	156	1	32	25,541		
単純(子)											2	1	1		6	1						1										10		
骨密度	131				15	15	33	18	50	2	3		1	2	60			8										1				205		
アングリオ	30		2	20	1	2					1	1			1		155						12				2					201		
IVDSA	8	1	2		1		4									2						195	1									206		
心カテ	1,204		1,200		1	1	2				2	2				1	1					3					8					1,219		
その他																																0		
歯科																											19						19	
健診																																0		
OP室造影											5	5			111				3									1				120		
病室造影																															0	0	0	
消化器系造影	171	1	1	167	1				1	2	267	267				1			16		1					20	1					479		
胆嚢造影	622	3	4	614			1				9	8		1								3						2	1			637		
泌尿器・生殖器系造影	1					1				1	3	3							88								1					94		
呼吸器系造影	98				97		1																									98		
骨格系造影															145																		145	
尿管系造影																1																	1	
その他造影	48									1	57	57			3	2			18			1											130	
乳房												9	9																				9	
合計	15,008	118	5,606	2,166	3,720	818	1,002	426	554	0	229	4,962	3,644	122	1,196	5,417	933	74	885	343	0	80	2,792	18	0	239	410	36	357	157	1	32	32,114	
総合計	33,043	1,157	9,983	3,505	10,983	973	1,500	702	3,387	0	740	9,424	4,804	2,937	1,683	22,751	484	1,391	274	2,572	1,673	38	664	3,690	244	1,288	250	2,666	272	5,751	158	1	1,224	85,598

(4) 令和5年度 CT撮影件数

外来	単純						造影					合計
	頭部	頸部	体幹部	椎体	四肢	その他	頭部	頸部	体幹部	四肢	その他	
内科	873	17	5,677	33	8	19	19	1	2,431	3		9,081
-内科	354	5	833	17	2	12			226			1,449
-循環器内科	66		291	4	2	1			658	3		1,025
-消化器内科	31		712	1		1	2		1,301			2,048
-呼吸器内科	49	1	2,573				12		186			2,821
-血液内科	7	1	167						2			177
-神経内科	301	2	66	10	1	5	5		10			400
-腎臓高血圧内科	16		296						2			314
-内分泌代謝内科	23	5	300						17			345
-膠原病リウマチ科	26	3	439	1	3			1	29			502
精神科	75											75
小児科	17	2	3					2	10			34
外科	16		1,293		2	1	2		1,666			2,980
-外科	9		635		2	1			1,440			2,087
-乳腺外科	6		462						17			485
-呼吸器外科	1		196				2		209			408
整形外科	37	1	137	410	1,000	4		7	34			1,630
形成・美容外科	50	3	20	2	12							87
脳神経外科	864	1	18	97	4	11	72	11	6			1,084
皮膚科	8	5	56		15		2		21	3		110
泌尿器科	5		1,120						787			1,912
産婦人科			81				1		327			409
眼科	20		6						1			27
耳鼻咽喉科	406	89	320	1			4	22	66			908
心臓・血管外科	35		701		8				154	9		907
放射線科	31	5	328	4	6							374
健康管理センター			64									64
麻酔科	3		5	1					1			10
歯科・口腔外科	214	12	8					2	107			343
透析科	2		18	1								21
救急科	2,238	19	2,306	655	120	563	22	10	602	7		6,542
緩和支援療法科			2									2
新生児科												0
職員健診												0
その他												0
合計	4,894	154	12,163	1,204	1,175	598	122	55	6,213	22	0	26,600

入院	単純						造影					合計
	頭部	頸部	体幹部	椎体	四肢	その他	頭部	頸部	体幹部	四肢	その他	
内科	599	10	1,616	4	16		11	3	399	5		2,663
-内科	8		18						5			31
-循環器内科	88	1	213	1	2				79	2		386
-消化器内科	84		376		2		1		163			626
-呼吸器内科	56		294		3		1		67			421
-血液内科	44	5	189		4				9			251
-神経内科	204	3	151	3			9	3	19	1		393
-腎臓高血圧内科	60		162		4				18	1		245
-内分泌代謝内科	36	1	163		1				23			224
-膠原病リウマチ科	19		50						16	1		86
精神科	3											3
小児科	2	1	1					4	9			17
外科	47		360	1	1				134			543
-外科	39		240	1	1				123			404
-乳腺外科	4		11									15
-呼吸器外科	4		109						11			124
整形外科	41		94	292	311		1	13	27	1		780
形成・美容外科	6		10		3				1	1		21
脳神経外科	1,064	1	42	1			20	2	12	1		1,143
皮膚科	9		11		6				7			33
泌尿器科	8		73		1				18			100
産婦人科	3		14						20			37
眼科	1											1
耳鼻咽喉科	9	3	6					4	2			24
心臓・血管外科	32		93	1	2				143	11		282
放射線科												0
健康管理センター												0
麻酔科	1											1
歯科・口腔外科	12	1	2					1	2			18
透析科			2									2
救急科	23		36	3	10	1	1		13			87
緩和支援療法科	9		53						1			63
新生児科												0
職員健診												0
その他												0
合計	1,869	16	2,413	302	350	1	33	27	788	19	0	5,818
総合計	6,763	170	14,576	1,506	1,525	599	155	82	7,001	41	0	32,418

(5) 令和5年度 CT 科別・月別撮影件数

外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
内科	792	780	756	750	812	716	780	779	749	703	725	739	9,081	
-内科	154	126	117	149	131	98	127	119	124	108	97	99	1,449	
-循環器内科	96	80	86	80	89	81	82	87	85	80	88	91	1,025	
-消化器内科	187	176	173	162	196	144	156	187	173	167	161	166	2,048	
-呼吸器内科	216	250	228	208	243	257	267	226	220	235	230	241	2,821	
-血液内科	10	19	16	18	13	24	20	14	13	7	10	13	177	
-神経内科	27	31	28	33	32	24	33	57	39	28	35	33	400	
-腎臓高血圧内科	24	22	30	39	35	21	25	24	23	18	33	20	314	
-内分泌代謝内科	35	28	22	19	26	34	23	34	35	23	35	31	345	
-膠原病リウマチ科	43	48	56	42	47	33	47	31	37	37	36	45	502	
精神科	8	6	7	7	4	7	4	7	6	9	6	4	75	
小児科	3	2	5	2	3	1	2	6	3	3	2	2	34	
外科	220	249	246	246	241	241	248	234	256	263	250	286	2,980	
-外科	160	170	174	170	184	170	171	154	183	174	173	204	2,087	
-乳腺外科	31	41	43	42	33	38	32	40	43	55	41	46	485	
-呼吸器外科	29	38	29	34	24	33	45	40	30	34	36	36	408	
整形外科	143	124	122	152	139	108	165	145	124	154	134	120	1,630	
形成・美容外科	11	4	12	3	6	8	6	4	6	8	8	11	87	
脳神経外科	96	88	86	92	98	88	81	93	82	109	80	91	1,084	
皮膚科	7	14	8	4	12	10	11	7	9	11	5	12	110	
泌尿器科	159	157	181	169	158	146	147	154	156	158	164	163	1,912	
産婦人科	33	42	38	31	35	31	42	30	39	25	34	29	409	
眼科	6	1	1	3	1	1	3	2	2		4	3	27	
耳鼻咽喉科	74	71	85	86	75	68	79	83	67	64	74	82	908	
心臓・血管外科	78	59	94	80	55	82	70	61	87	80	75	86	907	
放射線科	42	31	34	29	29	31	26	32	22	33	35	30	374	
健康管理センター	9	2	7	8	11	3	4	3	1	6	5	5	64	
麻酔科					2								8	10
歯科・口腔外科	23	28	41	27	34	28	30	21	27	30	29	25	343	
透析科	1			1	3	14	1					1	21	
救急科	446	536	532	525	575	588	567	531	617	583	561	481	6,542	
緩和支援療法科				1	1								2	
新生児科													0	
職員健診													0	
その他													0	
合計	2,151	2,194	2,255	2,216	2,294	2,171	2,266	2,192	2,253	2,239	2,191	2,178	26,600	
入院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
内科	204	203	260	259	241	228	228	211	214	238	176	201	2,663	
-内科	1	1	6	6	2	3	2	3	2	1	4		31	
-循環器内科	43	25	30	36	43	44	23	38	24	35	12	33	386	
-消化器内科	49	44	48	64	58	59	51	49	59	54	51	40	626	
-呼吸器内科	30	37	51	39	40	28	45	35	38	34	20	24	421	
-血液内科	14	23	35	25	17	15	25	23	15	26	17	16	251	
-神経内科	36	40	41	39	33	30	25	27	27	43	14	38	393	
-腎臓高血圧内科	12	12	14	23	25	20	30	13	25	25	29	17	245	
-内分泌代謝内科	18	16	22	18	18	23	13	20	20	15	20	21	224	
-膠原病リウマチ科	1	5	13	9	5	6	14	3	4	5	9	12	86	
精神科		1							2				3	
小児科	1		4				1	3	2	1	3	2	17	
外科	48	49	43	51	33	53	52	44	49	38	37	46	543	
-外科	34	36	35	37	29	43	39	32	36	26	28	29	404	
-乳腺外科	1	2	1	1	1	2	3		2	1		1	15	
-呼吸器外科	13	11	7	13	3	8	10	12	11	11	9	16	124	
整形外科	49	45	59	65	73	71	83	71	85	51	60	68	780	
形成・美容外科	2	2	2	4	1	3	1		1	3	3	1	21	
脳神経外科	96	96	87	72	108	71	91	87	96	108	106	125	1,143	
皮膚科	2	3	2	2	2	5	4	2	4	2	1	4	33	
泌尿器科	14	11	10	8	8	5	12	10	10	4	4	4	100	
産婦人科	2	2	3	2	6	4	3	2	4	4	3	2	37	
眼科				1									1	
耳鼻咽喉科	1	2	3	2	3	3	4	2	1	1		2	24	
心臓・血管外科	28	28	27	20	15	20	21	17	24	26	22	34	282	
放射線科													0	
健康管理センター													0	
麻酔科	1												1	
歯科・口腔外科	1	1	2	2	2			1	2	3	2	2	18	
透析科				1								1	2	
救急科	2	11	6	4	5	13	6	7	13	4	11	5	87	
緩和支援療法科	4	4	6	8	4	5	3	4	9	9	3	4	63	
新生児科													0	
職員健診													0	
その他													0	
合計	455	458	512	501	501	481	509	461	516	492	431	501	5,818	
総合計	2,606	2,652	2,767	2,717	2,795	2,652	2,775	2,653	2,769	2,731	2,622	2,679	32,418	

(6) 令和5年度 MR 科別・月別撮影件数

外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	187	202	203	187	207	191	215	208	210	226	206	196	2,438
-内科	3	3	5	2	1	3	3		1			1	22
-循環器内科	5	7	7	5	9	4	9	5	4	6	8	2	71
-消化器内科	87	103	117	109	108	91	115	113	105	127	104	111	1,290
-呼吸器内科	16	20	8	12	15	11	11	12	12	15	20	15	167
-血液内科		2			2	5	1	3					13
-神経内科	61	50	53	38	49	50	52	57	66	64	55	51	646
-腎臓高血圧内科	1	1		1	3	1	3	1				1	12
-内分泌代謝内科	5	5	5	3	4	4	3	3	8	1	6	5	52
-膠原病リウマチ科	9	11	8	17	16	22	18	14	14	13	13	10	165
精神科				1		2			2			1	6
小児科	1	4	6	3	5	4	4	3	3	2	2	4	41
外科	29	39	39	33	29	29	37	35	42	35	34	41	422
-外科	6	10	11	10	11	11	18	9	13	8	15	12	134
-乳腺外科	22	29	28	23	17	18	18	24	29	27	19	29	283
-呼吸器外科	1				1		1	2					5
整形外科	193	165	150	176	161	139	183	179	168	165	163	160	2,002
形成・美容外科	11	15	15	9	11	19	8	10	5	10	7	14	134
脳神経外科	106	117	148	142	134	149	141	118	112	110	122	162	1,561
皮膚科	2	8	7	2	9	2	4	4	4	1	3	3	49
泌尿器科	76	52	59	47	67	68	49	61	65	65	59	64	732
産婦人科	35	43	28	35	36	41	47	21	45	25	38	28	422
眼科	6	2	1	6	2	4	3	1	5	2		2	34
耳鼻咽喉科	12	15	15	19	15	12	17	14	12	10	12	14	167
心臓・血管外科	5	4	9	5	4	3	5	1	5	4	4	6	55
放射線科	98	94	92	88	57	59	79	77	62	69	69	91	935
健康管理センター	10	10	13	18	19	13	11	12	9	12	10	14	151
麻酔科													0
歯科・口腔外科	6	9	10	2	8	3	5	2	6	4	1	3	59
透析科													0
救急科	11	25	28	17	22	21	28	34	27	12	17	18	260
緩和支援療法科													0
新生児科													0
職員健診													0
その他													0
合計	788	804	823	790	786	759	836	780	782	752	747	821	9,468
入院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	53	71	66	56	78	82	61	62	51	54	56	47	737
-内科		2						1					3
-循環器内科	4	9	4	2	3	3	1		2	3	1	4	36
-消化器内科	15	15	13	8	20	29	10	8	14	13	11	9	165
-呼吸器内科	1	7	7	3	7	4	7	4	5	4	5	1	55
-血液内科	4	2	4	6	8	4	5	3		1	1	1	39
-神経内科	27	28	33	34	37	35	33	40	24	32	34	29	386
-腎臓高血圧内科	1	2	2	1	1	1	3	3	1			1	16
-内分泌代謝内科			2	1	1	5	1	2	2	1	1	1	17
-膠原病リウマチ科	1	6	1	1	1	1	1	1	3		3	1	20
精神科													0
小児科	2	1	2	1	4		5	1	1	2	2	2	23
外科	1	2	1	1	1	2	1	1	1	3	1	2	17
-外科	1	1			1	1	1	1	1	3	1	1	12
-乳腺外科		1	1			1						1	4
-呼吸器外科				1									1
整形外科	19	17	21	12	19	21	27	22	24	23	23	20	248
形成・美容外科		1		1	4	1	1		1	2		1	12
脳神経外科	23	17	29	24	29	17	21	30	22	20	25	25	282
皮膚科					1								1
泌尿器科	3	1	3	1	3	1	2		4	1		1	20
産婦人科	3	2	1	3	2	2	3	1	5	1	1	2	26
眼科				1						1			2
耳鼻咽喉科					1		1		1	1			4
心臓・血管外科	5	5	1	4	4	2	1	5	2	4	5	1	39
放射線科				1				1					2
健康管理センター													0
麻酔科													0
歯科・口腔外科		1			1								2
透析科													0
救急科	1	1	3	2	3	3	2	2	2	2	6	2	29
緩和支援療法科	1	2	1	2	3	1						1	11
新生児科													0
職員健診													0
その他													0
合計	111	121	128	109	153	132	125	125	114	114	119	104	1,455
総合計	899	925	951	899	939	891	961	905	896	866	866	925	10,923

(7)令和5年度 MR月別・単純造影別件数

外来	単純										造影								計	
	頭部	頸部	頭頸部	胸部	腹部	骨盤	上肢	下肢	脊椎	その他	頭部	頸部	胸部	腹部	骨盤	上肢	下肢	脊椎		その他
4月	212	7	12	8	102	138	44	58	167		7	5	20	5	2			1		788
5月	230	14	10	12	120	113	38	45	169		18	3	21	11						804
6月	267	11	14	10	130	124	33	45	145		9	3	18	13	1					823
7月	229	9	18	7	129	112	42	50	149		18	1	18	5		1		2		790
8月	224	13	19	8	135	122	38	45	149		14	2	11	5				1		786
9月	246	10	13	8	111	126	35	44	127		11	2	18	8						759
10月	253	8	11	7	139	132	55	50	146		8	3	17	7						836
11月	240	7	12	4	128	110	47	54	145		7	1	19	6						780
12月	230	11	9	6	138	132	33	41	144		10	2	19	7						782
1月	208	9	12	3	143	117	40	54	124		9	3	20	10						752
2月	221	6	12	7	135	118	29	41	141		14		18	5						747
3月	258	12	14	12	142	122	31	47	137		17		21	6		1		1		821
合計	2,818	117	156	92	1,552	1,466	465	574	1,743	0	142	25	220	88	3	2	0	5	0	9,468
入院	単純										造影								計	
	頭部	頸部	頭頸部	胸部	腹部	骨盤	上肢	下肢	脊椎	その他	頭部	頸部	胸部	腹部	骨盤	上肢	下肢	脊椎		その他
4月	54				13	9	1	5	22		4		2					1		111
5月	59			2	16	4	4	2	24		6		2	1				1		121
6月	59			1	13	9	1	4	27		10			2				2		128
7月	58			2	7	6	1	7	19		8		1							109
8月	73	1			19	5	1	9	30		13	1						1		153
9月	59	1	1	2	22	9		2	29		6			1						132
10月	62	1		3	13	10	2	2	23		8							1		125
11月	68	1		3	13	5		6	27		2									125
12月	44	1			17	8	2	3	33		5		1							114
1月	59	1			15	8	3	4	18		5			1						114
2月	63			1	10	5	1	3	30		4			1				1		119
3月	48				12	3		3	29		6			2		1				104
合計	706	6	1	14	170	81	16	50	311	0	77	1	6	8	0	1	0	7	0	1,455
総合計	3,524	123	157	106	1,722	1,547	481	624	2,054	0	219	26	226	96	3	3	0	12	0	10,923

(8) 令和5年度 ポータブル件数一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
救急外来 (一般外来含む)	246	252	226	243	263	231	262	260	294	310	261	246	3,094
透析室													0
救急病棟	70	81	78	70	65	77	63	64	96	81	93	78	916
ICU・CCU	257	272	322	366	260	236	340	280	328	344	275	370	3,650
HCU	92	128	130	161	144	105	147	149	132	190	131	204	1,713
中央棟4階東	13	25	33	27	38	26	17	26	34	27	30	32	328
中央棟4階西	20	22	42	19	39	27	35	28	20	12	15	15	294
中央棟5階東	94	105	81	116	100	107	107	115	109	111	91	97	1,233
中央棟5階西	104	80	67	63	92	85	54	90	45	79	81	67	907
中央棟6階東	44	25	48	42	45	43	46	42	37	44	54	66	536
中央棟6階西	23	61	76	57	52	48	52	60	66	42	28	46	611
中央棟7階東	65	70	43	91	67	54	69	89	84	62	62	53	809
中央棟7階西	21	18	25	35	38	49	21	43	23	22	33	20	348
中央棟8階東	48	44	67	67	68	45	71	65	49	47	53	53	677
中央棟8階西	66	64	68	76	89	94	87	91	81	69	80	80	945
南棟2階 (8月までは西棟)	47	40	42	33	55	42	41	62	64	68	64	60	618
南棟3階 (8月までは西棟)	40	59	46	51	46	42	46	37	48	44	40	56	555
南棟4階 (8月までは西棟)	15	9	9	14	21	6	12	13	14	8	3	2	126
その他													0
合計	1,265	1,355	1,403	1,531	1,482	1,317	1,470	1,514	1,524	1,560	1,394	1,545	17,360

(9) 令和5年度 放射線治療数・件数/原発部位別放射線治療件数

年月	項目	診療者数		照射数 (リ ニ ア ッ ク)		治療計画CT			
		実人数	総件数	X線(6MV)	電子線	外	内	外	内
令和5年	4月	38	394	378	16				
	5月	34	352	331	21				
	6月	43	441	423	18				
	7月	36	435	414	21				
	8月	33	417	396	21				
	9月	36	402	381	21				
	10月	37	522	501	21				
	11月	38	419	411	8				
	12月	45	499	485	14				
令和6年	1月	31	350	336	14				
	2月	31	304	296	8				
	3月	33	397	389	8				
	令和5年度合計	4,443	4,932	4,741	191				
	令和4年度合計	4,303	4,639	4,358	281				

原発部位 (肺 、 縦 隔)	原発部位名	実人数
婦 人 科 疾 患 (卵 巢 、 子 宮 頸 、 子 宮 体 癌)	婦 人 科 疾 患 (卵 巢 、 子 宮 頸 、 子 宮 体 癌)	0
消 化 器	消 化 器	38
脳 腫 瘍	脳 腫 瘍	1
悪 性 リ ン パ 腫	悪 性 リ ン パ 腫	4
耳 鼻 科 疾 患 (耳 下 腺 、 喉 頭 、 咽 頭 、 舌)	耳 鼻 科 疾 患 (耳 下 腺 、 喉 頭 、 咽 頭 、 舌)	0
泌 尿 器 科 疾 患 (膀 胱 、 前 立 腺 、 外 陰 部)	泌 尿 器 科 疾 患 (膀 胱 、 前 立 腺 、 外 陰 部)	28
そ の 他	そ の 他	23
合 計	合 計	231

(10) 令和5年度 放射線治療月別・科別件数

月	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計
	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	外	内	
外 来 / 入 院	280	114	273	79	384	57	370	65	435	417	402	41	457	65	396	23	441	58	313	37	242	62	347	50	4,932
放 射 線 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼 吸 器 内 科	14	65	30	31	21	18	22	20	2	8	2	8	0	24	0	1	0	10	0	10	0	17	6	20	338
血 液 内 科	34	0	6	8	9	17	3	21	0	1	11	10	54	0	4	5	20	0	0	11	0	0	0	0	214
消 化 器 内 科	15	20	4	0	21	10	18	22	26	3	29	6	9	29	25	8	14	20	38	0	0	1	4	10	332
口 腔 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	0	16	50
外 科	21	19	0	8	16	4	40	0	49	2	42	3	47	0	28	7	23	2	20	0	13	2	12	3	361
乳 腺 外 科	125	0	154	20	257	5	271	0	259	8	243	0	298	0	287	0	325	0	168	2	132	8	239	0	2,801
産 婦 人 科	14	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	13	0	12	0	2	0	11	0	0	0	0	0	0	60
呼 吸 器 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌 尿 器 科	57	0	79	10	57	3	31	0	0	0	6	0	42	0	52	0	59	3	69	0	97	0	86	1	652
耳 鼻 咽 喉 科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	27	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35
脳 神 経 外 科	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
緩 和 支 持 科	0	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	21
そ の 他	0	0	0	0	3	0	0	0	13	6	0	0	0	0	0	0	0	12	18	4	0	0	0	0	56
合 計	394	352	441	383	401	441	435	417	402	41	457	65	396	23	441	58	499	350	313	37	242	62	347	50	4,932
令 和 4 年 度 計	304	383	401	383	401	401	589	621	432	373	280	288	243	368	4,932										4,637

(11) 令和5年度RI科別・月別集計

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精 神 科	外来	0	1	1	0	0	0	0	2	2	1	1	1	9
	入院	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
小 児 科	外来	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
外 科	外来	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整 形 外 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
形成・美容外科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	外来	4	6	5	4	5	2	4	5	3	2	1	7	48
	入院	0	1	0	0	1	0	0	0	4	3	0	0	9
皮 膚 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌 尿 器 科	外来	22	29	35	35	25	30	27	25	20	23	36	25	332
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産 婦 人 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳 鼻 咽 喉 科	外来	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	2	1	6
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心 臓 血 管 外 科	外来	3	3	4	1	9	1	1	3	4	1	4	0	34
	入院	3	3	1	1	2	1	0	2	2	1	3	1	20
放 射 線 科	外来	5	6	10	6	4	8	3	1	6	2	3	3	57
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
健康管理センター	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯 科 口 腔 外 科	外来	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
循 環 器 内 科	外来	62	43	58	54	40	36	65	54	81	60	39	61	653
	入院	16	28	18	22	21	21	23	15	20	24	17	24	249
消 化 器 内 科	外来	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3
呼 吸 器 内 科	外来	1	1	0	0	0	2	0	0	0	3	0	1	8
	入院	1	0	0	2	1	1	1	0	2	0	0	1	9
血 液 内 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神 経 内 科	外来	21	13	11	4	11	12	10	21	17	19	16	11	166
	入院	8	3	1	5	3	2	2	4	4	3	3	2	40
腎臓高血圧内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3
内 分 泌 代 謝 内 科	外来	0	2	0	1	3	3	2	4	4	1	3	1	24
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
膠原病リウマチ科	外来	1	2	1	0	1	1	2	1	0	2	0	0	11
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和支援療法科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳 腺 外 科	外来	12	8	5	4	4	2	2	2	9	9	6	2	65
	入院	7	9	12	8	12	13	12	6	4	10	8	6	107
呼 吸 器 外 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消 化 器 外 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	外来	132	114	130	110	104	97	118	120	146	123	111	113	1,418
	入院	36	45	33	38	42	38	39	27	37	45	31	35	446
総計		168	159	163	148	146	135	157	147	183	168	142	148	1,864

(12) 令和5年度 部位分類別・科別集計

部位分類	部位	内科		精神科		小児科		外科		整形外科		形成・美容外科		脳神経外科		皮膚科		泌尿器科		産婦人科		眼科			
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院		
脳	脳血流(PAO)Patlak	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	脳血流(ECD)Patlak	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	脳血流(IMP)GP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	脳血流(ECD)eZIS	0	0	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	脳血流(IMP)iSSP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	脳血流(IMP)RAMDA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	脳(IMZ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	脳(DaT)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
脳槽	脳槽シンチ(In111DTPA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
唾液腺	唾液腺(Tc99m)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
甲状腺	甲状腺(I123)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	甲状腺(Tc99m)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	副甲状腺(MIBI)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
肺臓	肺血流シンチ(MAA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	RIベノグラフィ(MAA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
心臓	心プール(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
心筋	心筋血流(TL201)負荷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋血流(Tc99m)負荷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋DUAL(TL+BMIPP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋DUAL(Tc血流+BMIPP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋交感神経機能(MIBG)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋血流(TL201)安静	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋血流(Tc99m)安静	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋脂肪酸代謝(BMIPP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	急性心筋梗塞(PYP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	心筋DUAL(その他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	心アミロイドーシス(PYP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肝臓	肝コロイド(Snコロイド)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	肝受容体(GSA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
肝・胆道	肝胆道(PMT)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	肝門脈(TL201)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
腎臓	腎レノグラフィ(DTPA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
	腎シンチ(DMSA)	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
副腎	副腎皮質(アドステロール)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	副腎髄質(MIBG)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
骨	骨シンチ(全身)	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	328	0	0	0	0	0	0	
	骨シンチ(部分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	骨シンチ(3相)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
骨髄	骨髄シンチ(In111Cl)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
炎症	ガリウムシンチ(Ga67)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腫瘍(TL201)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オクトレオスキャン(In111)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腫瘍(その他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
RIアンギオ	RIアンギオ(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	消化管出血(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	蛋白漏出(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
メッケル	メッケル(Tc99m)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
リンパ節	リンパ管シンチ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	みはりリンパ節	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
RI内用法	メタストロン(Sr89)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ゼヴァリン(Y90)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ゼヴァリン(In111)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ゾーフイゾ(Ra223)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		0	0	9	2	1	1	2	0	1	0	0	48	9	0	0	332	0	0	0	0	0	0	0	
		0		11		2		2		1		0	57		0		332			0		0		0	

		耳鼻咽喉科		心臓血管外科		放射線科		健康管理センター		麻酔科		歯科口腔外科		循環器内科		消化器内科		呼吸器内科		血液内科		神経内科		
部位分類	部位	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	
脳	脳血流(PAO)Patlak	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	脳血流(ECD)Patlak	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	脳血流(IMP)GP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	脳血流(ECD)eZIS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	8
	脳血流(IMP)iSSP	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	脳血流(IMP)RAMDA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	脳(IMZ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	脳(DaT)	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48	10
脳槽	脳槽シンチ(In111DTPA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
唾液腺	唾液腺(Tc99m)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
甲状腺	甲状腺(I123)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	甲状腺(Tc99m)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	副甲状腺(MIBI)	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
肺臓	肺血流シンチ(MAA)	0	0	12	3	0	0	0	0	0	0	0	0	12	12	0	0	1	4	0	0	0	0	
	RIベノグラフィ(MAA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
心臓	心プール(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
心筋	心筋血流(TL201)負荷	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	203	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋血流(Tc99m)負荷	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	286	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋DUAL(TL+BMIPP)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	61	68	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋DUAL(Tc血流+BMIPP)	0	0	17	12	0	0	0	0	0	0	0	0	77	155	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋交感神経機能(MIBG)	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73	16
	心筋血流(TL201)安静	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋血流(Tc99m)安静	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋脂肪酸代謝(BMIPP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	急性心筋梗塞(PYP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	心筋DUAL(その他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	心アミロイドーシス(PYP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肝臓	肝コロイド(Snコロイド)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	肝受容体(GSA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
肝・胆道	肝胆道(PMT)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	肝門脈(TL201)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
腎臓	腎レノグラフィ(DTPA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腎シンチ(DMSA)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
副腎	副腎皮質(アドステロール)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	副腎髄質(MIBG)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
骨	骨シンチ(全身)	0	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	5	0	0	0	0	
	骨シンチ(部分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	骨シンチ(3相)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
骨髄	骨髄シンチ(In111Cl)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
炎症	ガリウムシンチ(Ga67)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
	腫瘍(TL201)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オクトレオスキャン(In111)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腫瘍(その他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
RIアンギオ	RIアンギオ(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	消化管出血(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
	蛋白漏出(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
メッケル	メッケル(Tc99m)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
リンパ節	リンパ管シンチ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	みはりリンパ節	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
RI内用法	メタストロン(Sr89)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ゼヴァリン(Y90)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ゼヴァリン(In111)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ゾーフイゴ(Ra223)	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		6	0	34	20	57	0	0	0	0	0	1	0	653	249	1	3	8	9	0	0	166	40	
		6		54		57		0		0		1		902		4		17		0		206		

部位分類	部位	腎臓高血圧内科		内分泌代謝内科		膠原病リウマチ内科		緩和治療科		乳腺外科		呼吸器外科		消化器外科		合計		総計	
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院		
脳	脳血流(PAO)Patlak	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	脳血流(ECD)Patlak	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	脳血流(IMP)GP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	6	28	
	脳血流(ECD)eZIS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	10	62	
	脳血流(IMP)iSSP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	8	68	
	脳血流(IMP)RAMDA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	
	脳(IMZ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	脳(DaT)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	10	64	
脳槽	脳槽シンチ(In111DTPA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
唾液腺	唾液腺(Tc99m)	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10	
甲状腺	甲状腺(I123)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	甲状腺(Tc99m)	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	9	
	副甲状腺(MIBI)	0	0	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	1	17	
肺臓	肺血流シンチ(MAA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	19	44	
	RI-ベノグラフィ(MAA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
心臓	心プール(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
心筋	心筋血流(TL201)負荷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	208	4	212	
	心筋血流(Tc99m)負荷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	288	4	292	
	心筋DUAL(TL+BMIPP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61	69	130	
	心筋DUAL(Tc血流+BMIPP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	94	167	261	
	心筋交感神経機能(MIBG)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77	16	93	
	心筋血流(TL201)安静	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋血流(Tc99m)安静	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	心筋脂肪酸代謝(BMIPP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	急性心筋梗塞(PYP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	心筋DUAL(その他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	心アミロイドーシス(PYP)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	2	14	
肝臓	肝コロイド(Snコロイド)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	肝受容体(GSA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
肝・胆道	肝胆道(PMT)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	肝門脈(TL201)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
腎臓	腎レノグラフィ(DTPA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	
	腎シンチ(DMSA)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	
副腎	副腎皮質(アドステロール)	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	
	副腎髄質(MIBG)	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5	
骨	骨シンチ(全身)	0	0	0	0	1	0	0	0	60	3	0	0	0	0	404	11	415	
	骨シンチ(部分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	骨シンチ(3相)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
骨髄	骨髄シンチ(In111Cl)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
炎症腫	ガリウムシンチ(Ga67)	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	10	12	
	腫瘍(TL201)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オクトレオスキャン(In111)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腫瘍(その他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
RIアンギオ	RIアンギオ(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	消化管出血(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	
	蛋白漏出(HSAD)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
メッケル	メッケル(Tc99m)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
リンパ節	リンパ管シンチ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	みはりリンパ節	0	0	0	0	0	0	0	0	5	104	0	0	0	0	5	104	109	
RI内用療法	メタストロン(Sr89)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ゼヴァリン(Y90)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ゼヴァリン(In111)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ゾーフイゴ(Ra223)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4	
その他	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		0	3	24	2	11	0	0	0	65	107	0	0	0	0	1,418	446	1,864	
		3		26		11		0		172		0		0		1,864		0	

(13) 令和5年度アンギオ・心カテ件数

	循環器内科	消化器内科	脳神経外科	心臓血管外科	放射線科	合計
CAG	594	0	0	0	0	594
PCI	346	0	0	0	0	346
Ablation(EP含む)	194	0	0	0	0	194
EPSのみ	0	0	0	0	0	0
PMI	69	0	0	0	0	69
PM G交換	22	0	0	0	0	22
ICD	18	0	0	0	0	18
ICD G交換	10	0	0	0	0	10
一時ペーシング(緊急含む)	20	0	0	0	0	20
腹部アンギオ	0	18	0	0	0	18
脳アンギオ	0	0	104	0	0	104
コイル塞栓	0	0	46	8	15	69
血栓回収	0	0	10	3	0	13
CAS	0	0	11	1	0	12
PTA	0	0	0	212	0	212
グラフトステント	0	0	0	18	0	18
四肢アンギオ 造影のみ	0	0	0	12	0	12
その他アンギオ	10	0	2	10	2	24
造影なし(弁シネなど)	29	0	0	6	0	35
合計	1,312	18	173	270	17	1,790

(患者人数)

	循環器内科	消化器内科	脳神経外科	心臓血管外科	放射線科	合計
人数	1,312	18	173	270	17	1,790
オペ室(内)	2	0	0	65	0	67

(救急患者対応人数)

	循環器内科	消化器内科	脳神経外科	心臓血管外科	放射線科	合計
人数	131	2	16	39	10	198

10. 臨床検査科業務状況

(1) 科別部門別検査集績表 (件数)

	生化学	血液	尿一般	生理	微生物	免疫	病理	管理加算等	合計
2023年 4月	208,271	34,331	12,136	6,245	4,328	23,099	2,073	20,100	310,583
5月	215,681	35,824	12,895	6,476	4,371	24,563	2,162	20,682	322,654
6月	225,365	37,321	13,959	6,856	5,003	25,220	2,320	21,286	337,330
7月	220,451	36,971	13,356	6,601	5,156	24,795	2,058	20,506	329,894
8月	228,066	38,125	14,075	6,548	4,951	24,989	2,095	21,300	340,149
9月	218,383	36,539	13,001	5,986	4,619	23,992	2,114	20,636	325,270
10月	223,958	37,439	13,106	6,495	4,689	25,093	2,125	21,374	334,279
11月	217,608	36,315	12,840	6,568	4,479	24,463	1,966	20,589	324,828
12月	225,088	37,607	12,974	6,594	4,908	25,410	1,940	21,797	336,318
2024年 1月	222,710	37,020	12,885	6,637	4,838	24,572	1,939	21,076	331,677
2月	214,818	35,465	12,754	6,109	4,745	24,197	1,935	20,480	320,503
3月	223,271	36,930	13,208	6,581	4,734	24,488	2,083	21,766	333,061
合計	2,643,670	439,887	157,189	77,696	56,821	294,881	24,810	251,592	3,946,546

(2) 科別部門別検査集績表 (点数)

	生化学	血液	尿一般	生理	微生物	免疫	病理	管理加算等	合計
2023年 4月	2,911,124	877,832	104,137	1,469,700	314,487	1,429,740	639,063	358,471	8,104,554
5月	2,944,819	917,699	112,135	1,495,737	236,929	1,558,545	708,485	375,176	8,349,525
6月	3,146,045	978,374	123,052	1,623,928	277,192	1,594,710	710,454	404,751	8,858,506
7月	2,955,158	919,546	117,726	1,546,545	297,869	1,524,702	651,486	408,832	8,421,864
8月	3,086,741	953,439	123,239	1,504,399	304,480	1,557,165	661,141	412,893	8,603,497
9月	2,985,234	937,695	115,285	1,422,602	256,792	1,477,942	608,230	405,203	8,208,983
10月	3,090,053	949,278	116,637	1,570,540	279,642	1,460,075	648,611	395,147	8,509,983
11月	2,963,616	913,322	111,737	1,525,956	226,225	1,491,473	634,037	379,770	8,246,136
12月	3,071,197	928,412	111,828	1,507,937	253,890	1,555,393	616,860	401,835	8,447,352
2024年 1月	3,035,731	939,448	114,877	1,543,494	249,200	1,532,496	663,354	392,649	8,471,249
2月	2,910,320	870,357	112,475	1,398,720	236,106	1,482,541	646,899	372,071	8,029,489
3月	3,010,795	936,071	116,327	1,548,631	257,111	1,559,768	673,778	383,284	8,485,765
合計	36,110,833	11,121,473	1,379,455	18,158,189	3,189,923	18,224,550	7,862,398	4,690,082	100,736,903

(3) 科別檢查業績表 (科別件數)

	內科	精神科	小兒科	外科	整形外科	形成外科	腦外科	皮膚科	泌尿器科	產婦人科
2023年 4月	5,806	0	2,797	17,931	11,321	1,813	4,109	2,981	18,399	9,019
5月	7,046	0	3,562	17,778	11,045	2,037	4,549	4,059	18,429	9,512
6月	6,404	0	4,946	18,354	12,058	2,003	4,796	3,660	19,339	10,234
7月	8,806	0	4,726	18,031	12,705	2,656	3,806	2,541	18,446	9,268
8月	8,907	0	4,192	19,247	13,112	2,585	4,563	3,319	18,156	9,876
9月	6,947	0	2,893	19,582	12,393	1,945	3,537	3,887	18,542	8,687
10月	6,549	0	3,588	17,681	14,519	1,684	4,825	3,505	19,515	9,713
11月	5,883	60	3,855	16,727	14,213	1,791	4,504	3,647	19,589	8,727
12月	7,341	0	3,584	16,935	14,917	1,508	4,070	3,757	19,638	10,232
2024年 1月	6,985	0	3,599	16,250	14,049	1,428	5,067	3,275	17,042	8,942
2月	5,880	60	3,785	17,772	13,142	1,935	4,718	4,002	17,650	8,902
3月	5,524	25	3,730	18,490	13,177	2,018	5,848	3,914	18,621	8,521
合計	82,078	145	45,257	214,778	156,651	23,403	54,392	42,547	223,366	111,633

(3) 科別檢查業績表 (科別件數)

	眼科	耳鼻喉科	心臟外科	放射線科	口腔外科	透析科	循環器內科	消化器內科	呼吸器內科	血液內科
2023年 4月	918	3,805	12,522	57	2,663	1,045	39,874	34,221	20,565	16,705
5月	843	3,496	13,684	29	1,730	1,194	39,685	32,602	21,487	17,458
6月	645	4,252	13,523	29	2,401	1,389	38,408	35,076	21,546	17,227
7月	640	4,678	13,885	77	2,190	1,308	35,568	34,573	20,929	18,185
8月	859	4,346	12,896	23	2,018	1,326	35,995	36,984	23,091	16,782
9月	956	4,561	10,380	0	1,928	1,182	37,230	36,991	20,145	18,746
10月	1,136	4,615	11,173	0	2,161	1,262	36,106	34,873	22,853	18,120
11月	912	4,428	10,244	0	2,004	1,223	37,097	36,114	19,412	18,865
12月	686	3,586	10,936	0	1,397	1,359	39,970	37,798	20,253	16,621
2024年 1月	796	3,729	12,632	0	2,033	1,156	40,463	34,960	20,695	18,272
2月	696	3,635	11,691	53	2,231	1,223	34,503	34,263	19,484	17,330
3月	538	3,697	14,311	29	2,271	1,224	38,459	33,052	19,065	17,734
合計	9,625	48,828	147,877	297	25,027	14,891	453,358	421,507	249,525	212,045

(3) 科別検査実績表 (科別件数)

	脳内科	腎臓高血圧内科	内分泌代謝内科	膠原病リウマチ科	救急	緩和	乳腺	呼吸	合計
2023年 4月	8,612	23,655	24,576	35,771	0	913	8,156	2,349	310,583
5月	10,205	24,537	24,488	41,277	1	1,163	8,183	2,575	322,654
6月	10,366	27,453	28,380	43,195	0	996	7,846	2,804	337,330
7月	10,335	28,810	24,809	40,741	0	1,298	8,161	2,722	329,894
8月	11,220	29,854	28,283	41,788	0	1,262	8,036	1,429	340,149
9月	11,316	25,121	27,296	39,669	7	1,070	8,102	2,157	325,270
10月	11,325	27,912	27,743	40,546	0	892	8,554	3,429	334,279
11月	12,413	26,080	25,871	38,685	0	1,141	8,704	2,638	324,827
12月	12,041	29,020	27,143	41,485	0	1,230	7,523	3,288	336,318
2024年 1月	12,366	27,597	27,939	40,033	47	945	8,606	2,771	331,677
2月	10,762	27,914	27,778	39,633	2	652	8,157	2,650	320,503
3月	11,847	26,359	28,604	42,999	0	865	9,101	3,038	333,061
合計	132,808	324,312	322,910	485,822	57	12,427	99,129	31,850	3,946,545

(4) 科別検査実績表 (科別点数)

	内科	精神科	小児科	外科	整形外科	形成外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
2023年 4月	245,053	0	135,151	280,262	197,544	57,912	64,081	145,041	583,561	580,506
5月	297,353	0	180,797	278,352	168,289	57,068	79,503	204,082	539,491	599,314
6月	277,719	0	207,923	289,554	235,627	72,996	76,960	196,768	581,350	644,500
7月	393,557	0	237,189	293,120	240,230	63,661	69,354	130,895	540,721	612,704
8月	382,410	0	221,464	308,745	210,829	74,769	68,300	169,459	525,741	589,434
9月	288,697	0	146,146	316,725	173,168	61,893	64,172	136,902	532,472	587,036
10月	283,761	0	159,708	305,731	222,099	63,412	83,508	161,569	555,051	615,814
11月	250,867	2,246	162,808	258,784	259,381	72,439	74,754	171,285	552,005	579,273
12月	320,752	0	205,103	306,297	212,161	58,377	58,143	161,862	587,449	586,109
2024年 1月	317,793	0	174,524	301,414	254,773	64,986	66,243	155,310	557,240	561,320
2月	250,734	2,246	171,504	300,349	216,290	62,215	52,669	172,567	521,968	510,185
3月	239,485	508	178,139	304,871	214,589	66,204	56,038	192,341	585,622	566,444
合計	3,548,180	5,000	2,180,456	3,544,203	2,604,978	775,932	813,724	1,998,081	6,662,671	7,032,637

(4) 科別検査実績表 (科別点数)

	眼科	耳鼻科	心臓外科	放射線科	口腔外科	透析科	循環器内科	消化器内科	呼吸器内科	血液内科
2023年 4月	53,793	211,305	242,022	839	113,987	13,256	1,227,079	676,165	491,992	302,758
5月	45,672	204,589	250,753	646	70,253	17,152	1,212,599	711,358	535,705	296,388
6月	35,357	260,152	300,964	646	99,172	31,263	1,198,207	740,635	511,990	329,305
7月	37,724	262,878	255,795	961	90,476	14,723	1,067,722	722,624	510,346	308,103
8月	45,686	275,145	266,961	122	76,612	18,063	1,038,168	749,251	553,868	320,940
9月	49,264	227,020	264,067	0	74,606	16,102	1,121,467	628,205	500,583	371,253
10月	59,345	246,419	291,053	0	85,287	18,586	1,189,361	694,024	507,912	346,964
11月	50,850	259,938	239,326	0	81,433	16,923	1,116,065	730,450	439,365	306,899
12月	38,110	224,715	257,215	0	58,910	16,768	1,177,964	715,854	453,088	311,488
2024年 1月	36,647	210,082	235,887	0	81,619	15,357	1,177,142	674,982	499,401	354,787
2月	33,015	223,552	207,328	805	84,537	15,477	1,104,141	729,299	474,584	286,444
3月	30,224	242,348	213,670	646	81,085	15,556	1,182,245	699,849	544,147	346,485
合計	515,687	2,848,142	3,025,040	4,665	997,977	209,226	13,812,160	8,472,696	6,022,980	3,881,814

(4) 科別検査実績表 (科別点数)

	脳内科	腎臓高血圧内科	内分泌代謝内科	膠原病リウマチ科	救急	緩和	乳腺	呼外	合計
2023年 4月	152,929	333,689	570,202	1,008,650	0	0	378,868	37,909	8,104,552
5月	121,037	373,611	508,479	1,150,521	0	0	404,905	41,607	8,349,524
6月	181,338	406,831	575,095	1,172,671	0	0	384,664	46,822	8,858,506
7月	158,970	377,967	525,048	1,084,244	0	0	374,858	47,997	8,421,865
8月	191,366	425,820	574,806	1,121,552	0	0	367,132	26,855	8,603,497
9月	176,088	355,913	570,858	1,121,203	0	0	383,073	42,075	8,208,987
10月	182,430	402,279	584,172	1,090,678	0	0	382,578	48,363	8,580,103
11月	178,285	392,276	544,677	1,065,527	0	0	395,386	44,896	8,246,139
12月	214,727	373,725	558,542	1,146,211	0	0	363,712	40,071	8,447,352
2024年 1月	216,165	352,790	587,191	1,102,415	0	0	425,791	47,391	8,471,250
2月	189,701	363,724	534,892	1,099,181	0	0	384,107	37,979	8,029,491
3月	188,225	372,806	583,745	1,146,002	0	0	393,808	40,684	8,485,766
合計	2,151,261	4,531,431	6,717,707	13,308,854	0	0	4,638,882	502,649	100,807,032

(5) 外注検査実績表 (件数) (金額)

	S R L	LSI	B M L	日赤	横須賀共済	HLA研究所	ダイブイエックス	合計件数
2023年 4月	4,624	56	872	1	0	0	4	5,557
5月	5,235	64	221	2	5	0	6	5,533
6月	6,188	57	210	1	3	0	3	6,462
7月	5,728	51	192	1	2	0	2	5,976
8月	4,528	61	163	1	3	0	3	4,759
9月	4,938	75	219	0	0	0	1	5,233
10月	5,370	86	210	1	0	0	1	5,668
11月	4,974	67	210	0	0	0	1	5,252
12月	5,247	69	218	0	1	0	5	5,540
2024年 1月	4,752	71	192	0	0	0	2	5,017
2月	5,377	74	232	1	2	0	0	5,686
3月	5,256	77	236	0	0	0	3	5,572
合 計	62,217	808	3,175	8	16	0	31	66,255

	S R L	LSI	B M L	日赤	横須賀共済	HLA研究所	ダイブイエックス	合計金額
2023年 4月	5,875,786	197,846	5,771,364	2,610	0	0	20,295	11,867,901
5月	7,072,883	205,436	1,838,237	12,610	0	0	31,955	9,161,121
6月	8,331,748	157,146	1,949,348	2,610	33,726	0	18,645	10,493,223
7月	8,272,987	160,424	1,782,940	2,600	22,484	0	6,215	10,247,650
8月	7,097,110	166,254	1,538,113	540	33,726	0	18,645	8,854,388
9月	6,580,566	218,592	2,109,068	0	0	0	6,215	8,914,441
10月	10,761,124	262,911	2,088,251	2,610	0	0	6,215	13,121,111
11月	6,720,653	182,809	2,116,845	0	0	0	6,215	9,026,522
12月	7,010,445	187,176	2,100,136	0	11,242	0	20,405	9,329,404
2024年 1月	7,984,075	188,309	1,651,100	0	0	0	12,430	9,835,914
2月	7,011,629	188,705	2,114,855	2,610	13,442	0	0	9,331,241
3月	9,481,480	223,366	1,859,506	0	0	0	18,645	11,582,997
合 計	92,200,486	2,338,974	26,919,763	26,190	114,620	0	165,880	121,765,913

11. リハビリテーション科業務状況
 (1)リハビリテーション科新患内訳 - 疾患別 -

疾患別	入院		外来		計	
	件数	%	件数	%	件数	%
脳血管障害	1,624	21.7 %	4	0.6 %	1,628	19.9 %
脊髄損傷	36	0.5 %	0	0.0 %	36	0.4 %
神経および筋疾患	208	2.8 %	3	0.4 %	211	2.6 %
スポーツ障害 (上肢)	181	2.4 %	195	27.1 %	376	4.6 %
スポーツ障害 (下肢)	137	1.8 %	227	31.5 %	364	4.4 %
関節疾患 (上肢)	36	0.5 %	27	3.8 %	63	0.8 %
関節疾患 (下肢)	838	11.2 %	13	1.8 %	851	10.4 %
脊椎疾患	1,037	13.9 %	6	0.8 %	1,043	12.7 %
上肢・手の外傷	89	1.2 %	89	12.4 %	178	2.2 %
下肢の外傷	272	3.6 %	75	10.4 %	347	4.2 %
その他整形疾患	23	0.3 %	5	0.7 %	28	0.3 %
RA	21	0.3 %	18	2.5 %	39	0.5 %
その他リウマチ疾患	21	0.3 %	0	0.0 %	21	0.3 %
腫瘍	460	6.2 %	0	0.0 %	460	5.6 %
呼吸器疾患 (廃用症候群)	784	10.5 %	7	1.0 %	791	9.7 %
心大血管疾患 (廃用症候群)	632	8.5 %	51	7.1 %	683	8.3 %
その他の疾患 (廃用症候群)	1,013	13.6 %	0	0.0 %	1,013	12.4 %
顔面神経麻痺	64	0.9 %	0	0.0 %	64	0.8 %
計	7,476	100.0 %	720	100.0 %	8,196	100.0 %

(2) 各療法別新患内訳一診療科・理学・作業・言語聴覚療法別一

	理学療法 PT				作業療法 OT				言語聴覚療法 ST					
	入院		外来		入院		外来		入院		入院・外来合計			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%		
内科	10	0.2	41	0.7	51	0.9	1	0.1	0	0.0	1	0.1	5	0.4
循環器内科	548	9.3	0	0.0	548	9.3	18	1.5	0	0.0	18	1.5	91	7.9
消化器内科	313	5.3	0	0.0	313	5.3	21	1.8	0	0.0	21	1.8	79	6.9
腎臓高血圧内科	181	3.1	0	0.0	181	3.1	2	0.2	0	0.0	2	0.2	37	3.2
内分泌代謝内科	99	1.7	0	0.0	99	1.7	3	0.3	0	0.0	3	0.3	40	3.5
呼吸器内科	328	5.6	0	0.0	328	5.6	14	1.2	0	0.0	14	1.2	96	8.4
血液内科	135	2.3	0	0.0	135	2.3	13	1.1	0	0.0	13	1.1	13	1.1
膠原病リウマチ内科	136	2.3	0	0.0	136	2.3	52	4.4	0	0.0	52	4.4	24	2.1
脳神経内科	393	6.7	0	0.0	393	6.7	389	33.1	0	0.0	389	33.1	325	28.4
小児科	2	0.0	0	0.0	2	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
外科	187	3.2	0	0.0	187	3.2	4	0.3	0	0.0	4	0.3	20	1.7
乳腺外科	4	0.1	0	0.0	4	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.3
呼吸器外科	30	0.5	0	0.0	30	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.4
整形外科	2,270	38.6	557	9.5	2,827	48.1	276	23.5	111	9.4	387	32.9	127	11.1
形成外科・美容外科	46	0.8	0	0.0	46	0.8	2	0.2	0	0.0	2	0.2	3	0.3
脳神経外科	271	4.6	0	0.0	271	4.6	257	21.9	0	0.0	257	21.9	206	18.0
心臓血管外科	130	2.2	11	0.2	141	2.4	4	0.3	0	0.0	4	0.3	25	2.2
皮膚科	27	0.5	0	0.0	27	0.5	1	0.1	0	0.0	1	0.1	6	0.5
泌尿器科	45	0.8	0	0.0	45	0.8	2	0.2	0	0.0	2	0.2	10	0.9
産婦人科	12	0.2	0	0.0	12	0.2	3	0.3	0	0.0	3	0.3	0	0.0
眼科	1	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
耳鼻咽喉科	66	1.1	0	0.0	66	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
救急科	20	0.3	0	0.0	20	0.3	1	0.1	0	0.0	1	0.1	9	0.8
緩和支援療法科	5	0.1	0	0.0	5	0.1	1	0.1	0	0.0	1	0.1	2	0.2
歯科・口腔外科	6	0.1	0	0.0	6	0.1	1	0.1	0	0.0	1	0.1	20	1.7
小計	5,265	89.6	609	10.4	5,874	100.0	1,065	90.6	111	9.4	1,176	100.0	1,146	100
各療法合計	5,874				1,176				1,146					

12. 栄養科業務状況

(1) 年度別給食数

区分	年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	食種				
患者食	常食		125,394	112,082	116,926
	軟食		82,979	87,145	108,757
	流動食		19,101	17,317	20,932
	特別食		140,993	135,892	150,622
	調乳		9,217	8,637	8,727
	小計 (一日平均)		377,684 (1,034)	361,073 (989)	405,964 (1,112)
保育	保育室幼児食 (一日平均)		4,164 (11)	4,944 (14)	4,497 (12)
精神	デイケア (一日平均)		0 0	0 0	0 0
おやつ	分割食		6,181	6,391	6,162
	小児		765	951	1,131
	保育室幼児		3,918	4,469	4,273
	小計		10,864	11,811	11,566
	(一日平均)		(30)	(32)	(32)
合計 (一日平均)			392,712 (1,076)	377,828 (1,035)	422,027 (1,156)

(2) 令和5年度特別治療食数

食種	食数	食種	食数
〈たんぱく、塩分コントロール食〉		〈易消化食〉	
腎臓病 A食	55	胃かいよう U食	2,030
慢性腎不全 R-30~R-50	12,154	消化管術後食	7,420
透析食 T-1、T-2、T-3、C-18	14,999	〈検査食〉	
高血圧 H-14~H-20	34,600	注腸食	338
〈エネルギーコントロール食〉		〈その他〉	
D-8~D-20	56,480	低残漬食	872
〈高たんぱく、貧血食〉		下痢食	0
高たんぱく食、貧血食	1,286	個人オーダー	0
特別流動食	420	幼児食	815
〈脂質コントロール食〉		調乳	8,727
F-1、F-2、F-3	7,352	合計食数	150,622
Ch食、TG食	2,750	一日平均食数	411
L-20、L-40	379	一食平均食数	137

(3) 令和5年度 月別食数

月別	患者食数						患者外	おやつ				合計
	常食	軟食	流動食	特別食	調乳	小計	保育	分割	小児	保育	小計	
4	9,707	8,004	1,664	12,377	735	32,487	298	567	48	268	883	33,668
5	9,366	8,038	1,434	12,460	762	32,060	294	518	63	278	859	33,213
6	9,689	8,721	1,596	12,236	960	33,202	292	386	112	279	777	34,271
7	10,380	8,488	2,086	13,120	951	35,025	313	505	125	316	946	36,284
8	10,232	9,606	1,374	13,365	840	35,417	371	614	108	359	1,081	36,869
9	10,054	8,617	1,628	12,993	747	34,039	361	592	45	347	984	35,384
10	10,038	8,963	1,511	12,809	627	33,948	431	532	92	409	1,033	35,412
11	9,531	9,975	1,509	11,767	723	33,505	427	457	103	392	952	34,884
12	9,676	8,934	1,538	12,918	591	33,657	424	524	108	409	1,041	35,122
1	9,073	10,026	2,298	12,179	597	34,173	414	422	102	391	915	35,502
2	9,517	9,128	2,007	11,678	495	32,825	417	544	105	399	1,048	34,290
3	9,663	10,257	2,287	12,720	699	35,626	455	501	120	426	1,047	37,128
合計	116,926	108,757	20,932	150,622	8,727	405,964	4,497	6,162	1,131	4,273	11,566	422,027
月平均	9,744	9,063	1,744	12,552	727	33,830	375	514	94	356	964	35,169
一日平均	320	298	57	413	24	1,112	12	17	3	12	32	1,156

(4) 栄養指導人数

区分	対象	年区分 病態区分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
			外来(名)	入院(名)	外来(名)	入院(名)	外来(名)	入院(名)	
個人	一般食・加算無し	常食							
		全粥							
		5分							
		3分							
		流動							
		肥満、他		33	6	35	2	25	6
	特別食	小計		33	6	35	2	25	6
		人間ドック		22		31		24	
		糖尿病		787	409	615	393	612	492
		肝臓病		7	6	5	5		2
		腎臓病		214	88	214	67	431	100
		透析		146	70	154	62	173	78
		高血圧		19	31	39	18	20	18
		心臓病		34	297	30	320	20	361
高脂血症			43	8	17	4	25	5	
痛風			1			1			
集団指導	小児		2	1	6	1	2		
	貧血						1	1	
合計	その他		918	848	939	816	1,050	787	
	小計		2,171	1,758	2,019	1,687	2,334	1,844	
集団指導	合計		2,226	1,764	2,085	1,689	2,383	1,850	
	糖尿病(加算)			116 (40回)		88 (37回)		123 (49回)	
	腎臓病(加算)		13 (5回)	14 (3回)	47 (15回)		100 (22回)	2 (2回)	
	友の会糖尿病教室		0 (0回)		0 (0回)		0 (0回)		
	糖尿病試食会		0 (0回)		0 (0回)		0 (0回)		
	腎臓病試食会								
	透析食食事会								
栄養クリニック									
合計			2,239	1,894	2,132	1,777	2,483	1,975	
総計				4,133		3,909		4,458	

(5) 令和5年度(2023年度)NST 営委員会活動報告

1. 新規依頼件数

- ① NST(栄養) (207件)
- ② NST(嚥下) (982件)
- ③ 外来NST (33名)

2. 回診件数

- ① NST(栄養) (476件)
- ② NST(嚥下) (660件) VF(11件) VE(6件)

3. NST 運営委員会 7回開催

4. 勉強会等の開催

- 10月2日 輸液の基本と脱水のモニタリング 参加 25名
- 11月13日 当院採用の栄養剤について(6E) 参加 12名
- 3月12日 下痢と腸内環境 参加 20名
- 栄養担当者向け勉強会 計3回実施
- 病棟依頼勉強会 口腔ケア 計6回 摂食嚥下 計2回

5. NST 研修会(後日サイボウズ配信)

R6年2月2日開催 参加75名(3/15~ サイボウズ配信 閲覧数815/1416)

NST 活動状況報告:管理栄養士 炭谷裕美

「鬼滅の刃」特集第4段

『南無阿弥陀仏、炭水化物の必要!』悲鳴嶼行冥の場合:岡田NST チェアマン

「入院中の患者様をフレイルにさせないためのリハビリテーション栄養」

東京女子医科大学リハビリテーション科教授 若林秀隆先生

6. NST 専門療法士認定資格取得

薬剤師1名 合格

栄養士・看護師各1名 実地修練終了

7. 第38回日本臨床栄養代謝学会演題提出

急性期病院から回復期病院等に転院するNST 介入患者の栄養状態と栄養管理の問題点
アナモレリン使用に関する当院医師の意識調査

岡田チェアマン
佐藤薬剤師

13. 医療ソーシャルワーク年報

(1) 取扱ケース数

	新	規	再	起	継	続	計
入 院		1,377		37		8,003	9,417
外 来		154		13		254	421
そ の 他		5		0		22	27
計		1,536		50		8,279	9,865

(2) 紹介者別

	医 師	看 護 師	院内職員	本 人	家 族	行政機関	医療機関	介・関連他	計
入 院	765	611	4	4	7	8	8	7	1,414
外 来	54	37	5	18	11	26	10	6	167
その他	0	1	0	0	0	2	1	1	5
計	819	649	9	22	18	36	19	14	1,586

(3) 費用区分別

	健保本人	健保家族	国 保	生活保護	労働災害	その他	計
入 院	55	21	1,088	54	0	196	1,414
外 来	14	40	79	18	0	16	167
その他	0	0	2	0	0	3	5
計	69	61	1,169	72	0	215	1,586

(4) 疾患 別

	脳 血管 疾患	心 疾 患	癌	D M	腎 疾 患	透 析	R A	脊 損 損	骨 折	特 定 疾 患	呼 吸 器 疾 患	消 化 器 疾 患	認 知 症	T b	そ の 他	計
入 院	487	207	56	13	26	11	14	69	201	9	149	78	0	3	91	1,414
外 来	13	10	14	3	2	0	3	2	5	11	4	4	0	1	95	167
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
計	500	217	70	16	28	11	17	71	206	20	153	82	0	4	191	1,586

(5) 診療科別

	内 科	神 経 内 科	心 臓 外 科	外 科	脳 外 科	整 形 外 科	リ ウ マ チ	精 神 科	産 婦 人 科	小 児 科	泌 尿 器 科	眼 科	耳 鼻 咽 科	皮 膚 科	形 成 外 科	歯 科	I C U	そ の 他	計
新 規	529	267	41	55	238	288	33	1	27	36	13	3	3	9	14	3	4	22	1,586
継 続	2,661	1,800	279	189	1,282	1,488	168	1	49	51	49	24	14	57	108	18	2	39	8,279
計	3,190	2,067	320	244	1,520	1,776	201	2	76	87	62	27	17	66	122	21	6	61	9,865

(6)年齢・性別

	0～14	15～39	40～64	65～74	75以上	計
男	17	7	108	136	521	789
女	24	29	74	71	599	797
計	41	36	182	207	1,120	1,586

(7)家族構成別

	単身	高齢者のみ	母(父)子	他	計
入院	411	556	147	300	1,414
外来	57	22	53	35	167
その他	2	0	0	3	5
計	470	578	200	338	1,586

(8)病棟別

	西2	西3	西4	中4E	中5E	中6E	中7E	中8E	中4W	中5W	中6W	中7W	中8W	ICU・CCU	救	計
若	5	6	0	5	7	44	4	5	4	3	18	3	8	5	8	125
老	45	89	7	10	119	269	65	124	16	86	141	87	159	21	51	1,289
計	50	95	7	15	126	313	69	129	20	89	159	90	167	26	59	1,414

(9)問題内容別

	に受 伴診 う・ 問入 題院	経 済 問 題							の在 宅 問 題 上	の入 院 問 題 上	在 宅	転 院	施 設 入 所	職 場	心 理 的 問 題	薬 ア ル コ ー ル	虐 待	家 庭 内 登 暴 力 校	相 談 支 援	が 他	計
		生 活 費	関 連 保 護	高 額 療 養 費	福 祉 法	健 保 年 金	外 国 人	そ の 他													
新規	60	5	38	17	15	5	0	23	38	11	116	1,069	122	0	0	0	10	0	1	56	1,586
継続	68	6	100	13	26	9	1	51	52	30	337	6,945	493	0	5	0	16	1	0	126	8,279
計	128	11	138	30	41	14	1	74	90	41	453	8,014	615	0	5	0	26	1	1	182	9,865

(10)援助内容別

	処 事 務 理 的	・情 報 収 提 集 供	院 内 調 整	方 針 協 議	紹 介	サ ポ ー ト 的	手 続 代 行	レ カ ン フ ス ア	そ の 他	計
新規	2	870	84	156	463	9	0	2	0	1,586
継続	19	5,440	464	1,420	885	32	7	10	2	8,279
計	21	6,310	548	1,576	1,348	41	7	12	2	9,865

(11)援助方法別

対 象	面 接							電 話							文 書					訪 問					計		
	本 人	家 族	医 師	看 護 師	院 内 職 員	行 政 機 関	医 療 機 関	事 業 指 定	本 人	家 族	医 師	看 護 師	院 内 職 員	行 政 機 関	医 療 機 関	事 業 指 定	本 人	家 族	行 政 機 関	医 療 機 関	事 業 指 定	本 人	家 族	行 政 機 関		医 療 機 関	事 業 指 定
回	1,462	1,903	918	2,581	73	49	3	70	13	2,964	2,212	3,074	662	662	7,629	1,702	0	3	12	2,598	52	0	0	1	0	0	28,643
計	7,059							18,918							2,665					1					28,643		

介護保険関係(抽出)

(1)問題内容別

	制 度 説 明	医 師 意 見 書	認 定 調 査	ケ ア プ ラ ン	サ ー ビ ス	計
新 規	85	3	7	1	8	104
継 続	13	3	16	5	12	49
計	98	6	23	6	20	153

(2)診療科別

	内 科	神 経 内 科	心 臓 外 科	外 科	脳 外 科	整 形 外 科	リ ウ マ チ	神 経	産 婦 人	泌 尿 器	眼 科	耳 鼻 咽	皮 膚	形 成 外 科	歯 科	I C U	そ の 他	計
新 規	17	43	2	0	32	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	104
継 続	27	3	5	0	10	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	49
計	44	46	7	0	42	8	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4	153

(3)援助方法別

対 象	面 接									電 話									文 書					訪 問				計		
	本 人	家 族	医 師	看 護 師	院 内 職 員	行 政 機 関	医 療 機 関	指 定 業 者	そ の 他	本 人	家 族	医 師	看 護 師	院 内 職 員	行 政 機 関	医 療 機 関	指 定 業 者	そ の 他	本 人	家 族	行 政 機 関	医 療 機 関	指 定 業 者	本 人	行 政 機 関	医 療 機 関	指 定 業 者			
回	45	131	70	59	1	4	0	5	0	0	11	0	6	0	20	2	24	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	379
計	315									63									1					0				379		

14. 透析センター

令和5年度 透析件数及び患者動向

令和5年度 / 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
血液浄化総数		498	572	588	598	609	500	536	488	567	542	525	652	6,675	
外来血液透析患者件数		215	252	238	238	234	228	230	236	236	227	206	227	2,767	
入院血液透析患者件数		283	320	350	360	375	272	306	252	331	315	319	425	3,908	
	血液透析 (HDF 含む)	483	547	564	572	578	482	499	463	541	515	513	601	6,358	
	血液透析 (CHDF)	0	0	0	5	10	0	15	4	0	0	0	25	59	
	E C U M	0	3	3	2	1	3	16	9	7	0	3	8	55	
	血漿交換法	12	7	4	12	8	10	5	0	12	19	7	8	104	
	血液吸着法	1	15	14	6	6	5	0	12	6	6	1	9	81	
	末梢血造血幹細胞採取	0	0	3	0	5	0	0	0	0	1	0	1	0	10
	腹水濾過濃縮再静注法	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	2	0	1	6
血液透析導入数		8	2	1	9	1	3	3	5	10	6	10	6	64	
転入患者数 (予約)		10	10	12	12	7	8	7	7	7	9	8	14	111	
転入患者数 (予約外)		23	24	23	29	25	15	19	22	25	32	29	33	299	
緊急血液浄化患者数		5	10	11	13	5	8	26	9	13	8	12	9	129	
C O V I D 19 患者		0	2	2	1	14	14	1	2	0	0	0	6	42	
病棟 (ICU) 透析		4	5	13	22	11	3	24	18	2	2	3	41	148	
転帰	転出患者数	24	26	24	42	24	23	19	21	31	26	35	39	334	
	離脱・軽快人数	2	4	3	7	1	2	4	3	4	6	1	6	43	
	死亡人数	4	0	0	0	3	3	6	1	1	1	1	0	20	
外来腹膜透析患者		10	12	14	12	19	16	18	15	14	13	13	12	168	
入院腹膜透析患者		4	2	2	3	3	3	4	5	4	2	3	3	38	
腹膜透析導入		2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	5	
腹膜透析転入		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	
転帰	転出患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	離脱人数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	軽快人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	死亡人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
外来血液透析在籍患者人数		19	19	19	19	19	19	20	20	19	19	20	19	20	
腹膜透析在籍患者人数		11	11	12	12	12	13	13	13	13	13	13	14	14	
併用療法(PD+HD1回/週)在籍患者人数		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
療法選択外来患者		3	10	10	5	6	5	5	0	4	2	1	2	53	
療法選択外来後フォロー患者		5	4	12	8	6	8	5	5	1	1	2	1	58	
糖尿病透析予防外来		1	3	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	9	

* 血漿交換法: PE、DFPP、PA (IAPP、LDL吸着、ビリルビン吸着等) * 血液吸着法: PMX、L-CAP、G-CAP、β2ミクログロブリン(リクセル)、薬物吸着等

15. ME科業務状況

(1)透析室従事

月	2023										2024			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
透析室	HD	478	544	535	545	581(1)	479	490(1)	458(1)	550	515	495	575	6,245(3)
	PP	13	11	5	10	11	12	3	0	11	21	7	6	110
	DHP	1	9	14	5	4	5	0	12	6	6	1	9	72
	PBSC	0	0	2	0	5	0	0	0	0	0	1	0	8
病棟	HD	4	3	12	12	1	2	6	13(3)	0	2	2(1)	18(1)	75(5)
	CHDF.SlowHD	0	0	0	4	8	0	15	4	0	0	0	25	56
	PP	0	0	0	8	0	0	2	0	1	0	0	0	11
	DHP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
TOTAL	496	567	568	584	610(1)	498	516(1)	487(4)	568	544	506(1)	634(1)	6,578(8)	

()内は緊急対応の件数

※HD:血液透析 PP:血漿浄化療法 DHP:吸着式血液浄化療法 CHDF:持続緩徐式血液濾過透析 PBSC:末梢血幹細胞採取
CHDF内訳

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
のべ件数	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	2	6
合計日数	0	0	0	4	8	8	15	4	0	0	0	25	64

(2)心臓カテーテル検査室従事

月	2023										2024			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
CAG ※1	76(3)	84(2)	93(2)	85	71(1)	63(5)	75(3)	83(1)	74(2)	85	73(1)	82(1)	944(21)	
PCI ※2	21	24(6)	40(5)	36(3)	26(4)	14(2)	23(1)	35(6)	34(6)	39(3)	26(1)	23(1)	341(38)	
EPS ※3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
ABL ※4	23	15	20	20	18	14	17	23	26	16	15	13	220	
ペースメーカー植え込み術	5	8	6	4	11	9	11	10	12	11	4	10	101	
ICD植え込み術	5	1	4	1	2	1	1	4	0	1	1	3	24	
その他 ※5	20	18(5)	25(2)	12	15(1)	17(3)	14	17(4)	17(1)	14	9	7(1)	185(17)	
その他の血管造影 ※6	28	29(2)	23(1)	22	24	17	20	20	24	17	23	17(2)	264(5)	
TOTAL	178(3)	179(15)	211(10)	180(3)	168(6)	135(10)	161(4)	192(11)	187(9)	183(3)	151(2)	155(5)	2,080(81)	

※1 CAG:冠動脈造影検査 ※2 PCI:経皮的冠動脈形成術 ()内は緊急対応の件数

※3 電気生理学的検査 ※4 ABL:高周波カテーテルアブレーション ※5 その他:IVCフィルタ挿入術・一時的ペーシング等

※6 下肢動脈・シャント・腎動脈・頸動脈等血管造影/血管形成術およびコイル塞栓術

(3)OPE室従事

月	2023										2024			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
開心術	人工心肺下	5	7(1)	5	5	3	3	3	3(1)	2(2)	2(1)	3(1)	2(1)	28(1)
	拍動下	2	0	2	2	2(1)	0	0	0	0	1(1)	2	3	8(1)
ダヴィンチ	9	9	10	13	11	13	11	14	13		12	10	125	
TEVER・EVER	3	2	3	0	2	2	1	1	0	0	1	2(1)	15	
その他	27	34	26	32	36	28	30	28	27	29			297	

()内は緊急対応の件数

(4)補助循環業務

月	2023										2024			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
大動脈バルーンパンピング	1	0	1	1	2	1	0	1	4	2	1	1	15	
経皮的心肺補助	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	

()内は緊急対応の件数

(5)人工臓器業務

月	2023										2024			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
血糖管理	4	4	4	3	3	0	0	0	0	0	1	3	4	26

(6) デバイス業務

月	2023										2024			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
予定	チェック	13	7	12	12	12	11	12	15	19	13	11	19	156
	MRI	4	1	4	1	3	3	1	4	1	3	3	4	32
緊急		5	9	10	6	4	9	2	2	5	13	7	12	84
外来		56	45	49	54	50	64	54	43	59	65	53	76	668

(7) 高気圧酸素治療業務

月	2023										2024			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
突発性難聴	19	24	44	36	24	22	36	24	25	30	23	19	326	
難治性潰瘍	12	11	21	20	30	17	10	26	11	9	9	7	183	
骨髄炎	13	17	0	18	0	9	21	0	0	0	0	0	78	
放射線性障害	35	27	0	8	32	39	31	34	25	13	0	18	262	
イレウス	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7	
合計	79	79	65	82	86	87	98	84	61	52	32	44	849	

(8) ME機器中央管理業務

① ME機器管理台数

人工呼吸器	シリンジポンプ	輸液ポンプ	補助循環装置
29	189	288	5
パルスオキシメータ	DVT予防器	貸出用モニタ	離床センサー
376	48	24	46

② 機器別貸出数

月	2023										2024			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
人工呼吸器	40	37	59	44	41	28	47	48	54	55	37	43	533	
NPPV	13	3	4	10	5	6	20	10	12	9	13	26	131	
NHF	5	5	6	7	7	4	11	4	8	7	6	3	73	
シリンジポンプ	540	555	640	602	601	529	564	638	690	599	557	610	7,125	
輸液ポンプ	1,153	1,145	1,188	1,231	1,258	1,160	1,196	1,235	1,236	1,181	1,158	1,210	14,351	
計	1,751	1,745	1,897	1,894	1,912	1,727	1,838	1,935	2,000	1,851	1,771	1,892	22,213	

*1 NPPVとNHF(ネーザルハイフロー)を除く

③ 人工呼吸器使用状況

月	2023										2024			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
患者数	58	45	69	61	53	38	78	62	74	71	56	69	734	
延べ稼動日数	480	344	367	475	346	155	363	362	450	526	310	393	4,571	
平均稼動日数	8.3	7.6	5.3	7.8	6.5	4.1	4.7	5.8	6.1	7.4	5.5	5.7	6.2	

④ 修理機器台数

月	2023										2024			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
人工呼吸器	2	18	6	1	4	1	1	1	9	8	2	2	55	
シリンジポンプ	20	19	14	10	7	20	19	14	14	17	41	12	207	
輸液ポンプ	25	27	13	32	29	17	41	24	23	11	38	20	300	
モニタ関連 *1	12	27	26	29	38	21	16	32	46	18	42	41	348	
保育器	1	1	3	1	0	2	3	9	7	1	2	2	32	
パルスオキシメーター	3	4	4	1	1	4	2	1	0	2	2	1	25	
DVT予防器	1	2	6	3	1	2	3	1	3	1	3	3	29	
離床センサー	4	3	8	1	7	5	4	1	3	3	4	0	43	
計	68	101	80	78	87	72	89	83	105	61	134	81	1,039	

*定期点検を含む

*1 送信機を含む

16. 感染制御室業務状況

地域連携業務

(1) 「感染防止対策共同カンファレンス」実績

金沢文庫病院（感染対策向上加算2）

中山耳鼻咽喉科（外来感染対策向上加算）

いそご内科・呼吸器内科（外来感染対策向上加算）

2023年度	開催日				
金沢文庫病院	6/27（火）	7/27（木）	9/5（火）	11/27（月）	12/18（火）
中山耳鼻咽喉科	6/27（火）		9/5（火）		2/28（木）
いそご内科・呼吸器内科	6/27（火）			11/15（水）	

7/27 と 11/15 は新興感染症を想定した訓練（11/15 はフォローアップ）

(2) 感染防止対策地域連携加算

連携病院：循環器呼吸器病センター、済生会若草病院

感染対策の相互評価実施日

2023年6月23日（金）	横浜南共済病院を評価のためラウンド
2023年6月27日（火）	済生会若草病院を評価のためラウンド
2023年7月28日（金）	循環器呼吸器病センターを評価のためラウンド

抗菌薬適正使用

(1) AST（抗菌薬適正使用支援チーム）ラウンド

毎週木曜日の14時からASTメンバー5名と横浜市立大学医学部付属病院感染症科医師1名の計6名で実施しています。抗菌薬の適正使用を目標にカンファレンスを行い、診察が必要な患者について患者ラウンドを行っています。

カンファレンス対象患者 773件

内訳	①指定抗菌薬、同一薬剤を1週間以上継続している	57件
	②抗菌薬使用届の記載内容や処方に疑問がある	83件
	③多剤耐性菌検出	26件
	④血液培養陽性	342件
	⑤感染症診療の相談	168件
	⑥その他	97件

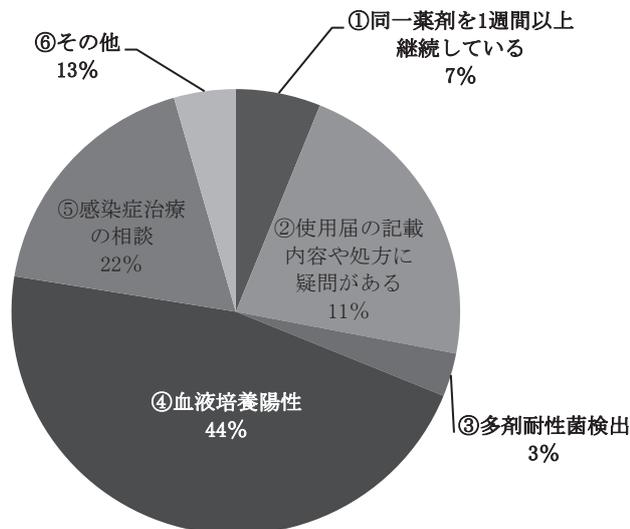


図1 AST介入理由割合

(2) 抗菌薬使用量

全注射抗菌薬の2022年のAUD値は29.47で、2023年のAUD値*は33.06でした。全体の使用量を比べると増加しています。系統別の使用量として2023年は2022年と比較すると全体的にAUD値*は増加傾向ですが、ペニシリン系抗菌薬の使用量が特に増えています(図2)。*AUD値=抗菌薬使用量(g)/DDD(g)/入院患者延べ在院日数(bed-days)×100

内服抗菌薬に関しては、「第3世代セファロスポリン系薬」が減少してきていますが、「第一世代セファロスポリン系薬」・「マクロライド系薬」・「キノロン系薬」・「その他」の抗菌薬は増加傾向にあります。特に「その他」の抗菌薬の増加が多く、その抗菌薬は主にST合剤で、ステロイドを多く使用する呼吸器内科外来患者やリウマチ内科外来患者の使用量が増えており、全体の使用量増加の原因と考えます(図3)。

(文責 岩崎)

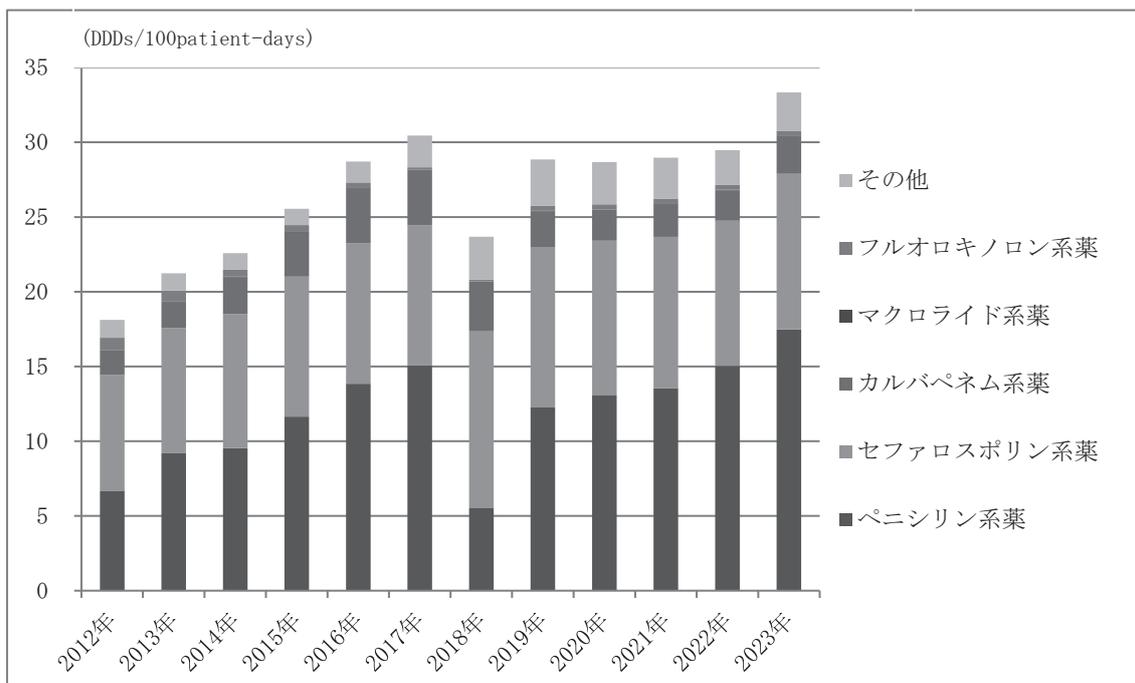


図2 注射抗菌薬のAUD値 (抗菌薬使用量密度)

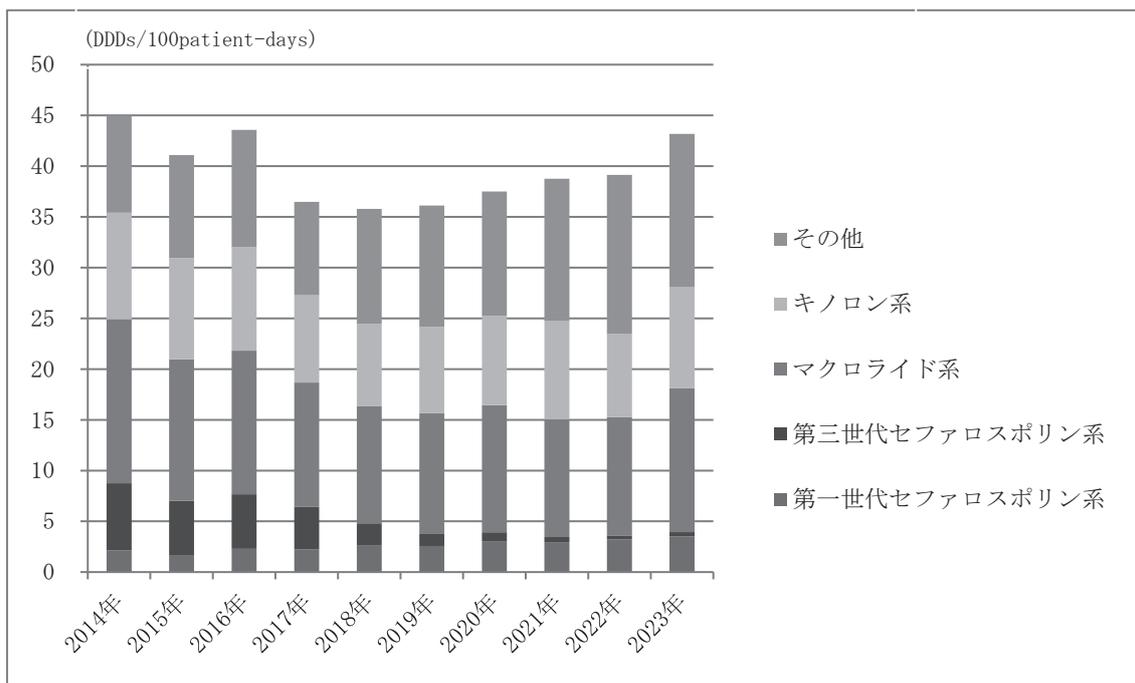


図3 院外処方・院内処方の内服抗菌薬のAUD値 (抗菌薬使用量密度)

(3) AMR (薬剤耐性) 対策アクションプラン

AMR 対策アクションプランでは、2020 年比で 2023-2027 年の間に「経口第 3 世代セファロスポリン系薬」は 40%減、「経口マクロライド系抗菌薬」は 25%減、「経口キノロン系薬抗菌薬」は 30%減、「カルバペネム系静注抗菌薬」は 20%減が目標となっています(表 1)。

当院では、2020 年比 2023 年の AUD データとしては、「経口第 3 世代セファロスポリン系」は 55.3%減、「マクロライド系」は 12.2%増、「フルオロキノロン系」9%増、「カルバペネム系静注薬」7.8%増となっています。(表 1)。「カルバペネム系静注薬」の増加に関しては、入院患者の高齢化、抗がん剤投与後の発熱性好中球減少症患者の増加など、重症患者に対して選択せざるを得ない状況が考えられました。

内服抗菌薬は、「第 3 世代セファロスポリン系」は目標を達成しましたが、「マクロライド系」と「キノロン系」抗菌薬に関しては目標を達成することはできず、むしろ共に 2020 年と比べて、使用量が増加しています。院内処方「キノロン系」であるレボフロキサシンの使用状況を確認し、不適切だと思われる症例については主治医に変更を依頼するようにしていますが、院内処方を対象とするだけでは不十分であると考えられます。処方では培養結果が分からず、調剤薬局の薬剤師が抗菌薬適正使用に関わっていくことが難しいという声も耳にします。投与量や投与期間の適正化、抗菌薬併用レジメンについての知識、副作用モニタリングなどを通して抗菌薬適正使用に関わっていただきたいと考えます。そのため地域への講演会などを通じて引き続き啓発していくことが重要と考えます。

(文責 岩崎)

表 1 AMR 対策アクションプラン目標

2020 年度(令和 2 年)を 100%として 2023 年の AUD 換算した値

AMR 対策アクションプラン目標	当院(2023 年)
①第 3 世代セファロスポリン系(内服薬) 40%↓	55.3%↓(目標達成)
②マクロライド系(内服薬) 25%↓	12.2%↑
③フルオロキノロン系(内服薬) 30%↓	9.0%↑
④カルバペネム系(注射薬) 20%↓	7.8%↑

薬剤耐性菌等検出状況(表 2)

MRSA: 入院患者における検出数は 260 件で、このうち持ち込みは 156 件、持ち込み率 60%でした。2022 年度(225 件検出、このうち持ち込み 103 件、持ち込み率 45.8%)と比較して検出数、持ち込み率ともに増加しました。また、2022 年に検出された *S. aureus* のうち MRSA の占める割合は 28.6% (229/800 件)でしたが 2023 年は 27.5% (245/892 件)でした。

MDRP: 2 件(1 名)。皮膚(口唇)と喀痰検体からの検出で、メタロβラクタマーゼ陰性菌でした。当該患者は、過去に当院での MDRP の検出歴はありませんでした。

S. marcescens: 2023 年度は 2022 年度と比較して検出数は減少しました。引き続き清潔な環境を維持していきたいです。

VRE: 0 件。

ESBL 産生菌: 入院患者における検出数は 158 件で、このうち持ち込みは 101 件、持ち込み率 63.9%でした。2022 年度(127 件検出、このうち持ち込み 65 件、持ち込み率 51.2%)と比較して検出数、持ち込み率ともに増加しました。また、耐性株の検出率の推移としては、*E. coli* ESBL 株は、2021 年は 16.2% (124/764 件)、2022 年は 13.1% (91/695 件)、2023 年は 16.6% (137/825 件)となりました。また、*K.pneumoniae* ESBL 株に関しても、2021 年は 7.6% (22/289 件)、2022 年 5.5% (19/343 件) 2023 年は 7.4% (25/335) でした。

MBL: *P.aeruginosa* (MBL 産生菌+) : 1 件。腹水からの検出でした。

CRE: 入院患者での検出は 7 件、うち持ち込み 4 件でした。また、外来患者を含めた検出件数は 9 件。全てカルバペネマーゼ非産生でした。

結核菌: 2023 年度は 15 件(12 名)でした。検出件数は前年と比較して横ばいでした。

(文責 山口)

表2 入院患者における耐性菌等検出状況

	病棟	MRSA		MDRP		MDRA		セラチア		VRE		VRSA		ESBL		MBL		AmpC		CRE		総計		
		人数	持ち込み	人数	持ち込み	人数	持ち込み	人数	持ち込み	人数	持ち込み	人数	持ち込み	人数	持ち込み	人数	持ち込み	人数	持ち込み	人数	持ち込み			
2023年	4月	13	6	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	14	9	0	0	6	2	1	0	37		
	5月	20	11	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	9	3	0	0	10	2	0	0	43		
	6月	15	12	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	↑17	10	0	0	7	2	0	0	42		
	7月	↑28	13	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	13	7	0	0	3	0	0	0	48		
	8月	18	11	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	16	11	0	0	7	0	1	1	46		
	9月	20	15	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	11	7	0	0	5	3	0	0	38		
	10月	25	12	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	8	6	0	0	6	0	0	0	43		
	11月	20	13	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	12	6	0	0	6	2	1	0	43		
	12月	↑35	24	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	↑22	16	0	0	4	1	1	1	↑64		
	2024年	1月	21	13	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	15	11	0	0	9	4	0	0	51	
	2月	20	12	1	0	0	0	7	1	0	0	0	0	10	7	1	1	10	5	2	2	51		
	3月	25	14	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	11	8	0	0	6	4	1	0	44		
2023年度合計	↑	260	156	2	0	0	0	↓	43	10	0	0	0	↑	158	101	1	1	↑	79	25	7	4	↑550
2022年度合計		225	103	2	2	0	0	56	23	0	0	0	0	127	65	2	2	69	18	6	0	489		

持ち込み :入院後48時間以内に検出

MRSA ≥25件/月:太字
VRE ≥1件/月:太字
ESBLs ≥10件/月:太字

表2の薬剤耐性菌等検出状況の略語

<i>S. aureus</i>	黄色ブドウ球菌
<i>E. coli</i>	大腸菌
<i>K. pneumoniae</i>	肺炎桿菌
<i>P. aeruginosa</i>	緑膿菌
MRSA	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
MDRP	多剤耐性緑膿菌
MDRA	多剤耐性アシネトバクター
セラチア	<i>S. marcescens</i>
VRE	バンコマイシン耐性腸球菌
VRSA	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
ESBL	基質拡張型βラクタマーゼ
MBL	メタロβ-ラクタマーゼ
AmpC	AmpCβラクタマーゼ
CRE	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌

サーベイランス

(1) CLA-BSI (中心静脈カテーテル関連血流感染)

昨年よりカテーテル使用比はやや上昇(0.049から0.056へ)、感染率は横ばい(2022年と2023年1.6)でした(図4)。JHAIS(日本環境感染学会医療器具関連感染サーベイランス)のCLA-BSIデータと比較すると、カテーテル使用比*は50パーセントailに近く、感染率**は50パーセントailから75パーセントailの間でした(表3)。このことから、当院の中心静脈カテーテル使用比はJHAIS参加病院の中で平均的であり、感染率は高いことが分かりました。日々のラウンドで、点滴ルートへの管理に疑問がある場面を見かけることがあります(例えば、点滴ルートへの接続や手指衛生といった手技)。感染率がやや高値であるのは、不十分な手技が感染経路の1つになっている可能性が考えられました。

* カテーテル使用比=カテーテル使用延べ日数/延べ入院患者数

** 感染率=感染人数/カテーテル使用延べ日数×100

カテーテル管理の徹底がCLA-BSIを低下させることができるため、ASTラウンドでCV刺入部の観察とドレッシング交換時期と固定方法について観察をしています。その結果、175件、98.8%(177件観察)が正しい方法で固定され、123件、69.5%(177件観察)がドレッシング交換日の記載がされていました。CLA-BSIを起こした事例を見てみると、毎日CV刺入部の記録がされ、異常の早期発見ができた事例があり、刺入部の観察が良くされていることがうかがえました。CV固定やドレッシング交換日の記載は毎日観察していることの裏付けであり、CLA-BSIの予防や早期発見に繋がるため、100%実施できるように今後も支援していきたいと思ひます。

(文責 土田)

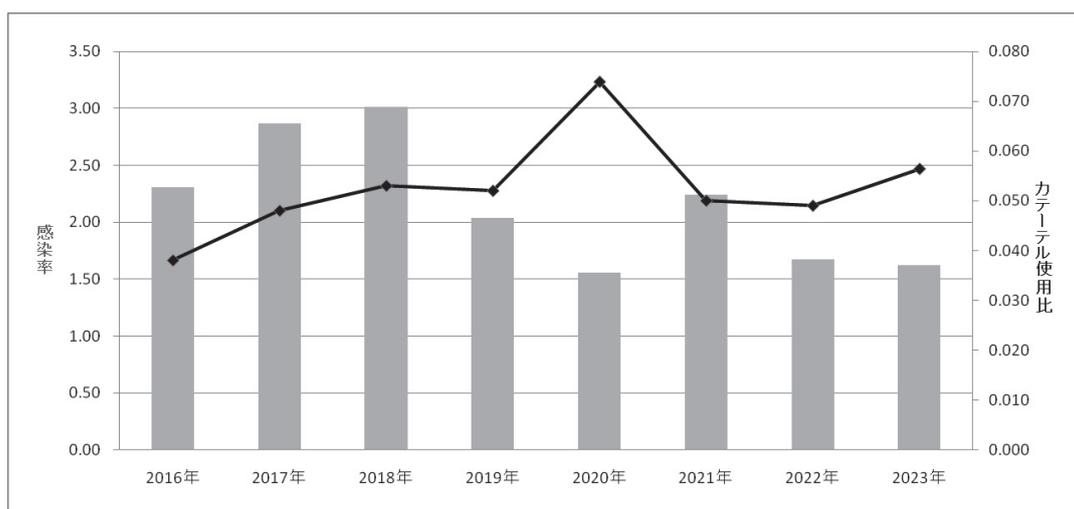


図4 2016年から2023年のCLA-BSIとカテーテル使用比の推移

表3 2022年 JHAIS CLA-BSIとカテーテル使用比

2022年 JHAIS	パーセンタイル値				
	10%	25%	50%median	75%	90%
CLA-BSI	0	0	0	2.4	5.1
カテーテル使用比	0.01	0.02	0.06	0.11	0.18

(2) PLA-BSI (末梢静脈カテーテル関連血流感染)

PLA-BSIの感染率は1000カテーテル使用日あたり0.88で、2022年(0.43)と比較し、倍増しました(表4)。海外でのPLA-BSIの感染率の報告は1000カテーテル使用日あたり0.5とするもの、0.2~0.7とするものがあります。一方、本邦では0.3や0.72と報告されており、当院のPLA-BSIの感染率0.88は先行研究と比較して高値でした(表4)。感染率が高値である理由の1つに、末梢静脈カテーテルが日常的に使用され、感染源となることへの危機感が薄く、管理や観察が疎かになっている可能性が考えられました。血管内カテーテル関連感染予防のためのCDCガイドラインでは、患者に静脈炎の徴候あるいは感染症の徴候が見られる場合は末梢静脈カテーテルを抜去する、と記載されており、当院のマニュアルにも盛り込んでいます。しかし、点滴漏れや挿入日の記載がないことがASTの実施するデバイスラウンド(図5)で確認されており、刺入部の観察が不十分であることが分かりました。今後は末梢静脈カテーテルを軽視せず、関心を持ち管理できるよう働きかけていきたいと思えます。感染率が高値である2つ目の理由は、PLA-BSIに着目し感染の判定を行っていることがあげられます。臨床現場ではPLA-BSIが過小評価されていたことが考えられました。すなわち、2022年は、現場ではPLA-BSIと認識していなかったが、本来はPLA-BSIとして判定すべきケースが多々あり、2023年は、感染制御室による積極的サーベイランスを行ったため、これらの見落としがなくなり本来の感染率(0.88)となったものと考えられます。

PLA-BSIと判定した95%に末梢栄養輸液製剤が使用されていました。末梢栄養輸液製剤は静脈炎の予防として中心静脈栄養製剤と比較して浸透圧は低く、pHは6.5以上に設定されています(他の高カロリー輸液よりpHが高く生理的pHに近付けている)。しかし、末梢栄養輸液製剤の汚染菌の増殖について生理的pHの輸液は汚染菌の培養液となるリスクが高まると報告されています。サーベイランスでは、侵入門戸となる調剤や側管注入時、輸液接続時の手技を確認できていなかったため、今後調査していく必要があります。さらに、手指衛生の実施状況の確認と指導とカテーテル挿入患者の観察強化が今後の課題です。

(文責 土田)

表4 2023年 PLA-BSI感染率とカテーテル使用比

感染率	0.88
カテーテル使用比	0.42
起因菌	CNS 52件(うちMRS 45件) S.aureus 9件(うちMRSA 4件) C.albicans 2件 P.aeruginosa 1件 S.maltophilia 1件
PLA-BSI	65件
輸液	末梢栄養輸液 62件

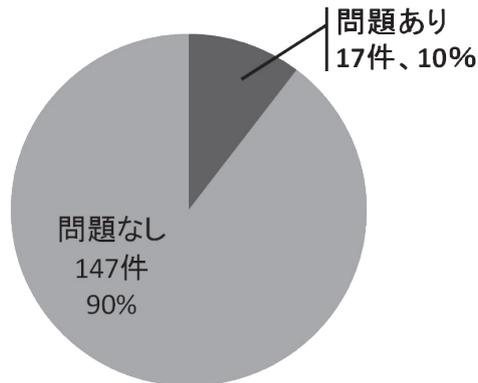


図5 末梢静脈ルート刺入部の状態 (AST ラウンド)

(3) SSI (手術部位感染)

1) 外科

当院は、2010年度より外科の手術部位感染 (SSI : Surgical Site Infection) サーベイランスを開始し JANIS (厚生労働省院内感染対策サーベイランスシステム) に参加しています。対象手術はリスクの高い直腸 (REC)、結腸 (COLO) としています。

SSI の診断は基準に基づいて外科医師が行い、さらに深さにより、「皮膚・皮下組織までの表層切開創感染」「筋肉・筋膜までの深部切開創感染」、それより深い部分の「臓器・体腔感染」の3つに分類しています (図6)。また SSI は、患者の身体状況 (基礎疾患の有無)、術中の創汚染、手術時間等から影響を受けます。そのため、同様の感染リスク因子をもつ患者で比較できるよう、リスクインデックス (RI : Risk Index) で点数化し、4段階に分けて評価 (リスク調整) しています。RI の内容は、患者の内的要因である身体状況を、米国麻酔科学会の評価スコアである ASA スコア (ASA : American Society of Anesthesiologists) で6段階に分類します。次に、外的要因として、術野の汚染度を清潔手術と汚染手術で4段階に分類し、さらに手術時間が長い場合をハイリスクとします。このように、①ASA スコア、②手術創分類、③手術時間の3項目から点数化し、RI を決定しています (手術手技別リスクインデックス分類参照)。

当院の結腸感染率は 16.6%、直腸手術の感染率は 19.5% で、JANIS の 90 パーセンタイルに位置しています (表5、表6)。感染率の高低を判断する指標に、標準化感染比 (SIR : Standerdized Infection Ratio) があります。これを用いて算出した結果、当院の結腸手術の感染率は JANIS と比較し 1.8 倍高く、直腸の感染率は JANIS と比較し 1.49 倍高いという結果でした (表7)。開腹手術と鏡視下手術を見ると、開腹手術では RI-0 と RI-1 の患者に SSI 発生があり、鏡視下手術では RI-1、RI-2 の患者に SSI 発生があり、鏡視下手術の方が RI の高い手術に SSI が発生する傾向がありました (表8、9、10)。

当院で SSI を発生した患者 26 件の背景を分析しました。過去に開腹手術歴のあった患者が 14 件/26 件 (54%)、今回の手術で人工肛門造設または、すでに人工肛門を造設している患者が 11 件/26 件 (47%) の割合で SSI を発生していました。術式と人工肛門造設との関連を調べるために検定を行いました。有意差なしという結果でした。何らかの要因が SSI 発生に影響を与えていると考え今後も原因を調査していきたいと思ひます。

今後も SSI の要因を検索し、SSI 予防のガイドラインとの整合性を確認していきます。

(文責 伊藤)

2023年度 SSI 発生件数

SSI 発生部位 浅部切開部感染 : 18 件
 深部切開部感染 : 0 件
 臓器・体腔感染 : 8 件

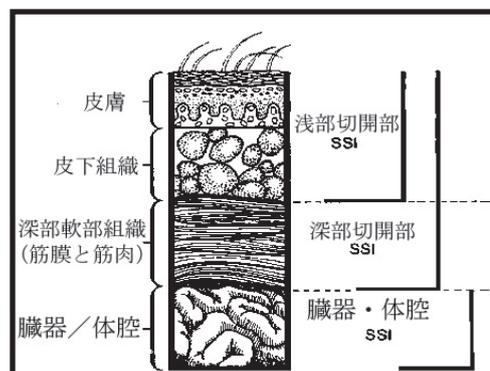


図6

<手術手技別リスクインデックス分類>

①ASA (American Society of Anesthesiologists : 米国麻酔科学会) の身体的状況分類

	説明	点数
ASA 1	標準的な健康な患者	0 点
ASA 2	軽い全身疾患の患者	
ASA 3	重篤な全身症状があるが、活動不能ではない	1 点
ASA 4	日常生活を営めない、常に生命を脅かされている全身疾患の患者	
ASA 5	手術の有無にかかわらず、24 時間生きることが予測できない瀕死の患者	
ASA 6	脳死状態	

②手術創分類 (0 点又は 1 点)

	創分類名	点数
Class I	清潔創	0 点
Class II	準清潔創	
Class III	汚染創	1 点
Class IV	化膿創	

鏡視下手術の場合、スコアから 1 点を減じる

③手術時間 (0 点又は 1 点)

手術時間は、JANIS が提示しているカットオフ時間内 (該当する手術の 75%が終了する時間) は 0 点、それを超えると 1 点
 結腸手術=250 分、直腸手術=347 分を超過した場合 1 点

④RI (Risk Index)

①ASA スコア、②手術創分類、③手術時間の各点数の合計で分類する

RI	点数
0	-1~0 点
1	1 点
2	2 点
3	3 点

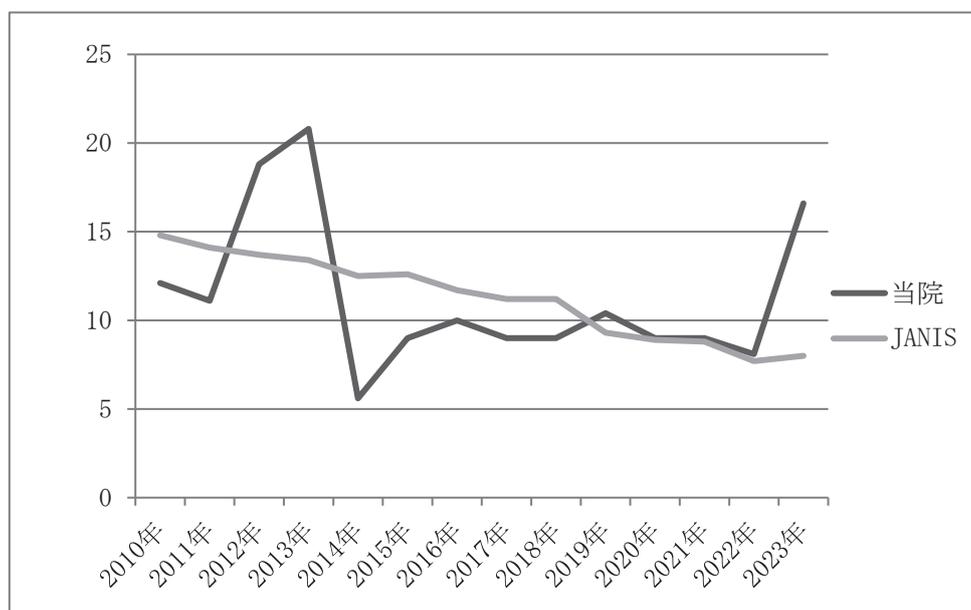


図 7 2010 年～2023 年の結腸手術 SSI 発生率の推移 (年度)

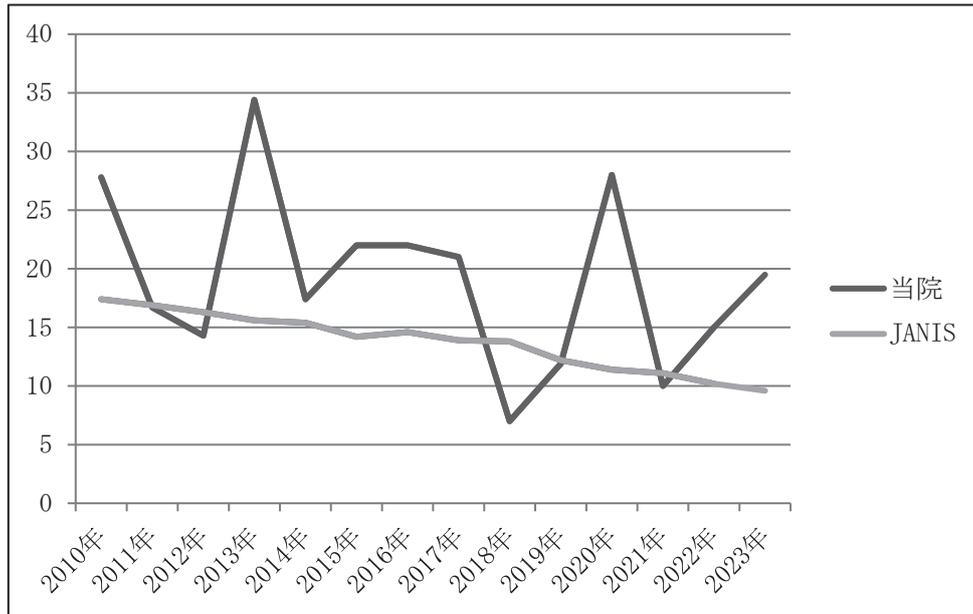


図8 2010年～2023年の直腸手術 SSI 発生率の推移 (年度)

表5 2023年度結腸手術の当院と JANIS の SSI 発生状況比較

結腸		JANIS2023年1月～12月					
		当院2023年度	平均値	パーセンタイル Percentile			
感染件数	18	4053	10%	25%	50%	75%	90%
感染率	16.6	8.2	0.0	3.9	7.3	11.5	16.7
OP件数	108	49630	19	35	64	106	153

表6 2023年度直腸手術の当院と JANIS の SSI 発生状況比較

直腸		JANIS2023年1月～12月					
		当院2023年度	平均値	パーセンタイル Percentile			
感染件数	8	1819	10%	25%	50%	75%	90%
感染率	19.5	9.9	0.0	0.0	8.4	14.0	21.1
OP件数	41	18457	5	10	23	40	62

<標準化感染比 SIR : Standerdized Infection Ratio >

集計施設と比較し、自施設での感染率の高低を判断する指標

$SIR = \text{実際に観察された感染発生件数} \div \text{感染発生の予測 SSI 件数} *$

* 予測 SSI 件数 = JANIS インデックス毎の実際の症例数 × JANIS の SSI 発生率 ÷ 100

SIR > 1 JANIS 施設より感染頻度が高い

SIR < 1 JANIS 施設より感染頻度が低い

表7 2023年度の当院の結腸と直腸手術の SIR

手術部位	当院 SIR
直腸	1.49
結腸	1.8

表8 各リスクインデックスの結腸と直腸手術件数と感染件数

	開腹手術（感染数）	鏡下手術（感染数）
RI-0	40(9)	0
RI-1	26(8)	48(4)
RI-2	8	25(5)
RI-3	0	2

表9 各リスクインデックスの結腸手術件数と感染件数

	開腹手術（感染数）	鏡下手術（感染数）
RI-0	34(8)	0
RI-1	11(4)	47(4)
RI-2	3	11(2)
RI-3	0	2

表10 各リスクインデックスの直腸手術件数と感染件数

	開腹手術（感染数）	鏡下手術（感染数）
RI-0	9(1)	0
RI-1	14(4)	7
RI-2	3	8(3)
RI-3	0	0

2) 整形外科

2023年の9月より、人工股関節と人工膝関節のSSIサーベイランスを開始しました。股関節手術は119件実施し3件（感染率2.5）のSSI（表11）が、人工膝関節49件実施し2件（感染率4.1）のSSIが発生しました（表12）。厚労省サーベイランスシステム（JANIS）と比較すると、手術件数、感染率ともに90パーセンタイル値を超えており、高いことが分かりました（表11、表12）。

SSI予防のために、患肢を覆うストッキネットの材質の変更を提案しました。術者や手洗い看護師が患肢を保持し外旋位等をとるため、ストッキネットを通して患者の皮膚常在菌が介助者の手に移動する可能性が考えられました。「整形外科感染対策における国際コンセンサス人工関節周囲感染を含む筋骨格系感染全般」では、手術には不浸透性のドレープを使用すること、エビデンスは欠如しているが、患肢は不浸透性のストッキネットで覆うことが推奨されており、検討することとなりました。

（文責 土田）

表11 2023年9月～12月の当院の人工股関節手術の感染率（JANIS比較）

当院9月～12月	JANIS2023年1月～6月						
	平均値	パーセンタイル Percentile					
感染件数	3	58	10%	25%	50%	75%	90%
感染率	2.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5
OP件数	119	9749	8	17	31	54	89

表12 2023年9月～12月の当院の人工膝関節手術の感染率（JANIS比較）

当院9月～12月	JANIS2023年1月～6月						
	平均値	パーセンタイル Percentile					
感染件数	2	35	10%	25%	50%	75%	90%
感染率	4.1	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
OP件数	49	6480	3	8	20	38	76

3) 泌尿器科

2023年の9月より、腎臓手術と前立腺手術のSSIサーベイランスを開始しました。腎臓手術は12件(表13)、前立腺手術は22件実施(表14)し、いずれもSSIの発生はありませんでした。厚労省サーベイランスシステム(JANIS)と比較すると、当院の3ヵ月間の手術件数がJANIS半年間の50パーセンタイルに近く、当院は手術件数が多いことが分かりました(表13、表14)。

今回、SSIは発生していませんが、手術件数が多いと感染を起こす機会が増加しますので、感染を防止するために、手術時の皮膚消毒の見直しを提案しました。これまでは術前の皮膚消毒に10%ポビドンヨードを使用し、塗布直後に拭き取りが行われていました。ポビドンヨードの殺菌作用は、ポビドンヨード水溶液から遊離するヨウ素が持つ酸化作用によるもので、遊離ヨウ素濃度が高いほど殺菌力が高まります。そのため、皮膚に塗布後、ポビドンヨード水溶液が乾燥し、殺菌力が最も高くなるまで作用時間をおく必要があります。文献によって若干差異はあるものの、作用時間は30秒~60秒、1~2分などと記載されています。「塗布から乾燥まで1~2分待つ」事で十分な消毒効果が期待されるため、検討することとなりました。

(文責 土田)

表13 2023年9月~12月の当院の腎臓手術の感染率(JANIS比較)

当院9月~12月	JANIS2023年1月~6月						
	平均値	パーセンタイル Percentile					
感染件数	0	7	10%	25%	50%	75%	90%
感染率	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
OP件数	12	770	1	3	7	16	36

表14 2023年9月~12月の当院の前立腺手術の感染率(JANIS比較)

当院9月~12月	JANIS2023年1月~6月						
	平均値	パーセンタイル Percentile					
感染件数	0	11	10%	25%	50%	75%	90%
感染率	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
OP件数	22	1273	4	12	25	42	60

(4) VAE (人工呼吸器関連イベント)

2023年の1月より、ICU/CCUでVAEサーベイランスを開始しました。人工呼吸器関連イベント(Ventilator-Associated Events: VAE)とは、従来の人工呼吸器関連肺炎(Ventilator-Associated Pneumonia: VAP)に代わる新しい医療関連感染の指標です。VAEは、人工呼吸器の使用に関連して起こる肺炎を含む合併症です。VAEを予防することにより、重症化や死亡、入院期間の延長などの疾病負荷を軽減することが可能で、図9の3層で構成されています。

当院の人工呼吸器使用比は0.32、VAE発生率は8.98で、日本環境感染学会JHAIS委員会のサーベイランス結果(表15)と比較すると、使用比は中央値とほぼ同じ、VAE発生率は75パーセンタイル~90パーセンタイルの間と、やや高い結果となりました。VAEの内訳は、全て人工呼吸器関連状態(VAC)でした。VACの判定は、ベースラインからPEEP3 cm H₂O以上の増加またはFiO₂0.2(酸素濃度20%)以上の増加があった場合に判定します。IVACはそれに加え、体温やWBC、新たに抗菌薬が開始されていることで判定されます。全ての症例で、VACと判定する前に、すでに抗菌薬が投与されていたため、IVACの判定にはなりませんでした。

(文責 土田)

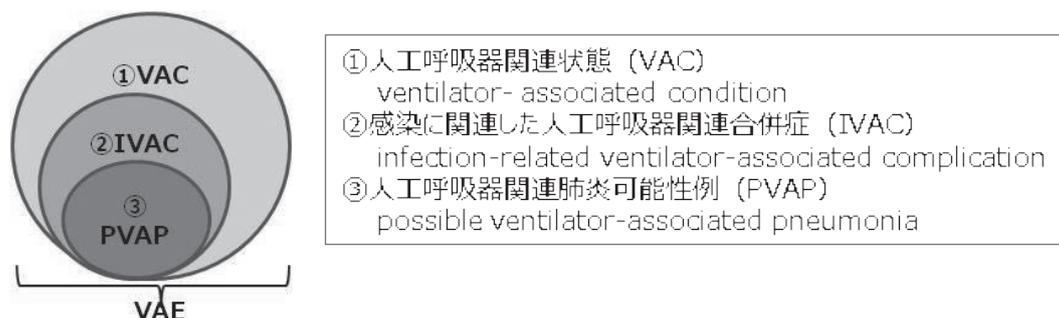


図9 VAEのイメージ図

表 15 2023 年の当院と 2022 年 JHAIS VAE サーベイランス結果

	当院	JHAIS2022年 パーセンタイル Percentile				
	2023年	10%	25%	50%	75%	90%
人工呼吸器使用比	0.32	0.10	0.20	0.33	0.43	0.54
VAE (VAC) 発生率	8.96	0.0	0.2	3.1	6.6	9.7

<VAE 判定基準>

VAC：人工呼吸器関連状態（以下の 2 つをともに満たすこと）

- ・患者が人工呼吸器に接続され、1 日の最小 FIO₂ または PEEP 値が安定または低下していく状態が 2 暦日以上続くといった、安定または改善のベースライン的時期があり、そのベースライン的時期は 1 日の最小 PEEP または FIO₂ が増加した日の直前の 2 暦日以上である。
- ・上記のあと、患者が以下によって示される酸素化の悪化の少なくとも 1 つを満たす：
 - i. ベースライン的時期における 1 日の最小 FIO₂ を 0.2 以上超える 1 日の最小 FIO₂ が 2 暦日以上続く
 - ii. ベースライン的時期における 1 日の最小 PEEP を 3cmH₂O 以上超える 1 日の最小 PEEP 値が、2 暦日以上続く

IVAC：感染に関連した人工呼吸器関連合併症（以下の 2 つをともに満たすこと）

- ・患者が VAC の判定基準を満たしている
- ・人工呼吸器換気を開始して 3 日目あるいはそれ以降で、酸素化の悪化の発症の 2 暦日前から 2 暦日後までの範囲で、以下の基準の両方を満たす：
 - i. 体温が 38℃ を超えるか 36℃ 未満、または、白血球数が 12,000/mm³ 以上か 4,000/mm³ 以下
 - ii. 表（省略）に示す新たな抗菌薬が開始され、4 暦日以上継続されている

Possible VAP：人工呼吸器関連肺炎可能性例（以下の 2 つをともに満たすこと）

- ・患者が IVAC の判定基準を満たしている
- ・人工呼吸器換気を開始して 3 日目あるいはそれ以降で、酸素化の悪化の発症の 2 暦日前から 2 暦日後までの範囲で、患者が以下の基準のいずれか 1 つを満たす：
 - i. 膿性呼吸器分泌物を伴わず、以下の検体のうち 1 つが定量的または半定量的閾値に合致して培養陽性：
 - a. 10⁵CFU/mL 以上の気管内吸引物の培養陽性、またはそれに相当する半定量的結果
 - b. 10⁴CFU/mL 以上の気管支肺胞洗浄液の培養陽性、またはそれに相当する半定量的結果
 - c. 10⁴CFU/g 以上の肺組織の培養陽性、またはそれに相当する半定量的結果
 - d. 10³CFU/mL 以上の保護擦過検体の培養陽性、またはそれに相当する半定量的結果
 - ii. 膿性呼吸器分泌物（低拡大視野〈100 倍〉当たり 25 個以上の好中球または 10 個以下の扁平上皮細胞を含む、肺・気管支・気管からの分泌物として定義される）に加えて、以下の検体における上記基準 i を満たさない不十分な定量的・半定量的・定量的培養陽性：
 - a. 喀痰
 - b. 気管内吸引物
 - c. 気管支肺胞洗浄液
 - d. 肺組織
 - iii. 以下のうち 1 つ以上に当てはまる：
 - a. 胸水培養陽性（検体が胸腔穿刺またはチェストチューブの初回挿入時に得られているものだけに限り、留置中のチェストチューブから採取された検体は含めない）
 - b. 肺の組織病理で陽性（詳細略）
 - c. レジオネラ属に対する診断検査で陽性
 - d. インフルエンザウイルス、RS ウイルス、アデノウイルス、パラインフルエンザウイルス、ライノウイルス、ヒトメタニューモウイルス、コロナウイルスに対する呼吸器分泌物の診断検査で陽性

17. 化学療法室 患者集計

外来化学療法室件数一覧表(外来)

単位:件

診療科名	2023/04	2023/05	2023/06	2023/07	2023/08	2023/09	2023/10	2023/11	2023/12	2024/01	2024/02	2024/03	合計	月平均
外科	100	108	105	75	71	77	86	102	90	89	85	85	1,073	89.42
乳腺外科	88	102	88	61	76	88	79	93	86	87	110	88	1,046	87.17
血液内科	91	84	110	104	116	94	84	101	103	87	83	96	1,153	96.08
呼吸器内科	38	40	26	60	63	56	49	55	45	53	40	31	556	46.33
消化器内科	57	70	58	61	76	71	80	80	75	73	66	69	836	69.67
膠原病/ウマチ内科	28	26	27	22	26	22	22	28	27	23	27	24	302	25.17
腎臓高血圧内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
泌尿器科	53	49	51	39	29	34	23	40	37	40	48	45	488	40.67
産婦人科	34	31	21	26	37	38	37	34	27	33	33	28	379	31.58
口腔外科	1	0	1	2	1	3	3	4	4	4	4	2	29	2.42
合計	490	510	487	450	495	483	463	537	494	489	496	468	5,862	488.50

B その他の業務
施設課業務状況

1. 業務委託

保守業務		委託業務	
保守業務名	保守業者	委託業務名	委託業者
エレベーター設備	日立ビルシステム	院内清掃	キョウワプロテック
エレベーター設備	三菱電機ビルソリューションズ	寝具・洗濯	トーカイ
医療ガス設備	イワサワ	総合施設管理業務	オリックス・ファシリティーズ
消防設備	ホーチキ	産業廃棄物処理	リフレックス
自動ドア設備	寺岡オートドアシステム	一般廃棄物処理	横浜環境保全
自動ドア設備	神奈川ナブコ	感染性廃棄物処理他	日本シューター
空調設備	東芝キャリア	産あい物処理	神奈川中央衛生
空調設備	三菱電機ビルソリューションズ	入院診療録の保管	住友倉庫
冷温水発生機	テクノ矢崎	フィルム保管費	トキワ薬品化工
吸収式冷凍機	エバラ冷熱システム	グリストラップ清掃	三倉プロテクト
ボイラー及び圧力容器点検整備	東洋機動	水質検査	保健科学研究所
自家発電設備	ヤンマーエネルギーシステム	レジオネラ分析	シーアイシーアクアテック
UPS 設備	ホマレ電池	衛生用品レンタル	日本カルミック
蓄電池設備	ホマレ電池	受水槽清掃	日本カルミック
直流電源装置	古河電池	ボイラー性能検査	日本ボイラ協会
非常放送設備	ホーチキ	ボイラー排ガス測定	ピーエーシー
医療排水処理設備	アーパス技研工業	作業環境測定	横須賀環境技術センター
気送管設備	日本シューター	簡易専用水道検査	シーアイシーアクアテック
天井換気システム	ハルトン	害虫駆除	シーアイシー
電話設備保守	日立システムズ	排水分析	シーアイシーアクアテック
貯湯槽清掃	シーアイシーアクアテック	環境管理業務	エア・ウォーター防災
ネットワークリモート保守	富士通エフサス	床マット及びモップ等賃貸	サニクリーン横須賀

2. 光熱水使用量

月	電気 (KWH)	上水道 (m ³)	下水道 (m ³)	井戸水 (m ³)	ガス (m ³)
4	670,248	6,234	5,869	316	22,858
5	729,870	5,651	5,205	347	29,740
6	831,060	6,977	6,297	331	33,859
7	968,766	7,597	6,135	323	40,476
8	1,021,278	8,215	6,492	303	46,848
9	915,360	7,335	5,840	320	37,890
10	750,426	6,770	6,125	410	30,210
11	702,612	5,993	5,685	432	26,708
12	791,154	5,737	5,333	397	32,677
1	826,044	6,662	5,955	451	42,775
2	761,064	5,385	5,823	332	35,520
3	790,296	5,988	5,437	228	33,275
計	9,758,178	78,544	70,196	4,190	412,836

用 度 課 業 務 状 況

3. 主要購入機器一覧表

(1) 医療器具機械等購入一覧表(取得価格五百万円以上) 13件

名 称	数 量
汎用電動式手術台	1台
心臓カテーテル用検査装置	1式
耳鼻咽喉ビデオスコープ	1式
汎用輸液ポンプ	69台
注射筒輸液ポンプ	56台
電動リモートコントロールベッド	20台
ベッドパンウォッシャー	6台
医用電子血圧計	66台
内視鏡ビデオ画像プロセッサ	1式
核医学装置用手持型検出器	1式
呼吸機能測定装置	1台
検体検査自動化システム	1式
全身麻酔装置	1台

4. 図書状況

令和5年度利用状況

貸出冊数 132冊(書籍61冊 雑誌71冊)

相互貸借 借り843件 貸し0件

購入図書(令和5年4月～令和6年3月)

図 書 名	著者編者	出版社
悪性軟部腫瘍取扱い規約 第4版	日本整形外科学会	金原出版
五十年史 国家公務員共済組合連合会 資料編	国家公務員共済組合連合会	国家公務員共済組合連合会
五十年史 国家公務員共済組合連合会 上・下	国家公務員共済組合連合会	国家公務員共済組合連合会
今日の治療薬2023	川合眞一	南江堂
診療報酬Q&A2023年版	杉本恵申	医学通信社
最新検査・画像診断事典2023年4月増補版	宮澤幸久	医学通信社
レセプト事務のための薬効・薬価リスト令和5年版	医薬情報研究所	じほう
DPC点数早見表2023年4月版	医学通信社編集部	医学通信社
診療点数早見表2022年4月/2023年4月増補版	杉本恵申	医学通信社
施設基準パーフェクトブック2022年度版	一般社団法人日本施設基準管理士協会	経営書院
AHA心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン2020	American Heart Association	シナジー
呼吸機能検査ハンドブック	日本呼吸器学会肺生理専門委員会呼吸機能検査ハンドブック作成委員会	日本呼吸器学会
虜になる循環の生理学	中村謙介	三輪書店
治りにくい創傷の治療とケア	市岡滋	照林社
マンガでわかる！認知症の人が見ている世界1	川畑智	文響社
マンガでわかる！認知症の人が見ている世界2	川畑智	文響社
軟膏・クリーム配合変化ハンドブック 第2版	大谷道輝	じほう
OJT完全マニュアル	ダイヤモンド社人材開発編集部	ダイヤモンド社
グラム染色道場	山本剛	日本医事新報社
共用試験ガイドブック 第21版(令和5年)	CATO	CATO
月刊建設物価 2023年4月号	建設物価調査会	建設物価調査会
実務者のための医師事務作業補助実践入門BOOK 2022-23年版	瀬戸僚馬	医学通信社
緩和ケアの魔法の言葉2	森田達也	青海社
トワイクロス先生の緩和ケア処方薬 第2版	Robert Twycross	医学書院
皮膚科学 第11版	上野賢一	金芳堂
スピリチュアルケアの手引き 第2版	田村恵子	青海社
眼科点眼薬Note 2022-2023年	加藤浩晃	メディカ出版
髄液検査データブック	太田浄文	新興医学出版社
せん妄の緩和ケア	岸本寛史	誠信書房
糖尿病・代謝・内分泌のしくみ	小田原雅人	マイナビ出版
腎と泌尿器のしくみ	東間紘	マイナビ出版
循環器のしくみ	阿古潤哉	マイナビ出版
睡眠障害の対応と治療ガイドライン 第3版	睡眠障害の診断・治療ガイドライン研究会	じほう
注射薬調剤監査マニュアル2023	注射薬調剤監査マニュアル編集委員会	エルゼビア・ジャパン
あるある症例から学ぶ！薬学的思考トレーニング	菅野彊	南江堂
感染・がん	望月敬浩	南山堂
乳癌診療ガイドライン 1.治療編2022年版	日本乳癌学会	金原出版
乳癌診療ガイドライン 2.疫学・診断編2022年版	日本乳癌学会	金原出版
誰も教えてくれなかった婦人科がん薬物療法 改訂第2版	勝俣範之	メジカルビュー社

図 書 名	著者編者	出版社
「排尿自立支援加算」「外来排尿自立指導料」に関する手引き	日本創傷・オストミー・失禁管理学会	照林社
医療・介護における個人情報保護Q&A 第3版	飯田修平	じほう
医療法	平沼直人	民事法研究会
造血幹細胞移植診療実践マニュアル 改訂第2版	神田善伸	南江堂
血液内科ナースのはじめかた	渡邊純一	金芳堂
臨床手技の完全解説2022-23年版	寺島裕夫	医学通信社
手術術式の完全解説2022-23年版	寺島裕夫	医学通信社
図解言語聴覚療法技術ガイド 第2版	深浦順一	文光堂
看護のためのフェシリテーション	中野民夫	医学書院
症状を読めるナースが知っているロジカルアセスメント	櫻本秀明	南江堂
看護リフレクション	東めぐみ	医学書院
がんばらなくてもいいんだよ	岡山ミサ子	メディカ出版
掌蹠膿疱症性骨関節炎診療の手引き	日本脊椎関節炎学会	文光堂
がん	日本臨床栄養代謝学会(JSPEN)	医学書院
ジェネラリストと学ぶ総合画像診断	吉川聡司	医学書院
今日から使えるワークショップのアイデア帳	翔泳社	ワークショップ探検部
医療安全管理体制相互評価の考え方と実際 改訂2版	飯田修平	メディカ出版
実例から学ぶ！臨床研究はできないができる！に変わる本	片岡裕貴	羊土社
相談事例から考える研究倫理コンサルテーション	松井健志	医歯薬出版
今さらだけど、ちゃんと知っておきたい「意思決定」	佐藤耕紀	同文館出版
マイナーエマーゼンシー 原著第3版	Philip Buttaravoli	エルゼビア・ジャパン
外傷の手術と救急処置	山本新吾	メジカルビュー社
ウォーモールド内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術	Peter-John Wormald	医学書院
特発性間質性肺炎診断と治療の手引き 改訂第4版	日本呼吸器学会びまん性肺疾患診断・治療ガイドライン作成委員会	南江堂
外傷専門診療ガイドラインJETEC 改訂第3版	日本外傷学会外傷専門診療ガイドライン改訂第3版編集委員会	へるす出版
レジデントのための感染症診療マニュアル 第4版	青木眞	医学書院
臨床検査データブック 2023-2024	黒川清	医学書院
基礎からわかる結核診療ハンドブック	御手洗聡	中外医学社
膝癌取扱い規約 第8版	日本膝臓学会	金原出版
骨転移の診療とリハビリテーション	大森まいこ	医歯薬出版
糖尿病治療ガイド2022-2023	日本糖尿病学会	文光堂
これから始める血管エコー 改訂第2版	種村正	メジカルビュー社
最新！心臓デバイス攻略本	小竹康仁	メディカ出版
がん化学療法レジメン管理マニュアル 第4版	青山剛	医学書院
がんの痛み治療テキスト	松本禎久	南江堂
がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドライン 2022年版	日本サイコロロジー学会	金原出版
がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドライン2023年版	日本がん看護学会	金原出版
医療者のスライドデザイン	小林啓	医学書院
大腸癌 第2版	八尾隆史	文光堂
肺癌 第2版	谷田部恭	文光堂
スキントラブルケアパーフェクトガイド 改訂第2版	内藤亜由美	学研メディカル秀潤社
「身体拘束最小化」を実現した松沢病院の方法とプロセスを全公開	東京都立松沢病院	医学書院
看護現場の疑問にこたえるQ&Aでわかる輸血ケア	岩尾憲明	医歯薬出版
眼科	医療情報科学研究所	メディックメディア
看護職としての社会人基礎力の育て方 第2版	箕浦とき子	日本看護協会出版会
認知症plus終末期ケアとACP	山川みやえ	日本看護協会出版会

図 書 名	著者編者	出版社
ケアする人も楽になる認知行動療法入門	伊藤絵美	医学書院
WHO推奨ポジティブな出産体験のための分娩期ケア	分娩期ケアガイドライン翻訳チーム	医学書院
助産師と研修医のための産科超音波検査 改訂第3版	梁栄治	診断と治療社
患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2023年版	日本乳癌学会	金原出版
米国緩和ケア医に学ぶ医療コミュニケーションの極意	アンソニー・バック	中外医学社
死にゆく患者（ひと）と、どう話すか	國頭英夫	医学書院
がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドライン 2022年版	日本サイコロコロジー学会	金原出版
腫瘍循環器診療ハンドブック	日本腫瘍循環器学会編集委員会	メジカルビュー社
よくわかる看護研究の進め方・まとめ方 第3版	横山美江	医歯薬出版
こんなときどうするペースメーカープログラミングのキモ！	五関善成	メジカルビュー社
イラストで理解するみんなの血液内科学	渡邊純一	中外医学社
肥満症診療ガイドライン2022	日本肥満学会	ライフサイエンス出版
看護研究サポートブック 改訂5版	足立はるゑ	メディカ出版
フルカラーCGで学ぶ核医学検査のテクニック	孫田恵一	メジカルビュー社
臨床倫理の考え方と実践	清水哲郎	東京大学出版会
循環器のトピバ	杉崎陽一郎	メディカル・サイエンス・インター ナショナル
わかりやすい核医学 第2版	玉木長良	文光堂
AIS 2005 Update 2008	日本外傷学会トラウマレジストリー検討 委員会	へるす出版
DPC点数早見表 2023年4月増補版	医学通信社編集部	医学通信社
高血圧診療ガイド2020	日本高血圧学会高血圧診療ガイド 2020作成委員会	文光堂
新生児蘇生法テキスト 第4版	細野茂春	メジカルビュー社
循環器 第5版	医療情報科学研究所	メディックメディア
看護ケアの質評価と改善	日本看護質評価改善機構	医学書院
新版 皮膚科疾患ビジュアルブック	五十嵐敦之	学研メディカル秀潤社
連合野ハンドブック 完全版	河村満	医学書院
パーフェクト前十字靭帯再建術 (ACL)	石橋恭之	金芳堂
がんがみえる第1版	医療情報科学研究所	メディックメディア
腎・泌尿器第3版	医療情報科学研究所	メディックメディア
脳卒中理学療法マネジメント	杉本諭	メジカルビュー社
病気の見取図	堀井小百合	照林社
ACPアドバンス・ケア・プランニング実践ガイド	池永昌之	中央法規出版
重症患者の治療の本質は栄養管理にあった！	真弓俊彦	羊土社
消化器第6版	医療情報科学研究所	メディックメディア
運動器・整形外科第1版	医療情報科学研究所	メディックメディア
免疫・膠原病・感染症第2版	医療情報科学研究所	メディックメディア
乳癌第3版	森谷卓也	文光堂
皮膚付属器腫瘍アトラス	安齋眞一	医学書院
皮膚病理診断リファレンス	安齋眞一	医学書院
すべてExcelでできる！経営力・診療力を高めるDPCデータ活用術 第3版	日経ヘルスケア	日経BP社
人体のメカニズムから学ぶ放射線治療学	小塚拓洋	メジカルビュー社
急性期病院で実現した身体抑制のない看護	小藤幹恵	日本看護協会出版会
G-CSF適正使用ガイドライン 第2版	日本癌治療学会	金原出版
産科第4版	医療情報科学研究所	メディックメディア
小児超音波検査法 体表編	岡村隆徳	医療科学社
血液のがん	飛内賢正	講談社

図 書 名	著者編者	出版社
放射線治療情報BOOK		メディカルアイ
患者(医療)安全&医療放射線安全	渡邊直行	医療科学社
Hale's medications & mothers' milk 2023	Thomas W. Hale	Springer Publishing Company
認知症plus身体拘束予防	鈴木みずえ	日本看護協会出版会
これだけは知っておきたい医師の働き方改革実践テキスト	渡辺徹	ロギカ書房
言語聴覚士リスク管理ハンドブック	山本徹	ヒューマン・プレス
造血幹細胞移植後感染症レクチャーノート	沖中敬二	中外医学社
腫瘍糖尿病学Q&Aがん患者さんの糖尿病診療マニュアル	大橋健	金芳堂
がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン2022	日本腎臓学会	ライフサイエンス出版
動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版	日本動脈硬化学会	日本動脈硬化学会
必携！よくわかる尿検査・腎機能検査	富野康日己	中外医学社
JAID/JSC感染症治療ガイド2019	JAID/JSC感染症治療ガイド委員会	日本感染症学会・本化学療法学会
急性・慢性心不全診療ガイドライン	日本循環器学会・日本心不全学会	ライフサイエンス出版
ACP入門	西川満則	日経BP
エビデンスからわかる患者と家族に届く緩和ケア	森田達也	医学書院
看護現場ですぐに役立つファシリテーションの秘訣	國澤尚子	総合医学社
患者の感情表出を促すNURSEを用いたコミュニケーションスキル	国立がん研究センター東病院看護部	医学書院
これからの退院支援・退院調整	宇都宮宏子	日本看護協会出版会
乳腺炎ケアガイドライン2020	日本助産師会・日本助産学会	日本助産師会出版
形成外科手術書 改訂第5版	鬼塚卓彌	南江堂
Urinary and male genital tumours	WHO classification of tumours editorial board	World Health Organization
Thoracic tumours	WHO classification of tumours editorial board	International Agency for Research on Cancer
Tumors of the kidney, bladder, and related urinary structures	John N. Eble	American Registry of Pathology
Textbook of regional anesthesia and acute pain management 2nd ed.	Admir Hadzic	McGraw-Hill Education
集中治療超音波画像診断テキスト	日本集中治療医学会	中外医学社
日本集中治療医学会専門医テキスト第3版	日本集中治療医学会教育委員会	真興交易医書出版部
小児泌尿器科学	日本小児泌尿器科学会	診断と治療社
究める腎・副腎腫瘍に対する腹腔鏡・ロボット支援手術	三木淳	メジカルビュー社
画像診断道場胸部編 アップデート版	金井信恭	日本医事新報社
MRIで理解するスポーツ外傷・障害	安達伸生	南江堂
緊急ACP 新訂版	伊藤香	医学書院
下部消化管内視鏡診断アトラス	松本主之	医学書院
病棟・ICU・ERで使えるクリティカルケア薬essence & practice	JSEPTIC薬剤師部会	じほう
がん患者におけるせん妄ガイドライン2022年版	日本サイコオンコロジー学会、日本がんサポーターティブケア学会	金原出版
カラーアトラス末梢神経の病理 第2版	岡伸幸	中外医学社
より理解を深める！体液電解質異常と輸液 改訂3版	柴垣有吾	中外医学社
野口病院甲状腺エコー診断パーフェクトガイド	村上司	日本医事新報社
泌尿器外傷診療ガイドライン2022年版	日本泌尿器科学会	医学図書出版
ネルソン小児科学 原著第19版	五十嵐隆	エルゼビア・ジャパン
これから始めるIVR	山上卓士	メジカルビュー社
深頸筋膜の解剖学的構造から学ぶ頸部郭清術	西鳥渡	南山堂
臨床のための筋病理第5版	埜中征哉	日本医事新報社
転移性肝がん診療ガイドライン	山本雅一	医学図書出版
画像診断道場腹部編 アップデート版	西野徳之	日本医事新報社
「イラスト」めまいの検査 改訂第3版	日本めまい平衡医学会	診断と治療社

図 書 名	著者編者	出版社
がん医療の臨床倫理	Colleen Gallagher	医学書院
Annual Review神経2022	鈴木則宏	中外医学社
膵癌診療ガイドライン2022年版	日本膵臓学会膵癌診療ガイドライン改訂委員会	金原出版
泌尿器領域画像診断の勘ドコロNEO	玉田勉	メジカルビュー社
脳波判読に関する101章 第2版	一条貞雄	医学書院
結核診療ガイド	日本結核病学会	南江堂
最新ガイドラインに基づく代謝・内分泌疾患診療指針2021-'22	門脇孝	総合医学社
子宮頸癌取扱い規約病理編 第5版	日本産科婦人科学会、日本病理学会	金原出版
食道癌診療ガイドライン2022年版	日本食道学会	金原出版
集中治療医学	日本集中治療医学会	Gakken
内分泌非活性副腎腫瘍診療ガイドライン2022年版	日本泌尿器科学会、日本内分泌外科学会	メディカルレビュー社
食物アレルギー診療ガイドライン2021	日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会	協和企画
すぐに役立つ胸部CT診断マニュアル	高橋雅士	メディカル・サイエンス・インターナショナル
臨床中毒学	上條吉人	医学書院
子宮体癌取扱い規約病理編 第5版	日本産科婦人科学会、日本病理学会	金原出版
遺族ケアガイドライン2022年版	日本サイコオンコロジー学会、日本がんサポーターシップ学会	金原出版
臨床・病理食道癌取扱い規約 第12版	日本食道学会	金原出版
疼痛医学	野口光一	医学書院
COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン 第6版	日本呼吸器学会COPDガイドライン第6版作成委員会	メディカルレビュー社
がん免疫療法ガイドライン第3版	日本臨床腫瘍学会	金原出版
内科救急診療指針2022	日本内科学会専門医制度審議会救急委員会	日本内科学会
陰茎・陰囊・アンドロロジーの手術	高橋悟	メジカルビュー社
腹膜播種診療ガイドライン2021年版	日本腹膜播種研究会	金原出版
放射線科研修読本	るな	メディカル・サイエンス・インターナショナル
高次脳機能障害の理解と診察	平山和美	中外医学社
大腸がん診療における遺伝子関連検査等のガイダンス第5版	日本臨床腫瘍学会	金原出版
低Na血症	Peri Alessandro	中外医学社
卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約 病理編 第2版	日本産科婦人科学会、日本病理学会	金原出版
不妊症・不育症治 改訂第2版	黒田恵司	メジカルビュー社
門脈圧亢進症取扱い規約 第4版	日本門脈圧亢進症学会	金原出版
GIST診療ガイドライン 第4版	日本癌治療学会	金原出版
医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学	清水哲郎	医学書院
臨床的骨盤筋膜解剖から考えるよくわかるTLH	松本貴	メジカルビュー社
上部消化管内視鏡診断アトラス	長浜隆司	医学書院
ことばのくすり	稲葉俊郎	大和書房
300例で学ぶ読影レポートの流儀	齋田幸久	Gakken
ACPと切っても切れないお金の話	福村雄一	日経BP
ICUでの脳波モニタリング	江川悟史	羊土社
ヘンスレー心臓手術の麻酔 第5版	Glenn P. Gravlee	メディカル・サイエンス・インターナショナル
誤嚥性肺炎たゞいま回診中!	森川暢	中外医学社
がん患者の呼吸困難・痛み・精神症状を診るロジック	蓮尾英明	メジカルビュー社
ここが知りたい! 内分泌疾患診療ハンドブック第3版	龍野一郎	中外医学社
臨床現場のもやもやを解きほぐす緩和ケア×生命倫理×社会学	森田達也	医学書院

図 書 名	著者編者	出版社
Dr.西&Dr.宮森の高齢者診療はエビデンスだけじゃいかんのです 医師と患者は対等である がん患者の意思決定支援 理学療法士集中治療テキスト	西智弘 岸見一郎 堀謙輔 日本集中治療医学会集中治療PT・OT・ST委員会	日経BP 日経BP 中外医学社 真興交易(株)医書出版部
症例を通して学ぶ年代別食物アレルギーのすべて改訂2版 あつという間にうまくなる神経ブロック上達術 改訂第4版 月刊建設物価 2023年10月号 甲状腺癌取扱い規約 第9版	海老澤元宏 大越有一 建設物価調査会 日本内分泌外科学会・日本甲状腺病理学会	南山堂 真興交易(株)医書出版部 建設物価調査会 金原出版
臨床・病理脳腫瘍取扱い規約第5版 臨床検査室 英和对訳版 第4版 病院機能評価機能種別版評価項目解説集一般病院2 これだけは知っておきたい短期給付の知識実務編 2024年度版 日本医科大学看護教育100周年記念誌 歩み	日本脳神経外科学会・日本病理学会 日本規格協会 日本医療機能評価機構 氷見健一 日本医科大学看護教育100周年記念誌制作委員会	金原出版 日本規格協会 日本医療機能評価機構 ダルクセキ共済法規出版部 日本医科大学看護専門学校
共済小六法令和6年版 カルテを読むための医学用語・略語ミニ辞典 第4版 日常会話医療用語集改訂第7版 標準・傷病名事典Ver.4.0 高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン 第3版 臨床検査技師臨地実習ハンドブック	共済組合連盟 浜家一雄 池田康夫 寺島裕夫 日本痛風・尿酸核酸学会ガイドライン改訂委員会 市野直浩	学陽書房 医学書院 エルゼビア・ジャパン 医学通信社 診断と治療社 医歯薬出版

(2) 洋雑誌 Online (令和5年1月～12月)

1	American Journal of Sports Medicine + Sports Health
2	American College of Rheumatology Package
3	Bone and Joint Journal
4	European Heart Journal
5	The Journal of Rheumatology
6	Pediatrics
7	Radiology
8	American Journal of Roentgenology
9	Journal of Palliative Medicine
10	The New England Journal of Medicine

電子ジャーナルパッケージ

1	ClinicalKey
---	-------------

(3) 和 雑 誌(令和5年1月～12月)

1	あたらしい眼科	35	精神科治療学
2	医事業務	36	脊椎脊髄ジャーナル
3	胃と腸	37	総合リハビリテーション
4	インфекションコントロール	38	設備と管理
5	栄養と料理	39	糖尿病・内分泌代謝科
6	ENTONI	40	Nursing BUSINESS
7	眼科グラフィック	41	日経ドラッグインフォメーション
8	看護	42	乳癌の臨床
9	看護管理	43	脳神経外科速報
10	看護展望	44	脳神経内科
11	感染対策ICTジャーナル	45	Heart View
12	癌と化学療法	46	泌尿器外科
13	緩和ケア	47	皮膚科の臨床
14	共済医報	48	病院安全教育
15	きょうの健康	49	病理と臨床
16	クリニカルエンジニアリング	50	BRAIN and NERVE
17	形成外科	51	ヘルスケア・レストラン
18	月刊福祉	52	麻酔
19	月刊薬事	53	薬局
20	検査と技術	54	YORi-SOUがんナーシング
21	呼吸器内科	55	Lisa
22	産婦人科の実際	56	リウマチ科
23	作業療法ジャーナル	57	理学療法
24	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	58	理学療法ジャーナル
25	周産期医学	59	臨床栄養
26	消化器内視鏡	60	臨床検査
27	小児科	61	臨床整形外科
28	小児科診療	62	臨床と微生物
29	小児内科	63	臨床皮膚科
30	JOHNS	64	臨床泌尿器科
31	助産雑誌	65	臨床放射線
32	新医療	66	臨床リハ(Journal of Clinical Rehabilitation)
33	整形外科	67	レジデントノート
34	整形・災害外科	68	老年精神医学雑誌

5. 職員の福利厚生

ーレクリエーション委員会の活動報告ー

職場委員会の承認を受けたレクリエーション委員会ではこれまで、職員の皆さまの福利厚生の一環として、職員親睦旅行や創立記念日恒例の東京ディズニーリゾートツアー、職員親睦会（ビアパーティー）やボウリング大会などのレクリエーションの企画立案および運営を通して活動してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を機にその活動は大きく制限されてしまいました。そのなかでも職員の皆さまに楽しんでいただけるようビアパーティーの代替となるオンライン飲み会&景品抽選会を開催してまいりました。

本年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類感染症に移行したことから、レクリエーション委員会としては、当該感染症の感染状況を注視しつつ、徐々に活動を再開する運びとなり、創立記念日の東京ディズニーリゾートツアーとビアパーティーの復活開催に至りました。

東京ディズニーリゾートツアーには、370名（職員家族含む）の皆さまにご参加いただきました。また、メルキュール横須賀で開催されたビアパーティーでは、361名の職員の皆さまにご参加をいただき、景品抽選会も大いに盛り上がりました。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行とはいえ、病院職員としてまだまだ留意しなければならない状況下において、このように多くの職員が参加できるレクリエーション企画を開催することができたのは、病院長をはじめとした管理者の方々、職員の皆さまのご理解とご協力によるものと深く感謝しております。また、1年間レクリエーション委員会活動にご協力いただきました委員の皆さまには、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

来年度以降も職員の皆さまが楽しんでいただけるようなレクリエーション企画を徐々に復活開催していきながら、あらたなレクリエーション企画が開催できるよう委員の皆さまとともに活動して行きたいと思っております。

（レクリエーション委員 志村 貴之）

【令和5年度 レクリエーション委員構成メンバー】

委員長 阿部 俊明（組合執行部）

委員 志村 貴之（組合執行部）、小野寺 光春（組合執行部）、北崎 大輔（組合執行部）

零 恵三子、貫目 幸介、片桐 真由美、吉田 典史、石丸 雄太、毛利 かれん、佐藤 恭子、下條 愛沙

XVII 財務状況

1. 貸借対照表

(単位:千円、%)

科目 / 年度	令和4年度		令和5年度	
	金額	対前年度指数	金額	対前年度指数
現金・預金	271,729	35.9	604,764	222.6
貯蔵品	270,600	74.9	265,408	98.1
立替金				
仮払金	1		16	1,600.0
前払費用	22,719	93.5	25,530	112.4
未収収益				
災害等対応本部積立金	80,915	131.7	146,408	180.9
耐震等対応本部積立金	87,082	169.7	98,854	113.5
未収金	3,629,599	93.8	3,460,844	95.4
貸倒引当金	△ 31,941	111.7	△ 33,794	105.8
建築物	6,424,046	93.2	5,958,472	92.8
構築物	157,426	90.0	137,444	87.3
機械・装置	728	74.4	479	65.8
医療器具機械	902,823	99.2	879,316	97.4
車両・運搬具	3,152	162.9	3,436	109.0
器具・備品	107,102	72.6	81,532	76.1
土地	234,964	100.0	234,964	100.0
建設仮勘定			50,497	
敷金・保証金	10,808	100.0	10,799	99.9
創業費				
開発費	37,773	162.0	26,832	71.0
本部貸付金	7,345,800	112.2	7,500,000	102.1
本部へ回送金	73,886	100.0	73,886	100.0
合計	19,629,212	97.6	19,525,687	99.5
未払消費税	7,873	90.4	9,433	119.8
未払金	1,667,660	95.0	2,123,472	127.3
未払費用	165,394	77.0	146,321	88.5
預り金	125,984	112.0	108,091	85.8
前受収益	14,850	100.0	14,850	100.0
仮受金				
投資不動産引当勘定	3,121,092	81.8	2,774,304	88.9
退職給与引当金	2,419,987	101.7	2,428,774	100.4
特別修繕引当金	633,949	100.0	633,949	100.0
施設借入金				
本部借入金				
施設未払金				
病院より回送金				
基本金	11,429	100.0	11,429	100.0
別途積立金	1,205,441	100.2	1,205,441	100.0
建設積立金				
改良積立金				
欠損金補填積立金	516,237	100.0	516,237	100.0
積立金	9,739,316	103.0	9,553,386	98.1
欠損金				
合計	19,629,212	97.6	19,525,687	99.5

2. 損益計算書

(単位:千円、%)

科目 / 年度	令和4年度		令和5年度	
	金額	対前年度指数	金額	対前年度指数
入院患者収入	13,799,588	102.4	15,204,508	110.2
外来患者収入	5,892,636	98.0	6,055,497	102.8
施設収入	408,101	131.3	434,730	106.5
雑収入	1,062,953	55.4	220,550	20.7
貸倒引当金戻入	26,264	91.9	30,978	117.9
特別修繕引当金戻入				
受取利息	22,304	111.8	23,021	103.2
償還差益				
貯蔵品購入値引				
前期損益修正益	60,300	77.0	76,910	127.5
固定資産売却益				
補助金等収入				
施設分担金				
災害等対応本部積立金利息	1	100.0	1	100.0
耐震等対応本部積立金利息	1		1	100.0
本部助成金			1,144	
当期損失金			185,930	
収入合計	21,272,148	97.3	22,233,270	104.5
職員給与	8,790,116	98.8	9,127,947	103.8
厚生費	30,391	106.6	34,141	112.3
旅費	1,572	242.2	2,273	144.6
事務費	48,865	100.1	48,887	100.0
事業用消耗品費	141,764	99.2	159,226	112.3
薬品費	3,856,401	103.0	4,304,884	111.6
医療材料費	2,530,647	103.8	2,781,133	109.9
飲食材料費	110,778	99.4	134,193	121.1
賃金			135	
委託費	1,079,420	102.5	1,143,048	105.9
診療委託費	165,625	104.8	130,211	78.6
光熱水料	391,575	141.5	326,887	83.5
燃料費	93	172.2	152	163.4
被服費	6,754	160.0	3,570	52.9
修繕費	557,863	101.1	576,604	103.4
洗濯費				
賃借料	300,552	98.4	289,713	96.4
保険料	25,237	92.0	32,324	128.1
調査研究費	34,707	139.2	46,626	134.3
普及費	5,907	116.8	6,816	115.4
患者費	1,554	98.7	1,662	106.9
諸謝金	179,130	118.8	167,452	93.5
食糧費	3,954	106.0	4,487	113.5
負担金	1,287,262	101.7	1,334,272	103.7
消費税	31,985	112.9	34,428	107.6
雑費	24,577	51.7	101,699	413.8
退職給与引当金繰入	345,146	88.8	421,719	122.2
減価償却費	818,990	99.0	810,581	99.0
貸倒引当金繰入	31,941	111.7	33,794	105.8
特別修繕引当金繰入				
支払利息	14,120	91.5	8,725	61.8
創業費償却				
開発費償却	12,149	56.6	12,937	106.5
看護師養成費	17	2.8	10	58.8
別途積立金繰入				
前期損益修正損	93,918	69.6	91,039	96.9
固定資産売却損				
固定資産除却損	69	7.4	61,335	88,891.3
本部分担金	57,827	107.9	360	0.6
組織力強化拠出金	665			
当期利益金	290,577	27.3		
費用合計	21,272,148	97.3	22,233,270	104.5

XVIII 管理者名簿

(R6. 3. 31現在)

役 職 名	氏 名
病 院 長	高 橋 健 一
名 誉 院 長	蜂 谷 將 史
顧 問	長 岡 章 平
病 院 長 特 別 顧 問	松 川 博 史
副 院 長	三 原 久 範 (兼整形外科部長) (兼外傷整形外科部長) (兼統括安全管理者)
副 院 長	池 田 伊 知 郎 (兼地域支援センター長) (兼医療社会福祉相談室長) (兼地域連携室室長)
診 療 部 長	鈴 木 誠 (兼循環器内科部長)
診 療 部 長	生 駒 亮 (兼耳鼻咽喉科部長) (兼診療情報管理科部長) (兼医療秘書課アドバイザー)
診 療 部 長	児 矢 野 繁 (兼統括内科部長) (兼安全管理対策室室長) (兼脳神経内科部長)
院 長 補 佐	山 崎 哲 也 (兼スポーツ整形外科部長)
院 長 補 佐	孟 真 (兼心臓血管外科部長) (兼循環器センター部長)
院 長 補 佐	近 藤 正 晃 (兼消化器内科部長) (兼肝胆膵部長) (兼外来化学療法室部長) (兼臨床研究センター長)
院 長 補 佐	渡 邊 至 (兼麻酔科部長) (兼手術室部長)
院 長 補 佐	間 中 浩 (兼脳神経外科部長)
院 長 補 佐	佐 伯 博 之 (兼外科部長)
看 護 部 長	佐 竹 み ゆ き (兼院長補佐)
看 護 部 顧 問	丸 山 為 美
看 護 部 次 長	滝 口 由 紀 子 (兼統括担当師長) (兼安全管理対策室室長補佐)
看 護 部 次 長	折 内 奈 津 江 (兼総務担当師長)
事 務 部 長	川 村 周 三 (兼医事課長事務取扱)
事 務 部 次 長	藤 井 栄 樹 (兼総務課長事務取扱) (兼教育研修センター事務課長事務取扱) (兼職員教育室室長事務取扱)

横浜南共済病院年報

第47号（2023年度）

令和8年2月発行

編集発行 国家公務員共済組合連合会
横浜南共済病院
院長 高橋 健一

〒236-0037 横浜市金沢区六浦東1-21-1
電話 045（782）2101